YAO TOKUSHUKAI GENERAL HOSPITAL

病院年報

2017年



医療法人徳洲会

八尾徳洲会総合病院

Yao Tokushukai General Hospital

目次 Contents

理念・基本方針・患者様の権利	1
ご挨拶	2
概要・沿革	3
教育認定施設の指定状況・機関特定・高度医療機器設備	4
許可施設基準	5
八尾徳洲会総合病院 組織図	6
八尾徳洲会総合病院 委員会組織図	7
患 者 統 計	8
1.外　来	
1）外来患者統計	10
2）科別・月別外来患者数	10
3）1日平均外来患者数	11
4）1日平均外来新患者数	11
2.入　院	
1）入院患者統計	12
2）科別・月別1日平均入院患者数	12
3）病棟別・月別1日平均入院患者数	12
3.救　急	
1）月別救急搬送件数	13
2）救急搬送人数 年齢別・性別分布	14
3）救急搬送件数分布	15
病 歴 統 計	16
1）科別退院患者数	18
2）死亡退院患者統計	19
3）疾病分類＜大分類＞科別	20
4）疾病分類＜中分類＞	21
部署紹介	24
放射線科　検査科　栄養科	24
暖和ケアチーム　がん相談　健診センター	
入社式　第1回運動会　第3回夏祭り	25
第9回燈炉祭り	
診 療 部	26
内　　科	28
循環器内科（カテーテル部門）	34
消化器内科	35
呼吸器内科	37
腫 瘍 内 科	38
血管透析科	40
小　児　科	42
放 射 線 科（診療部）	44
神 経 内 科	45
内分泌内科	46
膠原病リウマチ内科	48
外　　科	50
整 形 外 科	52
脳神経外科	56
心臓血管外科・大動脈センター	57
形成外科・美容外科	59
泌 尿 器 科	61
眼　　科	63
歯科・歯科口腔外科	65
麻　酔　科	68
肝臓センター	69
呼吸器外科	72
小 児 外 科	73
皮　膚　科	75
婦　人　科	76
耳鼻咽喉科	77
リハビリテーション科（診療部）	78
病理診断科	79
糖尿病・代謝内科	81
副 診 療 部	82
薬　剤　科	84
放 射 線 科	87
臨床検査科	89
リハビリテーション科	92
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）	
臨床工学科	97
栄　養　科	102
治験センター	105
医療福祉相談室（MSW 医療ソーシャルワーカー）	111
病診連携室	115
健診センター	124
情報システム管理室	125
ゲノム事務局	127
保　育　室	129
がん相談支援センター	131
医療安全管理部	134
臨床腫瘍センター	140
看 護 部	142
4階東　5階西　5階東	144
6階西　6階東　7階西	145
7階東　8階西　8階東	146
HCU　ICU　手術室・中央材料室	147
透析センター　外来・ER　地域医療室	148
退院調整チーム　保健指導	149
委 員 会	164
呼吸ケアチーム（RST）	166
院内感染対策委員会（ICT）	167
褥瘡対策委員会	170
研修管理委員会	171
栄養サポートチーム（NST）	173
緩和ケアチーム	175
がん緩和支援委員会	177
関 連 施 設	180
八尾徳洲会介護センター	182
よろこび訪問看護ステーション	186
よろこび訪問看護介護センター	187
介護老人保健施設 八尾徳洲苑	189
八尾徳洲苑介護センター	199
特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷	201
学 術 業 績	204
学会発表	206
学術論文	213

Yao
Tokushukai
General Hospital

理　　念

1. 生命を安心して預けられる病院
2. 健康と生活を守る病院

基本方針

1.『年中無休・24 時間オープン』で救急医療を提供します。
2. 患者様からの贈り物は一切受け取りません。
3. 医療技術・診療態度の向上に絶えず努力します。

患者様の権利

当院は次の項目について患者様の権利を尊重した医療を提供しています。

1. いつでも安全で良質な医療を受ける事が出来ます。
2. 医療についての説明を受け、医療行為を選択する権利があります。
3. 継続して一貫した医療を受ける事が出来ます。
4. プライバシーが守られ、個人の尊厳が保たれています。
5. 医療の情報について常に提供を受け健康教育や講演を受ける事が出来ます。
6. 生活の質と環境に配慮した医療の提供を受ける事が出来ます。

ご　挨　拶

八尾徳洲会総合病院院長　原田　博雅

いつも当院の診療に御協力御支援を賜り深く感謝申し上げます。

この度、2017年八尾徳洲会総合病院年報を発刊することができました。

「生命だけは平等だ。」との徳洲会の理念のもと、「在院日数の短縮化」、「断らない医療の実践」という二つの大きな目標を掲げ、2014年7月より病院運営を行ってまいりました。時代背景としての少子高齢化という避けようのない大きな流れの中に私たちがいることを日々臨床の中で実感しながら、社会とは地域とは医療とは福祉とはという命題を突きつけられている毎日です。

急性期病院としての生き残りをかけた競争の中、過去の実績を振り返ることにより、病院の方向性が見えてきます。未来は過去から現在へと続くその流れの延長線上にしかない事を再度確認し、これからの病院を作っていかなければなりません。その基本となるのが年報であると思います。

今後も救急医療を何より充実させることが病院の使命であり、地域医療を支える基本と考えています。その救急医療を守るため、当院においては、入院が必要な患者様を収容できる病床を確保することが何よりも求められており、そのための努力を重ねてまいりました。

私たちは、患者様のことを第一に考え、地域のことを配慮し、組織運営を行ってまいります。また、働く職員一人一人の能力を最大限に引き上げるために、より良い職場環境を作り上げ、八尾徳洲会総合病院を実践教育の場にしたいと思います。

本誌を閲覧いただきました皆様方からの更なる私たちへの御指導御鞭撻を御願い申し上げます。

Yao Tokushukai General Hospital

概要

創　　立	1978 年 7 月 1 日
病 院 長	原田　博雅
職 員 数	912 名（2017.12.31 現在）
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、肝臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、腫瘍内科、内分泌内科、神経内科、心療内科、精神科、リウマチ科、血管透析内科、腎臓内科、皮膚科、小児科、救急科、放射線科、外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、肝臓外科、乳腺外科、小児外科、形成外科、美容外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、歯科・歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、婦人科、リハビリテーション科、病理診断科
関連施設	介護老人保健施設　八尾徳洲苑 八尾徳洲苑介護センター よろこび訪問看護ステーション よろこび訪問看護介護センター 八尾徳洲会介護センター（居宅介護支援事業所） 特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷 八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷
1 日平均外来患者数	866.9名（2017年）　※訪問看護及び人工透析を含む
1 日平均入院患者数	372.0名（2017年）

沿革

1978年 7 月	開院　　許可病床数　250床
1979年 7 月	三基準取得　看護・給食・寝具
1980年 10 月	西館増築　許可病床数　350床
1986年 4 月	東館・西館改修　許可病床数　335床
1989年 9 月	新館増築　許可病床数　415床
1992年 9 月	基準看護　特Ⅰ類取得
1994年 7 月	基準看護　特Ⅱ類取得
9 月	総合病院認可　心臓血管外科開設
1995年 7 月	新看護2.5：1（A）　10：1看護補助の承認
9 月	デイケア開設
1996年 5 月	病院管理棟増築
11 月	よろこび訪問看護ステーション開設
11 月	八尾徳洲会介護センター開設
1998年 2 月	日帰り手術センター開設
3 月	歯科・歯科口腔外科開設
4 月	ER（救急総合診療部）開設　臨床研修指定病院指定
12 月	老人保健施設　八尾徳洲苑（100床）開設
2000年 4 月	よろこび訪問看護介護センター開設
4 月	八尾徳洲会介護センター開設
2001年 4 月	病児保育（八尾市委託）
12 月	ICU施設取得（6床）
2002年 4 月	心臓疾患リハビリテーション施設開設
2003年 1 月	日本医療機能評価機構取得
3 月	睡眠障害センター開設
10 月	2：1看護取得 電子カルテ導入
2004年 3 月	駐車場増設
4 月	医療安全管理部設置
6 月	亜急性病床開設（12床）
2005年 3 月	新病院用土地の取得
2006年 6 月	DPC導入
10 月	健診センター開設
11 月	治験センター開設
2007年 6 月	プライバシーマーク制度（JISQ.15001.1999）取得 新病院建設開始
12 月	日本医療機能評価機構Ver.5受審
2008年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.5取得
2009年 1 月	高規格救急車導入
8 月	新病院移転
11 月	エンゼル保育室新病院内移転
2010年 3 月	HCU施設基準取得（4：1）
4 月	大阪府がん診療拠点病院認可
2011年 4 月	大動脈センター・美容外科開設
2011年 8 月	肝臓センター開設
9 月	一般7：1入院基本料取得
10 月	小児外科開設
2012年 11 月	放射線治療開始 日本医療機能評価機構Ver.6受審
2013年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.6取得
9 月	卒後臨床研修評価機構認定
2014年 9 月	特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷開設
2015年 5 月	創傷ケアセンター開設
2017年 4 月	八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷開設
10 月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver1.1受審

教育認定施設の指定状況

厚生労働省基幹型臨床研修病院
日本内科学会認定医制度教育病院
日本呼吸器学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器病学会認定医制度研修施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本神経内科学会認定准教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム研修施設
日本病院総合診療医学会認定施設
日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本肝臓学会認定関連施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本外科学会専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設
日本小児外科学会教育関連施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本乳癌学会関連施設認定
日本乳癌オンコプラススティックサージャリー学会インプラント実施施設認定
日本がん治療認定医機構認定研修施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本成人心臓血管外科手術データベース機構認定施設
日本ステントグラフト実施基準管理員会 腹部・胸部ステントグラフト実施施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会　浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本脳神経外科学会専門医認定制度研修プログラム研修施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本形成外科学会認定施設
日本眼科学会専門医制度認定研修施設
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関（画像診断・IVR・核医学）
日本インターベンショナルラジオロギー学会専門医修練認定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
日本病理学会研修認定施設
日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士実地修練認定教育施設
日本医療薬学会教育研修施設
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設

機関特定

保険医療機関
救急告示病院
結核指定医療機関
被爆者一般疾病医療機関
母体保護法指定医療機関
生活保護法指定医療機関
労災保険指定医療機関
公害医療機関
指定自立支援医療機関
（更正医療、育保医療、精神通院医療）
身体障害者福祉法指定医（肢体不自由、視覚障害、じん臓機能障害、肝臓機能障害、心臓機能障害、呼吸器機能障害、膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害）
音声・言語機能障害、そしゃく機能障害
大阪府肝炎専門医療機関
大阪府がん診療拠点病院

高度医療機器設備

MRI（磁気共鳴画像装置）
64列CT
DSA（デジタルサブトラクション血管撮影装置）
CAG（心血管撮影装置）
RI（核医学診断装置）
ESWL（体外衝撃波結石破砕装置）
各種内視鏡機器装置
マイクロサージャリー（顕微鏡下手術）
放射線治療装置（リニアック）
医療用ナビゲーションシステム
光干渉式眼軸長測定装置
光干渉断層計（OCT）

許可施設基準

入院時食事療養/生活療養(I)
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算
一般病棟入院基本料(7対1)
臨床研修病院入院診療加算
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算(15対1)
急性期看護補助体制加算
療養環境加算
重傷者等療養環境特別加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
感染防止対策加算1
感染防止対策地域連携加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
退院調整加算
救急搬送患者地域連携紹介加算
救急搬送患者地域連携受入加算
呼吸ケアチーム加算
病棟薬剤業務実施加算
データ提出加算2
特定集中治療室管理料3
ハイケアユニット入院医療管理料1
小児入院医療管理料4
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料1・2・3
糖尿病透析予防指導管理料
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
地域連携診療計画管理料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
歯科治療総合医療管理料
在宅患者訪問看護・指導料3
同一建物居住者訪問看護・指導料3
検体検査管理加算(Ⅳ)
植込型心電図検査
時間内歩行試験
ヘッドアップティルト試験
神経学的検査

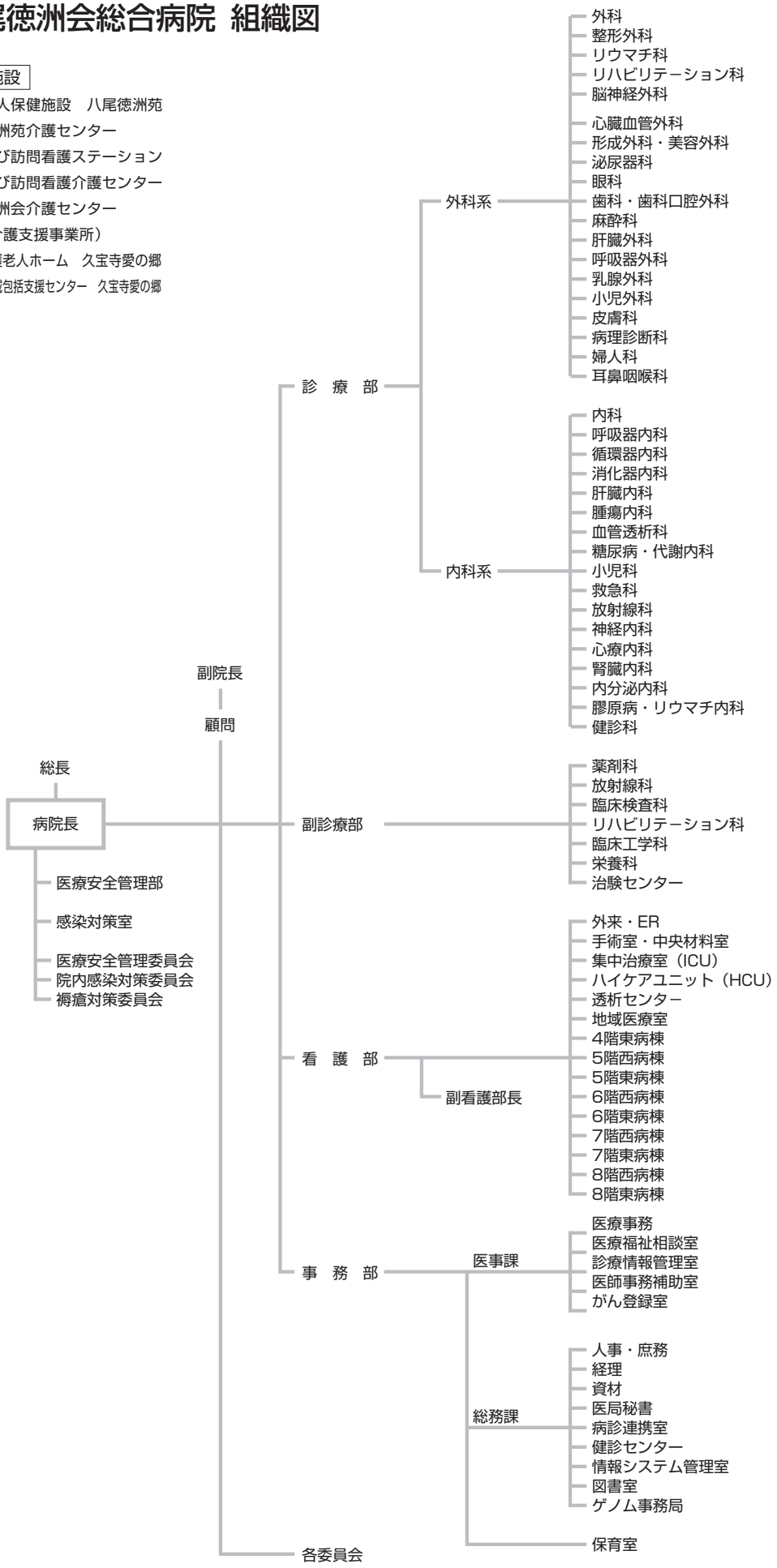
コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷検査
センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)
画像診断管理加算1
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料(I)
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
運動器リハビリテーション料(I)
呼吸器リハビリテーション料(I)
がん患者リハビリテーション料
認知療法・認知行動療法
歯科口腔リハビリテーション料2
処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
透析液水質確保加算2
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
経皮的冠動脈ステント留置術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
経皮的大動脈遮断術
ダメージコントロール手術
腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術
手術の休日加算1及び深夜加算1
輸血管理料I
輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
麻酔管理料(I)
放射線治療専任加算
高エネルギー放射線治療
1回線量増加加算
クラウン・ブリッジ維持管理料

2018年1月1日 現在

八尾徳洲会総合病院 組織図

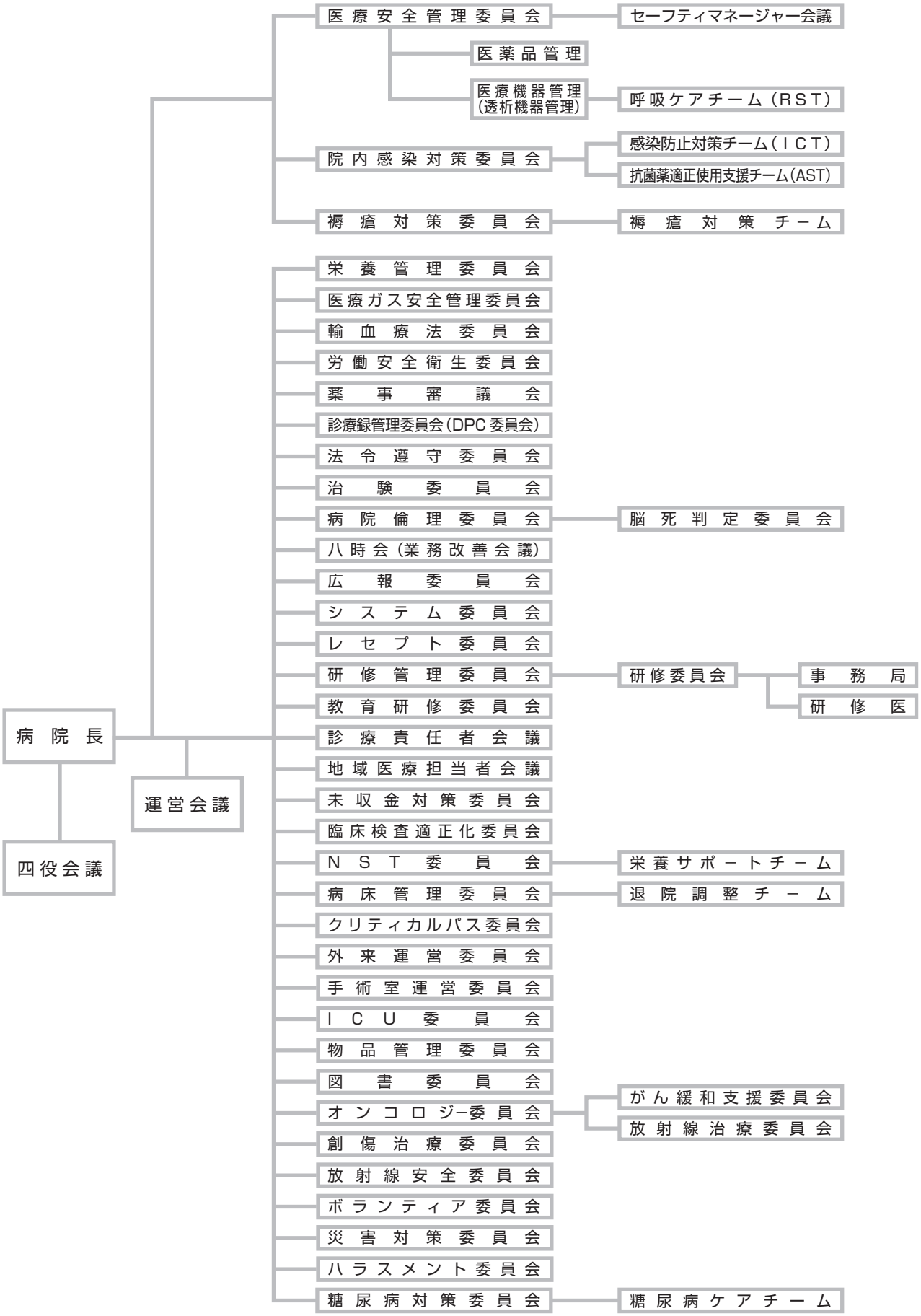
関連施設

介護老人保健施設　八尾徳洲苑
八尾徳洲苑介護センター
よろこび訪問看護ステーション
よろこび訪問看護介護センター
八尾徳洲会介護センター
（居宅介護支援事業所）
特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷
八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷



八尾徳洲会総合病院 委員会組織図

2018年1月1日 現在



患　者　統　計

―― 2017年 ――

1．外　来

1）外来患者統計　10
2）科別・月別外来患者数　10
3）1 日平均外来患者数　11
4）1 日平均外来新患者数　11

2．入　院

1）入院患者統計　12
2）科別・月別 1 日平均入院患者数　12
3）病棟別・月別 1 日平均入院患者数　12

3．救　急

1）月別救急搬送件数　13
2）救急搬送人数　年齢別・性別分布　14
3）救急搬送件数分布　15

1.外 来

1）外来患者統計

①1日平均患者数　②1ヶ月総患者数　③1日平均新患者数

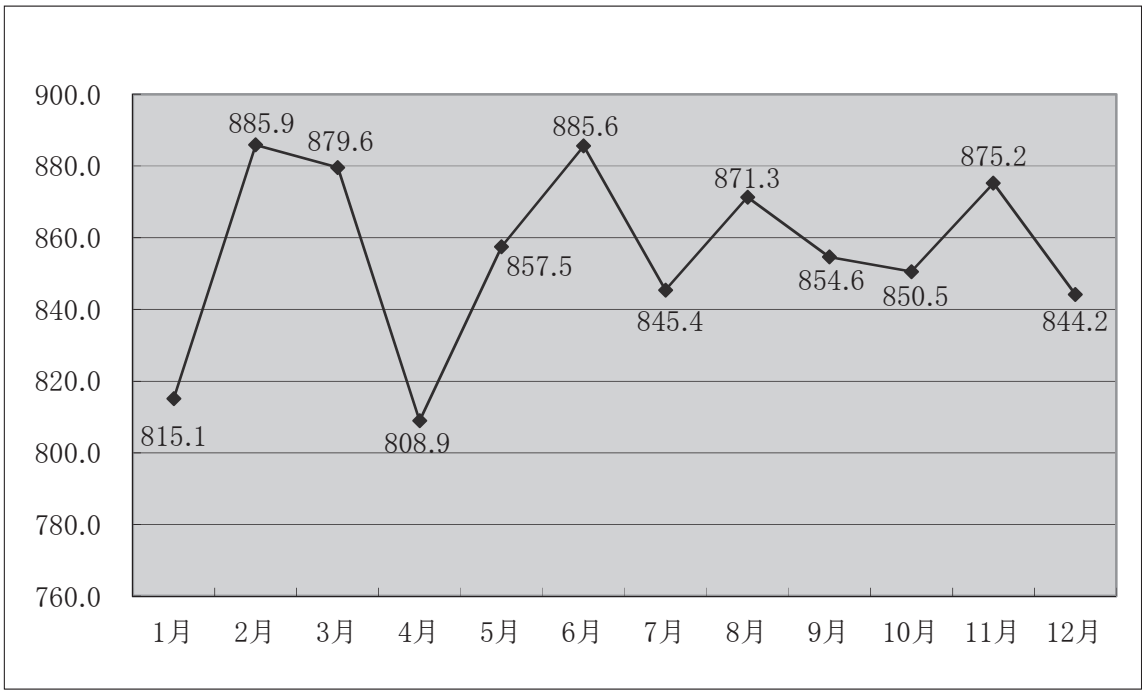
外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
①	815.1	885.9	879.6	808.9	857.5	885.6	845.4	871.3	854.6	850.5	875.2	844.2	10,273.8	856.2
②	25,554	25,100	27,623	24,576	26,886	26,919	26,542	27,363	25,999	26,729	26,605	26,535	316,431	26,369
③	28.5	26.7	25.6	26.7	26.3	27.9	27.2	27.2	25.0	24.8	23.3	27.9	317.1	26.4

2）科別・月別外来患者数

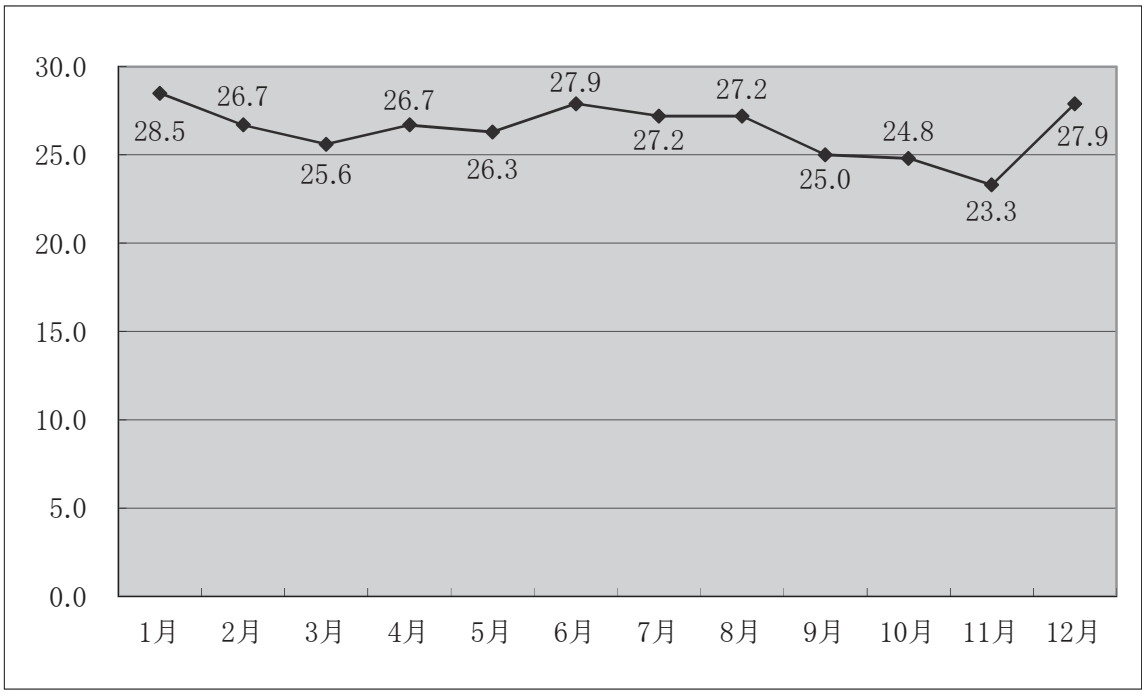
	内科	循環器科	外科	呼吸器外科	乳腺外科	小児外科	肝臓外科	肝臓内科	整形外科	心臓外科	眼科	脳神経外科	泌尿器科	形成外科	美容外科	放射線治療部
1月	8,206	840	1,322	105	124	87	379	284	2,937	505	1,423	1,020	1,188	416	2	292
2月	7,331	857	1,208	106	154	79	443	251	2,776	491	1,487	1,057	1,056	482	3	306
3月	8,174	770	1,506	133	130	128	429	318	3,241	597	1,623	1,172	1,262	524	1	357
4月	7,556	1,012	1,313	117	4	59	440	310	2,768	548	1,301	1,083	1,225	429	0	266
5月	7,860	1,121	1,425	132	8	65	426	312	3,169	538	1,233	1,121	1,188	504	1	190
6月	8,080	920	1,433	153	12	98	457	253	3,105	573	1,456	1,074	1,220	554	1	222
7月	8,040	1,132	1,395	151	5	71	458	264	2,991	509	1,391	1,024	1,261	483	0	213
8月	8,158	1,005	1,430	123	1	82	454	277	3,128	524	1,455	1,071	1,248	547	1	290
9月	7,555	1,086	1,432	145	2	77	461	278	2,977	485	1,352	1,108	1,273	524	3	237
10月	7,784	1,345	1,446	147	0	78	522	274	3,133	538	1,390	1,068	1,321	479	2	263
11月	8,292	1,158	1,374	131	0	86	530	275	2,983	530	1,448	1,008	1,144	478	0	234
12月	8,105	1,186	1,435	161	0	95	503	246	3,046	505	1,490	1,075	1,286	488	1	198
合計	95,141	12,432	16,719	1,604	440	1,005	5,502	3,342	36,254	6,343	17,049	12,881	14,672	5,908	15	3,068
平均	7,928.4	1,036.0	1,393.3	133.7	36.7	83.8	458.5	278.5	3,021.2	528.6	1,420.8	1,073.4	1,222.7	492.3	1.3	255.7

	人工透析	歯科口腔外科	皮膚科	小児科	婦人科	耳鼻咽喉科	リウマチ科	検診	人間ドック	膠原病	訪問看護	創傷治療センター	ストーマ外来	腫瘍内科	リハビリ外来	合計
1月	904	1,390	487	975	278	168	57	603	496	203	499	103	11	250	0	25,554
2月	860	1,409	498	928	268	271	60	1,125	513	208	517	121	8	227	0	25,100
3月	954	1,643	562	1,018	295	303	69	733	548	223	549	103	6	252	0	27,623
4月	854	1,409	501	827	244	231	63	425	460	229	526	106	11	259	0	24,576
5月	961	1,475	542	836	322	178	88	1,463	628	222	522	112	8	236	0	26,886
6月	984	1,461	585	947	353	298	59	794	689	221	503	141	15	258	0	26,919
7月	959	1,484	553	837	343	238	76	887	699	210	472	116	12	268	0	26,542
8月	983	1,612	471	914	407	226	65	1,066	691	226	504	122	11	271	0	27,363
9月	942	1,396	537	768	377	200	62	973	623	260	496	117	12	241	0	25,999
10月	976	1,456	513	935	355	192	73	641	665	240	502	116	11	260	4	26,729
11月	895	1,451	474	1,149	376	167	0	718	592	243	500	124	5	240	0	26,605
12月	890	1,479	483	1,011	366	39	0	666	591	275	548	133	5	229	0	26,535
合計	11,162	17,665	6,206	11,145	3,984	2,511	672	10,094	7,195	2,760	6,138	1,414	115	2,991	4	316,431
平均	930.2	1,472.1	517.2	928.8	332.0	209.3	56.0	841.2	599.6	230.0	511.5	117.8	9.6	249.3	0.3	26,369.3

3）1日平均外来患者数



4）1日平均外来新患者数



2. 入　院

1）入院患者統計

①1日平均患者数　②1カ月総患者数　③平均在院日数　④病床稼動率

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①	386.7	394.1	391.3	384.8	371.3	356.4	370.0	374.8	350.0	339.9	358.7	387.0	4,465.0	372.1
②	11,988	11,035	12,131	11,544	11,509	10,693	11,469	11,618	10,501	10,538	10,761	11,996	135,783	11,315.3
③	14.83	13.42	13.37	13.19	13.52	12.63	12.96	12.43	11.74	12.07	12.32	13.0	155.48	12.96
④	99.1	102.1	101.4	99.8	96.2	92.6	96.1	97.6	91.8	88.5	93.5	100.6	1,159.0	96.6

2）科別・月別1日平均入院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
内科	148.45	137.50	152.26	168.40	156.39	138.27	141.55	153.00	136.00	138.32	132.47	138.94	1,741.55	145.13
循環器内科	59.10	67.89	52.61	34.43	29.23	26.53	20.94	27.87	25.00	31.03	41.07	41.97	457.67	38.14
外科	44.06	44.11	37.06	32.37	43.03	41.07	50.48	47.39	39.50	36.10	27.07	38.71	480.95	40.08
肝臓センター	13.58	14.50	17.16	18.20	16.32	15.90	18.52	24.19	23.90	18.68	25.37	23.26	229.58	19.13
整形外科	41.68	43.43	40.32	36.93	38.39	47.07	50.35	37.03	35.40	37.52	46.27	48.58	502.97	41.91
脳神経外科	39.29	37.50	42.23	45.83	40.16	39.37	36.16	36.97	38.33	37.29	38.80	41.06	472.99	39.42
泌尿器科	5.74	7.50	8.81	10.37	7.16	8.63	7.77	6.00	7.73	8.45	7.73	9.19	95.08	7.92
婦人科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.97	1.83	1.58	2.90	1.47	1.13	1.03	1.84	12.75	1.06
小児科	1.03	1.21	1.39	1.00	0.94	1.07	1.26	0.97	2.03	1.00	1.57	1.06	14.53	1.21
眼科	3.65	4.29	4.45	2.83	3.87	3.90	4.06	5.23	6.90	4.13	5.17	4.87	53.35	4.45
形成外科	14.42	18.93	16.55	15.67	17.71	13.40	17.23	18.10	13.23	9.94	14.20	18.45	187.83	15.65
心臓外科	11.00	13.29	14.90	13.03	11.13	14.90	11.68	8.65	11.37	9.81	11.87	10.97	142.60	11.88
皮膚科	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.01
口腔外科	4.71	3.96	3.48	4.63	5.13	4.33	6.32	5.06	6.90	4.97	4.60	6.35	60.44	5.04
腎臓内科	0.00	0.00	0.00	1.10	0.84	0.17	2.06	1.42	2.27	1.58	1.50	1.71	12.65	1.05
合計	386.7	394.1	391.3	384.8	371.3	356.4	370.0	374.8	350.0	340.0	358.7	387.0	4,465.0	372.1

3）病棟別・月別1日平均入院患者数

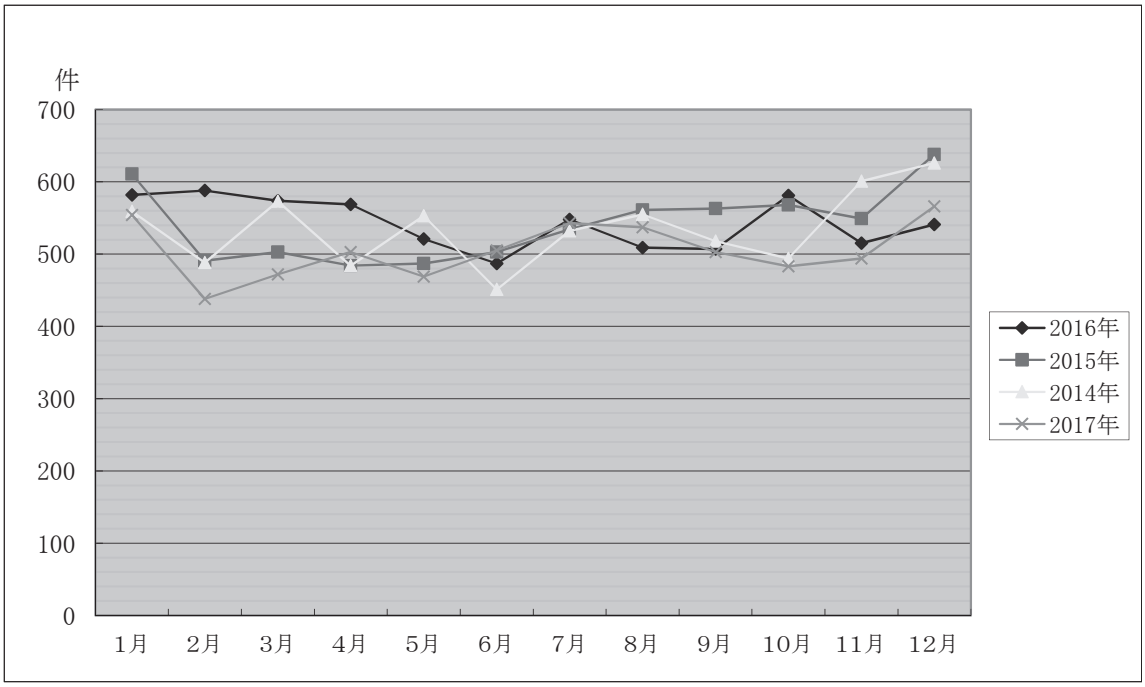
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
ICU	4.58	4.71	4.77	4.53	5.65	4.37	3.94	3.94	3.70	3.58	5.40	4.61	53.78	4.48
HCU	13.32	13.54	14.45	11.90	9.94	9.13	9.77	11.00	9.43	8.06	13.47	14.42	138.43	11.54
4東	42.74	43.04	44.26	44.27	41.87	39.00	39.19	39.94	40.97	37.45	37.10	41.71	491.54	40.96
5東	41.61	43.89	43.16	43.10	40.77	38.63	39.68	41.61	39.63	39.84	40.60	42.29	494.81	41.23
5西	37.42	38.64	37.45	35.63	36.06	33.43	36.39	36.61	34.03	32.13	34.63	36.03	428.45	35.70
6東	39.35	41.32	40.45	40.53	38.94	37.07	38.19	38.77	34.97	30.71	34.63	40.68	455.61	37.97
6西	41.55	41.32	41.48	40.43	37.68	41.90	41.19	38.65	35.93	37.13	42.57	42.39	482.22	40.19
7東	41.90	42.18	40.26	39.60	40.90	37.73	42.58	41.39	40.63	37.13	36.80	41.71	482.81	40.23
7西	42.90	43.14	43.52	43.43	41.55	40.00	41.23	42.68	37.27	37.55	38.20	42.77	494.24	41.19
8東	38.03	38.36	37.94	38.53	37.06	35.53	36.71	37.61	35.30	35.71	36.17	37.87	444.82	37.07
8西	43.29	43.96	43.58	42.83	40.84	39.63	41.10	42.58	38.17	40.65	39.13	42.45	498.21	41.52
総計	386.7	394.1	391.3	384.8	371.3	356.4	370.0	374.8	350.0	339.9	358.7	386.9	4,464.9	372.1

3. 救　急

1）月別救急搬送件数

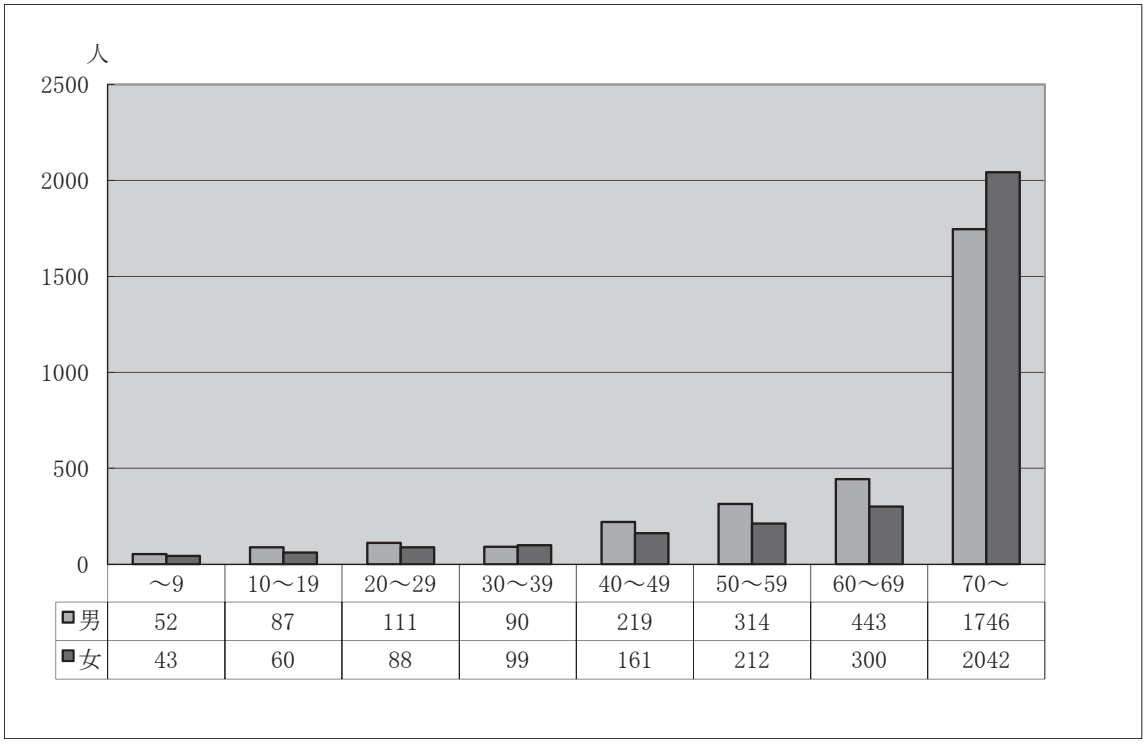
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2017年	554	438	472	503	469	505	543	537	503	483	494	566	6,067	505.6
2016年	582	588	574	569	521	487	548	509	507	581	515	541	6,522	543.5
2015年	611	491	503	484	487	503	534	561	563	568	549	638	6,492	541.0
2014年	559	488	573	484	553	451	532	555	518	494	601	626	6,434	536.2

《救急搬送件数》



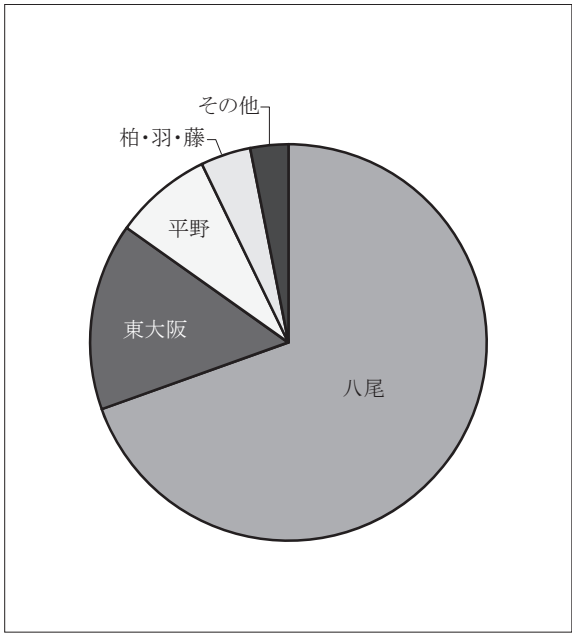
2）救急搬送人数　年齢別・性別分布

年齢	性別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	総合計
0～9歳	男	4	3	5	5	8	9	4	5	2	3	3	1	52	95
	女	2	1	6	5	4	4	3	3	5	5	3	2	43	
10～19歳	男	3	2	7	5	8	7	14	4	10	4	10	13	87	147
	女	4	2	5	7	6	7	7	7	5	1	6	3	60	
20～29歳	男	8	7	10	7	10	15	10	5	7	10	7	15	111	199
	女	7	5	4	7	5	5	18	6	8	7	8	8	88	
30～39歳	男	7	2	6	9	4	7	13	13	6	6	8	9	90	189
	女	8	3	7	8	6	14	7	9	14	6	6	11	99	
40～49歳	男	18	10	12	20	21	20	20	23	20	21	9	25	219	380
	女	10	8	14	16	9	14	12	24	11	15	16	12	161	
50～59歳	男	32	17	24	20	20	19	29	28	27	28	34	36	314	526
	女	23	12	16	17	9	19	16	18	18	20	19	25	212	
60～69歳	男	41	39	35	34	36	27	48	31	41	39	41	31	443	743
	女	30	19	30	20	18	19	23	30	22	28	27	34	300	
70歳以上	男	185	158	140	134	141	144	141	147	123	130	144	159	1,746	3,788
	女	172	150	151	189	164	175	178	184	184	160	153	182	2,042	
合計	男	298	238	239	234	248	248	279	256	236	241	256	289	3,062	6,067
	女	256	200	233	269	221	257	264	281	267	242	238	277	3,005	



3）救急搬送件数分布

	八尾市	東大阪市	平野	柏原･羽曳野･藤井寺	その他	合計
1月	378	88	46	21	21	554
2月	280	85	35	23	15	438
3月	340	60	39	21	12	472
4月	345	92	30	22	14	503
5月	330	68	43	16	12	469
6月	329	89	50	22	15	505
7月	389	75	43	27	9	543
8月	380	82	39	22	14	537
9月	353	72	45	21	12	503
10月	334	62	49	19	19	483
11月	359	66	31	17	21	494
12月	402	88	35	17	24	566
合計	4,219	927	485	248	188	6,067



	件数	%
八尾	4,219	69.5%
東大阪	927	15.3%
平野	485	8.0%
柏原･羽曳野･藤井寺	248	4.1%
その他	188	3.1%
合計	6,067	100.0%

病　歴　統　計

―― 2017年 ――

1．科別退院患者数　18

2．死亡退院患者統計　19

3．疾病分類＜大分類＞科別　20

4．疾病分類＜中分類＞　21

1. 科別退院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	312	306	342	359	331	307	312	354	314	303	297	323	3,860	321.7
男	185	167	183	213	183	156	175	202	170	180	160	189	2,163	180.3
女	127	139	159	146	148	151	137	152	144	123	137	134	1,697	141.4
循環器科	49	56	49	55	60	53	45	37	60	53	57	44	618	51.5
男	36	40	33	37	45	31	34	16	39	28	38	25	402	33.5
女	13	16	16	18	15	22	11	21	21	25	19	19	216	18.0
外　科	82	91	75	81	87	77	86	104	106	81	78	81	1,029	85.8
男	48	65	41	47	53	57	59	67	74	51	44	55	661	55.1
女	34	26	34	34	34	20	27	37	32	30	34	26	368	30.7
心臓外科	12	13	11	18	12	15	15	8	17	8	13	14	156	13.0
男	6	6	9	13	10	11	12	4	11	6	11	9	108	9.0
女	6	7	2	5	2	4	3	4	6	2	2	5	48	4.0
脳外科	53	56	67	75	70	59	60	63	70	64	58	66	761	63.4
男	29	33	32	39	38	32	38	34	37	45	34	40	431	35.9
女	24	23	35	36	32	27	22	29	33	19	24	26	330	27.5
整形外科	52	79	77	62	79	67	94	72	60	70	86	92	890	74.2
男	18	33	33	21	33	27	36	21	23	29	38	39	351	29.3
女	34	46	44	41	46	40	58	51	37	41	48	53	539	44.9
泌尿器科	26	30	43	37	31	31	51	32	44	36	39	47	447	37.3
男	23	26	32	28	26	24	37	26	33	28	36	39	358	29.8
女	3	4	11	9	5	7	14	6	11	8	3	8	89	7.4
形成外科	14	25	21	21	24	17	17	19	19	14	23	22	236	19.7
男	6	16	7	15	19	11	10	10	7	10	14	11	136	11.3
女	8	9	14	6	5	6	7	9	12	4	9	11	100	8.3
小児科	8	8	14	12	10	14	6	11	13	6	10	10	122	10.2
男	4	5	7	5	5	7	2	9	7	5	5	6	67	5.6
女	4	3	7	7	5	7	4	2	6	1	5	4	55	4.6
眼　科	37	40	50	27	34	44	40	54	62	49	49	69	555	46.3
男	14	17	16	11	18	20	14	33	32	18	24	31	248	20.7
女	23	23	34	16	16	24	26	21	30	31	25	38	307	25.6
腎臓内科	0	0	0	2	1	0	4	2	5	3	7	1	25	2.1
男	0	0	0	1	1	0	2	1	2	1	5	1	14	1.2
女	0	0	0	1	0	0	2	1	3	2	2	0	11	0.9
口腔外科	31	35	36	39	30	37	54	43	45	52	30	45	477	39.8
男	13	18	19	21	17	22	22	21	17	25	15	19	229	19.1
女	18	17	17	18	13	15	32	22	28	27	15	26	248	20.7
肝臓外科	25	28	44	29	36	34	49	55	53	43	60	59	515	42.9
男	17	18	31	22	25	22	27	29	28	20	37	35	311	25.9
女	8	10	13	7	11	12	22	26	25	23	23	24	204	17.0
肝臓内科	12	7	9	11	9	7	5	13	10	5	11	11	110	9.2
男	9	2	5	6	7	6	2	6	7	3	6	6	65	5.4
女	3	5	4	5	2	1	3	7	3	2	5	5	45	3.8
小児外科	8	8	15	8	7	8	5	12	4	9	8	10	102	8.5
男	4	4	11	5	3	3	4	11	3	8	5	6	67	5.6
女	4	4	4	3	4	5	1	1	1	1	3	4	35	2.9
呼吸器外科	13	16	16	14	18	23	23	19	14	21	18	20	215	17.9
男	11	12	12	8	17	17	19	11	12	15	15	15	164	13.7
女	2	4	4	6	1	6	4	8	2	6	3	5	51	4.3
呼吸器内科	14	17	17	14	8	9	10	14	17	13	7	10	150	12.5
男	11	13	10	9	8	6	6	8	11	8	6	5	101	8.4
女	3	4	7	5	0	3	4	6	6	5	1	5	49	4.1
腫瘍内科	18	13	22	16	14	16	11	13	7	6	15	15	166	13.8
男	14	9	16	12	11	13	6	9	5	3	8	6	112	9.3
女	4	4	6	4	3	3	5	4	2	3	7	9	54	4.5
婦人科	0	0	0	0	2	11	3	7	6	7	7	7	50	4.2
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
女	0	0	0	0	2	11	3	7	6	7	7	7	50	4.2
合　計	766	828	908	880	863	829	890	932	926	843	873	946	10,484	873.7
男	448	484	497	513	519	465	505	518	518	483	501	537	5,988	499.0
女	318	344	411	367	344	364	385	414	408	360	372	409	4,496	374.7

2. 死亡退院患者統計

《科別》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	41	30	31	43	28	32	32	35	28	24	30	44	398	33.2
男	24	19	22	29	18	23	22	20	16	15	20	30	258	21.5
女	17	11	9	14	10	9	10	15	12	9	10	14	140	11.7
外　科	10	5	3	9	9	5	8	4	6	7	2	2	70	5.8
男	6	2	1	8	5	5	6	2	6	4	1	2	48	4.0
女	4	3	2	1	4	0	2	2	0	3	1	0	22	1.8
心臓外科	1	1	1	3	2	0	0	0	2	0	0	2	12	1.0
男	0	1	1	2	1	0	0	0	1	0	0	1	7	0.6
女	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	5	0.4
脳外科	4	1	10	2	0	2	0	1	4	5	5	4	38	3.2
男	2	0	3	1	0	2	0	0	1	2	4	4	19	1.6
女	2	1	7	1	0	0	0	1	3	3	1	0	19	1.6
整形外科	0	1	0	2	0	1	1	0	1	1	0	0	7	0.6
男	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	3	0.3
女	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	4	0.3
泌尿器科	0	1	0	1	0	0	3	0	0	0	1	0	6	0.5
男	0	1	0	1	0	0	3	0	0	0	1	0	6	0.5
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
形成外科	0	2	0	1	0	1	1	0	1	0	1	1	8	0.7
男	0	1	0	1	0	1	1	0	1	0	1	1	7	0.6
女	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
腫瘍内科	3	5	2	3	3	2	3	3	2	0	3	1	30	2.5
男	1	4	2	2	3	2	2	2	1	0	2	0	21	1.8
女	2	1	0	1	0	0	1	1	1	0	1	1	9	0.8
肝臓外科	1	2	2	0	1	0	2	2	2	2	1	3	18	1.5
男	1	2	2	0	1	0	1	1	1	1	1	2	13	1.1
女	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	5	0.4
肝臓内科	2	2	1	0	1	1	1	0	1	2	2	1	14	1.2
男	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	6	0.5
女	0	2	1	0	0	0	1	0	1	2	1	0	8	0.7
合　計	62	50	50	64	44	44	51	45	47	41	45	58	601	50.1
男	36	30	31	45	29	35	35	25	27	23	31	41	388	32.3
女	26	20	19	19	15	9	16	20	20	18	14	17	213	17.8

《疾病別》

悪性腫瘍	肺	64	転移癌	12	膀胱	4	
	胃	27	悪性リンパ腫	5	多発性骨髄腫	3	
	肝臓	17	直腸	5	胆のう	3	
	大腸	16	食道	4	白血病	2	
	膵臓	15	胆管	4	その他	12	合　計　193
呼吸器系	肺炎	146	呼吸不全	15	気道閉塞	1	
	(嚥下性)	(77)	慢性閉塞性肺疾患	3	胸膜炎	1	
	(間質性)	(28)	肺炎球菌肺炎	2			
	(気管支)	(9)					合　計　168
循環器系	心不全	63	脳内出血	7	感染性心内膜炎	3	
	(うっ血性)	(23)	心肺停止	5	大動脈瘤破裂	3	
	脳梗塞	13	肺塞栓症	4	解離性大動脈瘤	2	
	急性心筋梗塞	10	くも膜下出血	3	その他	4	合　計　117
消化器系	肝硬変	11	イレウス	3	急性肝炎	2	
	(アルコール性)	(5)	消化管出血	3	急性胆管炎	2	
	肝不全	6	肝障害	2	その他	9	合　計　38
その他の疾患	敗血症	28	外傷	6	ANCA 関連血管炎	1	
	腎不全	12	骨髄異形成症候群	2	高カリウム血症	1	
	多臓器不全	9	骨髄炎	2	重症筋無力症	1	
	低酸素性脳症	7	窒息	2	その他	6	
	老衰	6	播種性血管内凝固	2			合　計　85

3. 疾病分類＜大分類＞科別

疾病分類＼科別	内科	循環器科	外科	心臓外科	脳神経外科	整形外科	泌尿器科	形成外科	小児科	眼科	腎臓内科	口腔外科	肝臓外科	肝臓内科	小児外科	呼吸器外科	呼吸器内科	腫瘍内科	乳腺外科	合計
感染症及び寄生虫（A00～B99）	189	2	18	0	0	1	0	2	24	0	1	0	10	4	0	1	1	1	0	254
新生物（C00～D48）	470	1	380	1	33	5	226	36	1	0	0	76	256	44	3	89	6	144	42	1,813
血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害（D50～D89）	31	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	9	0	48
内分泌・栄養及び代謝疾患（E00～E90）	213	4	6	0	3	0	0	5	15	0	1	0	2	1	0	0	0	1	0	251
精神及び行動の障害（F00～F99）	17	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
神経系の疾患（G00～G99）	183	1	0	1	139	7	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	335
眼及び付属器の疾患（H00～H59）	1	0	0	0	0	0	0	21	0	549	0	0	0	0	0	0	0	0	0	571
耳及び乳様突起の疾患（H60～H95）	75	0	1	0	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	82
循環器系の疾患（I00～I99）	622	579	22	140	487	2	0	48	5	0	0	0	10	4	2	2	4	2	0	1,929
呼吸器系の疾患（J00～J99）	999	11	11	2	4	0	0	1	66	2	1	8	5	3	1	98	136	6	0	1,354
消化器系の疾患（K00～K93）	531	2	539	3	2	1	0	0	2	0	3	307	211	50	71	0	0	0	0	1722
皮膚及び皮下組織の疾患（L00～L99）	40	0	0	0	0	7	0	28	1	0	1	29	2	1	2	0	0	1	0	112
筋骨格系及び結合組織の疾患（M00～M99）	45	1	0	4	14	205	0	49	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	322
尿路性器系の疾患（N00～N99）	357	5	11	2	0	0	214	14	0	0	18	0	2	0	6	2	0	1	8	640
周産期に発生した病態（P00～P96）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
先天性奇形・変形及び染色体異常（Q00～Q99）	0	0	0	0	4	0	1	1	1	0	0	2	0	0	15	0	0	0	0	24
症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの（R00～R99）	29	0	9	0	2	0	3	1	4	0	0	0	5	1	1	2	3	0	0	60
損傷・中毒及びその他の外因の影響（S00～T98）	60	10	26	2	68	662	3	28	0	4	0	55	9	0	0	20	0	1	0	948
健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用（Z00～Z99）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
合　計	3,862	618	1026	156	762	890	447	236	122	555	25	477	515	110	102	215	150	166	50	10,484

4. 疾病分類〈中分類〉

第1章 感染症および寄生虫症	254
A00-09 腸管感染症	146
A15-19 結核	13
A20-28 人蓄共通細菌性疾患	1
A30-49 その他の細菌性疾患	54
A50-64 主として性的伝播様式をとる感染症	3
A65-69 その他のスピロヘータ疾患	0
A70-74 クラミジアによるその他の疾患	0
A75-79 リッチケア症	0
A80-89 中枢神経系のウイルス感染症	10
A90-99 節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス出血熱	0
B00-09 皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	4
B15-19 ウイルス肝炎	8
B20-24 ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病	0
B25-34 その他のウイルス疾患	10
B35-49 真菌症	2
B50-64 原虫疾患	1
B65-83 ぜん＜蠕＞虫症	1
B85-89 シラミ症、ダニ症およびその他の動物寄生症	0
B90-94 感染症および寄生虫症の続発・後遺症	1
B95-97 細菌、ウイルスおよびその他の病原体	0
B99 その他の感染症	0
第2章 新生物	1,813
C00-14 口唇、口腔および咽頭	8
C15-26 消化器	752
C30-39 呼吸器および胸腔内臓器	320
C40-41 骨および関節軟骨	1
C43-44 皮膚	6
C45-49 中皮および軟部組織	10
C50 乳房	14
C51-58 女性生殖器	35
C60-63 男性生殖器	110
C64-68 尿路	111
C69-72 眼、脳および中枢神経系のその他の部位	11
C73-75 甲状腺およびその他の内分泌腺	0
C76-80 部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物	109
C81-96 原発と記載されたまたは推定されたリンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物	57
C97 独立した(原発性)多部位の悪性新生物	0
D00-09 上皮内新生物	3
D10-36 良性新生物	101
D37-48 性状不詳または不明の新生物	165
第3章 血液および造血器の疾患、免疫障害	48
D50-53 栄養性貧血	19
D55-59 溶血性貧血	4
D60-64 無形成性貧血およびその他の貧血	10
D65-69 凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態	13
D70-77 血液および造血器のその他の疾患	1
D80-89 免疫機構の障害	1
第4章 内分泌、栄養および代謝疾患	251
E00-07 甲状腺障害	5
E10-14 糖尿病	79
E15-16 その他のグルコース調節および膵内分泌障害	14
E20-35 その他の内分泌腺障害	11
E40-46 栄養失調(症)	2
E50-64 その他の栄養欠乏症	11
E65-68 肥満(症)およびその他の過栄養＜過剰摂食＞	1
E70-90 代謝障害	128

第5章 精神および行動の障害	18
F00-09 症状性を含む器質性精神障害	2
F10-19 精神作用物質使用による精神および行動の障害	8
F20-29 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害	0
F30-39 気分〔感情〕障害	1
F40-48 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	6
F50-59 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	1
F60-69 成人の人格および行動の障害	0
F70-79 知的障害＜精神遅滞＞	0
F80-89 心理的発達の障害	0
F90-98 小児＜児童＞期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	0
F99 詳細不明の精神障害	0
第6章 神経系の疾患	335
G00-09 中枢神経系の炎症性疾患	13
G10-13 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	14
G20-26 錐体外路障害および異常運動	9
G30-32 神経系のその他の変性疾患	10
G35-37 中枢神経系の脱髄疾患	1
G40-47 挿間性および発作性障害	220
G50-59 神経、神経根および神経そう＜叢＞の障害	13
G60-64 多発(性)ニューロパチ＜シ＞ーおよびその他の末梢神経系の障害	6
G70-73 神経筋接合部および筋の疾患	4
G80-83 脳性麻痺およびその他の麻痺性症候群	1
G90-99 神経系のその他の障害	44
第7章 眼および付属器の疾患	571
H00-06 眼瞼、涙器および眼窩の障害	21
H10-13 結膜の障害	1
H15-22 強膜、角膜、虹彩および毛様体の障害	1
H25-28 水晶体の障害	466
H30-36 脈絡膜および網膜の障害	72
H40-42 緑内障	2
H43-45 硝子体および眼球の障害	6
H46-48 視神経および視(覚)路の障害	1
H49-52 眼筋、眼球運動、調節および屈折の障害	0
H53-54 視機能障害および盲＜失明＞	1
H55-59 眼および付属器のその他の障害	0
第8章 耳および乳様突起の疾患	82
H60-62 外耳疾患	3
H65-75 中耳および乳様突起の疾患	1
H80-83 内耳疾患	78
H90-95 耳のその他の障害	0
第9章 循環器系の疾患	1,929
I00-02 急性リウマチ熱	0
I05-09 慢性リウマチ性心疾患	11
I10-15 高血圧性疾患	9
I20-25 虚血性心疾患	478
I26-28 肺性心疾患および肺循環疾患	8
I30-52 その他の型の心疾患	550
I60-69 脳血管疾患	519
I70-79 動脈、細動脈および毛細血管の疾患	270
I80-89 静脈、リンパ管およびリンパ節の疾患、他に分類されないもの	65
I95-99 循環器系のその他および詳細不明の障害	19

4. 疾病分類〈中分類〉

第10章	呼吸器系の疾患	1,354	第15章	妊娠、分娩および産じょく＜褥＞	0
J00-06	急性上気道感染症	37	O00-08	流産に終わった妊娠	0
J10-18	インフルエンザおよび肺炎	437	O10-16	妊娠、分娩および産じょく＜褥＞における浮腫、たんぱく＜蛋白＞尿および高血圧性障害	0
J20-22	その他の急性下気道感染症	26			
J30-39	上気道のその他の疾患	9	O20-29	主として妊娠に関連するその他の母体障害	0
J40-47	慢性下気道疾患	163	O30-48	胎児および羊膜腔に関連する母体ケアならびに予想される分娩の諸問題	0
J60-70	外的因子による肺疾患	445			
J80-84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	96	O60-75	分娩の合併症	0
J85-86	下気道の化膿性およびえ＜壊＞死性病態	54	O80-84	分娩	0
J90-94	胸膜のその他の疾患	65	O85-92	主として産じょく＜褥＞に関連する合併症	0
J95-99	呼吸器系のその他の疾患	22	O95-99	その他の産科的病態、他に分類されないもの	0
第11章	消化器系の疾患	1,722	第16章	周産期に発生した病態	1
K00-14	口腔、唾液腺および顎の疾患	312	P00-04	母体側要因ならびに妊娠および分娩の合併症により影響を受けた胎児および新生児	0
K20-31	食道、胃および十二指腸の疾患	155			
K35-38	虫垂の疾患	118	P05-08	妊娠期間および胎児発育に関連する障害	0
K40-46	ヘルニア	227	P10-15	出産外傷	0
K50-52	非感染性腸炎および非感染性大腸炎	10	P20-29	周産期に特異的な呼吸障害および心血管障害	0
K55-63	腸のその他の疾患	305	P35-39	周産期に特異的な感染症	0
K65-67	腹膜の疾患	12	P50-61	胎児および新生児の出血性障害および血液障害	0
K70-77	肝疾患	134	P70-74	胎児および新生児に特異的な一過性の内分泌障害および代謝障害	0
K80-87	胆のう＜嚢＞、胆管および膵の障害	417			
K90-93	消化管系のその他の疾患	32	P75-78	胎児および新生児の消化器系障害	0
第12章	皮膚および皮下組織の疾患	112	P80-83	胎児および新生児の外皮および体温調節に関連する病態	1
L00-08	皮膚および皮下組織の感染症	80			
L10-14	水疱症	0	P90-96	周産期に発生したその他の障害	0
L20-30	皮膚炎および湿疹	2	第17章	先天奇形、変形および染色体異常	24
L40-45	丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害	1	Q00-07	神経系の先天性奇形	0
L50-54	じんま＜蕁麻＞疹および紅斑	2	Q10-18	眼、耳、顔面および頚部の先天性奇形	0
L55-59	皮膚および皮下組織の放射線(非電離および電離)に関する障害	0	Q20-28	循環器系の先天性奇形	4
			Q30-34	呼吸器系の先天性奇形	0
L60-75	皮膚付属器の障害	3	Q35-37	唇裂および口蓋裂	1
L80-99	皮膚および皮下組織のその他の障害	24	Q38-45	消化器系のその他の先天奇形	3
第13章	筋骨格系および結合組織の疾患	322	Q50-56	性器の先天奇形	13
M00-03	感染性関節障害	4	Q60-64	尿路系の先天奇形	1
M05-14	炎症性多発性関節障害	25	Q65-79	筋骨格系の先天奇形および変形	1
M15-19	関節症	49	Q80-89	その他の先天奇形	1
M20-25	その他の関節障害	3	Q90-99	染色体異常、他に分類されないもの	0
M30-36	全身性結合組織障害	11	第18章	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	60
M40-43	変形性脊柱障害	7			
M45-49	脊椎障害	79	R00-09	循環器系および呼吸器系に関する症状および徴候	14
M50-54	その他の脊柱障害	45	R10-19	消化器系および腹部に関する症状および徴候	14
M60-63	筋障害	9	R20-23	皮膚および皮下組織に関する症状および徴候	2
M65-68	滑膜および腱の障害	2	R25-29	神経系および筋骨格系に関する症状および徴候	1
M70-79	その他の軟部組織障害	28	R30-39	腎尿路系に関する症状および徴候	3
M80-85	骨の密度および構造の障害	16	R40-46	認識、知覚、情緒状態および行動に関する症状および徴候	3
M86-90	その他の骨障害	32			
M91-94	軟骨障害	1	R47-49	言語および音声に関する症状および徴候	0
M95-99	筋骨格系および結合組織のその他の障害	11	R50-69	全身症状および徴候	22
第14章	腎尿路生殖器系の疾患	640	R70-79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
N00-08	糸球体疾患	140	R80-82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
N10-16	腎尿細管間質性疾患	22	R83-89	その他の体液、検体＜材料＞および組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの	1
N17-19	腎不全	159			
N20-23	尿路結石症	144	R90-94	画像診断および機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの	0
N25-29	腎および尿管のその他の障害	5			
N30-39	尿路系のその他の疾患	140	R95-99	診断名不明確および原因不明の死亡	0
N40-51	男性生殖器の疾患	18			
N60-64	乳房の障害	0			
N70-77	女性骨盤臓器の炎症性疾患	1			
N80-98	女性性器の非炎症性障害	11			
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害	0			

4. 疾病分類〈中分類〉

第19章	損傷、中毒およびその他の外因の影響	**948**
S00-09	頭部損傷	132
S10-19	頚部損傷	7
S20-29	胸部＜郭＞損傷	50
S30-39	腹部、下背部、腰椎および骨盤部の損傷	110
S40-49	肩および上腕の損傷	95
S50-59	肘および前腕の損傷	91
S60-69	手首および手の損傷	10
S70-79	股関節部および大腿の損傷	212
S80-89	膝および下腿の損傷	86
S90-99	足首および足の損傷	15
T00-07	多部位の損傷	6
T08-14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷または部位不明の損傷	9
T15-19	自然開口部からの異物侵入の作用	0
T20-32	熱傷および腐食	5
T33-35	凍傷	0
T36-50	薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒	9
T51-65	薬用を主としない物質の毒作用	0
T66-78	外因のその他および詳細不明の作用	23
T79	外傷の早期合併症	2
T80-88	外科的および内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	83
T90-98	損傷、中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症	3
第20章	傷病および死亡の外因	**0**
V01-99	交通事故	0
W00-X59	不慮の損傷のその他の外因	0
X60-84	故意の自傷および自殺	0
X85-Y09	加害にもとづく傷害および死亡	0
Y10-34	不慮か故意か決定されない事件	0
Y35-36	法的介入および戦争行為	0
Y40-84	内科的および外科的ケアの合併症	0
Y85-89	傷病および死亡の外因の続発・後遺症	0
Y90-98	他に分類される傷病および死亡の原因に関係する補助的因子	0
第21章	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	**0**
Z00-13	検査および診査のための保健サービスの利用者	0
Z20-29	伝染病に関連する健康傷害をきたす恐れのある者	0
Z30-39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者	0
Z40-54	特定の処置および保健ケアのための保健サービスの利用者	0
Z55-65	社会経済的環境および社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0
Z70-76	その他の環境下での保健サービスの利用者	0
Z80-99	家族歴、既往歴および健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0

●部署紹介

放射線科



検査科



栄養科



緩和ケアチーム



がん相談支援センター



健診センター



愛の郷

入社式



第１回運動会



第３回夏祭り



第９回燈炉祭り



診　療　部

―― 2017年 ――

1）内　　科　28
2）循環器内科（カテーテル部門）　34
3）消化器内科　35
4）呼吸器内科　37
5）腫 瘍 内 科　38
6）血管透析科　40
7）小　児　科　42
8）放 射 線 科（診療部）　44
9）神 経 内 科　45
10）内分泌内科　46
11）膠原病リウマチ内科　48
12）外　　科　50
13）整 形 外 科　52
14）脳神経外科　56
15）心臓血管外科・大動脈センター　57
16）形成外科・美容外科　59
17）泌 尿 器 科　61
18）眼　　科　63
19）歯科・歯科口腔外科　65
20）麻　酔　科　68
21）肝臓センター　69
22）呼吸器外科　72
23）小 児 外 科　73
24）皮　膚　科　75
25）婦　人　科　76
26）耳鼻咽喉科　77
27）リハビリテーション科（診療部）　78
28）病理診断科　79
29）糖尿病・代謝内科　81

1）内　科

病院長　原田　博雅

1. 概要

2017 年も内科の課題は内科診療体制の維持でした。外来入院患者様を診ていくための必要医師数の確保が難しく、外来の一部は非常勤医師に御願いせざるを得ない状態が続いています。

その中で、7 月に糖尿病内科に植田先生が赴任され、10 月には糖尿病代謝内科部長として石橋先生が赴任されました。

また、当院で初期研修を修了した原田先生が内科後期研修を行っています。

初期研修体制として、引き続き総合内科で内科研修を行っています。卒後 2 年目の研修医として阿古目・友池・頼田の各先生が、また卒後 1 年目の研修医として、大﨑・岡田・原田・宮澤の各先生方が研修を修了しています。

今後も内科各科医師の採用を図り、より充実した内科診療をめざしたいと思います。

2018 年度より始まる内科新専門医制度に関しても基幹施設としての認定を受けることができ、教育体制をさらに整備する予定です。

2. メンバー構成

循環器	福田貢（コウ）（総長）、迫田慎一郎（副院長）、藤本忠男（医長）
	辻庸宏（後期研修医）
呼吸器	原田博雅（院長）、石原英樹（部長）
消化器	浅野耕吉（部長）、杉田博二（医長）、堀元隆二（医長）
内分泌	山本智英（トシヒデ）（顧問）
糖尿病・代謝	石橋里江子（部長）、植田秀樹
腫瘍	洪鉉寿（コウゲンジュ）（部長）
神経	辰己新水（医長）
腎臓	森ちさこ
一般内科	瓜生恭章（キヨアキ）（部長）、髙原良典（医長）、髙橋祐輔（医長）、小原太郎
	原田彩奈（後期研修医）

3. 実績

《退院患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
393	392	430	446	414	385	382	420	403	378	383	393	4,819

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

1)《感染症および寄生虫症》(A00-B99)

疾　　病	件	疾　　病	件
腸炎	64	ウイルス性髄膜炎	8
(感染性)	(23)	C型肝硬変	4
(感染性)	(9)	帯状疱疹	4
(ウイルス性)	(7)	ウイルス感染症	3
胃腸炎	40	肺非結核性抗酸菌症	3
(感染性)	(8)	サイトロメガロウイルス感染症	2
敗血症	21	結核性胸膜炎	2
(グラム陰性菌)	(4)	結核性髄膜炎	2
(グラム陽性菌)	(4)	B型慢性肝炎	1
(MRSA)	(1)	腸アニサキス症	1
細菌感染症	18	伝染性単核症	1
肺結核	8	その他	11
(後遺症)	(1)	合　計	193

2)《新生物》(C00-C97)※術後・再発・化学療法を含む

疾　　病	件	疾　　病	件
肺	254	食道	19
(下葉)	(106)	直腸	18
(上葉)	(73)	胆管	15
(肺門部)	(30)	肝	9
(中葉)	(15)	原発不明	4
結腸	57	多発性骨髄腫	4
胃	46	胆のう	4
悪性リンパ腫	42	リンパ性白血病	3
転移癌	32	咽頭	3
(脳)	(12)	十二指腸乳頭部	3
(胸膜)	(6)	中皮腫	3
(肺)	(6)	口蓋	2
(骨)	(5)	精巣	2
膵	20	前立腺	2
(膵頭部)	(8)	腎	1
(膵体部)	(5)	その他	6
(膵尾部)	(5)	合　計	549

《上皮内・良性・性状不詳または不明の新生物》(D00-D48)

(良性腫瘍)　　(性状不詳・不明)

疾　　病	件	疾　　病	件
大腸腺腫	22	骨髄異形成症候群	13
胃腺腫	15	膵腫瘍	8
		肺腫瘍	4
		キャッスルマン病	3
		肝腫瘍	3
		その他	4
合　計	37	合　計	35

3)《血液および造血器の疾患、免疫障害》(D50-D89)

疾　　病	件	疾　　病	件
貧血症	23	自己免疫性溶血性貧血	3
(鉄欠乏性)	(11)	血小板減少症	1
(出血性)	(5)	好酸球増加症	1
(急性失血性)	(2)	赤芽球ろう	1
好中球減少症	8	その他	2
特発性血小板減少性紫斑病	3	合　計	42

4)《内分泌、栄養および代謝疾患》(E00-E90)

疾　　病	件	疾　　病	件
Ⅰ型糖尿病	2	高カリウム血症	11
(ケトアシドーシス)	(1)	低血糖発作	11
(腎合併症)	(1)	低アルブミン血症	8
Ⅱ型糖尿病	69	水中毒	3
(合併症を伴わないもの)	(26)	副腎皮質機能低下症	3
(その他の合併症)	(22)	バセドウ病	2
(腎合併症)	(7)	高アンモニア血症	2
(ケトアシドーシス)	(5)	低蛋白血症	2
(昏睡)	(4)	亜急性甲状腺炎	1
(眼合併症)	(2)	橋本脳症	1
(末梢循環合併症)	(2)	甲状腺機能亢進症	1
脱水症	50	高インスリン血症	1
低カリウム血症	17	高カルシウム血症	1
低ナトリウム血症	15	その他	6
栄養失調	13	合　計	219

5)《精神および行動の障害》(F00-F99)

疾　　病	件	疾　　病	件
急性アルコール中毒	3	せん妄	1
アルコール依存症	2	解離性障害	1
アルコール性認知症	1	その他	8
うつ病	1	合　計	17

6)《神経系の疾患》(G00-G99)

疾　　病	件	疾　　病	件
睡眠時無呼吸症候群	111	一過性脳虚血発作	3
(検査入院)	(37)	進行性核上性麻痺	3
低酸素性脳症	7	迷走神経障害	3
パーキンソン病	7	ミオクローヌス	2
レビー小体型認知症	6	ミトコンドリア脳症	2
筋萎縮性側索硬化症	6	正常圧水頭症	2
てんかん	5	多発性神経障害	2
髄膜炎	5	片頭痛	2
(細菌性)	(3)	急性脊髄炎	1
(無菌性)	(1)	その他	13
ギラン・バレー症候群	4	合　計	184

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管 大動脈セ　57
形成外科 美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科 歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病 代謝内科　81

7)《耳および乳様突起の疾患》(H60-H95)

疾　　病	件	疾　　病	件
めまい症	55	前庭神経炎	14
（末梢性）	(44)	悪性外耳炎	3
（回転性）	(4)	耳介骨膜炎	1
（良性発作性頭位）	(4)	その他	3
（頭位）	(3)	合　計	76

8)《循環器系の疾患》(I00-I99)※検査入院を含む

（心血管）

疾　　病	件	疾　　病	件
心不全	401	低血圧	14
（うっ血性）	(376)	（起立性）	(12)
（慢性）	(20)	発作性頻拍症	11
（急性）	(4)	心筋症	10
狭心症	325	（肥大型）	(5)
（不安定）	(239)	（たこつぼ型）	(4)
（労作性）	(37)	（拡張型）	(1)
（安定）	(16)	虚血性心疾患	10
（冠攣縮性）	(12)	心停止	9
（異型）	(4)	感染性心内膜炎	7
急性心筋梗塞	63	冠状動脈硬化症	6
（前壁）	(29)	洞不全症候群	6
（下壁）	(20)	肺塞栓症	5
（側壁）	(9)	急性冠症候群	4
陳旧性心筋梗塞	54	急性心膜炎	3
房室ブロック	18	薬物性QT延長症候群	3
（完全）	(15)	心室期外収縮	2
（高度）	(3)	僧帽弁逸脱	2
高血圧症	18	アダムス・ストークス症候群	1
（心不全を伴う）	(9)	ウイルス性心筋炎	1
心房細動	16	劇症型心筋炎	1
大動脈弁	14	心室内血栓症	1
（狭窄症）	(8)	心膜液貯留	1
（狭窄兼閉鎖不全症）	(3)	その他	6
（閉鎖不全症）	(3)	合　計	1,012

（脳血管）

疾　　病	件	疾　　病	件
脳梗塞	23	脳出血	6
（後遺症）	(7)	（後遺症）	(3)
（塞栓性）	(7)	その他	3
（血栓性）	(2)	合　計	32

（その他の血管）

疾　　病	件	疾　　病	件
下肢閉塞性動脈硬化症	122	痔核	2
食道静脈瘤	11	毛細血管拡張症	2
（破裂）	(7)	うっ滞性下肢静脈炎	1
動脈塞栓症・血栓症（各部位）	9	ブルートウ症候群	1
深部静脈血栓症	6	その他	7
血栓性静脈炎	2	合　計	163

9)《呼吸器系の疾患》(J00-J99)

疾　　病	件	疾　　病	件
嚥下性肺炎	430	気管支炎（急性・慢性）	14
肺炎・病原体不明	249	気管支拡張症	12
（気管支）	(165)	急性扁桃炎	12
（大葉性）	(5)	肺気腫	12
間質性肺炎	95	細菌性胸膜炎	10
細菌性肺炎	74	急性上気道炎	7
（MRSA）	(9)	自然気胸	6
（緑膿菌）	(5)	インフルエンザ菌による肺炎	5
（モラキセラ･カタラリス）	(4)	急性咽頭炎	5
（連鎖球菌）	(4)	胸水貯留	4
（マイコプラズマ）	(3)	膿胸	4
（肺炎桿菌）	(2)	肺膿瘍	4
気管支喘息	65	石綿肺	3
（発作）	(29)	無気肺	2
インフルエンザ	49	巨大声帯ポリープ	1
慢性閉塞性肺疾患	48	塵肺症	1
肺炎連鎖球菌による肺炎	17	その他	7
呼吸不全（急性・慢性）	16	合　計	1,152

10)《消化器系の疾患》(K00-K93)
（食道、胃、十二指腸）

疾　　病	件	疾　　病	件
逆流性食道炎	8	胃潰瘍	70
食道裂孔ヘルニア	5	（出血性）	(58)
食道狭窄	3	（急性）	(2)
食道潰瘍	2	胃炎	5
マロリ・ワイス症候群	1	（急性）	(4)
十二指腸潰瘍	25	（萎縮性）	(1)
（出血性）	(19)	胃前庭部毛細血管拡張症	3
（急性）	(4)	その他	11
十二指腸穿孔	1	合計	134

（その他の腸疾患）

疾　　病	件	疾　　病	件
腸憩室疾患	49	直腸ポリープ	4
虚血性腸炎	24	直腸出血	2
イレウス	23	肛門出血	2
大腸ポリープ	21	クローン病	1
消化管出血	18	急性腹膜炎	1
潰瘍性大腸炎	6	その他	8
直腸潰瘍	5	合　計	164

（肝疾患）

疾　　病	件	疾　　病	件
肝硬変	32	肝機能障害	10
（アルコール性）	(18)	肝性脳症	6
（原発性胆汁性）	(2)	感染性肝のう胞	4
肝不全	16	肝膿瘍	2
（アルコール性）	(8)	肝不全	2
（急性）	(6)	合　計	72

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管 大動脈セ　57
形成外科 美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科 歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病 代謝内科　81

（胆嚢、胆管、膵）

疾　　病	件	疾　　病	件
急性胆のう炎	13	急性膵炎	32
総胆管結石	73	（胆石を伴う）	(4)
（胆管炎を伴う）	(8)	（アルコール性）	(2)
急性胆管炎	36	慢性膵炎	8
総胆管拡張症	1	（アルコール性）	(2)
閉塞性黄疸	1	仮性膵のう胞	2
		合　計	166

11)《皮膚および皮下組織の疾患》(L00-L99)

疾　　病	件	疾　　病	件
蜂窩織炎	35	掌蹠膿疱症	1
リンパ節炎	2	全身薬疹	1
スティーブンス･ジョンソン症候群	1	褥瘡感染	1
急性アレルギー性蕁麻疹	1	合　計	42

12)《筋骨格系および結合祖組織の疾患》(M00-M99)

疾　　病	件	疾　　病	件
偽痛風	8	関節炎	2
横紋筋誘拐症	4	全身性エリテマトーデス	2
急性腰痛症	4	痛風	2
廃用症候群	4	膝関節症	2
リウマチ性多発筋痛	3	シェーグレン症候群	1
化膿性脊椎炎	3	その他	9
関節リウマチ	2	合　計	46

13)《腎尿路生殖器系の疾患》(N00-N99)

疾　　病	件	疾　　病	件
腎不全	134	急性膀胱炎	6
（末期）	(83)	結石性腎盂腎炎	6
（慢性）	(28)	二次性ネフローゼ症候群	3
（急性腎前性）	(10)	腎機能低下	2
（急性）	(9)	尿管結石	2
（急性腎後性）	(4)	ANCA関連腎炎	1
急性腎盂腎炎	117	その他	11
尿路感染症	99	合　計	381

15)《症状、徴候および以上臨床所見･異常検査所見で他に分類されないもの》(R00-R99)

疾　　病	件	疾　　病	件
胸膜炎	4	嘔吐症	2
喀血	4	一過性意識消失	1
嚥下障害	4	経口摂取困難	1
食欲不振	2	血管迷走神経性失神	1
不明熱	2	肺胞出血	1
腹水症	2	その他	6
老衰	2	合　計	32

16)《損傷、中毒およびその他の外因の影響》(S00-T98)

疾　　病	件	疾　　病	件
透析シャント閉塞	14	カテーテル関連尿路感染症	2
アナフィラキシー	13	透析困難症	2
ペースメーカー電池消耗	10	脳震盪	2
急性薬物中毒	7	溺水	1
熱中症	7	脳挫傷	1
脊椎圧迫骨折	6	その他	2
頭部打撲・挫創	4	合　計	71

2）循環器内科（カテーテル部門）

循環器内科部長　迫田　慎一郎

1. 概要

当科はカテーテル業務を行っており、徳洲会の柱である救急医療において循環器診療の占める割合は大きく、当然ながら 24 時間体制を引いている。外来も月曜日から土曜日まで毎日オープンしている。

特殊な症例を除きすべて若手医師に first operator をさせており、若手医師に加えパラメディカルの能力・知識・経験・前向きな姿勢が診療を支えてくれている。

形成外科主導の創傷治療センターにおいて EVT が必要な症例に協力させて頂いている。そのため末梢血管 EVT 症例数の 6 割が膝下に対する intervetion という他院では例を見ない症例構成比となっている。

2. メンバー構成

福田貢・迫田慎一郎・藤本忠雄・綾田健士・西浦哲史・辻庸宏

3. 実績

	2017 年	2016 年	2015 年	2014 年
総合カテ件数	943	978	1,209	1,089
PCI	313	362	463	436
末梢血管 EVT	164	150	226	183
ペースメーカー	32	38	29	44
ロータブレーター	23	25	50	55

※末梢血管 EVT にはシャント PTA を含まず。

4. 今後の目標

シャント PTA にも取り組んでいきたい。256 列 CT 装置、バイプレンシネ装置が導入されればさらにカテ件数は増えると思われる。

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

3）消化器内科

消化器内科部長　浅野　耕吉

1. 概要

当院は、日本消化器内視鏡学会専門医指導施設です。

当院内視鏡室の上部消化管検査では、腺腫性病変や早期癌に対しては内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を積極的に行っています。止血術、その他食道・胃静脈瘤硬化療法、異物除去、狭窄部バルーン拡張や閉塞に対するステント留置など各種治療、その他胃ろう造設（PEG）等も行っています。

下部消化管内視鏡検査では止血術、大腸腺腫性病変に対しては色素内視鏡・拡大内視鏡で診断を行い、検査中にポリープが見つかれば、その場でポリペクトミー・内視鏡的粘膜切除術（EMR）を施行してポリープ切除を行っています。一括切除できない病変に対しては、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を行っています。

胆･膵系では、閉塞性黄疸や化膿性胆管炎などに対し内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）、超音波内視鏡（EUS）、FNA 関連手技（EUS-FNA、EUS-CPN）を安全に施行しています。

内視鏡室では、日本消化器内視鏡学会ガイドラインを遵守したスコープの洗浄・消毒履歴管理を行う事により、安全なスコープを使用しての検査・治療を行っています。処置具に関しても同上のガイドラインを遵守し、安全な検査治療が行えるよう努めています。

2. メンバー構成

部長　浅野耕吉

医長　杉田博二　日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

医員　堀元隆二　日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医

3. 実績

1）内視鏡検査日　月曜日～金曜日

2）外来診療

午前診　受付時間　8 時～ 12 時（診察時間　9 時～）

	月	火	水	木	金	土
消化器内科		杉田	浅野	杉田	堀元	

夕診　受付時間　16 時 30 分～ 19 時 30 分（診察時間　17 時～）

	月	火	水	木	金	土
消化器内科	浅野	堀元			杉田	

3）検査・治療実績

症例	件数
上部消化管内視鏡検査	5,673
上部・下部消化管粘膜下層剥離術（ESD）	85
下部消化管内視鏡検査	2,641
下部消化管粘膜切除術（ポリペクトミー）	415
内視鏡的逆行性胆道膵管造影（EPCP）	337
超音波内視鏡	64
FNA 関連手技	35
胃瘻（いろう）	（新設造設）63
小腸内視鏡	7

4. 今後の目標

鎮静剤を使用するなど、苦痛のより少ない検査を目指し、色素内視鏡や NBI（狭帯域観察）を使用し、早期癌の発見に努めていきます。

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

4）呼吸器内科

呼吸器内科部長　石原　英樹

1. 概要

当院にはこれまでも呼吸器内科常勤医は常に在籍状態にあったのですが、呼吸器内科として正式に標榜するようになったのは 2016 年 4 月からとなります。肺癌に関しては腫瘍内科が診療の中心になるので、当科では主に肺癌以外の呼吸器疾患（COPD、間質性肺炎など）を診療しています。それに加えて、呼吸リハビリテーションチームとして、院内の呼吸管理のコンサルト業務もおこなっています。

また、呼吸器内科・人工呼吸領域での学会活動も積極的におこなっています。

2. メンバー構成

部長　石原英樹　日本呼吸器学会専門医、日本内科学会認定内科医

院長　原田博雅　日本呼吸器学会専門医・指導医、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本消化器病学会専門医・指導医

3. 実績

《外来診療患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
204	213	227	260	253	310	236	296	259	330	308	285	3,181

4. 今後の目標

現在中河内地区で呼吸器内科を標榜している病院がほとんどないのが現状です。今後これらの地域を含めた呼吸器診療の一助になれるよう努力していく所存です。

5）腫瘍内科

腫瘍内科部長　洪　鉉寿

1. 概要

昨今の抗がん化学療法は今までの殺細胞性抗癌剤のみでなく、分子標的治療、免疫療法などの発展により今までの臓器別パラダイムでは解決できない諸問題が出現しました。

当科は2015年4月に開設された新しい診療科で、抗がん薬物療法および支持療法を守備領域としており、各種の固形がんおよび一部の血液腫瘍（悪性リンパ腫）の治療を行っております。地域の特性上、肺癌が占める割合が高いのですが、消化器系悪性腫瘍、悪性リンパ腫、原発不明癌の化学療法も担当しています。白血病、骨髄異形成症候群などの血液の液性悪性腫瘍や化学療法以上の治療が必要となる悪性リンパ腫については大阪市立大学および関連病院に紹介しております。

まだ若い診療科ですが、おかげさまで診療科開設以降は順調に化学療法件数や患者様の受け入れ件数は増えており、院内化学療法件数は肺癌を中心に全科の合計で前年比4割程度増加しています。

当科ではエビデンスに基づいた標準的な化学療法の施行を心がけておりますが、同時に患者様の個人的な特性に合わせた、きめ細かな治療や副作用管理を目標としています。抗がん薬物療法は医師個人の手技ではなく、多職種間のチーム医療によって実を結ぶ治療であります。

当院には抗がん剤および関連薬剤に精通した優秀ながん専門薬剤師が3名在籍しており、緩和的治療に関してもがん性疼痛看護認定看護師が1名在籍しています。これらの専門職と緊密な協議のもとで治療を行っています。

2. メンバー構成

部長

洪　　鉉寿　資格／日本臨床腫瘍学会専門医（がん薬物療法専門医）、
日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医、日本血液学会専門医
専門分野／各種固形癌（肺癌、胃癌、大腸癌、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など）

部長（内科部長兼任）

瓜生　恭章　資格／日本臨床腫瘍学会専門医（がん薬物療法専門医）、
日本内科学会総合内科専門医
専門分野／各種固形癌（乳癌、膵臓癌、胆道系癌、肺癌など）

副部長（薬剤部兼任、臨床腫瘍センター専任副部長）

松浦　暢子　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学

主任（薬剤部兼任）

小西　千尋　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学

主任（薬剤部兼任）

南野　智志　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

3. 実績

《外来診療患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
250	227	252	259	236	258	268	271	241	260	240	229	2,991

4. 今後の目標

診療の面では、効率的かつ安全性を高めた抗がん治療、副作用管理を行うために、各種パスの整備、患者様向けの教育プログラムの開発、各種資料の作成、整備を行っていきます。

また、できる限り診断から治療に入るまでの期間を最小限にし、患者様の不安感をなくすと同時に均一な診断、治療の品質管理を行うように致します。そのためには他科の御協力を頂きながら、海外では一般化されている疾患別多学制協同診療システムを稼働させていきたいと思っております。

学術面では、日常診療に追われて限られた時間しか確保できないのが現状ではありますが、他院との共同データベースの構築、薬剤部や認定看護師と共に臨床研究を推進し、将来的にはさらに魅力のある診療科に育てて行きたいと思っております。

6）血管透析科

透析センター長　申　勝

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

1. 概要

2017 年は､常勤医師 2 名･非常勤医師 4 名 の診療体制となっています。また､看護師(11 名)、薬剤師（兼任 3 名)、臨床工学技士（兼任 3 名)、管理栄養士（担当 2 名)、医事課の透析スタッフが、入院と通院を合わせて約 110 名の透析患者様の対応をさせて頂いています。

総入院患者数は年間 600 人前後と安定の方向にあり､昨年のべ 590 例の内訳は 男:女＝ 2.5:1, 平均年齢 ; 71.0 歳 , 糖尿病有病率 ; 51.9 % , 年間救急搬送率 ; 32.7%（202 件）でした。特に 75 歳以上の高齢者は、総入院患者数の 43.9%を占め、救急搬送率 ; 35.5%と高値を示しました。

今田 聰雄 先生（近畿大堺病院 元教授）の下で 2012 年 4 月より当院においても CAPD 外来が開設され、2017 年 12 月末までに 46 名の方が腹膜透析を開始されました。12 月末時点で他施設の通院患者を除く 10 名が、当院を通院し腹膜透析を継続されています。2017 年 10 月末に今田先生が退職され、後任の腎臓内科医師として 森 ちさこ 先生が着任されました。また、糖尿病内科医師として 植田 秀樹 先生が新たに着任されています。

2. メンバー構成

透析センター診療担当医師

循環器診療担当：福田　貢（循環器内科）　　透析室支援担当：三浦秀信（泌尿器科非常勤）

糖尿病診療担当：植田秀樹（糖尿病内科）　　病棟管理主担当：小原太郎（総合・腎不全内科）

血液透析主担当：申　　勝（血管透析内科）　　地域診療主担当：不在（2017 年 12 月 31 時点）

腹膜透析主担当：森ちさこ（腎臓・免疫内科）

3. 実績

《透析センター月別患者数》

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
透析患者数(月平均)	98.6	99.3	98.8	109.7	103.1	98.8	98.3	91.5	93.3	92.5	97.3	87.5	1,168.7	97.4
新入院数	67	48	51	64	49	42	45	42	48	41	50	43	590	49.2
新規導入数	9	4	5	5	11	2	1	2	1	3	5	2	50	4.2
CAPD開始数	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	4	0.3
シャント手術数	11	5	4	4	4	9	2	2	6	2	2	5	56	4.7
PDカテ留置数	0	2	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	4	0.3
死亡者数	5	6	1	4	5	5	2	6	4	0	4	2	44	3.7

注 1：透析患者数には、当院への通院患者を含みます。 新規導入数には、PD 患者も含みます。
注 2：新入院数は透析ｾﾝﾀｰに紹介された患者の総数であり、腎不全患者なども含みます。
注 3：死亡者数は、腎代替療法を行い透析患者登録されたことのある患者の総死亡数です。

《診療科別入院透析患者数（のべ人数)》

内科系	総合	呼吸器	循環器	消化器	肝臓	腎臓(CAPD)	膠原病ﾘｳﾏﾁ	糖尿病代謝	血管(その他)	合計
科別人数	76	13	179	17	3	116	0	1	0	405

外科系	脳神経	呼吸器	心臓血管	消化器	肝臓	泌尿器	整形(ﾘｳﾏﾁ)	眼科・歯口	形成(末梢)	合計
科別人数	25	4	19	22	3	8	45	8	51	185

注 4：複数科にまたがる場合は、入院時の主診療科にて登録しました。

《年齢別分類表》

	20 歳～ 65 歳未満の入院患者様（～24歳の入院なし）161 名（27.3%）	65 歳～ 75 歳未満の入院患者様（前期高齢者）170 名（28.8%）	75 歳以上の入院患者様（後期高齢者）259 名（43.9%）	透析センターに紹介された全ての入院患者様を対象（外来 or 紹介）590 名（100.0%）
男女比（男：女）	3.5：1	3.7：1	1.7：1	2.5：1
平均年齢	54.2歳	69.8歳	82.2歳	71.0歳
救急搬送率	28.0%	32.9%	35.5%	32.7%
糖尿病の有病率	59.6%	55.9%	44.4%	51.9%
ICU の入室率	11.2%	15.3%	16.6%	14.8%
緊急透析の有無	4.4%	5.3%	2.7%	3.9%
入院中 手術あり	35.4%	34.1%	21.2%	28.8%
入院中 カテあり	31.7%	34.1%	21.2%	27.8%
死亡率入院時から一週間（168 時間）	0.0%	2.4%	5.8%	3.2%

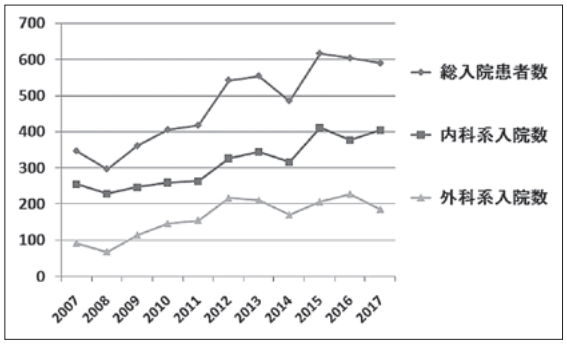
《年度別分類表》

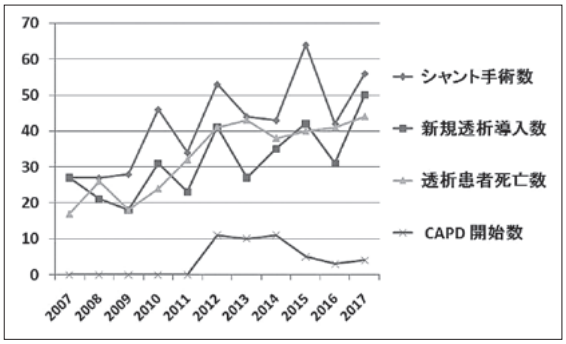
	2012 年の入院患者様 543 名（100%）	2013 年の入院患者様 555 名（100%）	2014 年の入院患者様 486 名（100%）	2015 年の入院患者様 617 名（100%）	2016 年の入院患者様 604 名（100%）	2017 年の入院患者様 590 名（100%）
男女比（男：女）	1.9:1	2.3:1	2.5:1	2.0:1	2.3:1	2.5:1
平均年齢	68.9歳	70.2歳	69.7歳	69.5歳	70.6歳	71.0歳
救急搬送率	23.8%	27.0%	24.7%	30.8%	32.0%	32.7%
糖尿病の有病率	52.4%	51.4%	52.9%	53.6%	56.9%	51.9%
ICU の入室率	13.4%	12.6%	10.9%	15.4%	14.7%	14.8%
緊急透析の有無	4.0%	3.6%	1.6%	4.5%	3.8%	3.9%
入院中 手術あり	32.8%	33.9%	31.1%	32.4%	31.6%	28.8%
入院中 カテあり	31.9%	33.0%	35.4%	34.0%	28.4%	27.8%
死亡率入院時から一週間（168 時間）	2.9%	5.4%	3.7%	2.9%	1.6%	3.2%
CHDF の年間全件数	25件	31件	22件	43件	50件	30件
エンドトキシン吸着療法	11件	9件	4件	9件	13件	7件
血漿交換（PE）	5件	5件	2件	3件	2件	1件
ビリルビン吸着療法	1件	2件	1件	1件	0件	2件
LDL アフェレーシス	5件	2件	4件	6件	7件	1件
血球吸着療法	2件	0件	0件	1件	3件	0件

《病院全体での比較》

	病院全体での年間入院患者様（医事課の集計より）10,504名（100%）	病院全体の年間救急搬送後入院（病院全体の28.6%）3,004名（100%）	透析センター関連の年間入院患者様（病院全体の5.6%）590名（100%）	透析センター関連の年間救急搬送後入院（病院全体の1.9%）202名（100%）
男女比（男：女）	1.33：1	1.15：1	2.51：1	1.66：1
平均年齢（歳）	68.9歳	75.1歳	71.0歳	73.1歳
内科系入院数	5,188名（49.4%）	1,864名（62.1%）	405名（68.6%）	154名（76.2%）
外科系入院数	5,316名（50.6%）	1,140名（37.9%）	185名（31.4%）	48名（23.8%）

【病院救急搬送数】年間 6,067 件（月平均 506 件）





4. 今後の目標

近隣の先生方の御指導のもと、他施設および他診療科と協力して、より高度な集学的治療および看護を提供できるように更に整備して参ります。また、地域の腎不全患者の新規透析導入・入院加療施設としての役割を担えるよう、スタッフ一同協力し引き続き努力していく所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

7）小児科

小児科部長　石垣　早知子

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

1. 概要

今年も常勤医１人体制で継続診療中です。一般小児疾患および予防接種ほか、アレルギー疾患から心身症などの多岐にわたる患者様の診療を続け、入院患者様も受け入れています。

2. メンバー構成

外来は従来通り石垣は月曜から土曜まで外来を行うのと大阪医科大学より診療の援助を頂いています。月曜は松村先生（一般小児と小児腎外来と午後予防接種も担当)、木曜は新田先生、金曜は清水先生(毎週午前一般小児と小児循環器を主に第1､3 金曜午後)､土曜は小武内先生(女性医師）が担当しています。神原先生は火曜・水曜の午後、木曜の夕診に主に心身症と発達心理等の予約診療を行い、東先生は月１回木曜の心身症の予約診療をしています。予防接種は月曜日午後と木曜夕診に行っています。小児神経（月２－３回土曜）を七里先生、さらに適時石垣がアレルギ - 外来と金曜午後に乳児健診を行っています。

3. 実績

小児関連では他科との交流も盛んで、特に虫垂炎疑いなどの小児外科疾患については互いに連携しています。成人アレルギー疾患についても舌下免疫療法を中心として診療を行っています。

成人と混合ですが入院の受け入れも行っており、肺炎など一般疾患が中心ですが、時には心身症などの疾患も入院して加療を行っています。昨年から引き続き医療だけでなく各種ケアも行っています。小児の言語発達遅滞など発達障害に対して言語聴覚士（ST）６名が評価および訓練を行っており、また小児心療内科として、臨床心理士２名（八島先生、朴先生）がカウンセリングや心理治療を行っています。

小児科外来横には八尾市の委託事業でもあるモコモコ病児保育室があり、保育士とともに外来看護師が、看病できない保護者にかわって子どもたち（病児）のケアを行っています。院内の看護師、医師、コメディカルの就業支援にも役立っていますが、広く開放し育児支援の役割も担っています｡参加している全国病児保育協議会は広く病児のために啓蒙活動をしています。

ほかに石垣はリハビリテーション専門学校に小児科関連の講義に求めに応じて出張したりなど地域の小児科関連での活動援助を行っています｡他に院内外の講習会で講演を行っています。

大阪健康安全基盤研究所（旧大阪公衆衛生研究所）と府、国の感染対策の連携も取り感染症の定点報告機関としての役割を果たしています。中河内地区として、東大阪市や柏原市とも連携しています。環境感染学会など感染症関連学会にも所属し、ICD としても感染対策室とで新型インフルエンザ訓練などの院内外の感染対策に寄与しています。徳洲会病院としても小児科部会として全国で交流し症例報告や外部からの講演会も行われています。

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
87	79	128	59	65	98	71	82	77	78	86	95	1,005

4. 今後の目標

今後も小児の心身の健康と成長に必要な小児診療を発展させたいと考えています。

8）放射線科（診療部）

放射線科医長　兵藤　公一

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

1. 概要

放射線科では、CT・MRI・RI、消化管造影、マンモグラフィと一部の単純 X 線写真の読影、一部の消化管造影の施行、腹部四肢の血管造影と IVR、放射線治療を主として担当しています。各診療科や、近隣の病院・診療所と連携して、各種画像診断・IVR や、放射線治療を迅速かつ適切・正確に実施することに努めています。

スタッフの教育は、専門医会主催のミッドウィンターセミナー、ミッドサマーセミナーや、各種学会・研究会に積極的に参加し、最新の知識・技術を習得するように努めています。

2. メンバー構成

画像診断・IVR 部門：常勤医 3 名（岩崎　聖、兵藤公一、日高輝之）、非常勤医 10 名。
放射線治療部門：常勤医 1 名（梶谷千香枝）、非常勤医 2 名。
上記のうち、診断専門医 10 名、IVR 専門医 2 名、治療専門医 3 名、検診マンモグラフィー読影認定医 4 名（従事 2 名）

3. 実績

読影件数：39,832 件　（消化管造影を除く、CR,MG を含む）
血管造影件数：491 件（そのうち IVR：366 件）
放射線治療：137 件
他施設からの紹介件数：3,268 件

4. 今後の目標

画像診断・IVR 部門では、常勤医のみならず、非常勤医や遠隔画像診断の協力体制もさらに強化しつつ、迅速な検査実施と、正確な読影に努めていく所存です。昨年は MR 装置の 1 台が更新されました。現在は血管造影装置を CBCT 装置へと更新する準備を進めています。CBCT 装置の導入により従来より安全かつ高度な IVR が実施可能になると期待しています。今後は、マンモグラフィー・CT・MR 装置等の更新を進め、さらに診断精度の向上を図りたいと思っています。

放射線治療部門では、2014 年 1 月から常勤の放射線治療専門医 1 名体制で行っていますが、引き続き大学からの応援と遠隔システムを利用し、安全で有効な放射線治療を各診療科と協力して遂行していきます。放射線技師や看護師などスタッフのさらなる充実と研修を行い、より高度な放射線治療も実施できるよう、体制を整えていきたいと考えています。

日本医学放射線学会専門医修練機関、IVR 学会専門医修練施設に認定されており、研修医の教育にも力を入れていきたいと考えています。

9）神経内科

神経内科医長　辰己　新水

1. 概要

神経内科疾患を全般にわたって扱っております（中枢・末梢神経系、筋疾患）。

当院や他院から多くのご紹介をいただき、大変有難うございます。

2. メンバー構成

常　勤：　辰己新水　日本神経学会神経内科専門医、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医

非常勤：　武田景敏

三野俊和

渡辺徹也

3. 実績

主要な疾患は、下記の通りです。（辰己医師、2017 年 1 月～ 12 月の期間。他科との併診を含む）

疾患カテゴリー	症例数	疾患カテゴリー	症例数
神経変性疾患	55	不随意運動	24
感染性神経疾患	11	髄液還流異常	2
炎症性神経疾患	10	筋疾患	6
代謝・中毒性神経障害	15	神経筋接合部疾患	3
てんかん・けいれん	26	末梢神経障害（脳神経障害を含む）	47

4. 今後の目標

院内、開業医、他院の先生方から、多くのご紹介いただき感謝しております。今後とも、コンサルトに丁寧に対応すべく、継続して努力していきたいと思っております。

10）内分泌内科

内分泌内科　顧問　山本智英

1. 概要

内分泌が取り扱う疾患の多くは、内分泌器官に発生した癌を除き罹患内分泌臓器に直接関係する症状に乏しい。例えば副腎不全例で、副腎が腫れている、副腎が痛むなどの訴えは皆無であり、その臓器が分泌するホルモンによる他の臓器系に対する影響により診断されることが多く、診断に至る key word を掴むことが難しい。一昨年、昨年に引き続き、新患として診断、治療を開始した例の多くは甲状腺、副腎疾患であり、その他は少数の下垂体疾患、性腺異常、代謝異常症であった。

循環器、消化器、呼吸器、腎臓、神経、血液、膠原病などに分類されない疾患（領域未分化疾患）の取り扱いは伝統的に内科の得意とする領域である。今年度は領域未分化疾患の診療依頼はなかった。

2. メンバー構成

山本　智英　日本内分泌学会内分泌代謝専門医・指導医

3. 実績

a) 新患

疾患	人数
バセドウ病	21名
結節性甲状腺腫	16名
橋本病(euthyroid)	10名
橋本病(hypothyroid)	12名
単純性甲状腺腫､腺腫性甲状腺腫	9名
Plummer病	2名
甲状腺腫大疑い→否定	7名
潜在性副腎不全	10名
副甲状腺機能亢進症	2名

その他、副腎偶発腫瘍、肥満、Marfan 症候群、（複合）高脂血症、（25 ハイドロオキシビタミン D3 測定による）ビタミン D3 欠乏症は各 2 例、無痛性甲状腺炎、IgG4 関連下垂体茎炎、汎下垂体前は不全症、尿崩症、（プロラ　クチン高値を伴う）女性化乳房は各 1 例。

b)　紹介元、院外（紹介状あり）54 例、院外（ドック、学校検診の所見持参）21 例、院内 28 件

c)　内分泌負荷試験

迅速コートロシン試験 33 件、インスリン低血糖試験 3 件、CRH 試験 3 件、Overnight デキサメサゾン抑制試験 3 件、尿濃縮能試験 1 件

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管 大動脈セ　57
形成外科 美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科 歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病 代謝内科　81

4. 今年の目標

昨年は中河内地区の先生方より多くの診断、治療に難渋する症例の紹介をいただいた。有難うございました。今後も引き続き地域医療のお役に立ちたい。

日本甲状腺学会のバセドウ病の診断と治療のガイドラインでは治療中止時期について明確な記載がなく、医療の現場では混乱が見られる、例えば既に治癒している例や抗甲状腺剤による治療では寛解の見込みが殆どない例にダラダラと抗甲状腺剤の投与が継続されているなど。第二世代 TSH 受容体抗体の時系列を治療継続指針の決定に利用することについて臨床研究論文を作成中である。

11）膠原病リウマチ内科

膠原病リウマチ内科　吉崎　和幸

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

1. 概要

2008 年 5 月に発足した診療科で、10 年が経過しました。内科疾患の中で、特に関節リウマチと全身性エリテマトーデスの様な膠原病・リウマチ疾患を中心に診療しています。その他、血管炎症症候群やベーチェット病、免疫不全症、キャッスルマン病、更に不明熱も診療しています。

2. メンバー構成

本診療科は医師のみならず、薬剤師や看護師、CRC、理学療法士、そして医事課職員のチーム連携によって緻密な治療を包括的に行っています。患者様に「安心して生命をまかせられる医療」を提供しています。このため患者様は担当医に対し、信頼して医療を受けて下さっています。

診療担当医と外来診療日

吉崎和幸（非常勤）：水曜日（午前 10：00 － 12：00）

清水　隆（非常勤）：金曜日（午前 9：00 － 12：00）

3. 実績

年月を経るごとに患者数が増加し、周辺医療機関にもその存在が定着しています（表 1）。膠原病リウマチ内科は、生物学的製剤治療を含めた先端医療を行っております。その結果、より高度で有効な治療を推進し、著しい治療効果が認められています。患者様の満足度は高く、安全性にも十分配慮しているので、患者様のほぼ全員が治療を継続しています。現時点で、生物学的製剤治療を行っている患者数や治療内容を（表 2）に示しています。安全性の裏付けとして、当院における救急体制の充実が大きく貢献しています。また、（図 1）に 2014 年 10 月に行いました、当診療科受診の患者様にアンケートした結果をまとめています。

現在、膠原病・リウマチ診療においては、東大阪、八尾、柏原地域の中心的診療病院として活動しております。このため、大阪市内の病院に通院していた患者様が当院受診するようになっております。

4. 今後の目標

「免疫介入治療センター（仮称）」は、原田病院長の援助のもと八尾徳洲会総合病院をはじめ、宇治および神戸、吹田徳洲会病院にも分室を設立し、徳洲会病院組織の共通治療センターとして展開しようと努力しています。八尾・宇治・神戸・吹田徳洲会病院合同の勉強会を開き、共通医療が出来る体制を構築しつつあります。

《表１　外来診療患者数》

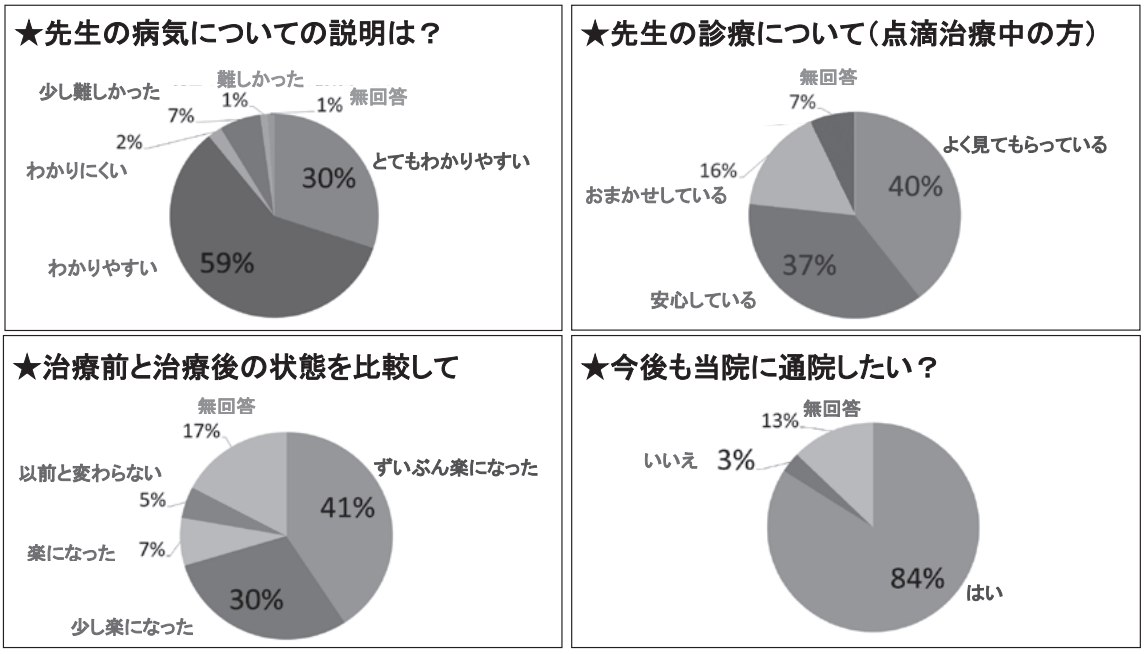
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2009年	58	54	63	68	75	84	105	77	100	91	103	91	969	80.8
2010年	133	124	137	163	120	153	188	151	182	164	171	156	1,842	153.5
2011年	176	161	209	170	173	194	182	186	194	171	183	179	2,178	181.5
2012年	194	194	182	196	198	181	203	213	161	193	195	169	2,279	189.9
2013年	213	228	250	248	263	256	291	216	266	252	271	252	3,006	250.5
2014年	192	167	200	186	204	175	191	209	173	240	186	210	2,333	194.4
2015年	204	200	186	196	202	208	238	204	237	214	203	175	2,467	205.6
2016年	210	212	240	227	221	223	230	206	217	192	206	235	2,619	218.3
2017年	203	208	223	229	222	221	210	226	260	240	243	275	2,760	230.0

《表２　生物学的製剤治療患者数》

生物学的製剤	疾患名	治療患者数								
		2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
アクテムラ	関節リウマチ	5	13	17	24	29	34	39	43	41
	キャッスルマン病	2	4	3	3	4	4	5	4	6
	多発性筋炎	0	0	1	0	0	0	0	0	0
エンブレル	関節リウマチ	1	2	3	1	9	5	5	7	0
レミケード	関節リウマチ	0	2	3	3	9	9	8	10	9
	強直性脊椎炎	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	クローン病	0	2	2	7	8	9	11	13	0
	ベーチェット病	1	1	2	1	0	0	0	0	0
オレンシア	関節リウマチ			0	0	0	0	0	0	2
ヒューミラ	関節リウマチ			0	0	3	3	0	0	0
	ベーチェット病			0	0	0	0	1	1	1
	潰瘍性大腸炎			0	0	0	0	4	3	0
合　計		9	24	31	39	62	64	73	82	60

《図１：膠原病リウマチ内科受診患者様の診療に対する意識》

＊徳洲会病院の膠原病リウマチ内科外来受診患者を対象としたアンケート調査（中間報告）より（2014.10.9）



12）外　科

外科部長　村上　修

1. 概要

地域中核病院として2017年も例年にもまして多数の外科治療にたずさわってきました。患者様に優しい医療の実践と質の高い外科治療を提供しながら新しい術式にも積極的に取り組んで行きたいと思います。

また､来年度より始まる新専門医制度においても基幹施設としての認定を受けることができ、肝臓外科・小児外科・呼吸器外科・心臓血管外科と協力しながら教育にも力を入れていきたいと思います。

2. メンバー構成

村上　修　（部長）／日本外科学会専門医
遠藤　幸丈（医長）／日本外科学会専門医
豊田　亮　（医長）／日本外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医
垣本　佳士（医長）／日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医
日本がん治療認定医療機構認定医
町田　智彦／日本外科学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医
日本乳がん学会認定医、日本がん治療学会認定医
日本消化器外科学会消化器がん治療学会認定医
日本消化管学会認定医・専門医・指導医、日本肝臓学会専門医
大田　修平／日本外科学会専門医、ACLC・BLSプロバイダー
Diploma in Tropical Medicine
服部　彬　（後期研修医）

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管 大動脈セ　57
形成外科 美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科 歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病 代謝内科　81

3. 実績

《外科手術件数》（手術室で行い肝臓外科との共同手術を含む）

	2017年
食道	2
胃切除・胃全摘（腹腔鏡下）	18
胃切除・胃全摘（開腹）	9
腹腔鏡下胆摘（四孔式）	185
腹腔鏡下胆摘（単孔式）	3
膵頭十二指腸切除	16
膵体尾部切除	6
肝切除	32
虫垂切除（腹腔鏡下）	90
虫垂切除（開腹）	8
結腸切除（腹腔鏡下）	45
結腸切除（開腹）	14
直腸切除・切断（腹腔鏡下）	46
直腸切除・切断（開腹）	3
ソケイ部ヘルニア修復（腹腔鏡）	150
ソケイ部ヘルニア修復（鼠径部切開）	38
肛門疾患（内痔核硬化療法等）	29
乳房腫瘤，乳癌	12
その他	378
呼吸器外科	103
手術件数	1,187

4. 今後の目標

患者様の利益のため QOL 向上のために正しい手術、周術期管理を丁寧に行うこと、救急疾患はじめ癌の包括的な治療まで地域医療の充実のために外科医としての責務を果たし、個々に成長することを目標とする。

学会活動についても積極的におこなって行きたい。

13）整形外科

整形外科部長　當麻　俊彦

1. 概要

スタッフ 4 名で日々の整形外科診療にあたっております。外来は午前診が毎日、夕診は週 2 日（火・木）の 2 診体制で行っております。整形外科当直を行い、救急診療科と連携して 365 日 24 時間体制で整形外科救急疾患の受け入れを、また、麻酔科の協力を得て緊急手術の受け入れ態勢を整えております。入院されました患者様は 64 床の整形外科病棟（6 階西、6 階東）で治療にあたっております。

スタッフ人員減にともないパワーダウンは否めませんが、手術件数は 2017 年は年間 826 件でした。骨折・外傷疾患の手術が多く、中でも高齢者の骨折手術が多くみられ、合併症を持つ患者様もできるだけ受傷前の状態に回復できるように院内他科、および近隣の回復期リハビリ病院様の協力も得て手術治療を行っております。また、人工関節手術は年間 46 例（股関節 18 例、膝関節 28 例）、脊椎外科手術は 94 例の手術をこなし、安定した成績をあげております。肩関節鏡視下手術も開始しており、着々と手術件数を伸ばしつつあります。

また、患者様のニーズに応えるべく専門外来も開設しております。長谷川が骨粗鬆症外来（毎週木曜日 10:00 ～ 12:00）を、當麻は脊椎外来（毎週木曜日 10:00 ～ 12:00、予約制）を担当、また非常勤ですが森口・仁丹が肩関節外科を中心に診療にあたっております。

2. メンバー構成

顧問	長谷川潔	専門：人工関節外科、骨粗鬆症
診療部長	當麻俊彦	専門：脊椎外科、災害医療
医員	樋口貴之	専門：整形外科一般、手外科
後期研修医	松尾裕次郎	専門：整形外科一般、手外科
非常勤	森口和哉（兵庫医大）	専門：肩関節外科
	仁丹克則（名古屋徳洲会総合病院）	専門：肩関節外科

3. 実績

別紙　年間手術件数

内　科 28
循環器内 34
消化器内 35
呼吸器内 37
腫瘍内科 38
血管透析 40
小児科 42
放射診科 44
神経内科 45
内分泌内 46
膠原リウ 48
外　科 50
整形外科 52
脳神経外 56
心臓血管大動脈セ 57
形成外科美容外科 59
泌尿器科 61
眼　科 63
歯　科歯科口腔 65
麻酔科 68
肝臓セン 69
呼吸器外 72
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78
病理診断 79
糖尿病代謝内科 81

3. 実績

《手術件数》

分野	各手術	コメント	件数
脊椎 1	頚椎後方	形成術、除圧術、ヘルニア摘出術	13
		固定	1
	頚椎前方	除圧	0
		固定	9
	胸腰椎後方	形成術、除圧術、ヘルニア摘出術	39
		固定（椎体間固定、後側方固定）	20
	胸腰椎前方	除圧	0
		固定	0
	胸腰椎（前方+後方）	前方+後方同時手術	0
	脊椎腫瘍手術		4
	脊椎外傷手術		4
	抜鋼術		1
	その他の手術	BKP、感染など	2
骨盤 2	骨盤骨折観血的整復固定術		1
	抜鋼術		0
	その他の手術		0
股関節、大腿骨 3	大腿骨頸部骨折　観血的整復固定術	内側骨折・転子間骨折など	123
	大腿骨頸部骨折　人工骨頭置換術	人工骨頭	58
	大腿骨骨幹部骨折観血的整復固定術		8
	人工股関節置換術（初回 THA）	初回例です	17
	人工関節・骨接合材料の抜去病巣郭清術	病巣郭清	1
	人工股関節置換術（再置換術）	再置換例です	1
	臼蓋形成術（Shelf, Chiari, RAO など）		0
	小児股関節脱臼手術		0
	抜鋼術		2
	その他の手術		16
膝関節、下腿骨 4	膝関節周辺骨折（膝蓋骨も含む）	膝蓋骨骨折	19
	下腿骨骨折観血的手術		6
	人工膝関節置換術（初回 TKA）	初回例です	25
	人工膝関節置換術（再置換術）	再置換例です	3
	人工関節・骨接合材料の抜去病巣郭清術	病巣郭清	0
	関節鏡（簡単なもの）	検査を主体とするもの	7
	関節鏡（複雑なもの）	半月板・滑膜切除など	0
	靭帯再建術（鏡下も含む）	陳旧例に対する再建術	1
	高位脛骨骨切り術		0
	抜鋼術		13
	その他の手術		19

分野	各手術	コメント	件数
足関節、足部 5	足関節周辺骨折観血的整復固定術	踵骨骨折も含む	36
	足趾骨折観血的整復固定術		0
	人工足関節置換術		0
	足関節固定術		0
	足関節滑膜切除術		0
	アキレス腱縫合術		3
	足関節周辺靱帯縫合、再建術		0
	外反母趾手術		0
	足趾関節形成術	（外反母趾を除く）	0
	先天奇形手術		0
	内反足手術		0
	抜鋼術		18
	その他の手術		2
鎖骨、肩関節 6	鎖骨・肩鎖関節周辺外傷に関する手術	骨折と靱帯損傷の修復手術	21
上腕	上腕骨頚部骨折観血的整復固定術	骨接合術	20
	上腕骨骨折観血的整復固定術	頚部骨折以外の症例	4
	人工肩関節置換術		2
	肩板断裂手術		8
	反復性脱臼手術		0
	抜鋼術		17
	その他の手術		7
肘関節、前腕 7	肘関節周辺骨折観血的整復固定術	Montegia 骨折を含む	33
	前腕骨骨折観血的整復固定術		4
	肘関節滑膜切除術、関節形成術		2
	人工肘関節置換術		1
	抜鋼術		18
	その他の手術		4
手関節、手 8	手関節周辺の観血的整復固定術	コーレス骨折，手根骨骨折を含む	54
	手指の骨折・靱帯損傷手術	骨折・靱帯手術	25
	手関節滑膜切除術、関節受動・形成術	手根骨部分固定も含む	0
	指関節滑膜切除術、関節受動・形成術		0
	腱鞘切開術	バネ指，デケルバンなど	40
	腱縫合術・移植・移行・腱剥離術	腱の手術	7
	重度外傷手術	再接着含む	0
	抜鋼術		27
	その他の手術		4
神経の手術 9	尺骨神経剥離術（前方移行、King 等）		3
	手根管解放術（正中神経剥離術）		35
	梨状筋症候群手術		0
	その他　剥離、縫合、移植（上肢）		0
	その他　剥離、縫合、移植（下肢）		0

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

分野	各手術	コメント	件数
腫瘍の手術 10	骨腫瘍　良性　　四肢		0
	骨腫瘍　悪性　　四肢		0
	骨腫瘍　良性　　脊椎・骨盤・躯幹		0
	骨腫瘍　悪性　　脊椎・骨盤・躯幹		0
	骨腫瘍生検術		0
	軟部腫瘍　良性　　四肢		17
	軟部腫瘍　悪性　　四肢		0
	軟部腫瘍　良性　　脊髄		0
	軟部腫瘍　悪性　　脊髄		0
	軟部腫瘍生検術		0
筋性斜頸 11	腱切り術		0
植皮，移植 12	複合組織移植，遊離皮弁		0
	有茎皮弁		0
	遊離植皮		0
四肢切断術 13	上肢	手指を除く	0
	手指		0
	下肢	足趾を除く	0
	足趾		0
	その他の部位		0
その他の手術 14	上記に分類されない手術		0
total 手術件数数			825

4. 今後の目標

地域の基幹病院として外傷のほかに変性疾患等への対応に力を入れるだけでなく、研修会開催等にて近隣整形外科病院・クリニックの先生方との交流を深める機会を設けて病診連携機能の強化を図ります。また今後も継続して公開医療講座、健康祭等にて整形外科疾患の治療・予防に関する情報を地域の方々に発信していきます。

14）脳神経外科

脳神経外科　主任部長　鶴野　卓史

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

1. 概要

2009 年から現在のチーム体制での診療を開始し、9 年が経過しました。入院患者数・手術数の増加、手術内容の発展とともに、地域での信頼が得られるよう、2017 年も堅実な治療を継続してきました。鶴野副院長、一ノ瀬部長、吉村医長、大西医師、宇田医師の 5 人のチームワークで毎日の忙しい外来・入院治療を行っています。

一般脳神経外科治療はもちろんのこと、鶴野副院長の life work である脳動脈瘤手術や頚動脈内膜剥離術の充実は当科の特徴です。また、一ノ瀬部長・吉村医長は内視鏡手術や脊椎脊髄手術を subspeciality として研鑽を積んでいます。

手術以外にも、脳梗塞に対する tPA を用いた血栓溶解療法およびカテーテルを用いた血栓回収療法などの超急性期治療にも力を入れております。また、リハビリスタッフとのカンファレンスを通じて急性期リハビリによる早期社会復帰に取り組んでおります。

血管障害以外にも高難度な頭蓋底腫瘍手術などは、大阪市立大学脳神経外科からの応援医師とも共同し、ナビゲーション機器などを駆使しながら行っています。最先端の血管内治療についても大阪市立大学脳神経外科と共同で対応できるよう体制を整えています。

学術活動においては国際学会、日本脳神経外科学会総会、地方会、脳卒中学会、手術と機器学会などで多数の学会発表を行い、論文投稿も積極的に行っております。

2. メンバー構成

主任部長：鶴野　卓史（副院長）　日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医
部　　長：一ノ瀬　努　日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、
　　日本神経内視鏡学会認定医
医　　長：吉村　政樹　日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、
　　日本神経内視鏡学会認定医、日本脊髄外科学会認定医
医　　員：宇田　裕史　後期研修医

3. 実績

《手術件数》

術　式	件数	術　式	件数
動脈瘤手術（クリッピング・コーティング）	27	頸椎前方除圧固定	5
開頭血腫除去（脳内）	20	頸椎椎弓拡大形成・後方固定	4
開頭血腫除去（硬膜下）	8	頚椎・胸椎硬膜外血腫除去	3
動脈血栓内膜剥離術	11	腰椎除圧術	2
脳血管バイパス手術	3	慢性硬膜下血腫穿頭ドレナージ	53
開頭腫瘍摘出	13	動脈瘤コイル塞栓術	6
経蝶形骨洞到達法腫瘍摘出	2	脳主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法	10
水頭症手術（VP シャント・LP シャント）	31	血管内治療（その他）	4
水頭症手術（内視鏡手術）	1	その他	18
脳室ドレナージ	1	合計	222

4. 今後の目標

今後も地域の基幹施設として臨床・教育に励み、よりよい治療を提供していけるよう努力して行きます。

15）心臓血管外科・大動脈センター

心臓血管外科部長　入江　寛
大動脈センター長　中尾　佳永

1. 概要

2014 年より新体制で診療を始め、5 年が経過しました。昨年度の手術概要は通常弁膜症および冠動脈外科も含め、大動脈疾患の症例数も比較的維持できた年度であった。ステントグラフト手術件数はなんとか増加に転じることができた。

2. メンバー構成

入江　寛（心臓血管外科部長：1989 年卒）
中尾　佳永（大動脈センター長：1993 年卒）
酒井　敬（顧問：1973 年卒）

3. 実績

1）定期手術日

月曜日・水曜日・金曜日
毎月第 3 第 5 金曜日は局所麻酔手術（静脈瘤等）

2）外来診療（火曜日・木曜日・土曜日）

	火曜	木曜	第 2・4 土曜
心臓血管外科Ⅰ診	入江 9:00 ～ 14:00	入江 12:00 ～ 16:00	酒井 9:00 ～ 12:00
心臓血管外科Ⅱ診	中尾 9:00 ～ 12:00	中尾 9:00 ～ 12:00	

3）手術実績

《手術統計》（全体）

	症例数			
	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
1. Cardiovascular Surgery				
1. Congenital	0	0	0	0
2. Valvular	16	17	20	10
3. Coronary artery disease	18	18	18	19
4. Vascular（胸腹部以上）	13	16	18	14
5. Vascular（腹部骨盤）※ 1	29	34	27	38
6. Vascular（末梢血管）	14	15	13	17
7. Cardiomyopathy, Myocarditis	0	0	0	0
8. Arrhythmia	0	0	0	1
9. Others	93	72	55	44
Total	183	172	151	143

2. Major Cardiovascular Surgery ※ 2				
1. Congenital	0	0	0	0
2. Valvular	16	17	20	10
3. Coronary artery disease	18	18	18	19
4. Vascular	56	50	45	52
5. Cardiomyopathy, Myocarditis	0	0	0	0
6. Arrhythmia	0	0	0	1
7. Others	0	0	0	0
Total	90	85	82	82

※ 1 腎動脈下から腸骨動脈まで

※ 2 Major Cardiovascular Surgery とは人工心肺使用症例 + OPCAGB（心拍動下冠動脈バイパス手術）および胸腹部以上のステントグラフト治療

4. 今後の目標

今年も地域連携により、近隣病院からの緊急手術受け入れ体制を整え、先端医療技術の導入を目標とし、予定手術数の維持に努める。

内　科 28
循環器内 34
消化器内 35
呼吸器内 37
腫瘍内科 38
血管透析 40
小児科 42
放射診科 44
神経内科 45
内分泌内 46
膠原リウ 48
外　科 50
整形外科 52
脳神経外 56
心臓血管大動脈セ 57
形成外科美容外科 59
泌尿器科 61
眼　科 63
歯　科歯科口腔 65
麻酔科 68
肝臓セン 69
呼吸器外 72
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78
病理診断 79
糖尿病代謝内科 81

16）形成外科・美容外科

形成外科・美容外科部長　綾部　忍

1. 概要

当院形成外科は、昨年と同様に常勤３名で診療しています。2008 年より、日本形成外科学会認定施設のため、当院で形成外科学会専門医取得ができるようになっています。

形成外科では、①皮膚や皮下の腫瘍の治療（皮膚癌を含む）、②顔のケガ・骨折の治療、③床ずれや治りにくい傷の治療、④手指のケガ・腫瘍などの治療、⑤手術後の変形の治療、⑥やけどの治療、⑦傷あとをきれいにする治療、⑧腋臭の治療、⑨眼瞼下垂の治療⑩先天異常の治療などが挙げられます。眼窩底骨折や頬骨骨折の治療では「経結膜切開法」で皮膚に傷を残さない工夫をしています。眼瞼下垂の治療では美容的にも満足されるよう慎重にデザインしています。

2009 年より関連他科の協力の下、「創傷ケアセンター」を開設しました。特に閉塞性動脈硬化症に伴う下肢創傷の治療に力を入れています。潰瘍・壊疽などの創傷治療だけでなく、distal bypass 術（自家静脈を使用した足首付近までのバイパス術）を含めた血行再建も形成外科で積極的に行っています。血管内治療（カテーテル治療）は循環器内科で行っており、最近では足首より末梢まで血管を拡張できるようになりました。術後の潰瘍や創傷治療には積極的に陰圧閉鎖療法（Negative Pressure Wound Therapy）を取り入れることで、より早期の離床・退院を可能にしています。糖尿病や透析をされている患者様では複数の施設で連携して治療を行うのが一般的ですが、当院では関連他科の協力の結果すべての治療を行うことができます。このような施設は全国的にもほとんど見られません。

2015 年５月からは米国足病医と連携し、これまで日本であまり行われていなかった「糖尿病足病変に対する予防的手術」を開始しました。足の変形に対して装具療法を行いますが、それにもかかわらず潰瘍形成を繰り返してしまう患者様に変形を矯正する手術を行うことで良好な結果を得ています。

読売新聞社より発売された「病院の実力 2014」では、血流の回復と組み合わせて傷の治療を行った患者数が全国３位となっており、最近では大阪府外（滋賀・三重・奈良・兵庫・和歌山）からもご紹介いただけるようになりました。糖尿病・透析患者様も多数受診され、他院で足を切断するように言われた方も歩いて帰っていただけるようチーム一丸となり治療しています。

2011 年より「美容外科」も開設しました。しみ・しわ・たるみ・脱毛のレーザー治療、ハイドロキノンやトレチノイン外用剤を用いた美白治療なども行っています（自費診療）。

手術件数は大学病院などと比較すると多くはありませんが、患者様一人一人に対し丁寧で質の高い治療を行うよう心掛けています。

また当院は、大阪市立大学付属病院の関連病院として運営しているため、大学病院及び大学関連病院と連携をはかり、患者様にとって最良の医療を提供することが可能となっています。

2. メンバー構成

綾部忍　　日本形成外科学会専門医、日本創傷外科学会専門医
　　日本レーザー医学会専門医・指導医
藤井奈穂　日本形成外科学会専門医
延山文美　後期研修医

3. 形成外科手術実績

疾患大分類手技数	入院			入院			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	12		7		1	7	27
先天異常	2		2			4	8
腫瘍	35		19	2	1	329	386
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	5		2			18	25
難治性潰瘍	69	3	84			2	158
炎症・変性疾患	11		10			14	35
美容（手術）							
その他	1		90			79	170
Extra レーザー治療							

4. 今後の目標

一般形成外科治療に加えて、創傷ケアセンター・美容外科を充実させ、より高い専門性を目指します。また学会発表や誌上発表も積極的に行っていきます。

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

17）泌尿器科

泌尿器科部長　飯盛　宏記

1. 概要

2017 年は、9 月いっぱいで、2 年間にわたり当科の発展に貢献をされた行松医師が大学院進学のため大学病院に転勤となり、その後任として 10 月より後期研修 2 年目の香束医師を迎え、3 人で勤務させていただいております。

2017 年の年間手術件数は 338 件で前年より若干増加しました。開腹手術・腹腔鏡下手術・経尿道的内視鏡手術といった主要手術の件数は、200 件でした。また、前々年度同様腎摘除術・腎尿管全摘除術はほぼすべて腹腔鏡手術で行われており、開腹手術は大きな腎癌に対する 1 件だけでした。また高度な技術と忍耐力を要する腹腔鏡下膀胱全摘除術も 4 件施行し、膀胱全摘術も開腹で行われた症例はありませんでした。さらに、尿管結石に対する手術・尿管狭窄に対する形成術も腹腔鏡下に施行され、腹腔鏡手術の適応を広げるという当初の目的が維持できています。開腹手術に比較し、内視鏡手術は、患者様の身体的負担が軽いことは言うまでもありません。今後も積極的に腹腔鏡下手術に取り組んでいく予定です。

尿路結石症に対する治療としては、従来の体外衝撃波結石破砕装置は順調に稼働しており、2017 年は 36 症例の 45 結石に対し 61 回の体外衝撃波結石破砕術を施行しました。この数字は前年より若干少なめです。この理由は、昨年も報告したとおりレーザー砕石機が導入され、それまでは内視鏡では砕石できなかった結石が内視鏡で砕石できるようになり、内視鏡下結石砕石術が増加したことによります。内視鏡下結石砕石術は前年度から増加をみた 2016 年よりさらに増加し 72 件となりました。これはレーザー砕石機のなかった 2014 年と比較すると約 6 倍の増加です。

年々増加の一歩をたどる前立腺癌に関しては、従来通り手術療法・内分泌療法・放射線療法・抗癌剤治療の 4 通りの治療法を組み合わせた集学的治療を施行しており、新たに開発された新薬も導入し、患者様のニーズに合わせた治療が可能となっています。また、年々普及しつつあるロボット手術（ダビンチ）も関連病院に紹介することにより従来通り対応可能であります。

2. メンバー構成

部　　長　飯盛　宏記　日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医
医　　長　金丸　知寛　日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医
後期研修医　香束　昌宏

3. 実績

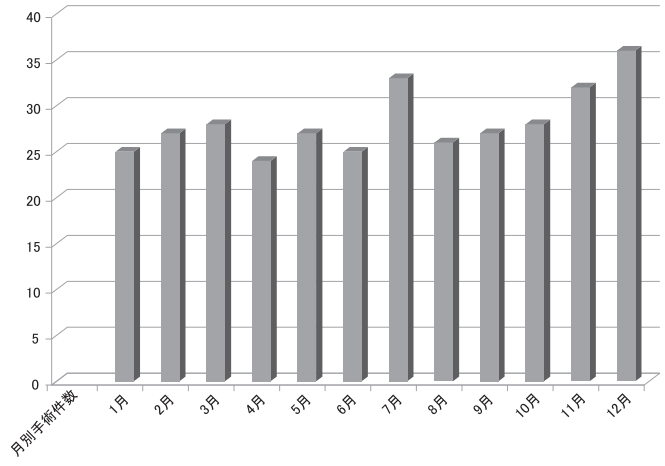
《手術内容》

開腹手術 腹腔鏡手術	前立腺全摘除術	2
	腹腔鏡下腎摘除術	9
	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	7
	腹腔鏡下腎部分切除術	7
	腹腔鏡下膀胱全摘除術	4
	腹腔鏡下尿管切石術	1
	腹腔鏡下副腎摘除術	1
経尿道的手術	経尿道的膀胱腫瘍切除術	71
	経尿道的前立腺切除術	14
	経尿道的尿管砕石術	72
	経尿道的膀胱砕石術	7
	内尿道切開術	1
その他件数が多いもの	前立腺生検	58
	腎瘻造設術	8
	陰嚢水腫根治術	3
	包皮環状切除術	2
その他		71
計		338

《月別手術件数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
25	27	28	24	27	25	33	26	27	28	32	36	338

《月別手術件数》



《ESWL 件数》

治療回数	61 回
新患数	36 人
結石数	45 結石

4. 今後の目標

今後も当科の総合力を増加させ、よりよい医療を提供できるように、スタッフ一同努力していく所存です。

内 科 28
循環器内 34
消化器内 35
呼吸器内 37
腫瘍内科 38
血管透析 40
小児科 42
放射診科 44
神経内科 45
内分泌内 46
膠原リウ 48
外 科 50
整形外科 52
脳神経外 56
心臓血管大動脈セ 57
形成外科美容外科 59
泌尿器科 61
眼 科 63
歯 科 歯科口腔 65
麻酔科 68
肝臓セン 69
呼吸器外 72
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78
病理診断 79
糖尿病代謝内科 81

18）眼科

眼科部長　家久耒　啓吾

1. 概要

現在３名の常勤と２名の非常勤医師で診療にあたっております。診察は２診体制で平日月曜から金曜にかけて行っております。午前診察と午後診察があり、午前診察は初診、予約診療の両方を行っております。午後は処置や時間のかかる検査の必要な患者様の予約診療を主として行っております。

外来の診療内容としては加齢黄斑変性、近視性脈絡膜新生血管、網膜静脈閉塞症の黄斑浮腫、糖尿病黄斑浮腫に対して抗 VEGF 薬の硝子体注射を行っております。また各種レーザー機器を取りそろえており、網膜光凝固術、YAG レーザー術、レーザー虹彩切開術などを行っております。

手術は白内障手術、硝子体手術や外眼部手術を行っております。入院、日帰り手術ともに対応しております。また局所麻酔が主体ですが、症例に応じて全身麻酔での手術も行っております。2017 年 1 月から 12 月までの手術の総計は 1,021 件でした。内訳は白内障手術は 938 件、硝子体手術は 83 件でした。

2014 年 8 月に硝子体手術を導入してから、硝子体手術件数は安定して推移、漸増しております。硝子体手術の内容としては黄斑上膜、黄斑円孔、増殖糖尿病網膜症、裂孔原性網膜剥離、黄斑円孔網膜剥離、眼外傷、細菌性眼内炎、脈絡膜出血、水晶体亜脱臼、眼内レンズ強膜内固定術などを行いました。裂孔原性網膜剥離に対しては症例に応じて強膜バックリング手術も行っております。

白内障手術は、日帰りおよび入院での手術を共に行っており、患者様の希望や利便性を重視して対応しております。多焦点レンズを用いた白内障手術も行っております。回折型多焦点レンズとして AMO 社の Tecnis multifocal および Tecnis Symfony を導入しております。また屈折型多焦点レンズとしては HOYA 社の iSii を導入しております。

外眼部手術については眼瞼手術（眼瞼下垂、眼瞼内反など）や翼状片手術などを行っております。

八尾市、柏原市、東大阪市、松原市、大阪市平野区の先生方に於かれましては、いつも貴重な患者様をご紹介頂きまして誠にありがとうございます。今後とも病診連携を通じて地域医療に貢献させていただければ幸いです。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

2. メンバー構成

（常勤医師）

家久耒啓吾　（部長）医学博士、日本眼科学会専門医

大須　賀翔　（医員）日本眼科学会専門医

在田　稔章　（医員）

（非常勤医師）

山田　哉子

石崎　典彦

3. 実績

≪外来患者数≫

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1,423	1,487	1,623	1,301	1,233	1,456	1,391	1,455	1,352	1,390	1,448	1,490	17,049

≪手術件数≫

計 1,021 件 （うち白内障手術 938 件　硝子体手術 83 件）

4. 今後の目標

地域の患者様からより一層頼りにされるような病院を目指し、地域医療に貢献して参ります。引き続きご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

内　科 28
循環器内 34
消化器内 35
呼吸器内 37
腫瘍内科 38
血管透析 40
小児科 42
放射診科 44
神経内科 45
内分泌内 46
膠原リウ 48
外　科 50
整形外科 52
脳神経外 56
心臓血管大動脈セ 57
形成外科美容外科 59
泌尿器科 61
眼　科 63
歯　科歯科口腔 65
麻酔科 68
肝臓セン 69
呼吸器外 72
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78
病理診断 79
糖尿病代謝内科 81

19）歯科・歯科口腔外科

歯科・歯科口腔外科部長　占部　一彦

1. 概要

歯科口腔外科は、部長：占部一彦（2006 年 4 月赴任）、医員：原田計真（2015 年 4 月赴任）小倉秀（2016 年 4 月赴任）の 3 名体制で診療にあたっています。八尾市・東大阪市・大阪市平野区・柏原市内の医院・歯科医院との病診連携を行っており、紹介率 30％以上を維持しています。

2008 年度より地域歯科支援病院の認定をうけ地域医療に貢献できますように体制づくりをすすめています。

診療内容としては、親知らずの抜歯・腫瘍・粘膜疾患・顎変形症・顎顔面外傷などの手術を中心に、顎関節症などの治療や全身疾患をもつ患者様の一般歯科治療なども行っています。

当院は、大阪大学歯学部第一口腔外科の関連病院として運営していますので、当科で加療が困難な疾患に関しては、大阪大学および大学関連病院と連携をはかり対応しています。また日本口腔外科学会の準関連研修施設認定もうけています。

診療特徴としては、下記の内容が挙げられます。

1）抗凝固剤服用中の患者様への対応

抜歯などの小手術は、基本的にワーファリン等の抗凝固薬・抗血小板薬の服用は休薬なしでおこなっています。

抗凝固薬　：基本的に休薬なし（場合によって減量）で 1（～ 2）泊の入院下で処置・止血管理をおこないます。

抗血小板薬：基本的に休薬なしで外来処置室にて小手術をおこないます。

2）鎮静下での観血的処置

歯科治療恐怖症の患者様、また局所麻酔のみでは術中の鎮痛が不十分と判断された処置の際にドルミカムおよびプロポフォールを使用し、鎮静・モニター下に処置を行っています。

＊恐怖症のための全麻下歯科治療は、当院では行っておらず専門施設に紹介しています。

3）入院下での埋伏智歯抜歯

埋伏智歯抜歯術は、歯肉切開や骨削除をおこなって抜歯するのですがかなり腫脹をともなう処置になります。それが数本ある患者様の場合には、腫脹がその都度ともなうことになります。そこで入院管理下で全身麻酔下にて抜歯を行うことで 1 本抜歯に対する時間が短くすみ数本まとめて抜歯することができます。また術後点滴を行い疼痛コントロール・感染予防を行うことで 1 回の腫脹ですませることができます。当院では木曜午後入院、金曜手術し日曜日午前退院の予定でおこなっています。

2. メンバー構成

部長：占部一彦（歯学博士）　日本口腔外科学会専門医

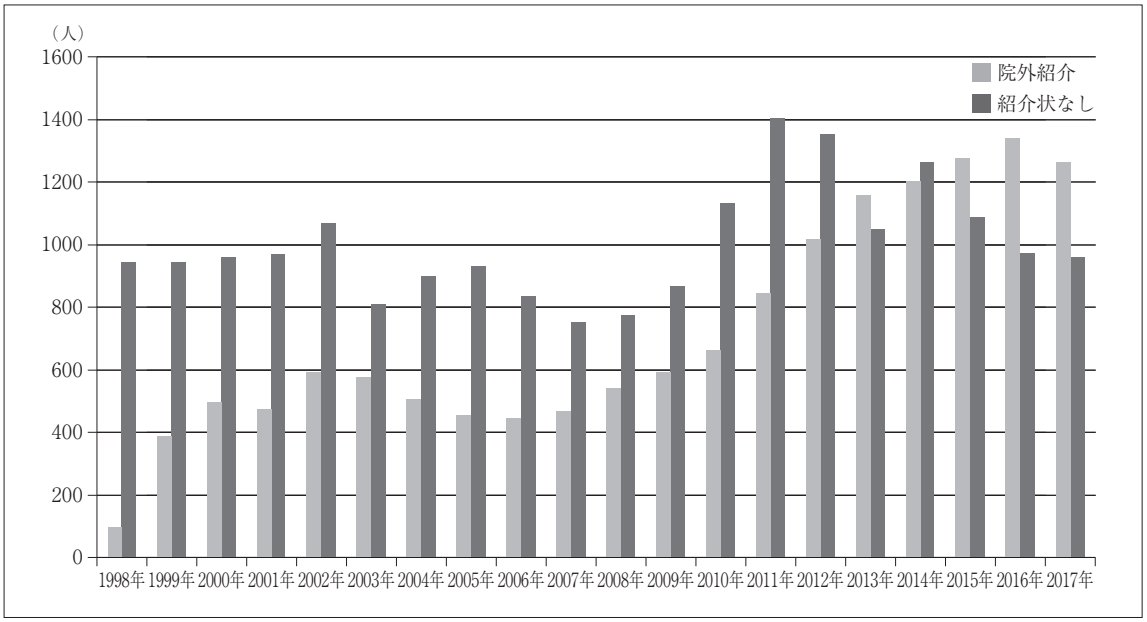
医長：原田計真（歯学博士）　日本口腔外科学会認定医

医員：小倉秀（歯学博士）

3. 実績

《初診患者数推移》

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
院外紹介	95	386	493	472	590	576	506	453	443	467	538	590	662	846	1,017	1,160	1,205	1,276	1,341	1,266
紹介状なし	945	945	961	970	1,070	809	900	932	834	752	775	866	1,134	1,406	1,355	1,051	1,264	1,088	973	959



《外来手術例》

手術名	件数
骨性埋伏智歯抜歯	455
難抜歯	227
単純抜歯	967
歯根端切除 / 歯根嚢胞摘出術	107
顎骨腫瘍摘出術	12
口腔内・外消炎処置	17
腐骨除去術	3
口腔内外創傷処置	32
舌腫瘍摘出術	15
歯槽骨骨折観血的整復術	3
顎関節脱臼非観血的整復術	34
生検	172
唾石除去術	1
歯肉腫瘍摘出術	13
粘液嚢胞摘出術	17
上顎洞口腔瘻閉鎖術	18
その他	14
合計	2,107

《入院手術例》

手術名	件数
抜歯（止血異常）	104
歯根端切除 / 歯根嚢胞摘出術	70
口腔内・外消炎手術	10
埋伏歯抜歯	85
顎骨腫瘍摘出術	45
抜釘術	14
上・下顎骨骨折観血的整復術	15
頬骨骨折観血的整復術	5
顔面多発骨折	1
腐骨除去術	21
骨隆起形成術	6
上顎洞根本術 / 術後性上顎洞嚢胞摘出術	5
創傷処置	7
その他	22
合計	410

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科 歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

4. 今後の目標

地域医療に貢献できるよう、スタッフ一同協力して医療体制を構築し、さらに幅広い対応を行っていきたいと考えており、特に 24 時間救急病院の特徴をいかして顎顔面外傷に関して力をいれていきたいと思っています。

また医科歯科連携にて周術期管理もおこなって患者様の入院期間の短縮に貢献していきたいと思います。

※トピックス

2016 年 1 月より全身麻酔下にて手術を行う症例の中で良性腫瘍・嚢胞性疾患・抜歯などにて顎骨内に骨欠損をきたす症例に対して、自己血を採血し遠心分離を行うことで血小板濃縮フィブリン（CGF）を採取し、これを創部に挿入することで治療効果をたかめようとする再生治療を開始しました。

この方法は、【再生医療等安全性確保法】において第三種再生医療に分類される方法で、認定された再生医療委員会で審査をうけ、近畿厚生局・厚生労働大臣に届け出を行っています（届出 No.PC5150376）。

顎骨欠損をきたす症例において使用してきましたが、肉芽造成を援助し、創部痛・腫脹などが軽度になり、顎骨造成の治癒が CGF を使用しない場合に比して早期に治癒する傾向にあります。

今後も有効に使用していくことで患者様の負担軽減を行っていきたいと思います。

20）麻酔科

麻酔科部長・手術部長　谷　　仁介
麻酔科部長　池下　和敏

1. 概要

当科は3名の常勤麻酔科医師で運営し、全員が厚生労働省認定の麻酔科標榜医資格と日本麻酔科学会認定の麻酔科専門医資格を取得しています。また、当院は日本麻酔科学会の認定病院に指定されており、常に患者様の安全を最優先とした一般的な手術麻酔を行っています。

2. メンバー構成

部長　谷　仁介　　日本麻酔科学会専門医・指導医
部長　池下　和敏　　日本麻酔科学会専門医・指導医、医学博士
医員　野村　正剛　　日本麻酔科学会専門医

3. 実績

2017年の麻酔科管理手術件数は2,553件でした。

《年齢別》

0 － 5歳	6 － 18歳	19 － 65歳	66 － 85歳	86歳以上
58件	119件	956件	1,248件	172件

《手術部位別》

開頭・頸動脈	開胸	心臓・大血管	開胸＋開腹	胸腹壁
125件	96件	90件	6件	68件

上腹部	下腹部	頭頸部	脊椎	股関節・四肢
416件	628件	372件	107件	645件

4. 今後の目標

麻酔薬や医療機器の進歩にも関わらず、麻酔による危険性はゼロでは無いため、常に安全な手術麻酔を目指し、手術を受けられる患者様本人だけでなくご家族様にも安心していただけるよう日々努力していきます。不安に思うこと、聞きたいことがある場合、納得できるまでわかりやすい説明をさせていただきますので、遠慮なく気軽に麻酔科にお問い合わせください。

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

21）肝臓センター

肝臓センター長　松田　康雄
肝臓外科部長　木村　拓也

1. 概要

肝臓センターではウィルス性肝炎や肝胆膵領域の悪性疾患を中心に治療を行っており、スタートし6年経過し、中河内地区の地域医療を担っている。近隣施設より閉塞性黄疸、急性肝炎、慢性肝炎、肝胆膵領域の悪性疾患を紹介され、積極的に治療を行っている。

診断にはEUS、ERCP、造影エコーなど最新機器を活用し、治療は血管合併切除などの超拡大手術から内視鏡手術などの低侵襲治療を行っており､ガイドラインを参考に患者様に優しい、患者様の目線に立った治療を常に考慮している。

特に本年は、新メンバーを加え、さらにセンターとして治療内容に広がりを持たせることが可能となった。

また外科系診療科で一致団結し、2018年より開始となる新専門医制度に対し、当院は外科の基幹施設として認定された。

2. メンバー構成

松田　康雄　肝臓センター長、顧問
日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医
日本超音波学会専門医・指導医

木村　拓也　肝臓外科部長、ICD委員長、NST委員長、外科専門研修プログラム統括責任者、病診連携室長
日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医、日本肝臓学会専門医、日本小児外科学会専門医、日本静脈経腸栄養学会認定医、日本移植学会認定医、感染制御医師（ICD)、PEACEプロジェクト緩和ケア講習、TNT講習、臨床研修医指導者講習
プログラム責任者講習、内視鏡外科学会評議員、日本肝胆膵外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員

井上　雅文　肝臓外科医長
日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医、臨床研修医指導者講習、PEACEプロジェクト緩和ケア講習、近畿外科学会評議員

鯉田　五月　肝臓内科医長
日本内科学会認定内科医・日本肝臓学会専門医、PEACEプロジェクト緩和ケア講習

松岡　伸英　肝臓外科医員
日本外科学会専門医

3. 実績

1）肝臓外科

肝臓外科にて 2017 年に施行した手術は計 251 件で、増加傾向にある。

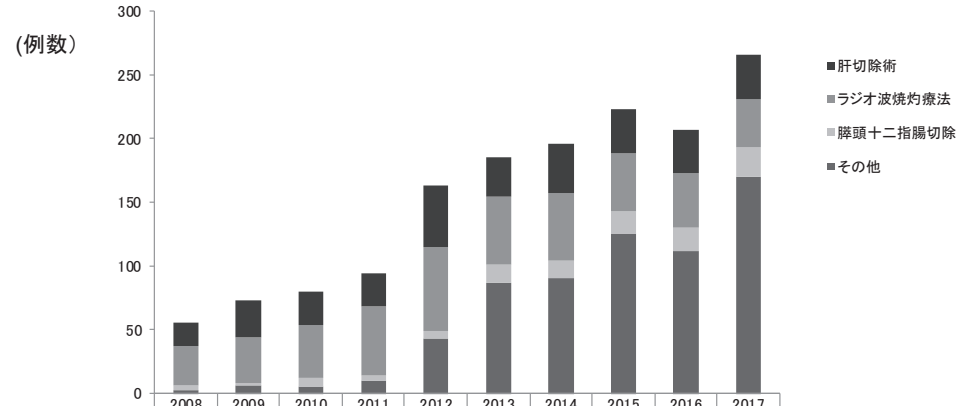
2012 年より導入した腹腔鏡下肝臓手術も安定し、在院期間も短く安全に施行できている。また肝臓手術全体では 35 例と例年と同程度であった。

膵癌、中下部胆管癌に対する膵頭十二指腸切除例や膵体尾部切除は 23 件で、増加傾向にある。今年も血行再建を多数行っているが、血管系の合併症はなく安全に施行できている。

今年も肝胆膵悪性疾患以外にも、手術内容が多岐にわたっている。

2013 年より腹腔鏡下膵体尾部切除を導入した。今年も 2 例に施行し、安全に完遂できた。手術症例の増加に伴い、腹壁瘢痕ヘルニアも増えて、メッシュを使用した腹腔鏡下修復術を開始した。

図に過去の肝臓外科（肝胆道外科）手術実績の推移を示した。年々手術件数は増加しているが、2017 年はさらに増加した。



	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
■肝切除術	19	29	26	26	48	31	39	35	34	35
■ラジオ波焼灼療法	31	36	42	54	66	53	53	45	43	38
■膵頭十二指腸切除	4	2	7	4	6	14	13	18	18	23
■その他	2	6	5	10	43	87	91	125	112	170

2）肝臓内科

慢性 B 型肝炎

抗ウイルス薬である核酸アナログ製剤（エンテカビル、テノホビル）による治療を行っている。

慢性 C 型肝炎、代償性肝硬変

ゲノタイプ 1 b 型に対する IFN フリー内服治療（DAA：Direct Acting Antivirals）を本年は 20 例に投与し重篤な合併症もなく、全例ウイルス陰性化率を達成した。

ゲノタイプ 2 型への IFN フリー内服治療は 2 例行い副作用なく 2 例ともウイルス陰性化した。今年度はパンジェノタイプ内服治療を開始していく。

肝細胞癌

本年も放射線医との連携し肝細胞癌に対してカテーテル治療を行い、肝動脈化学塞栓療法（TACE）50 例施行した。

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

その内の３例（多発肝細胞癌）は永久塞栓物質（マイクロスフィ）を使った治療を施行し発熱や腹痛、肝機能障害などの副作用もなく腫瘍縮小効果も良好であった。

また肝細胞癌破裂に対する緊急止血術（1 例）を施行した。

肝硬変

肝硬変の難治性腹水に対して新規利尿薬であるサムスカ使用を積極的に行い、腹水減少による症状改善症例を認めている。

肝硬変患者は血小板低下を認めるため、食道静脈瘤に対する内視鏡治療や肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術での出血のリスクが高い。

昨年に続き経口血小板産生促進剤ムルプレタを３例（RFA2 例、TACE1 例）に使用し合併症なく行えた。

肝性脳症

肝性脳症の治療は合成二糖類、ＢＣＡＡ製剤、カルニチンなどなどあるが難治性の脳症も散見される。

腸内でのアンモニア産生菌に作用しアンモニア産生抑制する難吸収性リファマイシン系抗菌薬が適応になり今年度より開始していく。

4. 今後の目標

本年も昨年同様、手術症例を確保し、安全、安心の医療を提供していきたい。

今後は腹腔鏡下手術による低侵襲治療を肝胆膵領域に導入し、医療ガイドラインに沿った治療を実践しながら、術後成績の向上ならびに、手術症例の増加を維持したい。

また新専門医制度導入に伴う、施設認定の維持に努めたい。

22）呼吸器外科

呼吸器外科医長　市橋　良夫

1. 概要

呼吸器外科では主に手術によって病気の治療を行っています。手術加療を行う疾患としては原発生肺癌、自然気胸、縦隔腫瘍などであり、主に胸腔鏡下手術で行っています。できる限り患者様の希望に添えるように、話し合いの時間を設けて診療を行っています。地域の中核病院として、患者様のニーズに応え他科と連携をとり、より良い医療を提供しています。

2. メンバー構成

市橋良夫（常勤）　日本外科学会専門医
日本呼吸器外科学会専門医
花岡伸治（非常勤）大阪医科大学附属病院　診療准教授　呼吸器外科科長
日本外科学会専門医・指導医・代議員
日本呼吸器外科学会専門医・指導医・評議員
日本肺癌学会評議員
佐藤澄　（非常勤）大阪医科大学附属病院　講師
日本外科学会専門医・指導医
日本呼吸器外科学会専門医
日本呼吸器学会専門医

3. 実績

2017 年の呼吸器外科全手術症例は 103 例（原発性肺癌 46 例、転移性肺癌 8 例、縦隔腫瘍 6 例、気胸 17 例、その他 26 例）です。

4. 今後の目標

積極的に診療に取り組み、最善の治療を行っていきます。八尾周辺地域で根治できる患者様を増やすことができるようしていきます。

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

23）小児外科

小児外科部長　木村　拓也

1. 概要

当院で小児外科開設後 7 年目となりました。昨年より日本小児外科学会の教育関連施設（大阪大学小児成育外科学教室が母体）として認定され、2018 年は 2 年目となります。

当院には新生児集中治療室（NICU）がないため、低出生体重児など特殊な患児の治療は困難ですが、新生児も含め、年間の全身麻酔手術症例数が 100 例をコンスタントに維持できるようになりました。これもひとえに、近隣総合病院、診療所に根付いて、地域の「こども」たちに傷が目立たない鏡視下手術を導入し、最新で低侵襲な治療を安全に提供できているためと考えています。

来年より新専門医制度が導入され、幸い当院は外科プログラムの基幹施設として認定されました。それに伴い、若い人材も増えて、指導体制を整えております。

小児医療を担う次世代が育つように、またそれに伴い病棟には子供たちの笑顔があふれるように、安全に治療ができるように頑張っていきたいと思います。

2. メンバー構成

部長：木村拓也（平成 7 年卒）

日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本小児外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本総合診療医学会認定医、日本静脈経腸栄養学会認定医、日本肝臓学会専門医、日本移植学会認定医、日本内視鏡外科学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員、ICT ドクター、外科専門研修プログラム統括責任者、臨床研修指導医

医長：井上雅文（平成 11 年卒）

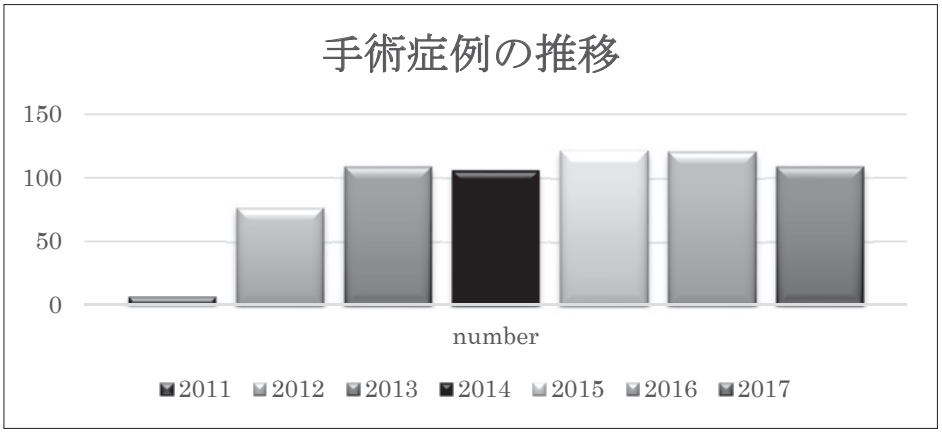
日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、臨床研修指導医

医員：河島茉澄（平成 22 年卒）

日本外科学会専門医

3. 実績

1）手術数の推移（2017 年：109 例）



2）2017 年の手術成績（主な内容）

・体表疾患（3 例）

皮下腫瘤：2 例（摘出術）

肛門周囲膿瘍：1 例（切開術）

・胸部疾患（1 例）

漏斗胸：1 例（Nuss 法）

・腹部疾患（72 例）

急性虫垂炎：19 例（全例単孔式腹腔鏡手術）

鼠径ヘルニア

男児 23 例：高位結紮

女児 20 例：単孔式腹腔鏡手術（LPEC）

臍ヘルニア：9 例

胃瘻造設術：1 例

・生殖器、泌尿器科疾患（22 例）

包茎：3 例

停留精巣：13 例

陰唇癒合：3 例

卵巣捻転：2 例

精巣捻転：1 例

4. 今後の目標

1 月より小児外科に新メンバーが加わり、今まで以上に近隣施設の小児科における外科疾患や救急医療を待たせることなく、地域の子供たちに最新で、安全安心の医療を提供していきたいと思います。

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管 大動脈セ　57
形成外科 美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科 歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病 代謝内科　81

24）皮膚科

皮膚科医長　梶本　敦子

1. 概要

当科では、薬疹、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、その他の湿疹、尋常性乾癬、水疱症、掌蹠膿疱症、円形脱毛症などの各疾患、白癬症、ヘルペス感染症、尋常性疣贅、尋常性ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、感染性粉瘤、尖圭コンジローマ・梅毒（STD）などの皮膚感染症、および皮膚腫瘍、皮膚潰瘍、熱傷（保存的治療可能な 、主に SDB まで）、男性型脱毛症（自費診療）などを診療しております。

検査としましては、金属パッチテスト、皮膚生検による病理検査、RAST 測定によるアレルギー検査等を行っております。

日光角化症、基底細胞癌、表皮内有棘細胞癌に関しましては、ダーモスコピーによる視診のうえ疑わしいものは部分生検を行い、確定診断のついた場合は当院形成外科に手術をお願いしております。また、浸潤癌および悪性黒色腫（メラノーマ）、乳房外パジェット病は主に大阪市立大学へ紹介しております。

尋常性乾癬に対する生物学的製剤による治療を必要あるいはご希望される症例や患者様に対しましては大阪市立大学へ紹介しております。

※尋常性白斑、尋常性乾癬、いずれの疾患にも紫外線療法は施行しておりません。

※第 3 木曜日を除く平日は梶本、毎週土曜日は大阪市大医局員（非常勤医師）が診察をしております。

2. メンバー構成

常　勤　梶本敦子

非常勤　大阪市立大学からの派遣医師

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
487	498	562	501	542	585	553	471	537	513	474	483	6,206

4. 今後の目標

皮膚疾患は慢性に経過するものが多くみられます。また、良性疾患であっても完治には副作用の強い治療しか無いケースもあり、一方的に治療を勧めるのでは無く各々の患者様のライフスタイルに合わせた治療をモットーにしております。したがいまして初診には時間をかけてお話をお伺いし、満足のいくコミュニケーションをとることの出来るよう心掛けております。

今年もよろしくお願いいたします。

25）婦人科

婦人科部長　田村　明彦

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

1. 概要

主な診療対象疾患

①婦人科悪性腫瘍、良性腫瘍

②不妊・内分泌疾患

③女性の加齢に伴う疾患、性器の位置・形態異常、炎症性疾患

④妊娠初期健診、妊婦健診および羊水染色体検査

等、婦人科全領域および一部の産科領域について診療が可能となりました。

＊当院では分娩についての取扱いは行っておりませんが、妊娠初期検査から妊娠中（分娩前）の妊婦健診等の一部の周産期管理は実施しています。

診療方針

特に、婦人科悪性腫瘍に対しては、手術を中心とした集学的治療を実施しています。

＊集学的治療とは手術療法・化学療法・放射線療法を併用して根治を目指す治療の事です。

また、婦人科良性腫瘍に対しては、QOL を十分に配慮し、主に症候性適応や病理組織学的な精査が必要な場合に手術療法を実施し精査・治療を実施しています。

2. メンバー構成

田村明彦（常勤）　　日本産科婦人科学会産婦人科専門医

松岡達也（非常勤）

3. 実績（2017 年 05 月～ 12 月）

悪性腫瘍	子宮頚癌	3 件
	子宮体癌	1 件
	卵巣癌	3 件
	化学放射線同時療法	3 件
良性腫瘍	子宮全摘出術（腟式含む）	6 件
	付属器腫瘍摘出（付属器摘出含む）	9 件
その他の開腹術	膀胱 / 尿管 / 腟 / 癒着剥離	3 件
小手術	頸部円錐切除術	3 件
外来手術	子宮内膜部位別掻破術	7 件

4. 今後の目標

2017 年 4 月より婦人科診療体制が変わり、根治的治療法（外科的治療法）が可能となったために診療対象疾患が拡がりました。患者様にとって安心・安全な婦人科医療の実践を心掛けます。

26）耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科　小西　将矢

1. 概要

一般診療では以下のような疾患の治療にあたっております。

・鼻：アレルギー性鼻炎、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、鼻出血など

・耳：急性中耳炎、慢性中耳炎、突発性難聴、老人性難聴、メニエル病など

・のど：急性扁桃炎、急性咽頭炎、急性喉頭炎など

耳鳴りおよび補聴器についての特殊外来もあります。

入院、手術を必要とする疾患の場合には、八尾市立病院、大阪赤十字病院に紹介いたします。

2. メンバー構成

中小西将矢（非常勤）、中西律子（11 月末退職）

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
168	271	303	231	178	298	238	226	200	192	167	39	2,511	209.3

4. 今後の目標

スギ花粉症に対する舌下免疫療法を実践したいです。

27）リハビリテーション科（診療部）

リハビリテーション科部長　田中　尚

1. 概要

当科は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士とともに、機能や能力を評価し、リスク管理をしながら、リハビリ計画を立てて訓練を行っています。各診療科、看護師、医療ソーシャルワーカーらとも回診やカンファレンスを行い、チーム医療を実践しています。　NST 回診にも参加し、リハビリが促進されるよう栄養改善にも取り組んでいます。

対象となる分野は広く、脳血管（小児の発達障害を含む）、運動器、心大血管、呼吸、がん、廃用症候群といった領域の疾患のリハビリを行っています。当院は、急性期病院ですので急性期に特化したリハビリを行っていることが特徴で、早期の自宅退院を目指します。また回復期リハビリ病院等との連携も行っています。

当科では、脳神経領域のリハビリを得意としており、特に高次脳機能障害のリハビリに力を入れています。具体的には、脳卒中、頭部外傷、認知症、発達障害などに対して神経心理学的検査やリハビリを行います。また本年度、6 月からは痙縮外来を開設し、麻痺に伴う痙縮に対してボツリヌス治療を行っています。

2. メンバー構成

田中　尚　日本リハビリテーション医学会専門医・指導医、日本神経学会神経内科専門医・指導医、日本認知症学会・指導医

3. 実績

リハビリ実施数

リハビリテーション科（副診療部）の実績に準ずる。

4. 今後の目標

訓練機器や物品を整備しながら、リハビリ診療の質の向上に努めます。

リハビリを通じて、QOL 改善、在院日数の短縮などに貢献していきたいと考えております。

社会的援助や心理的援助についても、リハビリの立場から指導していきます。

内　科　28
循環器内　34
消化器内　35
呼吸器内　37
腫瘍内科　38
血管透析　40
小児科　42
放射診科　44
神経内科　45
内分泌内　46
膠原リウ　48
外　科　50
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　68
肝臓セン　69
呼吸器外　72
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78
病理診断　79
糖尿病代謝内科　81

28）病理診断科

病理診断科医長　久保　勇記

1. 概要

当科は 2017 年 7 月に一般検査部門より分離され診療科となりました。当院には以前より病理医が非常勤として勤務していましたが、病理診断科発足と同時に久保が非常勤から常勤となりました。2017 年 12 月現在、医師 3 名（常勤 1 名、非常勤 2 名）、臨床検査技師 5 名が業務に携わっています。2018 年 4 月より非常勤医 1 名が加わる予定です。

病理組織診断については原則として 2 名以上の病理医が担当する相互チェック体制をとっています。また診断困難な症例については外部の専門家に相談する、いわゆるコンサルテーションを実施しています。

細胞診については細胞検査士が最初にスクリーニングし、うち擬陽性・陽性症例に対しては細胞診専門医がチェックしています。細胞診標本の作製については 12 月より液状化検体細胞診（LBC）標本作製装置を用いて実施しており、診断精度の向上が図られています。

当院以外の症例については、生駒市立病院の組織診断および細胞診を 2015 年から受託しており、さらに 2017 年 10 月からは松原徳洲会病院の病理組織診断を受託しています。

剖検業務については大阪市立大学医学部附属病院、ならびに大阪国際がんセンター（旧・大阪府立成人病センター）の協力のもとに実施しています。興味深い症例については初期臨床研修の一環として臨床病理検討会（CPC）を開催しています。

2. メンバー構成

医師

久保勇記（常勤）　日本病理学会専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
山下憲一（非常勤）　日本病理学会専門医
青笹克之（非常勤）　日本病理学会専門医、徳洲会病理部門最高顧問

臨床検査技師

岩﨑由恵（細胞検査士）、岡﨑健（細胞検査士）、西川裕子、岸上周平、室木魁人

3. 実績

《組織診、細胞診、剖検の件数》

	組織診断	術中迅速診断	細胞診	剖検
当院	4,683	131	8,897	10
生駒市立病院	856	0	354	0
松原徳洲会病院	143	0	0	0
合計	5,682	131	9,251	10

《剖検一覧》

剖検番号	剖検日	出所	年齢	性別	臨床診断
660	2017.02.15	内科	56	男	肺癌
661	2017.02.20	内科	54	男	肺癌
662	2017.05.01	内科	71	男	腎不全
663	2017.06.22	腫瘍内科	68	男	肺癌
664	2017.07.07	腫瘍内科	59	男	骨髄異形成症候群
665	2017.09.11	外科	73	男	敗血症
666	2017.09.14	内科	74	女	膵頭部癌
667	2017.09.21	内科	80	男	心筋梗塞の疑い
668	2017.12.06	内科	66	男	肺癌、消化管穿孔
669	2017.12.19	内科	76	男	大腸癌、消化管穿孔

消化器カンファレンス（水曜午前、毎週）

呼吸器カンファレンス（木曜午後、月に約２回）

4. 今後の目標

正確･迅速な診断に努めます。また他科との連携をより緊密にしていきたいと考えています。

また、近隣の徳洲会系列病院の病理診断・細胞診を一括して行う徳洲会病理診断センターを立ち上げる構想を抱えており、その一環として松原徳洲会病院の組織診断を全面的に受託する予定です。それに伴いマンパワーが不足するため、非常勤病理医の確保を予定しています。今後は病理診断センターを大阪地区の病理診断の中核的組織として育成していく予定です。

内　科 28
循環器内 34
消化器内 35
呼吸器内 37
腫瘍内科 38
血管透析 40
小児科 42
放射診科 44
神経内科 45
内分泌内 46
膠原リウ 48
外　科 50
整形外科 52
脳神経外 56
心臓血管 大動脈セ 57
形成外科 美容外科 59
泌尿器科 61
眼　科 63
歯　科 歯科口腔 65
麻酔科 68
肝臓セン 69
呼吸器外 72
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78
病理診断 79
糖尿病 代謝内科 81

29）糖尿病・代謝内科

糖尿病・代謝内科部長　石橋　里江子

1. 概要

2017 年には常勤医師として 7 月に 1 名、10 月に 1 名の糖尿病専門医が赴任しました。従来から活発に糖尿病診療を担ってきた総合内科医師および糖尿病ケアチームと協力し、外来と病棟においてテーラーメイドの医療を提供すべく取り組んでおります。

2. メンバー構成

【常勤医師】　石橋里江子（部長）　高原良典（総合内科医長）　植田秀樹
【非常勤医師】　松本崇　　前野芳史　　白岩由桂　　吉田陽子

3. 実績

11 月に「糖尿病対策委員会」を新たに組織し、月 1 回の委員会での審議、決定事項を踏まえ糖尿病ケアチームが活動しています。糖尿病ケアチームは医師、保健師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、栄養士、薬剤師、臨床心理士など多職種より構成され、互いに連携して糖尿病患者の療養を支援しています。また、毎月各部署持ち回りでカンファレンスに症例を提示し、効果的な関わりについて検討しています。

11 月 14 日には世界糖尿病デーの院内イベントとして「世界糖尿病デー in YAOTOKU」を病院 1 階エントランスホールにおいて開催しました。直前 10 月からと準備期間が短く、かつ当日は 2 時間という制限にも関わらず、多くの方々がご参集下さいました。

主な活動内容	担当部署	件数
啓蒙ポケットティッシュ、チラシ配布	総務課・医事課	各 500
血糖測定	薬剤科・臨床検査科	47
HbA1c 測定（対象：随時血糖値 200 mg/dl 以上）	臨床検査科	2
血管機能検査	臨床検査科	27
糖尿病専門医による相談コーナー	医師	31
管理栄養士による食事相談コーナー	栄養科	10
理学療法士による運動相談コーナー	リハビリテーション科	6
フットチェック、爪切り	保健師	8
糖尿病川柳募集、表彰	臨床心理士	21

4. 今後の目標

世界糖尿病デーの啓蒙活動は、毎年 11 月 14 日（インスリン発見者 Banting 生誕日）に継続して行う予定です。2018 年度は日本糖尿病学会認定教育施設 Ⅰ に認定されることを目指し、糖尿病教室を公開医療講座として毎月 1 回開催させていただくことになりました。医師のみならずコメディカルの学会・研究会における発表、CDE（糖尿病療養指導士）等の資格取得も支援していきます。

副　診　療　部

―― 2017年 ――

30）薬　剤　科　84
31）放 射 線 科　87
32）臨床検査科　89
33）リハビリテーション科　92
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）
34）臨床工学科　97
35）栄　養　科　102
36）治験センター　105
37）医療福祉相談室　111
（MSW　医療ソーシャルワーカー）
38）病診連携室　115
39）健診センター　124
40）情報システム管理室　125
41）ゲノム事務局　127
42）保　育　室　129
43）がん相談支援センター　131
44）医療安全管理部　134
45）臨床腫瘍センター　140

30）薬剤科

薬局長　大里　恭章

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

1. 概要

2017 年は高額医薬品の偽医薬品が流通する事件が世間を騒がし、薬剤師の医薬品に対する品質管理が問われた年でもありました。当院においても、医薬品の品質管理は特定の卸業者から購入し、薬剤部内で適切に保管するシステムを運用しており、今後も問題が起こらないように努めて行きたいと思います。

また、業務活動としましては 2016 年 4 月の診療報酬改定により、がん化学療法関連の業務拡充、ICU での病棟常駐薬剤師新設など、これまでの病棟業務活動に質を求められるようになりました。

入院時には入院の受付が終わり次第薬剤師が初回面談を行い、副作用歴、アレルギー歴の聴取、そして持参薬を確認することで手術前の術前中止薬の有無などを行い、治療を進めていく上で重要となる医薬品情報の収集と提供をしっかり行ってきました。さらにはポリファーマシー（多剤投与）による副作用、相互作用を防ぐために、入院時の薬剤数を確認するとともに服薬コンプライアンスを確認し、また不必要と考えられる薬の情報提供を積極的に行うことにしました。これにより、薬剤総合評価調整加算も 8 月以降から少しずつですが算定が可能になり、適切な薬物療法に薬剤師の活躍の場ができたと思います。

今後もがん化学療法から病棟での薬剤管理指導業務、NST、糖尿病チームなどのチーム医療など、いかなる業務についても幅広く活躍できる薬剤師の育成と、現状の業務に満足することなく新たな業務改善を図り、薬剤師の責務が十分果たせる組織にしたいと考えています。

2. メンバー構成

・薬剤師28名（非常勤1名）、助手2名（非常勤3名）

・有資格者

日本医療薬学会	指導薬剤師	大里恭章
	認定薬剤師	大里恭章、草薙みか、出羽祐基
	がん専門薬剤師	松浦暢子、小西千尋、南野智志
	薬物療法専門薬剤師	草薙みか
日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師	横山法靖
	認定指導薬剤師	大里恭章、草薙みか
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	横山法靖
日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師	松浦暢子、小西千尋
日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法	大里恭章、草薙みか、南野智志、高岡亜記、岩政かおり、山本倫数
日本糖尿病療法指導士認定機構	糖尿病指導療法士	松浦暢子、坂野千賀、高岡亜記
日本アンチドピング機構	スポーツファーマシスト	山本倫数
日本薬剤師研修センター	漢方薬・生薬認定薬剤師	草薙みか、山本倫数、門間智恵
小児薬物療法認定薬剤師	坂野千賀	

認定実務実習指導薬剤師　　大里恭章、草薙みか、坂野千賀、
横山法靖、前田晃佑

日本麻酔科学会　手術期管理チーム薬剤師　　大里恭章

3. 実績

①学会発表　4題、論文発表　1題

②学生実習受け入れ（2017年4月～2018年3月：13名）

・Ⅰ期　2名（同志社女子大学　1名、近畿大学　1名）

・Ⅱ期　3名（大阪大谷大学　1名、武庫川女子大学　2名）

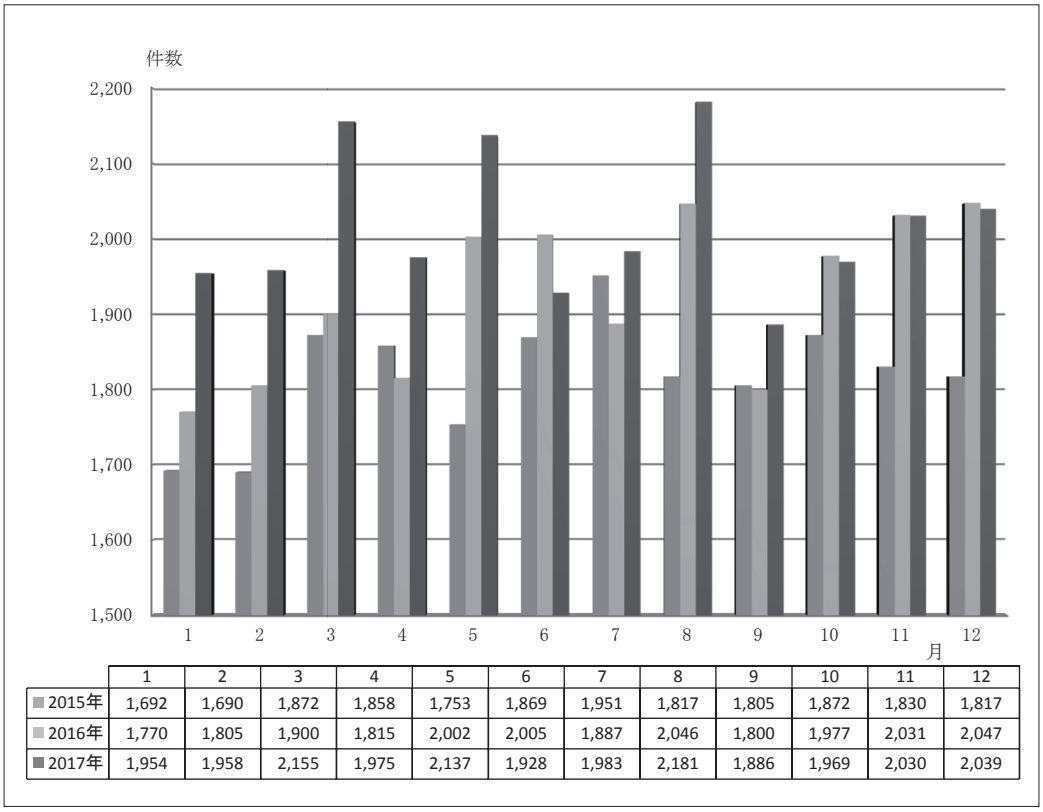
・Ⅲ期　3名（近畿大学　1名、同志社女子大学　1名、武庫川女子大学　1名）

・Ⅳ期　4名（近畿大学　2名、摂南大学　1名、武庫川女子大学　1名）

《業務量》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
処方箋枚数(外来)	8,149	7,292	7,603	6,818	7,010	6,702	6,785	6,865	6,387	6,623	6,647	6,836	83,717	6,976.4	85.2%
調剤数(外来)	21,066	18,889	19,580	17,674	17,770	16,805	16,828	17,161	15,382	16,396	16,631	17,093	211,275	17,606.3	82.3%
処方箋枚数(入院)	6,731	6,910	7,649	7,189	7,078	6,763	7,072	7,153	6,799	6,740	6,943	7,615	84,642	7,053.5	95.6%
調剤数(入院)	13,384	14,244	15,851	14,760	14,653	13,712	14,658	14,733	13,681	13,316	14,533	15,996	173,521	14,460.1	97.1%
注射本数	31,001	27,935	32,877	28,786	30,665	28,123	28,852	30,671	26,995	27,472	29,129	31,809	354,315	29,526.3	93.7%
無菌製剤処理件数	132	115	169	105	111	123	94	137	98	90	168	188	1,530	127.5	75.3%
悪性腫瘍製剤処理加算	206	196	209	221	243	238	234	225	229	220	236	216	2,673	222.8	116.2%
化学療法加算(A)	188	164	186	174	191	194	197	191	190	188	196	168	2,227	185.6	108.6%
化学療法加算(B)	47	44	53	45	51	50	49	59	58	52	49	47	604	50.3	104.3%
薬剤情報提供件数	7,816	7,028	7,376	6,651	6,808	6,513	6,679	6,674	6,205	6,343	6,418	6,641	81,152	6,762.7	86.1%
退院時指導件数	207	235	304	279	267	249	225	276	276	229	247	303	3,097	258.1	121.9%
薬剤管理指導件数(1救命)	1,054	1,109	1,206	1,139	1,220	1,060	1,102	1,191	1,062	1,068	1,152	1,100	13,463	1,121.9	107.1%
薬剤管理指導件数(I)	900	849	949	836	917	868	881	990	824	901	878	939	10,732	894.3	110.9%
薬剤管理指導件数(II)	1,954	1,958	2,155	1,975	2,137	1,928	1,983	2,181	1,886	1,969	2,030	2,039	24,195	2,016.3	104.8%
薬剤管理指導件数(合計)	1,770	1,805	1,900	1,815	2,002	2,005	1,887	2,046	1,800	1,977	2,031	2,047	23,085	1,923.8	105.8%

《薬剤管理指導件数の推移》



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2015年	1,692	1,690	1,872	1,858	1,753	1,869	1,951	1,817	1,805	1,872	1,830	1,817
2016年	1,770	1,805	1,900	1,815	2,002	2,005	1,887	2,046	1,800	1,977	2,031	2,047
2017年	1,954	1,958	2,155	1,975	2,137	1,928	1,983	2,181	1,886	1,969	2,030	2,039

4. 今後の目標

①臨床業務活動のさらなる充実をめざす。

②学会発表、論文発表を積極的に行い、リサーチマインドを追求する。

③スタッフの育成とともに資格取得ができる環境の構築する。

④医療制度改革に対応できるように組織の変革を常に継続する。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

31）放射線科

放射線科技師長　田中　政典

1. 概要

2017 年 5 月吹田病院に診療放射線技師 1 名の転勤、2017 年 12 月に診療放射線技師 1 名の退職があり、現在は診療放射線技師 28 名、事務員 1 名の体制となっております。

減員はありましたが、引き続き東大阪病院へ応援派遣を行いました。今後も放射線部会と緊密に連携し、徳洲会グループの超規模病院としての責務を全うして参ります。

検査実績としましては、昨年同様に近隣のクリニックや診療所より年間約 3,000 件の検査依頼を頂きました。今期は MRI 装置が新規導入された事により、従来の MR 装置と比べ画像の質が向上し、検査待ち日数の短縮や緊急検査対応も可能となりました。

また、救急搬送された脳卒中の患者様に対する緊急 CT・MRI 検査も多数行い、緊急の血栓除去術や血管塞栓術の治療に貢献できたと考えております。

学術面では、日本診療放射線技師会学術大会で 3 演題発表する事ができました。今後も個人能力向上と放射線科全体のレベルアップを目指し､学会等への積極的な参加を続けていきます。

治療、検査体制の充実を図り、安全に配慮しながら迅速に対応できるよう、また、地域に信頼される病院になれるよう、努力して参ります。

2. メンバー構成

診療放射線技師 28 名、事務員 1 名

有資格取得者

第 1 種放射線取扱主任者	田中政典、伊吹剛、井上竜太、斎藤里沙、久保省太
マンモグラフィ検診認定技師	田中政典、村尾信義、近藤浩司、山本峰好、川野友也、 疋田直子、斎藤里沙、安川莉愛、田中佑実子
胃がん検診認定技師	田中政典、琉秀光、近藤浩司、上甲実
肺がん CT 認定技師	近藤浩司
肺救急撮影認定技師	平野泰弘、小川宏明、有吉真志

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

3. 実績

《月別放射線科統計》

2017年	単純透視	ＣＴ	ＭＲ	ＲＩ	ＣＡＧ	ＤＳＡ	放射線治療	紹介件数	総件数
1月	7,350	2,537	803	112	57	34	370	193	11,456
2月	7,614	2,394	853	113	70	48	399	267	11,758
3月	7,825	2,603	936	88	64	54	452	280	12,302
4月	6,994	2,402	881	112	75	61	393	279	11,197
5月	8,625	2,623	915	83	68	47	273	276	12,910
6月	7,897	2,588	968	99	63	40	242	266	12,163
7月	7,552	2,507	952	87	48	48	298	281	11,773
8月	8,025	2,529	914	112	49	38	297	236	12,200
9月	7,454	2,430	864	82	69	35	221	272	11,427
10月	7,410	2,497	865	106	53	35	254	246	11,466
11月	7,363	2,417	806	138	59	34	232	250	11,299
12月	7,644	2,501	884	92	51	29	211	240	11,652
合計	91,753	30,028	10,641	1,224	726	503	3,642	3,086	134,875
平均	7,646	2,502	887	102	61	42	304	257	11,240

4. 今後の目標

CT･血管撮影･一般撮影装置等の新規装置の導入により診断精度及び治療成績の向上に努め、引き続き予防医療や地域貢献を目指します。

また、個人能力の向上のため、勉強会への積極的な参加や資格の取得に努めて参ります。

32）臨床検査科

臨床検査科副技師長　松田　治恵子

1. 概要

臨床検査科において人員・機器などが充実する中で、病院全体の医療の質を支える部門として病理検査や院内感染対策に関わる細菌検査の業務量が毎年増加し続けている。

生理検査では教育体制を見直し、心臓・腹部超音波検査・各種検査の人材育成や臨床との連携を図るため症例検討会への参加を積極的に行なってきた。また、慢性疾患に対する合併症検査を実施していくために、糖尿病外来におけるチーム医療の中で外来パスを稼働させることが出来た。これにより、定期受診での合併症早期発見が可能となった。

今年度の目標「技師育成に関する充実」に関しては、全国学会で３演題の発表と、各種資格試験に３名合格することができた。また、病理常勤医師が１名配属されたことにより、安定した業務の拡充と技師の育成が可能となった。

「臨床支援・他部署との連携」においては徳洲会グループ内 (松原・近江草津・生駒) 応援に尽力し、チーム医療においては ICT で問題となっていた結核患者の早期発見に対して TRC を導入し、検査を毎日実施する事で接触者暴露のリスク軽減と専門病院への早期転院が実現された。

学生実習に関しては大学１校 (2 名) 専門学校２校 (4 名) の受け入れを実施することができた。

2. メンバー構成

・臨床検査技師　35 名（＊他非常勤技師１名、採血コーナー非常勤看護師１名）
・視能訓練士　　4 名　　合計：41 名

3. 実績

1）資格試験合格者

・超音波検査士　循環器１名（村山技師）、消化器２名（中川技師・當房技師）

2）実習生受け入れ

・日本医療学院専門学校　　２名（4 ヶ月）
・大阪医療技術学園専門学校　２名（6 ヶ月）
・関西医療大学　２名（3 ヶ月）

3）機器更新

・迅速マイコ（DRI-CHEM IMMUNO AG1）
・パラフィンクリーナーヒストテック
・TRCReady-80　２式
・ホルタ記録器（防水タイプ）FM-960　２台
・細菌検査室　薬用冷蔵ショーケース（MPR-1014R-PJ）
・多項目自動血球分析装置　ADVIA2120i　　２式
・超音波診断装置　Aplio400　　２式
・ハイローベッド　３台

・液状化献体細胞診標本作製装置　ThinPrep5000 プロッセサ

・ミクロトーム（テイッシュテック　フェザー　トラストーム､テイッシュテック　パラフィン伸展器）

4）検査統計・推移（下記参照）

4. 今後の目標

1）超音波検査室の技師育成と、病理部の細胞検査士育成を部署全体でサポート
時間外検査の充実を図る

2）採血および生理検査の待ち時間対策（システム対応）

<2017 年　月別検査統計>

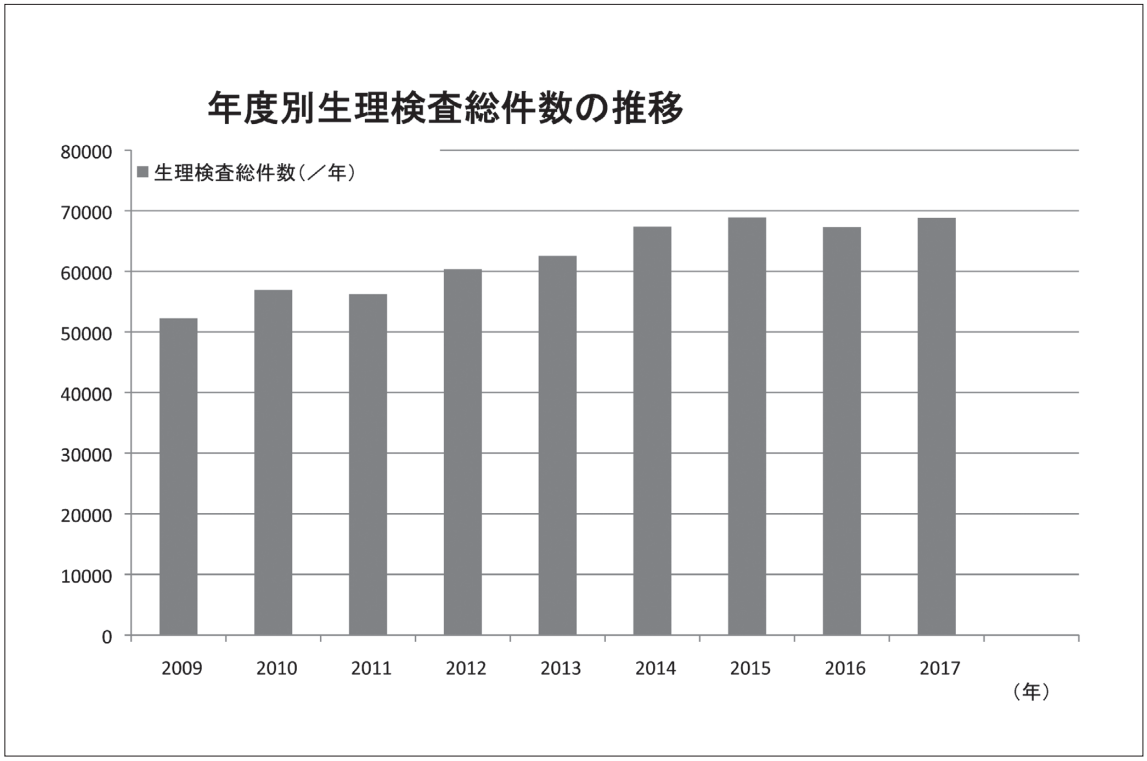
（件数）

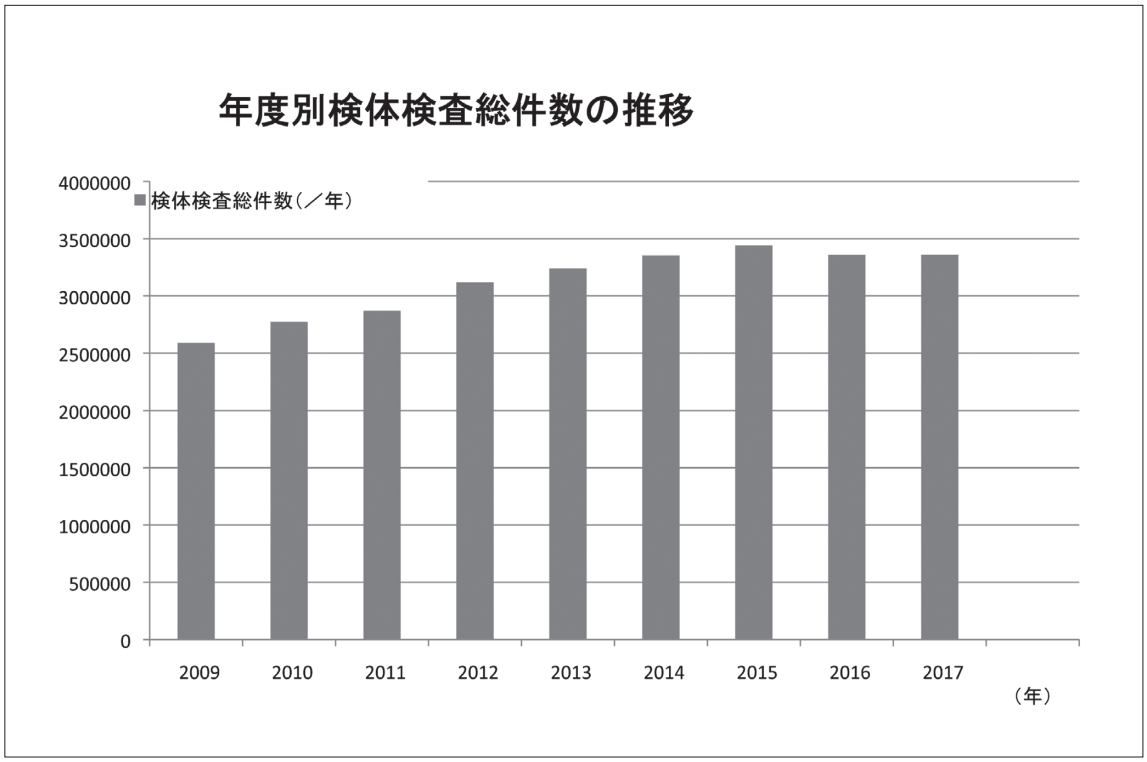
項目 / 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
一般	37,498	34,731	39,662	36,711	38,876	40,852	41,526	41,427	39,287	40,676	38,422	40,419	470,087	39,173.9
血液	63,519	58,972	67,853	62,689	71,072	66,138	67,479	70,682	66,616	66,192	66,233	65,819	793,264	66,105.3
微生物	6,335	5,472	6,346	5,712	6,483	6,008	6,052	6,372	6,087	6,155	6,468	6,790	74,280	6,190.0
免疫	16,343	14,725	16,135	15,125	16,361	15,870	15,148	15,838	14,638	15,174	14,857	16,693	186,907	15,575.6
生化学	144,123	131,886	150,276	138,459	154,928	147,610	151,249	154,883	147,314	144,417	146,873	147,195	1,759,213	146,601.1
病理	516	483	516	431	557	611	532	535	526	639	602	540	6,488	540.7
細胞診	948	837	960	904	999	1,036	1,133	1,209	1,027	1,052	889	1,248	12,242	1,020.2
外注合計	4,898	4,434	5,298	5,353	4,984	4,998	5,380	4,513	4,772	4,520	4,351	4,901	58,402	4,866.8
検体合計	274,180	251,540	287,046	265,384	294,260	283,123	288,499	295,459	280,267	278,825	278,695	283,605	3,360,883	280,073.6
外注比率	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	21	1.7
腹部エコー	775	741	900	782	899	964	924	957	977	926	978	884	10,707	892.3
心エコー	770	757	802	788	781	782	753	779	677	697	722	672	8,980	748.3
他エコー	496	504	579	418	575	588	513	503	539	559	514	538	6,326	527.2
生理合計	5,107	5,208	5,878	5,321	5,889	6,262	6,202	6,166	5,968	5,832	5,636	5,361	68,830	5,735.8
月間検査合計	279,287	256,748	292,924	270,705	300,149	289,385	294,701	301,625	286,235	284,657	284,331	288,966	3,429,713	285,809.4

（点数）

項目 / 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
一般	233,625	213,623	243,277	223,551	254,507	284,787	299,282	298,832	280,732	289,407	277,704	270,917	3,170,244	264,187.0
血液	894,339	821,725	938,071	867,930	927,154	922,101	926,918	962,903	919,128	872,305	916,823	917,079	10,886,476	907,206.3
微生物	851,055	741,012	859,986	764,912	881,240	816,331	805,400	850,740	822,211	837,107	873,702	904,875	10,008,571	834,047.6
免疫	875,650	783,060	807,908	743,641	805,289	805,198	737,157	758,337	699,444	737,887	736,384	880,918	9,370,873	780,906.1
生化学	2,068,475	1,892,678	2,155,558	2,001,951	2,230,057	2,057,107	2,140,962	2,162,627	2,092,946	2,073,273	2,158,876	2,141,083	25,175,593	2,097,966.1
病理	473,150	445,750	493,560	400,180	517,900	577,280	494,550	479,070	480,960	577,650	550,110	497,970	5,988,130	499,010.8
細胞診	139,212	124,176	144,874	133,871	146,551	147,780	155,049	165,913	139,339	147,629	155,733	158,012	1,758,139	146,511.6
外注合計	873,093	802,476	1,048,363	1,092,219	953,705	887,289	1,053,753	848,636	923,682	853,276	828,106	884,039	11,048,637	920,719.8
検体合計	6,408,599	5,824,500	6,691,597	6,228,255	6,716,403	6,497,873	6,613,071	6,527,058	6,358,442	6,388,534	6,497,438	6,654,893	77,406,663	6,450,555.3
外注比率	14	14	16	18	14	14	16	13	15	13	13	13	171	14.3
腹部エコー	414,280	395,400	478,470	418,400	484,270	519,020	499,170	514,610	527,460	505,030	530,540	479,670	5,766,320	480,526.7
心エコー	677,600	666,160	704,880	693,440	696,580	690,020	664,500	690,480	599,480	619,560	637,220	593,220	7,933,140	661,095.0
他エコー	227,550	236,250	270,650	214,200	276,850	291,600	257,550	249,450	268,050	278,650	254,700	263,700	3,089,200	257,433.3
生理合計	1,846,510	1,863,120	2,077,290	1,902,410	2,053,470	2,167,610	2,094,250	2,124,970	2,021,480	2,035,130	2,021,080	1,884,690	24,092,010	2,007,667.5
院内検査合計	8,255,109	7,687,620	8,768,887	8,130,665	8,769,873	8,665,483	8,707,321	8,652,028	8,379,922	8,423,664	8,518,518	8,539,583	101,498,673	8,458,222.8

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140


年度別生理検査総件数の推移
80000
70000
60000
50000
40000
30000
20000
10000
0
■生理検査総件数（／年）
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
（年）


年度別検体検査総件数の推移
4000000
3500000
3000000
2500000
2000000
1500000
1000000
500000
0
■検体検査総件数（／年）
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
（年）

33）リハビリテーション科（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）

リハビリテーション科室長　野村　日呂美

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

1. 概要

2017 年は老人保健施設徳洲苑の人員不足に対して 6 月より応援を行った。

急性期病院の臨床現場を伝えていく事と、新人を獲得する事を目的に実習生を 16 名（理学 9 名、作業 4 名　言語 3 名）と例年より数多くの受け入れを行った。

言語療法部門では日曜日に入院した患者様が、滞りなく食事開始できるように言語療法日曜出勤を開始した。

チーム・委員会に関しては、心肺・DM・整形・脳外・訪問・リウマチ・手の外科、NST、緩和ケア、創傷外来など、チーム内で療法士の専門性を活かし活動している。その中で患者治療の成績分析を行い、各チーム・委員会等での学術発表を多数行った。近隣の病院との連携強化として理学療法士協会中河内ブロックへの活動を通して会議・交流会・勉強会等、地域の中核病院としての役割を果たす努力も継続して行っている。

2. メンバー構成（次項参照）

3. 実績（次項参照）

4. 今後の目標

2018 年度は診療報酬改訂に向けての対応をリハビリ医師と共に検討していきたい。

【理学療法】

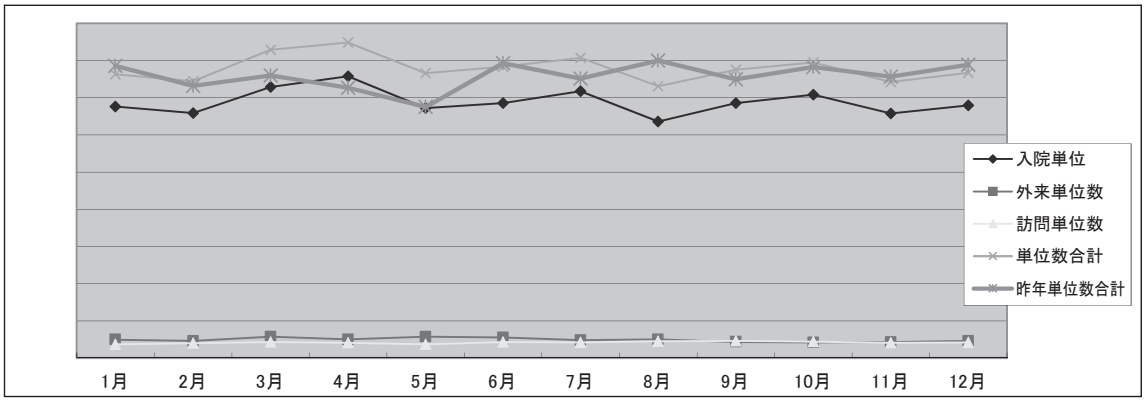
① 人事

長谷川　静	4/1	入職
雪井　美穂	4/1	入職
佐藤　愛生	6/1～翌年5月	老人保健施設応援

② 実績

Ⅰ.業務量

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院単位	6,767	6,590	7,285	7,577	6,717	6,853	7,173	6,356	6,854	7,086	6,578	6,796	82,632	6,886.0
外来単位数	496	462	576	500	573	552	479	502	434	422	433	460	5,889	490.8
訪問単位数	370	394	431	408	368	426	422	451	460	443	410	418	5,001	416.8
単位数合計	7,633	7,446	8,292	8,485	7,658	7,831	8,074	7,309	7,748	7,951	7,421	7,674	93,522	7,793.5
昨年単位数合計	7,853	7,316	7,593	7,264	6,751	7,932	7,519	7,998	7,495	7,829	7,571	7,882	91,003	7,583.6



Ⅱ.実習生受け入れ	期間	学年	
＜検査測定実習＞			
関西福祉科学大学	1/16～2/18	3年	1名
大阪医専	2/13～2/20	1年	1名
神戸学院大学	9/18～10/6	3年	1名
＜臨床実習＞			
奈良リハビリテーション専門学校	4/10～6/2	3年	1名
	8/21～10/13	3年	1名
大阪医療福祉専門学校	6/5～7/29	3年	1名
四條畷学園大学	8/14～10/4	4年	1名
大阪医専	8/28～10/21	4年	1名
	10/23～11/18	4年	1名

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

Ⅲ.地域連携

上田哲也　　大阪府理学療法士協会　中河内ブロック　学術部副部長
服部玄徳　　大阪府理学療法士協会　中河内ブロック　学術部部員
上田哲也　　八尾柏原連絡協議会

Ⅳ.外部講師派遣

野村日呂美　大阪医専【作業療法】

【作業療法】

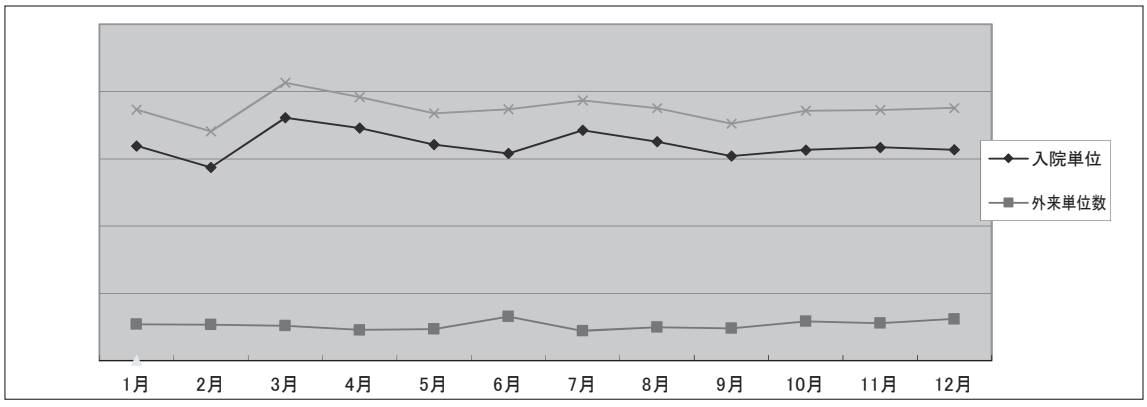
① 人事

5名在籍　本年入退職なし

② 実績

Ⅰ.業務量

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院単位	1,596	1,437	1,806	1,730	1,605	1,541	1,712	1,628	1,521	1,566	1,585	1,568	19,295	1,607.9
外来単位数	270	267	260	228	234	327	222	248	240	292	278	310	3,176	264.7
単位数合計	1,866	1,704	2,066	1,958	1,839	1,868	1,934	1,876	1,761	1,858	1,863	1,878	22,471	1,872.6
平均	373.2	340.8	413.2	391.6	367.8	373.6	386.8	375.2	352.2	371.6	372.6	375.6	4,494.2	



Ⅱ.実習生受け入れ

	期間	学年	
大阪医専	2/6～2/11	1年	1名
大阪河崎リハビリテーション大学	2/6～2/25	3年	1名
大阪医療福祉専門学校	8/28～11/4	4年	1名
関西福祉科学大学	9/25～10/27	3年	1名

【言語聴覚療法】

① 人事

新原未菜美　4月入職

前田理沙　　4月入職

② 実績

Ⅰ.業務量

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院単位	1,374	1,220	1,260	1,501	1,371	1,501	1,617	1,720	1,559	1,683	1,760	1,826	18,392	1,532.7
外来単位数	386	375	331	305	316	326	327	368	308	364	385	334	4,125	343.8
患者数合計	264	258	266	252	251	250	225	252	220	253	252	268	22,517	250.8

Ⅱ.実習生受け入れ　　期間

大阪医療技術学園専門学校	5/22～7/14	臨床実習
神戸医療福祉専門学校	9/4～9/22	見学実習
大阪医専	8/28～10/11	臨床実習

【心臓リハビリテーション】

① 概要

新規患者数、単位数ともに昨年より増加、入院患者様への介入が積極的に出来たが、退院後の外来継続が不十分で外来患者数は前年度より減少。入院患者様では運動療法の介入頻度を増やし質の高い心臓リハビリテーションを実践。他院からの紹介による外来心臓リハビリ患者数は年々増加傾向にある。

② メンバー構成

医師　　迫田慎一郎、入江寛、中尾佳永、藤本忠男、辻庸行

理学療法士　片田理恵、難波智矢、小林翔太、池田祥吾

臨床検査技師　森文子、戸野川始、村山宏之、西岡徹、山内麻實、楠田愛

③ 実績

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	497	643	717	599	629	618	527	513	585	470	660	613	589.3
単位数	762	979	1,048	872	979	959	844	807	920	723	1,030	978	908.4

外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	34	33	35	46	50	51	32	22	23	22	21	29	33.2
単位数	57	53	62	78	82	84	53	43	38	40	38	48	56.3

入外合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	531	676	752	645	679	669	559	535	608	492	681	642	622.4
単位数	819	1,032	1,110	950	1,061	1,043	897	850	958	763	1,068	1,026	964.8
新患数	67	93	87	80	75	61	84	66	66	47	111	64	75.1

④　今後の目標

外来患者数の増加。

他院からの外来心臓リハビリ患者の積極的な受け入れ、心肺運動負荷試験の積極的な実施。

集団での患者指導の導入。

薬剤科　84
放射線科　87
臨床検査　89
リハビリ　92
臨床工学　97
栄養科　102
治験セン　105
医療福祉　111
病診連携　115
健診セン　124
情報シス　125
ゲノム　127
保育室　129
がん相談　131
医療安全　134
臨床腫瘍　140

34）臨床工学科

臨床工学科技士長　藤田　和睦

1. 概要

1）人工透析

・昨年と比較して、総透析件数は823件増加した。ICUや透析室内個室での透析件数の増加が目立った。特殊血液浄化は、持続透析（CHDF）が微増（17件）した。腹水濃縮濾過の増加（26件）が目立った。

・ICU透析、持続透析の効率的な対応をする為、個人用透析装置と水処理装置、持続透析装置を新規購入し各々2台体制にした。結果、効率的なICU透析や持続透析を施行する事が可能になった。

・本年も継続して透析液の水質管理を継続的に行う事が出来た。

・他透析施設の設備トラブルによる患者様の受け入れを行い、2施設で合計35名の透析患者様の臨時対応を行った。

2）内視鏡

・消化器内視鏡検査件数は、昨年とほぼ同数であった。治療分野ではポリープ切除術が79件の増加となった。その他各種治療は軒並み同数であった。

・気管支鏡分野では、超音波を使用した手技が増加した。

・取り組みとして内視鏡治療介助者の育成や消化器内視鏡、気管支鏡の故障予防に注力した。結果、全体の故障額は減少した。特筆事項としてポータブル気管支鏡、超音波内視鏡の故障件数は0件であった。

・新しい取り組みとして、スコープの鉗子口内の観察やテープ糊の付着などを行なった。現在継続中ではあるが、前例の無い学会発表演題を得る事が出来た。

3）手術室

・鏡視下手術件数は26件増加、ラジオ波対応件数は8件減少した。

・取り組みとして、早出業務の増員、医療機器点検業務の充実（フットポンプや麻酔器）、他業務への応援や技術習得を行った。

・本年も継続して麻酔器の使用前・定期点検ならび回路交換を行った。結果、異常の早期発見及びトラブルの減少につなげる事が出来た。

4）人工心肺

・人工心肺件数は35件（昨年より6件減少）であったが、OPCABやTEVAR,EVAR等の緊急手術に対応出来るように努めた。

・取り組みとして、人工心肺業務を常時3名体制で行なう事により、人材育成にも努めた。

・大阪大学心臓血管外科関連施設として、外部への関わりにも積極的に行っている。

5）心臓カテーテル

・本年の総カテーテル件数は、943件と前年より35件の減少となった。治療件数も30件の減少となった。緊急カテ件数は125件と25件の増加となり、緊急対応の比重が多くなった。

・教育面では、新人教育を主とし、人材育成をしながら手技への対応を行う事ができた。

6）呼吸器・機器管理

・NPPVの使用件数は2,632件と昨年と変わらない件数であった。ベンチレーターの使用件数が1,688件と前年より大幅に減少（457件）した一方でネーザルハイフローの使用件数が、468件と大幅に増加（326件）した。

・取り組みとして、使用前点検表をリニューアルし、点検効率が大幅に上昇した。定期点検も実施する事が出来、安全性を確保出来た。

・ME機器管理に関しては、各種ME使用前点検数が軒並み増加したが、使用が多くても速やかに対応出来た。

・設備については、V60及びAirvoの追加導入を行い、機器の充実を図るとともに、現存する呼吸器の経年劣化を考慮し、更新のための試用を積極的に実施した。

7）救急車

・救急車の使用件数は5件にとどまったが、患者様の搬送や受け入れ時にトラブル無く対応を行った。

・件数低下によるスタッフへの搬送時対応の教育が今後必要である。

2. メンバー構成

スタッフは過去最高の 15 名となり、労働環境の改善や対応力強化につながった。

藤田　4 月より技士長昇格。

杉山　4 月より副主任昇格。

入職者（4/1 付）

今堀　野間　森本　鄧　岡本　三原　中筋の計 7 名

退職者

片山技士	2/15 付退職	藤里技士	2/28 付退職
倉田技士	3/31 付退職	田中技士	3/31 付退職
高橋技士	3/31 付退職		

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

3. 実績

《月別業務量集計》

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
心臓カテーテル	CAG	29	36	34	41	34	29	29	34	35	32	33	30	396
	LVG		1	2	1	1	0	0	2	0	1	4	1	13
	PCI	16	34	30	33	31	27	18	15	27	17	21	13	282
	RA	1	5	4	2	4	2	1	0	1	1	2	0	23
	PTA	10	18	19	28	20	20	26	8	11	14	6	9	189
	T-PM	4	5	2	0	2	2	2	0	5	2	6	2	32
	P-PM	2	3	1	2	1	5	1	2	2	2	5	3	29
心臓血管外科	人工心肺使用症例(開胸)	0	2	4	5	7	2	1	5	1	5	2	0	34
	人工心肺不使用症例(開胸)	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
	人工血管置換手術(開腹等)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	3
	自己血回収装置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	EVER	3	2	3	3	1	5	7	0	1	0	4	2	31
	TEVER	0	0	0	0	1	1	0	2	1	0	0	0	5
人工透析	HD(外来)	844	806	932	796	887	936	865	891	851	846	825	793	10,272
	HD(入院)	298	223	316	401	389	238	285	193	169	212	266	253	3,243
	CHDF	19	19	12	30	33	15	15	4	10	2	13	15	187
	血漿交換・血漿吸着	0	0	0	0	6	0	0	0	0	2	0	0	8
	腹水濃縮	2	1	1	1	2	3	4	5	4	2	5	4	34
	PMX	3	1	1	2	0	0	0	1	0	0	2	1	11
	LDL	0	4	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
内視鏡	胃カメラ	436	425	483	462	449	519	489	503	481	493	479	454	5,673
	CF	212	205	234	202	192	244	237	270	202	232	223	188	2,641
	内視鏡的止血術	9	6	7	9	14	7	12	6	13	9	5	13	110
	食道・胃静脈瘤硬化療法	1	1	4	3	0	5	0	4	6	3	5	8	40
	拡張術	1	3	2	1	4	3	0	0	0	1	2	9	26
	ポリペクトミー・EMR	37	37	37	22	22	45	30	34	34	43	46	28	415
	ESD	9	8	5	8	8	11	3	7	7	6	5	8	85
	EUS(消化器・気管支鏡含)	17	9	15	10	11	8	8	11	14	11	4	11	129
	EUS−FNA(消化器・気管支鏡含)	5	5	2	2	4	3	3	5	4	3	3	6	45
	上部・下部ステント、イレウス管挿入	8	7	4	1	1	4	3	3	1	5	4	8	49
	PEG	3	4	3	14	6	6	5	5	7	4	4	2	63
	ERCP	19	17	33	29	19	34	32	28	35	31	37	23	337
	ERBD,ENBD	14	17	22	17	13	22	19	19	21	21	26	15	226
	EST	8	7	13	11	11	16	10	10	19	14	12	13	144
	BF	16	13	19	19	18	22	13	14	23	13	26	13	209
呼吸管理	人工呼吸器	198	149	181	111	128	134	164	128	86	130	170	110	1,689
	NPPV(Bipap.CPAP)	279	196	361	295	207	134	157	155	169	141	268	270	2,632
	NHF	42	43	43	8	20	30	13	103	41	13	75	37	468
補助循環	PCPS	1	2	0	0	1	0	10	7	1	0	0	0	22
	IABP	0	0	0	0	4	0	13	7	0	0	4	9	37
	ECMO	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
メンテナンス	輸液ポンプ	332	331	384	396	400	315	310	329	345	313	427	426	4,308
	シリンジポンプ	172	199	279	206	204	192	188	177	230	173	222	304	2,546
	除細動器	523	484	509	512	487	504	505	535	503	504	503	520	6,089
	麻酔器	140	133	161	140	140	154	140	161	133	147	140	140	1,729
	人工呼吸器	406	310	488	324	291	222	356	318	282	293	358	338	3,986
	内視鏡装置	843	920	1,006	960	976	813	995	1,113	977	1,016	1,005	1,046	11,670
	フットポンプ	168	185	180	159	104	187	166	177	196	198	236	221	2,177
	低圧持続吸引器	40	57	56	42	67	37	41	38	30	45	49	31	533
その他	救急車搬送同乗	2	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	5

認定士取得状況

体外循環認定士	藤田、杉本
呼吸療法認定士	藤田、藤村、杉山
透析技術認定士	藤田、中西、杉山
消化器内視鏡技師	中西、杉山

委員会活動

医療安全委員会	藤田技士長	院内感染対策委員会	藤田技士長
医療安全カンファレンス	藤田技士長		
透析機器管理委員会	藤田技士長、藤村副主任、三原技士		
治験委員会	藤田技士長	医療ガス安全管理委員会	藤田技士長
災害対策委員会	中西主任	院内感染対策チーム	藤村副主任
システム委員会	杉山副主任	SM 会議	杉本副主任

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

部会活動

関西大阪ブロック ME 部会

1/28　出席者　藤田

7/1　出席者　藤田

11/26　CE セミナー　10 名参加

資産管理システム会議

1/17、1/31、2/21、3/7、3/28　出席者　藤田

医療機器管理システム会議

2/3、4/14、6/15、 出席者　藤田

その他

5/18　就職セミナー　参加者　藤田

学会発表

7/15、16　人工臓器セミナー発表　杉本、長谷川

学会、講習会等参加状況

7/29	岸和田病院災害訓練	藤田
9/2	周術期管理者セミナー	藤田
10/11 ～ 13	透析装置メンテナンス講習会	三原
10/13、14	日本腎臓学会西部大会	藤田
10/21	徳島文理大学臨床工学科講演	三原
11/13	医療機器講習会講師	藤田

1/28、12/17　大阪大学体外循環技士懇話会（PUSCAR）藤田、杉本、長谷川

学生実習・研修・病院見学会

学生実習

藍野大学

6/1 ～ 7/14　2 名

大阪ハイテクノロジー専門学校

1/11 ～ 2/21　2 名　5/15 ～ 6/26　2 名

11/2 ～ 12/15　2 名

日本メディカル福祉専門学校

10/10 ～ 11/17　1 名

大阪医専

1/16 ～ 2/10　1 名　2/13 ～ 3/3　1 名

交換研修

10/3 ～ 10/5　松原徳洲会病院　植木技士

業務見学

6/21　人工心肺業務見学　宇治徳洲会病院　太田技士長、前田技士、竹吉技士

病院見学会

1/13　日本メディカル福祉専門学校　14 名

1/20　日本メディカル福祉専門学校　13 名

5/16	大阪滋慶学園　上海学校	16 名
5/18	大阪滋慶学園　上海学校	16 名

4. 今後の目標

・各部門のスタッフ教育環境の推進
・新システムを利用したME機器管理システムの運用
・装置導入による安定した医療機器の提供
・学会発表や講習会のより積極的な参加
・より質の高い医療機器保守管理

35）栄養科

栄養科副室長　小山　洋史

薬剤科　84
放射線科　87
臨床検査　89
リハビリ　92
臨床工学　97
栄養科　102
治験セン　105
医療福祉　111
病診連携　115
健診セン　124
情報シス　125
ゲノム　127
保育室　129
がん相談　131
医療安全　134
臨床腫瘍　140

1. 概要

栄養科の基本方針として、安全で喜ばれる食事、病状に応じた適切な食事を提供するを基本方針に運営している。

2017 年は 4 月から委託給食から直営給食に切り替え給食部門を運営し、より良いきめ細かな食事提供を目標に運営してきた。食数は前年と比べほぼ横ばいであったが、ペースト食や極軟菜食、濃厚流動食は、それぞれ約 200 食増加しており、高齢者、または摂食困難で個人対応の多い患者様が多く、社会問題とされる高齢化が食事内容の食数からも読み取れる。当科も患者様の高齢化による個人の嗜好や食事形態の細分化や病態特有の食思不振や低栄養などにも対応できるように献立の検討、改善などを日々行ってきた。

また患者様の栄養管理も前年に引き続き、チーム医療での栄養サポートや入院、外来患者様の栄養指導を積極的に行い、前年よりも 1 人当たりの栄養指導件数も増加した。

その他、2018 年の診療報酬の改定では、癌などの疾患による食思不振や低栄養患者の為の食事支援の加算が新設される予定で、当科も 10 月より低栄養患者用の食種の新設を管理栄養士と調理師とで行ってきた。

2. メンバー構成

2017 年 1 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日
管理栄養士　　7 名（栄養サポートチーム専従内 1 名）
給食委託会社（病院食従事）
管理栄養士　　2 名
調理師　　10 名
調理補助　　16 名
給食委託会社（職員食・9 階レストラン従事）
調理師　　2 名
調理補助　　8 名

平 2017 年 4 月 1 日～ 2017 年 12 月 31 日
管理栄養士　　9 名（栄養サポートチーム専従内 1 名）
調理師　　13 名
調理補助　　25 名

3. 実績

≪実習生受け入れ≫
大手前栄養製菓学院　　2017 年 1 月 22 日～ 2 月 9 日　　2 名

≪食数≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般食	16,138	15,056	16,090	14,879	14,537	14,877	15,681	14,252	13,637	14,428	12,681	15,936	178,192	14,849
特別食	12,797	12,198	13,525	13,620	13,540	11,589	12,269	12,471	11,754	10,990	10,204	12,393	147,350	12,279
職員食	4,776	5,642	6,036	5,870	6,020	6,203	6,224	6,074	5,902	6,306	6,014	6,209	71,277	5,940
保育所	679	621	783	509	442	363	426	619	474	523	514	706	6,659	555
病児後保育	87	84	102	85	79	109	87	71	76	81	79	61	1,001	83
付き添い食	5	0	0	7	2	2	0	41	4	7	0	6	75	6
合計	34,482	33,602	36,536	34,970	34,620	33,144	34,687	33,528	31,847	32,335	29,492	35,311	404,554	33,713

≪病院食内訳≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
常食	5,927	5,652	4,984	4,746	5,493	5,682	6,534	5,497	4,818	5,608	5,524	5,591	66,056	5,505
軟菜食	2,514	3,508	3,589	3,190	3,049	2,704	3,046	2,977	3,111	3,196	2,733	3,968	38,585	3,215
極軟菜食	2,454	2,379	2,883	3,456	3,196	3,147	3,350	3,432	3,159	2,843	2,937	2,575	35,811	2,984
ペースト食	622	341	416	559	513	461	571	713	775	750	548	955	7,224	602
流動食	408	253	494	307	499	280	221	354	368	351	233	421	4,189	349
学童食	101	55	71	79	73	28	129	122	97	75	98	58	986	82
幼児食	37	58	108	81	56	69	63	47	58	25	53	60	715	60
離乳食	0	0	0	15	11	28	0	2	20	4	20	14	114	10
糖尿食	3,332	3,157	3,765	3,711	3,823	3,254	2,988	3,434	3,075	2,455	2,964	3,294	39,252	3,271
心臓食	2,145	2,673	2,212	2,085	1,995	1,926	2,145	2,126	2,522	2,545	2,629	2,333	27,336	2,278
高血圧食	2,010	1,897	1,883	1,972	1,876	1,966	2,142	1,776	1,421	1,657	1,739	2,284	22,623	1,885
腎臓食	1,142	1,467	1,622	1,394	877	572	741	1,174	693	725	989	1,332	12,728	1,061
透析食	1,138	602	754	1,374	1,390	725	675	393	502	722	505	522	9,302	775
糖尿透析食	434	444	624	720	500	631	684	225	333	512	648	439	6,194	516
高脂血症食	152	21	319	173	125	164	34	55	132	55	140	84	1,454	121
低脂肪食	452	370	429	239	400	286	508	446	696	649	486	390	5,351	446
肝臓食	329	356	375	437	270	276	203	513	239	156	116	402	3,672	306
肝不全食	134	175	288	391	414	517	300	174	52	5	25	81	2,556	213
貧血食	132	103	91	4	1	0	1	0	0	0	1	0	333	28
低残渣食	616	494	482	438	579	700	831	682	746	825	554	813	7,760	647
潰瘍食	285	312	175	325	405	252	449	410	255	331	139	330	3,668	306
胃切後食	138	130	231	109	175	39	63	107	59	22	107	117	1,297	108
クローン食	0	0	0	0	30	63	24	0	0	27	0	0	144	12
カテ食	3	9	8	10	4	0	5	10	7	2	43	1	102	9
注腸検査食	3	2	4	0	0	1	4	2	0	4	3	3	26	2
顎間固定食	29	0	9	81	114	23	7	12	62	3	10	64	414	35
訓練食	189	159	181	148	149	171	123	194	160	173	162	172	1,981	165
濃厚流動食	2,232	1,933	2,515	2,213	1,761	1,957	1,637	1,435	1,876	1,676	1,984	1,961	23,180	1,932
その他(単品食等)	1,417	899	1,458	861	803	1,013	870	955	813	761	672	1,176	11,698	975
合計	29,375	27,449	29,970	29,118	28,581	26,935	28,348	27,267	26,049	26,157	26,062	29,440	334,751	27,896

≪栄養指導件数≫

栄養指導件数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
外来	204	177	184	196	301	253	336	220	213	193	223	249	2,749	229
入院	285	217	201	253	209	289	208	338	329	349	408	379	3,465	289
集団	0	4	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	6	1
合計	489	394	385	449	510	542	544	558	542	542	631	628	6,214	518
管理栄養士一人当たりの栄養指導件数	97.8	98.5	96.3	74.8	85.0	90.3	90.6	93	105.8	90.3	90.1	89.7	1,102.2	91.9

4. 今後の目標

がんをはじめ、緩和医療や高齢化社会など益々多様化する医療ニーズへの対応が今後必要となってくる。また、食の安全と喜ばれる食事の提供や栄養療法の提供の為に、医師・看護師等のメディカルスタッフ、各チームや地域との連携強化を図り情報を共有し、患者様の低栄養対策や早期栄養アプローチにより栄養状態の改善を目指す。さらに十分な栄養管理の継続により生活習慣病の素因となる栄養過多等の介入にも積極的に実施する。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

36）治験センター

治験センター　加藤　美和

1. 概要

一昨年からの積極的な治験の受託へ向けての活動は、各科の先生方の協力のもと継続してきたが、受託可能案件が少なかったこと、治験センター内の退職が相次いだことで、昨年度新規治験受託数７件から、今年度は５件へと減少した。

しかし、２名となったメンバーで、継続している案件を合わせた計 15 件の治験を担当し、売り上げは４名体制で掲げた目標数値を達成出来る見込みである。その分、一人にかかる業務量が増えたため、協力機関からの CRC 応援、院内からの事務補助応援を受けることになった。

また、薬局長が治験センター長を兼任することになり、今年度の目標とした業務体制の再構築の実現が近づいたと思われる。

2. メンバー構成

治験センター長（兼任）１名、専任 CRC ２名（看護師、臨床検査技師）
治験事務局補助業務担当者１名、治験補助兼任者（薬剤師３名、臨床検査技師１名）
不定期・期間限定応援 CRC（未来医療研究センター１名、高砂西部病院１名）

3. 実績

①スタートアップミーティングなど

２月 23 日	高カリウム血症（用量反応）試験 プロトコール説明会（Web 会議）
３月 15 日	高カリウム血症（Harmonize）試験 責任者会議
３月 17 日他	高カリウム血症（Harmonize）試験 スタートアップミーティング
５月 15 日他	高カリウム血症（用量反応）試験 スタートアップミーティング
８月 18 日他	高カリウム血症（長期投与）試験 スタートアップミーティング

②治験依頼者施設調査訪問

２件　　腎性貧血（透析期）

③研修会・学会・参加

- 2/4　　治験推進地域連絡会議（大阪府医師会館）
- 5/27-28　全国臨床試験部会　責任者会議
- 7/19　　GCP新指針研修・宇治Hp（未来医療研究センター主催）
- 8/26　　臨床試験部会　実務者会議
- 9/9　　臨床試験部会　CRCのための交渉力実践講座
- 10/14　　西日本ブロック　責任者会議
- 11/30　　大阪府医師会治験セミナー（大阪府医師会館）
- 12/8-10　第38回日本臨床薬理学会学術総会

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

【治験】

受託治験　新規案件　　2017 年度契約

実施診療科・責任医師	契約症例数	対象疾患・フェーズ	予定期間
内科・原田博雅	3 例	高カリウム血症・第Ⅱ / Ⅲ相用量反応試験	2017 年 3 月 3 日～ 2018 年 3 月 31 日
内科・原田博雅	3 例	高カリウム血症・第Ⅲ相	2017 年 1 月 25 日～ 2018 年 3 月 31 日
内科・原田博雅	4 例	高カリウム血症・第Ⅲ相長期投与試験	2015 年 4 月 27 日～ 2019 年 9 月 30 日
血管透析内科・申勝	1 例	腎性貧血・第Ⅲ相（J03）	2018 年 2 月 28 ～ 2020 年 4 月 30 日
血管透析内科・申勝	3 例	腎性貧血・第Ⅲ相（J04）	2018 年 2 月 28 日～ 2019 年 10 月 31 日

受託治験　実施中（新規・終了案件含まず）　　2017 年 12 月 31 日現在

実施診療科・責任医師	契約症例数	対象疾患・フェーズ	予定期間
循環器内科・迫田慎一郎	1/6 例	脂質異常症・第Ⅲ相	2016 年 3 月 1 日～ 2018 年 2 月 8 日
循環器内科・迫田慎一郎	15/20 例	CV リスクを有する 2 型糖尿病・第Ⅲ相→第Ⅳ相	2013 年 10 月 1 日～ 2019 年 6 月 30 日
形成外科・綾部忍	4/4 例	下肢潰瘍を有する閉塞性動脈硬化症・第Ⅲ相	2015 年 5 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日
呼吸器内科・原田博雅	0/2 例	喘息・第Ⅲ相（2301）	2016 年 4 月 22 日～ 2018 年 11 月
呼吸器内科・原田博雅	0/2 例	喘息・第Ⅲ相（2302）	2016 年 5 月 1 日～ 2018 年 11 月
呼吸器内科・原田博雅	1/1 例	COPD・第Ⅲ相	2016 年 4 月 22 日～ 2018 年 3 月 31 日
血管透析内科・申勝	11/11 例	腎性貧血・第Ⅲ相	2016 年 12 月 26 日～ 2018 年 11 月 30 日

受託治験　終了　　2017 年 12 月 31 日現在

実施診療科・責任医師	実施／契約症例数	対象疾患・フェーズ	予定期間
外科・垣本佳士	1/3 例	癌性疼痛・第Ⅲ相	2017 年 8 月 2 日
呼吸器内科・原田博雅	8/8 例	COPD・第Ⅲ相	2017 年 6 月 7 日
血管透析内科・申勝	2/2 例	腎性貧血・第Ⅱ相	2017 年 12 月 6 日

新規手挙げ案件（2016.1 ～ 2017.12）

・COPD（原田博雅）	
・インフルエンザ・入院（原田博雅）	
・肺炎球菌ワクチン（原田博雅）	
・肺癌・膵癌（瓜生恭章、木村拓也）	

結果待ち案件

・難治性皮膚潰瘍（綾部忍）	→施設調査済
・小児インフルエンザ・第Ⅱ相（石垣早知子）	
・特発性肺線維症・第Ⅱ相（原田博雅）	
・喘息（原田博雅）	

《製販後調査》　　2017 年 12 月 31 日現在

新規

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	予定期間
小児科・石垣早知子	10 例	ダニ抗原による アレルギー性胃炎	2017 年 1 月 12 日～ 2019 年 3 月 31 日
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	再発又は難治性の 多発骨髄腫	2017 年 1 月 12 日～ 2020 年 8 月 31 日
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	再発又は難治性の 多発骨髄腫	2017 年 4 月 6 日～ 承認日より 3 年 2 ヶ月間
肝臓外科・木村拓也	10 例	アンチトロビンⅢ低下を伴う汎発性血管内凝固症候群（DIC）	2017 年 4 月 6 日 ～承認日より 3 年 2 ヶ月間
神経内科・辰巳新水	全例	多発性硬化症	2017 年 5 月 11 日～ 2018 年 5 月 31 日

実施中（新規・終了含まず）

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	予定期間
脳神経外科・鶴野卓史	10 例	非弁膜症性心房細動	2013 年 5 月 10 日～ 2019 年 3 月 31 日
内科 ・松本明子→原田博雅	30 例	2 型糖尿病	2013 年 7 月 29 日～ 2018 年 9 月 30 日
内科・福田貢	20 例	2 型糖尿病	2013 年 7 月 29 日～ 2018 年 9 月 30 日
心臓血管外科・入江寛	5 例	胸部大動脈瘤	2014 年 5 月 16 日～ 2020 年 12 月 26 日
脳神経外科・一ノ瀬努	10 例	非弁膜症性心房細動	2015 年 7 月 7 日～ 2019 年 9 月 30 日
神経内科・辰己新水	全例	多発性硬化症	2015 年 3 月 3 日～ 2025 年 3 月 31 日
呼吸器内科・原田博雅	全例	特発性肺線維症	2016 年 5 月 12 日～ 2018 年 12 月 31 日
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	非小細胞肺癌	2016 年 8 月 18 日～ 承認条件が解除された 時点 + 1 年間
呼吸器内科・原田博雅	10 例	慢性閉塞性肺疾患	2016 年 9 月 8 日～ 2018 年 4 月 30 日
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	非小細胞肺癌	2016 年 11 月 4 日～ 承認条件が解除まで
神経内科・辰己新水	全例	全身型重症筋無力症	2016 年 11 月 4 日～ 2019 年 3 月 31 日
放射線科・西峯潔	全例	オクトレオスキャン 静注用セット投与者	2016 年 12 月 8 日～ 2018 年 6 月 30 日

終了

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	終了報告日
薬剤部・大里恭章	1/ 全例	関節リウマチ	2016 年 3 月 10 日
心臓血管外科・入江寛	13/ 全例	胸部大動脈瘤	2016 年 10 月 19 日
内科・原田博雅	2 例	非小細胞肺癌	2016 年 10 月 26 日
内科・原田博雅	全例	非小細胞肺癌	2017 年 1 月 12 日
放射線科 ・西峯潔→兵藤公一	15 例	脳・脊髄造影、脳幹部・ 四肢造影を必要とする疾患	2017 年 8 月 16 日

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

≪臨床研究≫

新規

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	予定期間
呼吸器内科・石原英樹	25 例	カプノアイの臨床的有用性の評価	2017 年 4 月 1 日～2017 年 12 月 7 日
腫瘍内科・洪鉉寿	15 例	第 3 世代 EGFR チロキシナーゼ阻害剤効果予測（S-PLAT）	2017 年 2 月 24 日～2020 年 2 月 1 日
内科・瓜生恭章	1 例	悪性胸水合併 EGFR　T790M 陽性非小細胞肺癌の前治療前無効或いは再発例（SPIRAL Ⅱ）	2017 年 8 月 30 日～2017 年 12 月
肝臓外科・木村拓也	260 例	肝臓センターにおけるラジオ波の合併症	2017 年 2 月 24 日～2018 年 1 月 18 日
肝臓外科・木村拓也	50 例	症例登録システムを用いた腹腔鏡下肝切除術の安全性に関する検討	2017 年 4 月 6 日～2020 年 3 月 31 日
肝臓内科・鯉田五月	85 例	C 型肝炎の DAA 治療開始後の肝細胞癌	2017 年 2 月 24 日～2018 年 1 月 18 日
脳外科・吉村政樹	30 例	グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の検索とテーラーメイド治療法の開発	2017 年 2 月 24 日～2020 年 2 月 1 日
リハビリ・上田哲也	20 例	退院患者を対象とした転倒予防指導の有効性	2017 年 10 月 10 日～2018 年 12 月 31 日
リハビリ・服部玄徳	60 例	急性期病院入院高齢者患者における退院前後での身体活動量に関して	2017 年 12 月 25 日～2020 年 9 月 30 日
リハビリ・服部玄徳	100 例	糖尿病神経障害スクリーニング検査におけるタッチテストの有用性	2017 年 12 月 25 日～2020 年 9 月 30 日
リハビリ・文聖現	80 例	大腿骨骨折後人工骨頭置換術施行患者の退院先の検討	2017 年 9 月 12 日～2017 年 12 月 7 日
放射線科・村尾信	15 例	画像の利用による前立腺外部放射線治療の評価	2017 年 6 月 30 日～2018 年 11 月 2 日
看護部・松本静香	76 例	急性期病院の緩和ケアチームにおける PPI の有効性	2017 年 6 月 12 日～2018 年　月　日

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

実施中

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	予定期間
内科・原田博雅	5 例	特発性間質性肺炎合併肺癌	2015 年 11 月 25 日～2018 年 12 月 31 日
泌尿器科・飯盛宏記	10 例	去勢抵抗性前立腺癌	2015 年 7 月 24 日～2018 年 9 月 30 日
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	RET 遺伝子変化陽性肺癌	2016 年 7 月 29 日～2019 年 3 月 31 日
内科・瓜生恭章	3 例	FGFR 遺伝子変化等遺伝を有する肺扁平上皮癌	2016 年 7 月 29 日～2019 年 3 月 31 日
内科・瓜生恭章	3 例	高齢者 EGFR 遺伝子陽性かつ T790M 陽性非小細胞肺癌	2016 年 10 月 6 日～2020 年 8 月 31 日
内科・瓜生恭章	3 例	高齢者 EGFR 遺伝子陽性かつ T790M 陽性非小細胞肺癌	2016 年 10 月 6 日～2020 年 8 月 31 日
薬剤部・大里恭章	100 例	アセトアミノフェン服用者	2016 年 7 月 8 日～2018 年 12 月 31 日
リハビリテーション科・西川真世	15 例	大腿骨近位部骨折にて骨接合術実施者	2016 年 3 月 29 日～2018 年 3 月 31 日

終了

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	終了報告日
内科・瓜生恭章	1 例	局所進行胃癌に対する術前 SOX 療法　第Ⅱ相試験	2017 年 4 月 19 日
内科・原田博雅	6 例	高齢者の既治療非小細胞肺癌に対する S-1 隔日投与 / カルボプラチン併用療法　第Ⅱ相試験	2017 年 5 月 24 日
内科・原田博雅	5 例	高齢者進行非小細胞肺癌に対する S-1 隔日投与 / カルボプラチン併用療法　第Ⅱ相試験	2017 年 6 月 21 日
外科・松岡信子	5 例	HER2 陽性進行・再発乳癌に対するベルスズマブ + トラススズマブ + タキサン併用化学療法の前向き研究	2017 年 4 月 19 日

倫理委員会の移行

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	終了報告日
腫瘍放射線科・梶谷千香枝	全例	JASTORO 放射線治療症例全国登録事業	2016 年 8 月 30 日～無期限
腫瘍放射線科・西峯潔→日高輝之	全例	IVR 学会における症例登録データベース事業	2016 年 9 月 30 日～無期限

4. 今後の目標

当面の目標は今後増員されるであろうメンバーも含め、まずは各々が自立して業務を行えるようになることである。少ない人員構成の中で協力体制を作るためには欠かせない条件であり、案件の安定した確保のためにも欠かせない条件でもある。協力機関 CRC の助言や協力を得ながら、体制が整えられることを望む。

37）医療福祉相談室（MSW 医療ソーシャルワーカー）

社会福祉士　三谷　勇一

1. 概要

急性期病院に勤務するMSWは、退院支援加算1を施設基準として取得するうえで、定められた手順に則った介入が求められます。入院後、3日以内にスクリーニングを実施し、7日以内に退院支援カンファレンスを開催し、7日以内に本人様・家族様などのニーズを確認するための面談が求められます。その他、多くの条件を整えることに工夫が余儀なくされます。近年の社会的要因により、身寄りがいない方や、家族はいるものの遠方に在住し、仕事による多忙のため､キーパーソンとしての役割を担えないことも少なくありません。このような背景の中、可能な範囲で本人のニーズや家族などのニーズを実現することを目指します。しかし、限られた社会資源を割り当てる（ラショニング）中、必ずしも本人様・家族様の希望通りにいくとは限りません。その際に、自己決定を支えつつも、ニーズの落としどころを模索する専門職として、社会福祉士が存在します。

近年は、2次医療圏を単位とした社会資源との連携強化がますます注目されています。本人様やその家族様の力だけでなく、友人や知人の力も借ります。また、地域包括支援センター、市役所､介護支援専門員などと連携しながら､退院先としての療養型病床､回復期リハビリテーション病床､地域包括ケア病床､介護老人保健施設､有料老人ホーム､介護医療院､共生型サービス事業所など、多岐にわたる選択肢としての連携と、情報提供を行います。生活を支える専門家が、知識と技術と価値を提供します。

2. メンバー構成

専任社会福祉士6名、専従看護師1名（算定加算：退院支援加算1）
門田翔太（8西･8東)、上野多佳子（7西･7東)、松下有希（6西･6東)、小山章子（5西･5東)、中納浩子（4東)、三谷勇一（HCU・ICU)、加藤和代（退院調整チーム専従)。

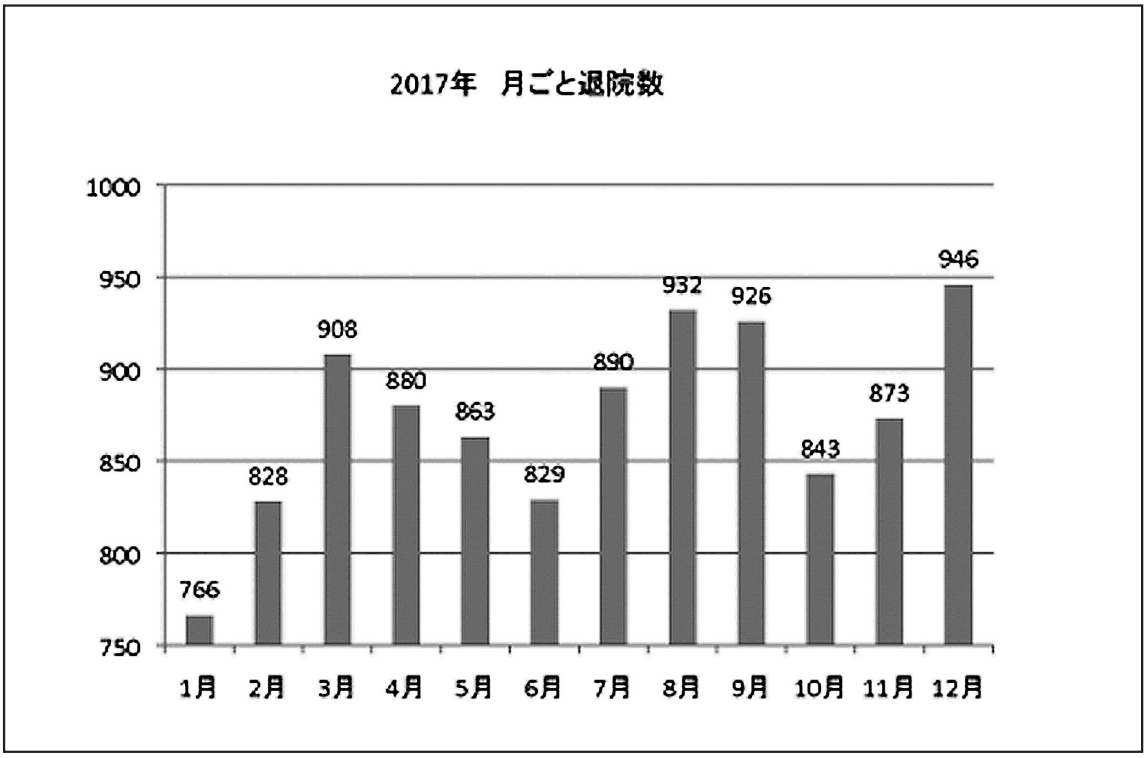
外来担当：三谷（月曜)、門田（火曜)、松下（水曜)、上野（木曜)、小山（金曜)。

人事異動
5月　　1名入職
6月－7月徳洲苑　1名応援
9月末　1名退職

3. 実績

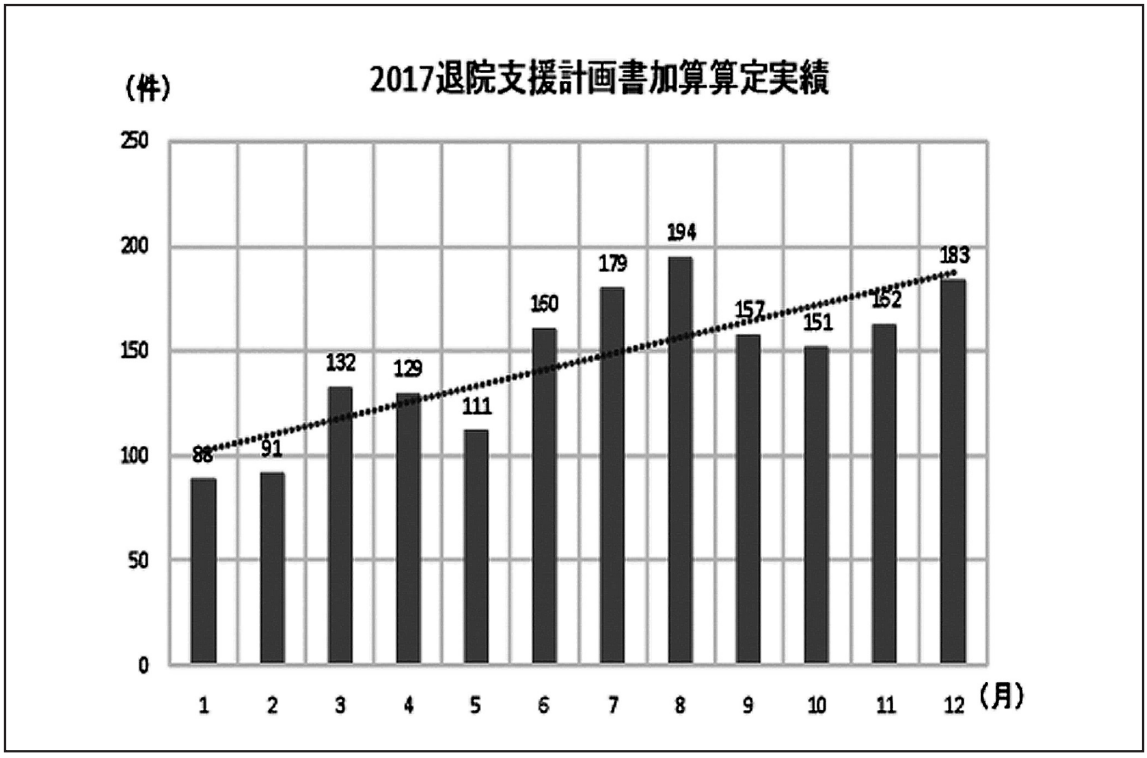
1）退院調整実績

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1. 他施設へ		145	132	156	142	153	136	112	144	142	141	136	146	1,685
内、グループ内施設へ		12	8	11	12	14	15	6	10	14	14	14	9	139
内訳	① 医療機関	72	78	90	88	107	78	77	90	91	81	79	83	1,014
	内、グループ内施設へ	2	4	4	3	7	3	4	4	2	5	0	1	39
	② 老健施設	17	11	9	12	10	18	7	10	12	13	21	19	159
	内、グループ内施設へ	6	3	6	7	6	11	2	6	9	9	14	8	87
	③ 老人ホーム等	53	43	57	41	36	40	27	42	38	45	35	43	500
	内、グループ内施設へ	4	1	1	2	1	1	0	0	3	0	0	0	13
	④ その他	3	0	0	1	0	0	1	2	1	2	1	1	12
	内、グループ内施設へ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 在宅診療へ		36	48	46	38	44	43	36	44	51	34	50	49	519
内訳	グループ内事業所	3	2	1	4	1	4	2	3	8	2	3	11	44
	（再掲）内、新規登録	0	0	9	0	0	2	1	0	3	0	0	3	18
	グループ外事業所	30	46	37	23	43	39	34	41	43	32	47	38	453
3. 死亡		61	50	48	63	43	44	50	46	45	40	41	55	586
4. その他（軽快退院を含む）		524	598	658	637	623	606	692	698	688	628	646	696	7,694
合計		766	828	908	880	863	829	890	932	926	843	873	946	10,484



薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

2）退院支援計画書加算算定実績



3）介護指導連携指導料

施設基準として年間 63 件以上の算定が必要となる。2017 年は、254 件で有意に条件を満たした。

4）地域連携診療計画加算

年間算定件数 58 件、中河内脳神経・整形地域診療情報パス部会 2 月、6 月、10 月参加。

5）実習生の受け入れ実績：相談援助実習

大阪医療福祉専門学校（1 名）

期間：2017 年 7 月 3 日～ 8 月 2 日

関西福祉科学大学（2 名）

期間：2017 年 8 月 8 日～ 9 月 8 日

期間：2017 年 8 月 16 日～ 9 月 14 日

6）研修参加

2/25　　退院支援専門ソーシャルワーク研修　（三重）

8/25　　認知症対応力向上研修（大阪）

11/25-26　スーパーバイザー養成研修（岡山）

4. 今後の目標

2018 年 2 月 16 日には、2 次医療圏での連携強化の取り組みとして、「平成 29 年度地域医療・福祉交流会」が開催されます。本テーマとして、「他職種で考える施設・在宅退院への問題点」

という議題に対し、三谷による「急性期病院と後方支援施設の理想的あり方について」の講演を検討しています。本年度は、介護報酬・診療報酬の同時改定のみならず、第7次医療計画・第7期介護保険事業（支援）計画・第3期医療費適正化計画がスタートする転機の年です。退院支援加算1を維持するための取り組みとして、顔を合わせた面談による連携強化をし、年に20施設以上とそれぞれ3回以上の面会が要件となります。これまでも当院は、積極的に年に2回のあいさつ周りを実施し、地域貢献活動や勉強会への参加を盛んに行ってきました。2018年4月からは、「入退院支援加算」と改名され、入院前からの地域との取り組みが評価されます。来年度は、地域貢献活動、勉強会・研修会・学会参加を強化することで、個々人の介入力の質を高めつつ、2次医療圏単位での取り組みを試みたいと計画しています。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

38） 病診連携室

病診連携室係長　山中　隆史

1. 概要

患者様が安心して安全に医療を受けられるよう中河内地区の急性期医療の中核施設として、地域の医療機関と紹介・逆紹介の連携を活発且つ密接におこなっております。

また当院へ積極的に紹介いただけるよう常に迅速且つ正確に対応させていただくことを心がけております。

地域の皆様にも幅広く医療をご理解していただき、積極的に予防医療へも関心を持っていただけるよう定期的に公開医療講座を開講し、予防医療の啓蒙活動にも努めております。

2. メンバー構成

病診連携室長：木村　拓也　肝臓外科・小児外科部長

事務：山中　隆史・中道　睦代・立川　知之・石井　陽子・大西　直哉

3. 実績

・病診連携の会　（2016年より、「中河内医療連携の会」に改称）

地域の連携医、連携施設との勉強会・情報交換会を定期的に開催

2017 年　2 月 4 日（土）　中河内医療連携の会

シェラトン都ホテル大阪上本町　第一三共㈱共催

一般講演　　座長　　麻酔科部長・中央手術部長　谷　仁介

「在宅呼吸ケアにおける地域医療連携」

呼吸器内科部長　石原　英樹

「急性期リハビリテーションと医療連携」

リハビリテーション科部長　田中　尚

特別講演　　座長　　循環器内科部長　迫田　慎一郎

「虚血性心疾患に対する診断、PCI 治療の最前線」

千葉西総合病院　病院長・心臓センター長　三角　和雄先生

《主な公開医療講座》

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
医師	脳神経外科医長　吉村政樹	頭痛のお話	1月13日	八尾プリズムホール4階会議室2
	呼吸器内科部長　石原英樹	COPD(慢性閉塞性肺疾患)って知ってますか？ - 今世紀最大の？たばこ病かも -	2月10日	八尾徳洲会総合病院3階第1会議室
	小児科部長　石垣早知子	外敵から体を守るために ～花粉やインフルエンザ、ジカ熱まで～	2月17日	山本コミュニティセンター3階学習室
	脳神経外科医長　吉村政樹	その頭痛、原因はくびかもしれません	2月17日	山本コミュニティセンター3階学習室
	小児科部長　石垣早知子	夏に備える健康　花粉、 インフルエンザなど夏に向けて	4月14日	八尾プリズムホール4階会議室2
	呼吸器内科部長　石原英樹	呼吸器感染症 - 特にかぜ・インフルエンザについて 考えてみましょう -	4月26日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	小児科部長　石垣早知子	夏に備える健康　花粉、インフルエンザなど夏に向けて	5月19日	山本コミュニティセンター3階学習室
	婦人科部長　田村明彦	婦人科の悪性疾患について	5月26日	八尾プリズムホール4階会議室2
	呼吸器内科　石原英樹	呼吸器感染症 - 特にかぜ・インフルエンザについて 考えてみましょう -	6月28日	八尾プリズムホール4階会議室2
	腎臓内科　森ちさこ	腎機能が悪いと言われたら・・・	6月29日	八尾プリズムホール4階研修室
	小児科部長　石垣早知子	夏の健康 ～寝苦しい夏を乗り切る為に～	7月21日	山本コミュニティセンター3階学習室
	歯科・口腔外科医長　原田計真	歯と顎の内の病気 ～歯科医がレントゲンでみている事とは～	7月26日	八尾プリズムホール4階会議室2
	脳神経外科医長　吉村政樹	頭と同じくらい大切なくびのお話	8月18日	八尾プリズムホール4階会議室2
	呼吸器内科部長　石原英樹	呼吸器感染症 - 特にかぜ・インフルエンザについて 考えてみましょう -	9月8日	山本コミュニティセンター3階学習室
	呼吸器内科部長　石原英樹	COPD（慢性閉塞性肺疾患）って知ってますか？ - 今世紀最大の？たばl こ病かも -	10月12日	八尾プリズムホール4階研修室
	外科　町田智彦	～最近のトピックス～大腸癌に対する免疫チェック ポイント阻害剤に対する使用経験	10月12日	八尾プリズムホール4階研修室
	小児科部長　石垣早知子	冬の始まり ～冬の病気を考える～	11月24日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	腎臓内科　森ちさこ	腎機能が悪いと言われたら・・・	11月24日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	歯科口腔外科医長　原田計真	親不知の治療と顎の骨折の治療	12月12日	八尾プリズムホール4階会議室2
看護師	摂食・嚥下障害看護認定看護師 平畑典子	誤嚥性肺炎と窒息	1月13日	八尾プリズムホール4階会議室2
	保健師　杉本陽子	楽しく学べる介護予防	1月17日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	感染対策室室長　渋谷豊克	インフルエンザウイルスと ノロウイルスについて	1月25日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	保健師　山本貴裕	動脈硬化を防ぐ	2月15日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	感染対策室室長　渋谷豊克	結核は現代の流行り病！？ ～河内地域の結核の現状～	3月24日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	救急看護認定看護師　鴨木沙織	脳梗塞にいち早く気づくために	3月30日	八尾プリズムホール4階会議室2
	感染対策室室長　渋谷豊克	結核は現代の流行り病！？ ～河内地域の結核の現状～	4月14日	八尾プリズムホール4階会議室2

薬剤科　84
放射線科　87
臨床検査　89
リハビリ　92
臨床工学　97
栄養科　102
治験セン　105
医療福祉　111
病診連携　115
健診セン　124
情報シス　125
ゲノム　127
保育室　129
がん相談　131
医療安全　134
臨床腫瘍　140

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
看護師	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本静香	便秘と吐き気に悩まないために ～がん患者さんの症状別シリーズ～	4月21日	山本コミュニティセンター3階学習室
	保健師　佐藤さかえ	減量しませんか？	6月23日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	保健師　杉本陽子	楽しく学べる介護予防	7月20日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	感染対策室室長　渋谷豊克	夏の危険な虫	8月17日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	保健師　佐藤さかえ	減量しませんか？	8月17日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本静香	便秘と吐き気に悩まないために ～がん患者さんの症状～	8月18日	八尾プリズムホール4階会議室1
	感染対策室室長　渋谷豊克	動物からうつる病気	9月21日	八尾プリズムホール4階研修室
	救急看護認定看護師　鴨木沙織	脳卒中のサインと対処	10月17日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
	保健師　山本貴裕	かぜとインフルエンザ	11月22日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	感染対策室室長　渋谷豊克	生活習慣病にグッバイ	11月29日	八尾プリズムホール4階研修室
	保健師　佐藤さかえ	コレステロールと生活習慣	12月19日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
臨床心理士	臨床心理士　八島麻美子	ストレスとの上手なつきあい方	3月24日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	臨床心理士　八島麻美子	ストレスとの上手なつきあい方	6月23日	山本コミュニティセンター3階会議室 301
	臨床心理士　朴祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	10月13日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	臨床心理士　朴祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	12月19日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
理学療法士	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地八省	ひざの痛みの解決方法	2月15日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地八省	ひざの痛みの解決方法	3月30日	八尾プリズムホール4階会議室2
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地八省	ひざの痛みの解決方法	5月19日	山本コミュニティセンター3階学習室
	理学療法室　室長 理学療法士　野村日呂美	心臓リハビリテーション	5月24日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	理学療法室　室長 理学療法士　野村日呂美	関節痛の治療 ～リハビリテーションの立場から～	6月28日	八尾プリズムホール4階会議室2
	理学療法室　副主任 介護予防認定理学療法士　上田哲也	知らなきゃ損！？ 健康寿命の延ばし方！	7月26日	八尾プリズムホール4階会議室2
	理学療法室　室長 理学療法士　野村日呂美	関節痛の治療 ～リハビリテーションの立場から～	8月23日	山本コミュニティセンター3階学習室
	理学療法室　室長 理学療法士　野村日呂美	脳卒中に対するリハビリテーション	9月15日	柏原市民文化会館リビエールホール地下 1階
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地八省	ひざの痛みの解決方法	9月15日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地八省	ひざの痛みの解決方法	11月20日	曙川コミュニティセンター
管理栄養士	栄養科　管理栄養士　平井あやか	糖尿病と食事	1月25日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	栄養科副主任　佐藤友亮	「骨と筋肉を強くする！健康寿命を 延ばす食事のポイント」	4月19日	美園地区久宝園集会所
	栄養科副室長　管理栄養士 小山洋史	高血圧予防の食事	5月24日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	栄養科　池田亜沙美	糖尿病と食事	7月21日	山本コミュニティセンター3階学習室
	栄養科副室長　管理栄養士 小山洋史	シニアライフを満喫する食生活 ～食生活指針を基に～	9月8日	山本コミュニティセンター3階学習室
	栄養科副室長　管理栄養士 小山洋史	食事で便秘改善	11月29日	八尾プリズムホール4階研修室

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
臨床検査技師	検査科副室長 臨床検査技師　松田治恵子	糖尿病とは ～合併症について～	1月17日	山本コミュニティセンター3階会議室
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	息切れ ～最近、気になっていませんか～	4月21日	山本コミュニティセンター3階学習室
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	採血結果から生活習慣を見直そう！ ～病気と予防～	5月26日	八尾プリズムホール4階会議室2
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	採血結果から生活習慣を見直そう！ ～病気と予防～	6月16日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	睡眠障害～お薬は最終手段～ 耳鳴り　鼻すすりは耳に悪いって 知っていますか？	6月29日	八尾プリズムホール4階研修室
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	睡眠障害～お薬は最終手段～ 耳鳴り　鼻すすりは耳に悪いって 知っていますか？	7月20日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	睡眠障害～お薬は最終手段～ 耳鳴り　鼻すすりは耳に悪いって 知っていますか？	8月23日	山本コミュニティセンター3階学習室
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	睡眠障害～お薬は最終手段～ 耳鳴り　鼻すすりは耳に悪いって 知っていますか？	9月14日	曙川コミュニティセンター
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	息切れ ～最近、気になっていませんか～	10月13日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	11月22日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	12月12日	八尾プリズムホール4階会議室2
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	「水・・飲みすぎてませんか？」 心不全予防～日常生活のポイント～	12月21日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
放射線技師	放射線科技師長 健診センター室長　田中政典	健康診断 ～がんを調べる検査について～	2月24日	八尾プリズムホール4階会議室2
	放射線科技師長 健診センター室長　田中政典	健康診断 ～がんを調べる検査について～	3月10日	八尾徳洲会総合病院3階第1会議室
	放射線科技師長 健診センター室長　田中政典	健康診断 ～がんを調べる検査について～	4月26日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	放射線科技師長 健診センター室長　田中政典	放射線によるがん治療について	5月16日	八尾徳洲会総合病院3階第1会議室
	放射線科技師長 健診センター室長　田中政典	健康診断でわかること 上腹部を調べる検査（肝臓、膵臓、腎臓がん etc.）	9月21日	八尾プリズムホール4階研修室
	放射線科技師長 健診センター室長　田中政典	健康診断でわかること 上腹部を調べる検査 （肝臓、膵臓、腎臓がん etc.）	10月17日	山本コミュニティセンター 3階会議室301
薬剤師	ゆきこどもクリニック 副院長　神原永長	知って得する身の回りの中毒事故	2月24日	八尾プリズムホール4階会議室2
	ゆきこどもクリニック 副院長　神原永長	知って得する身の回りの中毒事故	3月29日	山本コミュニティセンター3階学習室
事務	医事課係長　桧垣 医事課主任　中島	「知っているようで意外と知らない 医療費のお話」	3月29日	山本コミュニティセンター3階学習室
	医事課係長　桧垣 医事課主任　中島	「知っているようで意外と知らない 医療費のお話」	6月16日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階

《健康祭にて医療講座》

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
医師	腫瘍内科部長　洪鉉寿	最近のがん治療	5月14日	八尾徳洲会総合病院 3階第1・2会議室
看護師	看護部長　崎山昌代	がん治療とともに行う病院での支援	5月14日	八尾徳洲会総合病院 3階第1・2会議室

薬剤科　84
放射線科　87
臨床検査　89
リハビリ　92
臨床工学　97
栄養科　102
治験センター　105
医療福祉　111
病診連携　115
健診センター　124
情報システム　125
ゲノム　127
保育室　129
がん相談　131
医療安全　134
臨床腫瘍　140

《各種団体からの依頼による医療講座》

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
医師	小児科部長　石垣早知子	インフルエンザいろいろ ～子どもから大人まで～	1月27日	久宝寺コミュニティセンター２Ｆ集会室 共催：保健部会・高齢者部会 久宝寺地区福祉委員会
	小児科部長　石垣早知子	アレルギーのあれこれ ～子どもから大人まで～	3月28日	久宝寺コミュニティセンター２Ｆ集会室 主催:八尾市久宝寺コミュニティセンター
	小児科部長　石垣早知子	冬に備える　～今からのアレルギー、 今からの感染症～	9月26日	グレース大聖堂（東山本新町１－15） 主催：グレース宣教会
	腎臓内科　森ちさこ	腎機能が悪いと言われたら・・・	9月28日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南７－５－26高木様宅）
看護師	保健師　山本貴裕	動脈硬化を防ぐ	4月19日	高井田台自治会館1F会議室 主催：高井田台自治会（OB会）
	救急看護認定看護師　鹿山美穂	心筋梗塞の備えと予防	4月25日	グレース大聖堂（東山本新町１－15） 主催：グレース宣教会
	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本静香	骨転移の痛みを和らげるには	5月23日	グレース大聖堂（東山本新町１－15） 主催：グレース宣教会
	保健師　山本貴裕	動脈硬化を防ぐ	5月27日	龍華コミュニティセンター3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	救急看護認定看護師　鴨木沙織	今から始める、熱中症対策	6月21日	美園地区久宝園集会所
	感染対策室室長　渋谷豊克	食中毒	6月27日	グレース大聖堂（東山本新町１－15） 主催：グレース宣教会
	感染対策室室長　渋谷豊克	食中毒	7月19日	美園地区久宝園集会所
	保健師主任　酒井菜穂子	認知症を予防するには	9月20日	高井田台自治会館1F会議室 主催：高井田台自治会（OB会）
	感染対策室室長　渋谷豊克	生活習慣病にグッバイ	10月24日	グレース大聖堂（東山本新町１－15） 主催：グレース宣教会
	保健師　佐藤さかえ	減量しませんか？	10月26日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南７－５－26高木様宅）
	救急看護認定看護師　鹿山美穂	脳梗塞にいち早く気づくために	10月31日	久宝寺コミュニティセンター 共催：保健部会・高齢者部会 久宝寺地区福祉委員会
臨床心理士	臨床心理士　八島麻美子	ストレスとの上手なつきあい方	2月15日	高井田台自治会館1F会議室 主催：高井田台自治会（OB会）
	臨床心理士　八島麻美子	ストレスとの上手なつきあい方	5月25日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南７－５－26高木様宅）
	臨床心理士　朴祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	7月29日	イースタンビル３階 共催：池田クリニック
	臨床心理士　朴祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	9月30日	龍華コミュニティセンター3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	臨床心理士　朴祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	11月30日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南７－５－26高木様宅）
理学療法士	リハビリテーション 専門型デイサービスひなぎく 理学療法士　小泉希久也	転倒予防と腰痛予防でいつまでも 元気な体を保ちましょう	2月22日	美園地区久宝園集会所
	理学療法室室長　理学療法士 野村日呂美	心臓リハビリテーション	2月23日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南７－５－26高木様宅）
	理学療法室副主任 介護予防認定理学療法士 上田哲也	知らなきゃ損！？ 健康寿命の延ばし方！	3月23日	グレース大聖堂（東山本新町１－15） 主催：グレース宣教会
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地八省	ひざの痛みの解決方法	4月27日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南７－５－26高木様宅）
	理学療法室副主任 介護予防認定理学療法士 上田哲也	知らなきゃ損、 転ばないための健康貯「筋」	5月17日	高井田台自治会館1F会議室 主催：高井田台自治会（OB会）
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地八省	ひざの痛みの解決方法	6月24日	龍華コミュニティセンター3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地八省	ひざの痛みの解決方法	6月26日	久宝寺コミュニティセンター 共催：保健部会・高齢者部会 久宝寺地区福祉委員会
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地八省	ひざの痛みの解決方法	7月25日	グレース大聖堂（東山本新町１－15） 主催：グレース宣教会

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
	理学療法室室長 理学療法士　野村日呂美	関節痛の治療 ～リハビリテーションの立場から～	7月27日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	理学療法室副主任 介護予防認定理学療法士 上田哲也	知らなきゃ損！？ 健康寿命の延ばし方！	10月28日	龍華コミュニティセンター3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	理学療法室副主任 介護予防認定理学療法士 上田哲也	知らなきゃ損！？ 健康寿命の延ばし方！	11月15日	美園地区久宝園集会所
	理学療法室室長 理学療法士　野村日呂美	関節痛の治療 ～リハビリテーションの立場から～	11月25日	龍華コミュニティセンター3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
薬剤師	クローバー薬局　薬局長 勝山千男	認知症の予防と治療について	1月28日	イースタンビル3階 共催：池田クリニック
	クローバー薬局　薬局長 勝山千男	不整脈について	3月15日	高井田台自治会館 主催：高井田台自治会（OB会）
	クローバー薬局　薬局長 勝山千男	逆流性食道炎について	5月27日	イースタンビル3階 共催：池田クリニック
	クローバー薬局　薬局長 勝山千男	排尿のお話 ～おしっこが出にくい、トイレが近い～	9月30日	イースタンビル3階 共催：池田クリニック
管理栄養士	栄養科副主任　佐藤友亮	「骨と筋肉を強くする！ 健康寿命を延ばす食事のポイント」	6月21日	高井田台自治会館 主催：高井田台自治会（OB会）
	栄養科副主任　佐藤友亮	減塩食で健康な身体づくり	10月18日	美園地区久宝園集会所
臨床検査技師	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	睡眠障害 ～眠りのメカニズム～	1月26日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	睡眠時無呼吸症候群	2月23日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	「耳鳴り」 ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか？～	3月15日	美園地区久宝園集会所
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	睡眠障害 ～眠りのメカニズム～	3月25日	イースタンビル3階 共催：池田クリニック
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	採血結果から生活習慣を見直そう！ ～病気と予防～	4月29日	龍華コミュニティセンター3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	睡眠障害 ～眠りのメカニズム～	5月17日	美園地区久宝園集会所
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	睡眠障害～お薬は最終手段～ 耳鳴り　鼻すすりは耳に悪いって 知っていますか？	5月24日	市立大蓮公民分館 東大阪市大蓮南5－8－9 共催：東大阪福祉協議会
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	息切れ ～最近、気になっていませんか～	6月22日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	睡眠障害～お薬は最終手段～ 耳鳴り　鼻すすりは耳に悪いって 知っていますか？	7月29日	龍華コミュニティセンター3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	睡眠障害～お薬は最終手段～ 耳鳴り　鼻すすりは耳に悪いって 知っていますか？	9月20日	美園地区久宝園集会所
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	採血結果から生活習慣を見直そう！ ～病気と予防～	10月18日	高井田台自治会館1F会議室 主催：高井田台自治会（OB会）
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	息切れ ～最近、気になっていませんか～	11月25日	イースタンビル3階 共催：池田クリニック
	検査科副主任 臨床検査技師　戸野川始	採血結果から生活習慣を見直そう！ ～病気と予防～	12月28日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
放射線技師	放射線科技師長 健診センター室長　田中政典	健康診断でわかること 上腹部を調べる検査 （肝臓、膵臓、腎臓がん etc.）	11月28日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	放射線科技師長 健診センター室長　田中政典	健康診断でわかること 上腹部を調べる検査 （肝臓、膵臓、腎臓がん etc.）	12月20日	美園地区久宝園集会所
事務	医事課係長　桧垣 医事課主任　長谷川	知っているようで意外と知らない医療費のお話	1月19日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	医事課係長　桧垣 医事課主任　長谷川	知っているようで意外と知らない医療費のお話	11月15日	高井田台自治会館1F会議室 主催：高井田台自治会（OB会）

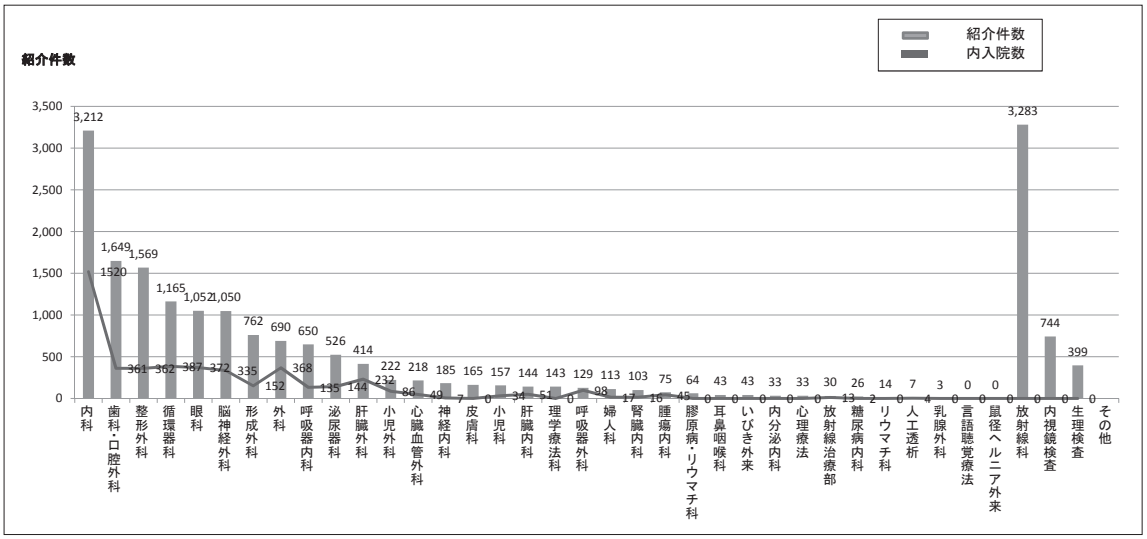
薬剤科　84
放射線科　87
臨床検査　89
リハビリ　92
臨床工学　97
栄養科　102
治験センター　105
医療福祉　111
病診連携　115
健診センター　124
情報システム　125
ゲノム　127
保育室　129
がん相談　131
医療安全　134
臨床腫瘍　140

《各診療科紹介件数（内入院数）》

紹介件数(上段) 内入院数(下段)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	278	257	300	259	268	295	260	272	271	274	237	241	3,212
	131	125	157	137	113	126	132	132	135	116	104	112	1,520
歯科･口腔外科	108	140	136	131	135	138	130	167	144	148	147	125	1,649
	26	28	32	26	20	31	34	41	34	35	28	26	361
整形外科	144	115	145	161	124	134	114	118	122	119	136	137	1,569
	37	31	27	36	18	34	31	26	27	33	29	33	362
循環器科	92	100	91	119	84	100	101	78	96	114	83	107	1,165
	39	38	30	44	28	35	29	22	36	33	23	30	387
眼科	70	94	84	63	80	107	91	74	90	80	105	114	1,052
	31	29	33	18	23	31	40	35	27	23	37	45	372
脳神経外科	81	90	90	89	87	89	93	83	82	108	73	85	1,050
	23	22	31	30	26	35	32	25	27	35	19	30	335
形成外科	46	68	70	71	67	79	55	67	47	64	61	55	750
	6	14	14	16	14	16	14	10	5	11	17	15	152
創傷治療センター			1		1	4	2			1	2	1	12
													0
外科	50	50	66	66	73	62	54	68	45	54	50	52	690
	29	31	25	43	40	36	30	36	25	26	24	23	368
呼吸器内科	50	51	52	52	69	54	56	57	41	59	51	58	650
	12	14	9	8	15	15	12	11	10	12	5	12	135
泌尿器科	39	50	48	38	48	42	41	35	45	42	53	45	526
	11	13	13	12	11	11	16	11	10	10	11	15	144
肝臓外科	30	24	30	31	29	37	36	37	42	44	36	38	414
	14	14	14	16	16	21	23	25	22	23	22	22	232
小児外科	16	21	24	14	16	22	17	20	13	20	21	18	222
	8	8	13	7	5	7	2	9	4	10	6	7	86
心臓血管外科	17	21	19	21	25	15	22	12	17	21	18	10	218
	4	5	6	6	5	6	3		5	3	4	2	49
神経内科	12	12	14	11	20	22	22	13	12	11	17	19	185
	2		1		1		1		1			1	7
皮膚科	12	12	14	16	14	20	9	12	14	19	11	12	165
													0
小児科	13	14	18	18	9	12	9	11	14	9	16	14	157
	3	4	5	4	2	4		1	3	2	3	3	34
肝臓内科	11	5	7	12	16	11	18	10	11	15	16	12	144
	5	1	5	5	5	2	7	2	6	4	5	4	51
理学診療科	11	10	8	13	13	14	12	8	12	10	21	11	143
													0
呼吸器外科	8	11	6	10	14	20	19	6	11	9	8	7	129
	6	9	5	6	14	13	16	4	8	6	5	6	98
婦人科	8	7	1	8	12	11	11	12	9	14	8	12	113
					1	2	2	3	2	5		2	17
腎臓内科	4	7	6	12	9	5	9	11	7	14	13	6	103
				2				1	1	7	4	1	16
腫瘍内科	11	10	11	12	3	7	3	1	1	2	6	8	75
	10	7	6	7	1	4	2	1		1	3	3	45
膠原病・リウマチ科	2	1	3	5	8	8	8	8	7	5	4	5	64
													0
耳鼻咽喉科	4	9	7	4	1	6	3	3	3	2	1		43
													0
いびき外来	5	3		4	5	3	3	3	4	3	5	5	43
													0
内分泌内科	2	3	2	7	2	2		1	6	6	1	1	33
													0
心理療法		4	2	3	4	4	5	1	1	3	4	2	33
													0
放射線治療部	6	4	8		1	2	2			1	3	3	30
			5		1					1	1	1	9
糖尿病内科				1		1	1			5	10	8	26
												2	2
リウマチ科	2	1	2	1	3	2	1		2				14
													0
人工透析	1					1		1	3	1			7
								1	2	1			4
乳腺外科	2	1											3
													0
言語聴覚療法													0
	4												4
心療内科													0
													0
鼠径ヘルニア外来													0
													0
放射線科	223	284	292	287	302	279	287	256	293	253	271	256	3,283
内視鏡検査	65	49	68	64	72	64	70	49	60	76	66	41	744
生理検査	18	21	41	37	24	31	35	29	40	37	47	39	399
その他													0
紹介件数合計	1,441	1,549	1,666	1,640	1,638	1,703	1,599	1,523	1,565	1,643	1,601	1,547	19,115
内入院数合計	401	393	431	423	359	429	426	396	390	397	350	395	4,790

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験センター 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診センター 124
情報システム 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

《各診療科紹介件数内訳（全体件数・内入院数）》



科 / 項目	内科	歯科・口腔外科	整形外科	循環器科	眼科	脳神経外科	形成外科	外科	呼吸器内科	泌尿器科	肝臓外科	小児外科	心臓血管外科	神経内科	皮膚科	小児科	肝臓内科	理学療法科	呼吸器外科
紹介件数	3,212	1,649	1,569	1,165	1,052	1,050	762	690	650	526	414	222	218	185	165	157	144	143	129
内入院数	1,520	361	362	387	372	335	152	368	135	144	232	86	49	7	0	34	51	0	98

科 / 項目	婦人科	腎臓内科	腫瘍内科	膠原病・リウマチ科	耳鼻咽喉科	いびき外来	心理療法	内分泌内科	放射線治療部	糖尿病内科	リウマチ科	人工透析	乳腺外科	言語聴覚療法	鼠径ヘルニア外来	放射線科	内視鏡検査	生理検査	その他	合計
紹介件数	113	103	75	64	43	43	33	33	30	26	14	7	3	0	0	3,283	744	399		19,115
内入院数	17	16	45	0	0	0	0	0	13	2	0	4	0	0	0	0	0	0		4,790

《検査紹介件数》

	放射線科	内視鏡	生理検査	合計
1月	223	65	18	306
2月	284	49	21	354
3月	292	68	41	401
4月	287	64	37	388
5月	302	72	24	398
6月	279	64	31	374
7月	287	70	35	392
8月	256	49	29	334
9月	293	60	40	393
10月	253	76	37	366
11月	271	66	47	384
12月	256	41	39	336
合計	3,283	744	399	4,426

主な検査項目

・放射線科

MRI	CT	DSA
RI	インプラントCT	CT（冠動脈）
単純撮影	マンモグラフィー	骨密度

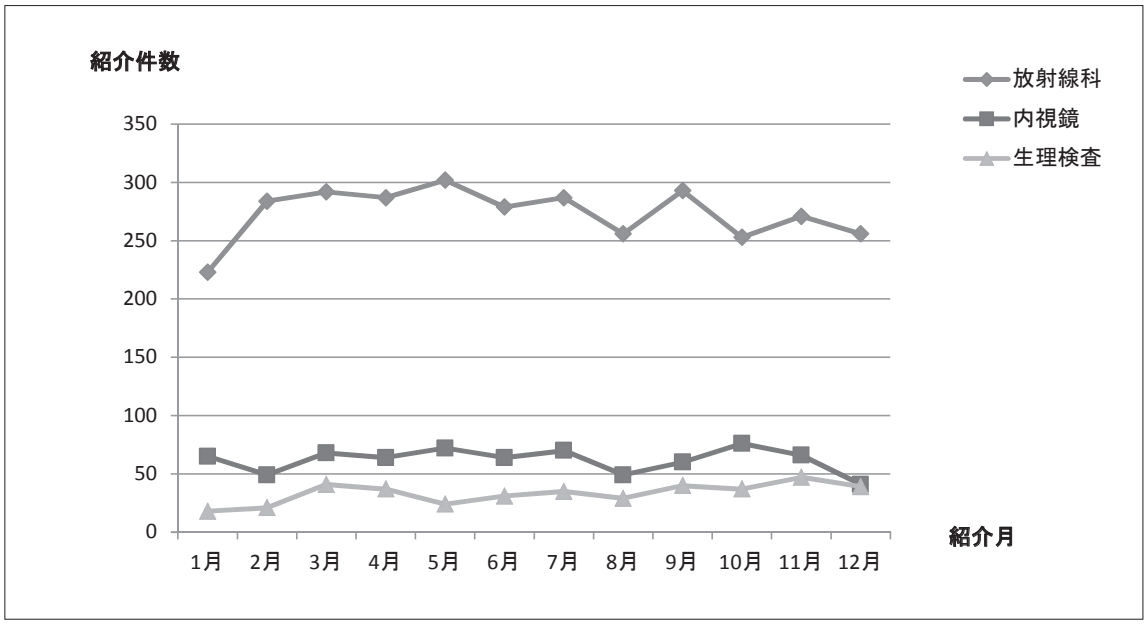
・内視鏡

GIF	CF

・生理検査

腹部エコー	心エコー	末梢血管エコー
甲状腺エコー	頚動脈エコー	乳腺エコー
トレッドミル	心電図	ホルター心電図
呼吸機能	脳波	肺機能

《検査紹介月別件数》



4. 今後の目標

中河内地区の急性期医療を担うべく、地域の連携医の先生方をはじめ広域の医療機関まで広範囲にわたり、検査・外来・救急・入院に至るまで、あらゆる医療ニーズに迅速かつ円滑に対応し、患者様が安全かつ安心に継続性のある適切な医療を受けられるよう信頼される医療機関として努力してまいります。

また連携医の先生方の開放病床の積極的な共同利用の促進や定期的に医療連携の会を開催し、勉強会や情報交換会を通じて連携の強化を図ってまいります。

さらに地域の皆様へ様々な情報の発信を行うべく、公開医療講座を積極的に開催し、幅広く医療を理解いただき、予防医療の啓蒙活動も進めてまいります。

39）健診センター

健診センター長　田中　政典

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

1. 概要

2017 年度は昨年より予約枠を増設したにもかかわらず、人間ドックの一部コースについては 6 月末で予約枠が埋まり、また、その他コースでも数ヶ月先しか予約できない状態となり、受診者様にはご迷惑をお掛けしました。

当院で初めて健康診断を受診される方が、昨年の 2 倍以上となり、地域の方々ならび企業様より支持されたおかげと考えています。

常勤医師、看護師が増員されましたが、健診センター業務は、センター所属職員のみならず、各診療科医師、看護部、副診療部、事務部の支援により成り立っております。

総合病院に併設されている健診センターのメリットを生かして、受診者様に安心、安全に最新医療機器で検査を施行し、疾患の早期発見、早期治療に繋げて参ります。

2. メンバー構成

常勤医師 2 名、常勤放射線技師 1 名、常勤看護師 4 名、常勤事務員 5 名、非常勤医師 1 名、非常勤看護師 3 名

3. 実績

2017 年、人間ドック受診人数は 6,314 件、企業健診は 11,218 件、総数では 18,797 件でした。2016 年と比較して、総数は 7%、収入は 6%増加となり、年間収入が初めて 2 億 3 千万円を超えました。今後も、検査実施体制の拡充が必要と考えらます。

《月例統計》

2017 年	ドック	企業	バス健診	産業医	合計
1 月	425	771	0	6	1,202
2 月	431	1,266	0	6	1,697
3 月	477	896	0	6	1,379
4 月	394	561	0	6	961
5 月	554	702	924	6	2,186
6 月	606	973	0	6	1,585
7 月	599	1,076	60	6	1,741
8 月	601	1,274	85	6	1,966
9 月	553	1,156	67	6	1,782
10 月	610	807	0	6	1,417
11 月	546	897	129	6	1,572
12 月	518	839	0	6	1,357
合計	6,314	11,218	1,265	72	18,797
平均	526	935	105	6	1,566

4. 今後の目標

次年度から八尾市内で唯一個別健診の胸部 X 線、胃透視検査が行える健診施設となりましたので、地域のニーズに対応できる予約枠の拡充を行います。

また、呼吸器疾患や消化器疾患については専門医師と連携し、速やかに精密検査できる体制を作り、早期治療に努めます。

引き続き受診者様の移動を減らし、健診センター内で検査ができるように医療機器の整備ならびスタッフの教育、検査体制の構築、迅速な検査結果の返却に努めて参ります。

40）情報システム管理室

情報システム管理室　岸本　賢一

1. 概要

情報システム管理室ではパソコン関係のヘルプデスク業務、院内イントラの運用保守、故障端末の修理、電子カルテ操作レクチャー、病院ホームページ、各種学会などで使用する統計資料作成などを日々行っており、新規病院立ち上げ時や新版電子カルテへの移行時にはシステム導入応援を行っている。

毎月開催されているシステム委員会では各部署のアプリの不具合や修正要望をとりまとめ、院内のシステムをよりよいものへと随時更新を行っている。

その際、各部署に先行端末を設置し、システム委員による確認の元、動作の確認や検証を数ヶ月かけて行い本環境へのスムーズなバージョンアップを行った。

2. メンバー構成

システム管理者 : 岸本　賢一、松本　裕也、和合　潤也

システム委員 : 18 名（医局、看護部、臨床工学科、栄養科、放射線科、薬剤部、理学療法室、検査室、総務部、医事課、医局秘書）

3. 実績

1) 診療報酬改定

昨年度末～今年度初旬にかけて診療報酬改定対応を行った。

2) 電子カルテ操作教育

4 月より、新任医師 46 名に対して、電子カルテの操作教育及び、外来診察帯の診療補助対応を行った。

3) ホームページリニューアル

昨年度より引き続き、病院ホームページ部分の保守、更新、修正等のメンテナンスを始め、CMS の導入、モバイル版ホームページの導入、SEO 対策強化による集客アップ、内部システムのバージョンアップを行い、各部署でも HP の更新が可能となった。

4) 各種システムリプレースについて

ユヤマ調剤支援システムのサーバー、クライアントのバージョンアップ。

BI サーバー故障によるリプレース継続対応している。

病診連携サーバー、病診アクセス DB サーバーの仮想化移行検証対応を行った。

PACS サーバー（フォトロン）のリプレースを行った。

PACS サーバー（テクマトリックス）のクラウドシステムへのリプレースを継続対応している。

5) 医療情報技師の取得

病院機能評価等で求められる医療情報技師能力検定試験を受験しSE室2名が合格した。

来年度に向けてSE室の医療情報技師取得率100パーセントを目指していく。

6) 情報システム管理部会

全国の電子カルテシステム導入施設にして使用されている運用管理規定の更新、個人情報保護方針の包括同意の見直しを八尾病院が中心となって行っている。

また、2017年度の施設事例報告において最優秀賞を受賞した。

7) システム稼働応援

2月8日～4月30白根徳洲会病院にて電子カルテ･情報系システムの導入､稼働応援を行った。

4. その他

・電子カルテクライアント機器（デスクトップPC、ノートPC、配線関連のリプレース）
・電子カルテサーバー　バックアップテープローダー装置メンテナンス
・会議室プロジェクターシステム　配線・機器関連メンテナンス
・Gearシステム導入（グループ統一の稟議システム）
・関連施設（徳洲苑）NW・ハードウェア間トラブル応援対応

5. 今後の目標

「いつでも だれでも どこでも 親切で 安心して 最善の 医療を受けられる 社会をめざして」というスローガンを実現するべく、徳洲会は情報システム管理部会・徳洲会インフォメーションシステム株式会社などを含め、徳洲会一丸となってシステム統一に取り組んでいます。これに対し私達は、徳洲会グループ内における電子カルテ稼働第1号病院として、リーダーシップを発揮し、グループ内での様々なシステムの開発・検証にも積極的に関わっていきたい。

また、当情報システム管理室では、当院の医療の質の向上並びに診療の効率を高める為にも、システムの立場からの革新的なサポートを継続的に行っていきたい。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

41）ゲノム事務局

メディカル・コーディネーター　岸本　真美

1. 概要

2003 年度より第 1 期 5 年計画で始まりました「オーダーメイド医療実現化プロジェクト」は 2017 年度で第 3 期 5 年目（PJ 通算 15 年目）を迎え、最終年度となりました。本年度も引き続きプロジェクトの趣旨や意義等にご賛同いただいた方の DNA サンプル、臨床情報収集を行ってきました。DNA サンプル、臨床情報収集方法としては、一度だけ 7ml の採血を実施し生活習慣等のアンケート等を行うとともに、年に 1 回程度の頻度でカルテ情報をご提供いただきます。

患者様よりご提供された DNA、臨床情報についてはバイオバンクジャパン搬出時には匿名化処理を施し、個人識別情報等を削除して搬出を行っております。匿名化処理に使用するシステムには不正なアクセスがあった場合にはシステム内に記録されているデータが自動的に消去されるなど様々な情報を厳重管理する仕組みを取り入れ、情報管理には万全を尽くしております。

2. メンバー構成

常勤事務員 1 名、常勤検査技師 1 名

3. 実績

登録対象 38 疾患にて 4 月より登録を開始し、5 月末までにご了解を頂いた 54 名の患者様へプロジェクトの趣旨や意義、研究内容、参加方法等について IC 説明をさせて頂き、うち 44 名の方より同意をいただきました。DNA サンプル数は 44 名分となります。

《研究成果について》

最近発表された新しい研究成果として、バイオバンク通信 18 号に挙げられていたものを抜粋させて頂きます。

・肺腺がんではHLAクラス2などの遺伝子多型が関連することが明らかになりました。
・アジア人の非喫煙者女性の肺がんの関連遺伝子を複数特定しました。
・東アジア人の乳がんの関連遺伝子2つを新たに特定しました。
・アジア人の大腸がん感受性遺伝子領域4つを新たに特定しました。
・日本人のアトルバスタチン（高脂血症の治療薬）によって生じる肝障害はABCB1遺伝子多型が関連することが分かりました。
・日本人の2型糖尿病の関連遺伝子7つを新たに特定しました。
・関節リウマチに非古典的HLA-DOAが関与することが明らかになりました。
・血圧が塩分に敏感に反応するかどうかは腎機能に関わる遺伝子が関係することを解明しました。

このほかにも多数の成果が出てきております。御興味のある方は、院内にあります「バイオバンク通信」やプロジェクトのホームページ等を御参照頂ければと存じます。
（http://www.biobankjp.org/public/tsushin16/biobank_tsushin16.html#P1_01）
（http://www.biobankjp.org/work/index.html）

4. 今後の目標

第３期も引き続き多くの患者様にご協力いただき、感謝しております。このプロジェクトを通してご協力頂いた患者様とともにオーダーメイド医療の実現、日本医療の発展に貢献していきたいと思います。これまでの研究成果をさらに発展させ、１日も早くオーダーメイド医療が実現できるよう、患者様と研究機関の懸け橋となる所存で、引き続き業務に努めてまいります。今後ともご支援ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

42）保育室

保育室係長　中村　朱美

1. 概要

2017 年は、QI（Quality Improvement）の取り組みに参加させて頂き、保護者からのアンケートの聞き取り調査を実施し、普段より感じておられるご意見に耳を傾ける事ができ、保育士が個々の保育の見直しなど改善項目を掲げ取り組めた事は非常に有意義であった。施設設備面など病院はじめ他部署の方々からのご協力も頂き、保育の充実が図れたと言える。又保育士間で勉強会を定期的に実施する等、更に意欲的に質の向上への取り組みが出来た事は嬉しい出来事であった。

今年は産休から常勤保育士２名が３月・４月にそれぞれが復帰しスタッフが顔を揃え、４クラス編制として３年目に取り組むことが出来た事は園児や保育士にとってもプラスになったと言える。

モコモコ保育室では、７月に全国病児保育協議会にて「1 日の流れ」について発表。日々の保育にあたっては、小児科外来と保育室のより良い連携を図り常に情報の共有を目指した事がリスクマネジメントに繋ぐ事が出来たと言える。結果としてリピーター、紹介による新規利用者が増えた事は喜ばしい出来事であった。

2. メンバー構成

エンジェル保育室	《キリン組》	長谷川	曽我	木下
	《リス組》	荻	青野	中村
	《アヒル組》	河野	畑	辻
	《ヒヨコ組》	中西	上原	小川
モコモコ保育室		横山	永田	櫻井（小林・大岩）

3. 実績

《エンジェル保育室年齢別登室園児数》

		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
登室数	0 歳児	229	224	314	21	52	45	54	73	113	154	201	259	1,739
	1・2 歳児	322	318	352	269	269	213	240	235	226	234	289	293	3,260
	3 歳児	175	159	169	163	162	153	153	146	147	122	152	167	1,868
	4 歳児	68	69	67	152	136	126	120	126	123	126	117	153	1,383
	5 歳児	111	103	124	58	52	52	54	48	50	51	57	51	811
	学童保育	32	28	31	57	52	37	65	102	55	57	63	58	637
	合計	937	901	1,057	720	723	626	686	730	714	744	879	981	9,698
	一時預かり保育	1	2	2	2	1	3	1	3	1	4	2	0	22
	半日預かり保育	0	1	2	0	1	2	3	0	0	2	3	0	14

《病児・病後児保育室運営状況》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
開室日数	19	20	22	20	20	22	20	22	20	21	20	20	246
利用者数	89	86	102	86	82	111	82	72	76	81	74	62	1,003
1日平均利用者	4.7	4.3	4.6	4.3	4.1	5	4.1	3.3	3.8	3.9	3.7	3.1	4.3
保育士数	49	56	59	58	56	74	60	56	56	59	59	54	696
1日平均保育士数	2.6	2.8	2.7	2.9	2.8	3.4	3	2.5	2.8	2.8	3	2.7	2.9
キャンセル待ち	47	44	48	54	54	100	71	30	64	60	54	55	681
意見書利用数	12	9	3	6	3	8	8	7	9	6	5	6	82

《研　修》

1月21日　全国病児保育協議会研修会（中野子ども病院）
3月25日　全国病児保育協議会研修会（中野子ども病院）
5月13日　全国病児保育協議会研修会（中野子ども病院）
6月24日　全国病児保育協議会研修会（中野子ども病院）
7月16・17日　全国病児保育研究大会　（大阪市中央公会堂）
9月20日　大阪発達障害児支援の為の保育士・幼稚園教諭研修（TKP大阪北浜会議室）
10月11日　子どもの遊びを高める保育士の関わり（八尾市役所）

《行　事》

2月 3日　節分（豆まき）
3月 3日　ひなまつり
4日　院内全体災害訓練
18日　卒園式
5月 2日　子どもの日
8日　春の遠足（中田第2公園）
23・30日　集団健診（年2回実施・10月～11月にかけて予防接種を実施）
6月 9日　時の記念日
6月12日　じゃが芋掘り（園庭横畑にて10月にはさつま芋掘りを実施）
7月 2日　お楽しみ会・全体懇談会
7日　七夕
9月4～9日　個人懇談会　（保育室にて）
10月 4日　秋の遠足　（蜻蛉池公園）
11月17日　QI大会発表
12月17日　クリスマス会（保育室にて）
20日　エンジェル保育室ドア透明強化ガラスに変更工事
☆毎月　身体測定・避難訓練・誕生会・月2回幼児教育（英語ECC）を実施

4. 今後の目標

・業務改善に向けての取り組みの継続・園児の受入れ、断らない保育を目指す。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

43）がん相談支援センター

認定がん専門相談員　三谷　勇一

1. 概要

大阪府がん診療拠点病院として、がん相談支援センターの設置が要件化されています。その取り組みとして、入院、外来に限らず、がんに罹患している患者様、もしくはその家族様の相談にのり、情緒的サポートのみならず、社会資源の情報提供が求められています。相談を受けるに当たり、国立がん研究センターが主催する研修の受講が必須化されており、質の担保が求められています。その取り組みは体系化されつつあり、社会福祉士や看護師などの職種が連携しながら運営することが望ましくなっています。その過程におき、2017年は、がんサロンの立ち上げと発展的展開を試みました。2カ月に1度を目安とし、患者様同士、家族様同士でピアカウンセリングができる場の提供を実現することができました。また、その取り組みにおいて、家族を支える会の代表や、市場、サバイバーを巻き込みながら、連携のとれた多元的介入を実施することができました。さらに、セカンドオピニオンにおいては、潜在的なニーズを整理することで、インフォームドチョイスを実現しました。

2. メンバー構成

委員長：医　師　　村上　修（外科部長）
委員：　看護師　　宮本　千代美（看護師長）
委員：　社会福祉士　三谷　勇一（認定がん専門相談員）
人事異動
2017年11月より宮本千代美　がん相談支援センター専従着任

3. 実績

①研修参加・部会活動

2/18　がん相談員のためのコミュニケーション～出会おう、気づきあおう、学びあおう～
（大阪府がん診療連携協議会　相談支援センター部会）
10/28　治療と就業生活の両立支援について
（大阪府がん診療連携協議会　相談支援センター部会）
7/15　大阪府がん相談支援センター部会（大阪国際がんセンター）

8/4　第1回中河内がん相談支援センター部会（市立東大阪医療センター）
11/24　第2回中河内がん相談支援センター部会（市立東大阪医療センター）

3/4　第20回関西がんチーム医療研究会（主題シンポジストとしての招聘講演）
9/16　第21回関西がんチーム医療研究会（優秀演題賞受賞）

②がん相談支援センター相談延べ件数の表

相談内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
がんの治療	4	5	7	2	1	3	2	0	1	1	2	0	28
がんの検査	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	6
症状･副作用･後遺症	4	5	6	1	3	5	2	2	2	0	1	3	34
セカンドオピニオン（一般）	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	5
セカンドオピニオン（受入）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
セカンドオピニオン（紹介）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3
治療実績	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
受診方法･入院	1	2	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	7
転院	0	0	2	1	1	2	2	2	0	6	6	1	23
医療機関の紹介	0	0	2	0	1	1	1	0	0	0	1	4	10
がん予防･検診	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
在宅医療	2	3	6	4	6	5	3	8	4	3	14	6	64
ホスピス･緩和ケア	1	2	3	2	4	3	1	7	1	4	13	3	44
症状･副作用･後遺症への対応	0	2	5	5	6	7	0	3	3	3	10	1	45
ADL･服薬	0	2	2	1	1	2	2	4	0	1	2	1	18
介護･看護･療育	1	1	4	2	3	0	5	8	2	4	8	3	41
社会生活	0	0	0	0	0	1	0	5	2	1	3	3	15
費用	1	0	4	1	0	2	0	4	2	3	4	5	26
補完代替療法	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
不安･精神的苦痛	1	2	3	0	2	2	0	0	2	1	1	1	15
告知	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療者とのコミュニケーション	0	0	2	0	1	1	1	2	2	2	3	1	15
患者･家族間のコミュニケーション	2	0	0	1	0	0	0	3	1	2	5	1	15
友人･知人･職場の人間関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
患者会･家族会	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3
リンパマッサージ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
総数	17	26	51	21	32	35	22	51	23	31	78	35	422

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

③がんサロンの開催

運営計画：6 回程度／年　時：第 3 火曜日 14:00 － 15:00.　場所：当院会議室にて

【第 1 回平成 29 年 6 月 13 日（火）（外部講師：プロボラ酒井たえこ先生）】

がん患者の家族を支える会；リフレクソロジー体験～気持ちをほぐしに来ませんか？

【第 2 回平成 29 年 8 月 8 日（火）（外部講師：スヴェンソン池上規子先生）】

ウイッグの上手な使い方と爪のケア　～化学療法の脱毛と爪のトラブル

【第 3 回平成 29 年 8 月 15 日（火）（外部講師：スヴェンソン池上規子先生）】

治療中の外見ケアの仕方

【第 4 回平成 29 年 10 月 17 日（火）】

（当院管理栄養士：小山洋史先生、調理師：小谷野浩良先生、岩本進先生）

「食べたい」を支えたい！簡単料理～吐き気があるときの食事や調理の工夫

【第 5 回平成 29 年 12 月 19 日（火）（当院薬剤師：青山瑛里子先生）】

知りたい！分子標的薬と抗がん剤の違い

4. 今後の目標

中河内相談支援センター部会の検討事項として、新しい取り組みを検討しました。がん相談における記録の取り方における統一シート活用の義務化への備えや、がんサロンの病院間交流を検討しています。さらには、就労支援への取り組みとして、社会保険労務士との連携を強化します。また、がん政策サミットへの参加を検討しています。当サミットに提言することで、2 次医療圏の発展のみならず、全国へ新しい取り組みを普及させるきっかけを醸成することを目標とします。がんサロンの来年度の取り組みとしては、「第 1 回平成 30 年 2 月 20 日（火）（作業療法士）リンパ浮腫 : 自分でもできるセルフケア」、「第 2 回平成 30 年 4 月 17 日（火）（臨床心理士）“がんと告知されたら”～心の整理整頓を一緒にしましょう！」などの取り組みを思案しています。また、新しい取り組みとして、就労移行支援に備えるヨガや、認知行動療法を取り入れた取組を考案中です。

44）医療安全管理部

医療安全管理者　糸永　美千代

薬剤科　84
放射線科　87
臨床検査　89
リハビリ　92
臨床工学　97
栄養科　102
治験セン　105
医療福祉　111
病診連携　115
健診セン　124
情報シス　125
ゲノム　127
保育室　129
がん相談　131
医療安全　134
臨床腫瘍　140

1. 概要

インシデント・アクシデントの再発防止に向けて、主体的に問題解決思考で取り組めることを目標とし、セーフティーマネージャーが中心となり院内ラウンド・グループワーク・業務改善計画立案と実施等を行ってきました。

2. メンバー構成

医療安全管理部長　兼任医師	1名
GSM　専従看護師	1名
患者支援・相談窓口担当看護師	1名
医事課出向患者支援・相談窓口担当事務職員	1名
総務課出向事務職員	1名
総務課所属　相談役（主業務：警察事案対応）	1名

3. 実績

① 医療安全管理活動

(1) インシデント・アクシデント報告システム

エラー発生率を事例別に見ると（表.1）例年ドレーン・チューブ抜去、薬剤、自己転倒が多く、昨年は薬剤に関連する報告が一番多くあげられていました。次に事例件数を月別に比較してみると（表2）7～10%であり有意差はありませんでした。最後に事故レベル別に見てみると（表3)、治療や処置を必要としなかったLv2以下が90.9%を占めていました。Lv3b以上の殆どは転倒転落による骨折事例でした。医師からの報告はレポート数としては少ないのですが、事故報告書としての提出が徐々に増えてきています。さらに報告文化が定着するよう声かけを行っていきます。セーフティーマネージャーとともに薬剤・ドレーン抜去・転倒転落の傾向分析、評価、再発防止策の立案を行い実施し、2018年3月に成果を発表する予定です。

《報告集計》

表1〔事例内容〕事例実件数：1,985　対象期間：20171.1～12.31

ドレーン・チューブ	薬　剤	自己転倒	検　査	療養上の世話	ベッド転落	治療・処置	輸　血	医療機器等	不　明	合　計
382	539	303	198	109	83	75	18	22	256	1,985
19.2%	27.2%	15.3%	10.0%	5.5%	4.2%	3.8%	0.9%	1.1%	12.9%	

表 2〔月別件数〕事例実件数：1,985　対象期間：2017.1.1 ～ 12.31

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
180	164	150	174	172	169	145	155	164	168	190	154	1,985
9.1%	8.3%	7.6%	8.8%	8.7%	8.5%	7.3%	7.8%	8.3%	8.5%	9.6%	7.8%	

表 3〔事故レベル〕事例実件数：1,985　対象期間：2017.1.1 ～ 12.31

Lv0	Lv1	Lv2	Lv3a	Lv3b	Lv4a	Lv4b	Lv5	合計
284	1016	505	155	24	0	1	0	1,985
14.3%	51.2%	25.4%	7.8%	1.2%	0.0%	0.1%	0.0%	

(2) 医療安全管理委員会

毎月　第三月曜日に開催　(1 月～ 12 月、延 12 回)

各部署責任者同席のもと医療事故に対する原因分析を行い、防止策を講じることを目的として、開催しております。

(3) セーフティーマネージャー会議

医療安全管理委員会に先行して、毎月 1 回開催（1 月～ 12 月、延 12 回）

医療安全管理委員会の下部組織として医療事故の防止、医療の質管理を組織横断的に行い、患者様の安全、安心に貢献することを目的とし、活動しております。

●セーフティーマネージャーの業務

i. セーフティーマネージャー木曜会（1 回／週）

3 グループに分かれ、報告件数が多い薬剤、ドレーン抜去、転倒転落に対し現状把握・現状分析･対策の検討実施を行い､その成果を年度末に発表する予定です。グループワークを継続することで、問題解決的思考でとらえることが習慣になると思っています。またチェックリストに基づいて院内ラウンドを木曜日に行っています。ラウンドの結果報告は毎月の会議で行い、情報共有に努めてきました。また、院内外のインシデント事例や変化する医療安全体制・制度について随時情報共有を行っています。

ii. インシデントアクシデントレポートの振り返り

iii. 全体研修の企画・運営

iv. 医療安全対策カンファレンス　毎週木曜日

(4) パルスカンファレンス

毎週 1 回、木曜日に開催（1 ～ 12 月　延 44 回実施）

パルスカンファレンスは医事課職員・総務課職員等も交えて患者様目線での気付いたことの意見交換を図り、問題解決に向けて取り組んでいます。長年の課題であった南口駐車場出入口の異臭については抜本対策が講じられ 9 月に工事が終了しました。

範囲を超えて車いす介助を強要される患者様への対応検討や、トイレ内での問題行動を起こす患者様への対応、ボランティア委員会との共同でボランティアの車いす介助研

修の実施、電子たばこの敷地内使用についての問題提起をし、敷地内での使用禁止を周知徹底することとなりました。

送迎バスに関しては、バス乗り場の案内不足等も再々のテーマとして検討してきましたが、まだ解決には至っておりませんので院内掲示の抜本的見直しを要望しているところです。さらに、シニアカーの院内利用については2台分のシニアカー置き場の確保はできたものの、数が増えると場所の検討も必要になります。それらも併せて院内利用規約等の検討をお願いしているところです。

(5) 医療安全全体研修

2017年は研修ビデオの上映を追加研修として行ったことで参加率が上がりました。

i. 第1回医療安全全体研修

6月23日（金）17：30～18：30

テーマ：育つためのリスクマネジメント

参加人数740名（参加率85.6%）

講師：金谷　美子先生（元医療安全管理者）

ii. 第2回医療安全全体研修

12月1日（金）17：30～18：30

テーマ：医療現場でのトラブル対応／病院で発生するトラブルと事前事後の対応

参加人数704名（参加率82.1%）

講師：長谷部　圭司先生（弁護士・医師）

実際の相談事例をもとに対応についての講義をしていただきました。アンケートの結果、事例ごとの対応がQ＆Aで説明があり解りやすかった、参考になったという意見が約80%でした。

(6) 医療安全部会参加

全国全体会議 (医療安全管理部会)

医療安全管理部会

(7) 医療安全関連活動への参画

日本医療機能評価機構認定病院　（会員）

医療事故紛争対応研究会　　（会員）

日本医療リスクマネジメント学会　　（会員）

大阪府看護協会　医療安全対策委員会（委員）

大阪府看護協会府東支部　医療安全管理者交流会　4回／年出席

(8) 医療・医事紛争

i. 院内安全パトロールの実施

病院の職員を守る、患者様が病院に対して持っている期待に応え、安心・安全な医療を受けられる環境を整えることができるように、院内安全パトロールの実施を総務課配

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

置の職員２名体制で毎日行っています。目的は組織として緊急時に素早く現場に赴き初期対応ができるようにすることです。

その中で 2017 年８月に地下駐車場の車両が半ドアであるのを発見、盗難を疑い八尾警察署に連絡し警察官の派遣を要請しました。診察中の患者様であることが分かり、車両の確認をしてもらった結果何の被害も無いことが判明しました。

患者様より病院がこのような活動をしている事に、喜びと共に感謝のお言葉を頂いた事案がありました。

ii. 医療紛争

前年度から継続中であった事案５件中４件が和解で終了し、１件のみ訴外事件として継続中です。今後も組織内部でのコミュニケーションスキルの向上を図り、丁寧な説明を心がけていきます。

② 患者相談窓口活動と相談支援業務

（1）患者相談窓口活動

患者相談窓口は医療に関する患者様やその家族様などの苦情や心配に迅速に対応し、医療の情報提供、指導などを通して、患者様との信頼関係を築いて行く窓口として設置され、体制は担当看護師の他に医事課職員が担当しています。

その業務内容は主に案内・相談・介助・その他に分類でき、詳細は下記に示す通りです。

2017 八尾パルス（相談等）業務実績（件数 24998　　対象期間１／４～12／30）

案　内	予約診（再来機）	6,047	24.2%
	入院患者	3,033	12.1%
	再診	2,486	9.9%
	バス乗場	1,603	6.4%
	駐車券	1,355	5.4%
	紹介受付	1,275	5.1%
	職員面会	798	3.2%
	文書受付	597	2.4%
	初回	572	2.3%
	健診センター	331	1.3%
	会計（返戻等）	314	1.3%
	その他の院内施設	2,855	11.4%
相　談	医療相談	1,880	7.5%
	苦情相談	172	0.7%
介　助	車椅子	1,098	4.4%
	視・聾・聴		
	その他		
その他		24,998	

案内業務は全体の 82％を占め、最も多かったのは予約診（再来機）の取り扱いでした。再来機の画面上の手順や説明文がわかりにくい、車いすに座ったままでは画面が見えにくく操作不可能、また、高齢者にとっては操作自体になじめない方が多く認められました。次いで入院患者様の案内、院内施設の案内です。

相談業務は全体の 9.0％であり、その内容は受診科に関すること、自身の疾患や検査方法について、検査データの説明、治療費に関すること、転院先の相談、セカンドオピニオンについてなど相談内容は多岐にわたっており、その都度関係部署と連絡を取りながら対応してきました。

介助業務は全体の 4.0％ですが、タクシーから車いすへの移乗介助や筆談援助、電話をかけるなどの介助を行いました。

(2) 皆様の声

「皆様の声」は 2014 年 9 月から集計を始め、それに対するお返事を掲示させていただいております。

その件数は 2015 年 105 件、2016 年 198 件、2017 年 228 件と毎年増加しています。内容では感謝の言葉の占める割合が初年度は 11％であったのが、25％にまで増加しており、我々医療従事者の士気高揚になっております。

一方、接遇に対する意見は、33％が 22.8％と減少しているものの、まだまだ問題があるように思われます。接遇の改善を目的に事例を職員間で共有するために院内ネットワークに掲載しております。

施設等の要望につきましては、エレベーターの増設、和式トイレの設置など出来ない内容もありますが、食器の小皿にも全てフタを取り付けて欲しい、病棟のデイルームにテレビを設置して欲しい、各フロアに飲料水を設置して欲しい、外来の予約以外の待ち時間が長すぎるので何とかして欲しい、ペーパータオルが取り出しにくい、身体障害者用駐車場の適切な利用の確保、送迎バスの時間を守って欲しいなどがあり、今後も検討する必要があると考えます。

また、この声の改善事例として従来からの問題点であった南口駐車場出入り口付近の悪臭対策を行い、2017 年 9 月末日で工事が終了致しました。

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

皆様の声分類 2017 年 1 月～ 12 月					
	①感謝	②接遇	③要望等	④内容不詳	合計
A　医局	14	5	3	4	26
B　看護部	36	29	39	0	104
C　医事課	3	7	11	0	21
D　薬剤科	0	1	2	0	3
E　栄養科	1	0	8	0	9
F　検査科	1	1	2	0	4
G　放射線科	0	2	3	0	5
H　リハビリ	1	0	0	0	1
I　健診センター	0	0	1	0	1
J　総務課	0	6	27	0	33
K　保育所	0	0	0	0	0
L　その他・ローソン	0	0	3	0	3
M　宛先不明・回覧不可	1	1	4	12	18
合計	57	52	103	16	228
	25%	22.8%	45.1%	7%	100%

4. 今後の目標

22018 年は、医療安全対策カンファレンスや SM グループワークが充実することで、SM が積極的に医療安全文化の構築に向けての行動ができるよう SM の取り組みを評価し指導していきます。

45）臨床腫瘍センター

副センター長　薬剤部　松浦　暢子

薬剤科 84
放射線科 87
臨床検査 89
リハビリ 92
臨床工学 97
栄養科 102
治験セン 105
医療福祉 111
病診連携 115
健診セン 124
情報シス 125
ゲノム 127
保育室 129
がん相談 131
医療安全 134
臨床腫瘍 140

1. 概要

近年、がん診療の分野は目覚ましい進歩がみられており、臓器や治療手段にとらわれず診療科の枠を超えた包括的ながん診療の実践が求められています。なかでも化学療法の進歩は著しく、新たな分子標的製剤や免疫療法の登場により有効性は向上していますが、バイオマーカーに基づく適切な治療選択・副作用対策を講じることが重要となっています。

臨床腫瘍センターには、日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医、がん専門薬剤師等が在籍しており、その専門性を活かしてチーム医療を展開すべく、がん化学療法に直接携わる各科臨床医、看護師らと協力し、安全かつ質の高いがん化学療法を提供できるよう努めています。2017年4月からは、管理栄養士・理学療法士も加わり、より幅広い視点で患者様をサポートできる体制となりました。

院内で施行する治療レジメンについては、委員会で厳格に審査を行ったレジメンのみを採用とし、施行時には電子カルテ上や薬剤師・看護師による十分なチェック機能が働くシステムをとっています。

外来で化学療法を受ける患者様に対して、がん専門薬剤師による診察前面談を導入し、副作用モニタリングや処方提案を行い、患者様のQOL改善や医療安全の向上を目指しています。また、入院・外来でのがん化学療法をシームレスに行うために、センターと治療を行う病棟看護師の連携の強化を図っています。

当センターでは、外来だけでなく入院も含め、院内全体のがん化学療法を安全・適切に行えるよう、各診療科・多職種のメンバー全員で積極的に取り組んでいきたいと考えています。

2. メンバー構成

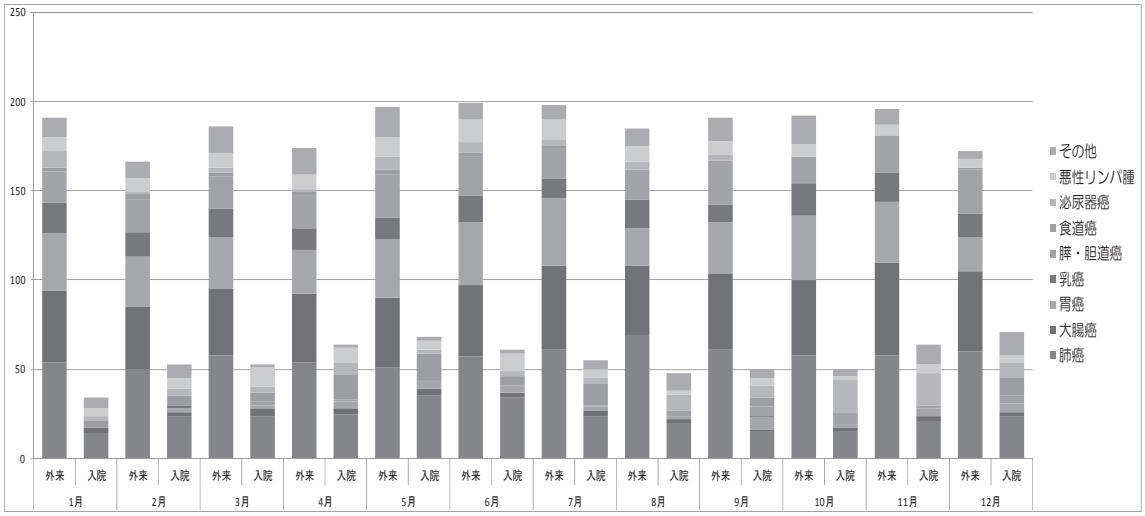
センター長：瓜生　恭章（呼吸器内科・腫瘍内科：日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医）
副センター長：一ノ瀬　努（脳神経外科）、金丸　知寛（泌尿器科）
松浦　暢子（薬剤部：日本医療薬学会認定がん専門薬剤師）
腫瘍内科：洪　鉉寿（日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医）
外科：垣本　佳士
消化器内科：堀元　隆二
呼吸器外科：市橋　良夫
薬剤部：南野　智志、小西　千尋（日本医療薬学会認定がん専門薬剤師）
看護部：髙橋　章恵、松ヶ野　奈津江、辻田　瑞穂
栄養科：佐藤　友亮
リハビリ科：西川　真世
医事課：影山　雄紀、谷村　亮紀

3. 実績

2017 年度のがん化学療法施行件数は年間で 2,918 件（外来：2,247 件、入院：671 件）と、2016 度（2601 件）より 317 件増加し、過去最高の施行件数となりました。癌種別では肺癌の化学療法が 3 割強を占め、大腸癌・胃癌の消化器癌が続きます。また、肝・胆道系癌の化学療法も増加傾向となっています。

《がん化学療法・生物学的製剤 施行件数》

	2017年	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		合 計	
		外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
がん化学療法施行件数（癌種別）	肺癌	54	14	50	24	58	24	54	25	51	35	57	34	61	24	69	20	61	15	58	15	58	21	60	24	691	275
	大腸癌	40	3	35	2	37	4	38	3	39	4	40	3	47	3	39	2	43	1	42	2	52	3	45	2	497	32
	胃癌	32	0	28	2	29	2	25	4	33	4	35	4	38	2	21	2	28	7	36	2	34	4	19	5	358	38
	乳癌	17	0	14	2	16	0	12	0	12	0	15	0	11	0	16	0	10	1	18	0	16	0	13	0	170	3
	膵・胆道癌	18	0	18	0	18	2	18	1	24	1	22	1	17	1	17	3	25	5	15	7	21	2	25	4	238	27
	食道癌	2	4	3	5	2	5	2	14	3	15	2	4	1	12	0	0	0	5	0	0	0	0	1	10	16	74
	泌尿器癌	9	3	1	4	3	3	2	7	7	2	6	3	4	3	4	9	3	7	0	18	0	18	0	9	39	86
	悪性リンパ腫	8	4	8	6	8	11	8	8	11	5	13	10	11	5	9	2	8	4	7	2	6	5	5	4	102	66
	その他	11	6	9	8	15	2	15	2	17	2	9	2	8	5	10	10	13	5	16	4	9	11	4	13	136	70
	合 計	191	34	166	53	186	53	174	64	197	68	199	61	198	55	185	48	191	50	192	50	196	64	172	71	2,247	671
	2017年 合 計	180	32	172	30	181	31	166	38	168	35	183	52	152	42	189	46	171	38	154	58	171	78	179	55	2,066	535
（診療科別）	内科	14	10	16	12	8	8	17	18	13	25	12	10	16	13	11	9	13	13	5	5	14	2	7	12	146	137
	腫瘍内科	72	18	61	31	82	41	88	30	96	29	94	39	90	22	94	16	86	15	96	12	86	31	86	41	1,031	325
	外科	65	1	60	4	58	1	46	8	56	10	64	7	73	11	53	3	66	5	68	3	77	4	57	2	743	59
	乳腺外科	11	0	8	1	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	1
	肝臓外科	16	0	16	0	16	0	15	1	20	1	18	0	11	1	14	3	17	6	18	8	17	3	20	4	198	27
	泌尿器科	9	3	1	4	3	3	2	7	7	2	6	3	4	3	4	8	3	7	0	18	0	17	0	9	39	84
	脳外科	4	2	4	1	7	0	6	0	5	0	5	1	4	3	9	3	6	1	5	0	2	2	2	0	59	13
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	6	0	3	0	4	0	5	0	0	0	22
	合 計	191	34	166	53	186	53	174	64	197	68	199	61	198	55	185	48	191	50	192	50	196	64	172	68	2,247	668
生物学的製剤	膠原病・リウマチ	40	0	41	0	48	0	40	0	49	0	44	0	44	0	42	0	52	0	47	0	42	0	43	0	532	0
	炎症性腸疾患	6	0	3	0	6	0	5	0	7	0	5	0	5	0	6	0	6	0	5	0	7	0	4	0	65	0
	合計	46	0	44	0	54	0	45	0	56	0	49	0	49	0	48	0	58	0	52	0	49	0	47	0	597	0



4. 目標

診療科・職種の枠組みを超えて連携したチーム医療を実践し、患者さんに確実・安全・安楽ながん化学療法を受けていただけるよう努める

看　護　部

―― 2017年 ――

46） 4階東　5階西　5階東　144
6階西　6階東　7階西　145
7階東　8階西　8階東　146
ＨＣＵ　ＩＣＵ　手術室・中央材料室　147
透析センター　外来・ＥＲ　地域医療室　148
退院調整チーム　保健指導　149

46）看護部

看護部長　崎山　昌代

4階東 144
5階西 144
5階東 144
6階西 145
6階東 145
7階西 145
7階東 146
8階西 146
8階東 146
HCU 147
ICU 147
手術室 147
透析セン 148
外来･ER 148
地域医療 148
退院調整 149
保健指導 149

1. 概要

本年度の目標を①安全で優しい看護を提供する②急性期病院としての看護の役割を果たすこととし、それぞれの部署で取り組んでいる。

超高齢化の中、急性期に必要なスキルの教育や地域連携・院内連携強化に努め、地域の中での当院の役割を果たせる看護師を育成し、また、倫理をはじめとするラダー別の教育を行い、優しくよりよい看護が提供できるように努めている。

4東病棟　脳神経外科／神経内科

脳神経外科は脳卒中ホットラインや一般救急からの入院患者様が多く、突然の発症や後遺症などに対して患者様やその家族様に寄り添える看護が提供出来るように務めている。患者様の多くはICU・HCUを経由し当病棟へ転床となることが多いが、次の救急患者様の受け入れが出来るよう速やかな一般病棟転床を心がけている。

神経内科の患者様も増加傾向である。認知症や特定疾患、難病患者様など予後不良なケースや日常生活を維持出来ない患者様が多いため、病態を理解し適切な社会資源の提供や退院後の生活、家族様への支援を考えながら援助を行っている。

両科共に早期離床、早期リハビリテーション介入・嚥下訓練、早期退院を目指し、医師・病棟看護師とリハビリテーションスタッフ、MSWがカンファレンスを行い、患者様とその家族様の満足が得られるような退院支援を目指している。

5階西病棟　内科／小児内科・外科／眼科

今年度4月より常勤の婦人科医師が着任し、婦人科病棟として運用が開始となった。そのため、今年度は婦人科疾患の知識の向上と看護の質の確保に重点を置いた。

まず病棟内での小児チーム、眼科チームに加え、婦人科チームを発足し、マニュアルの作成、勉強会の開催に取り組んだ。時間外（夜間）での婦人科外来対応に向けて、スタッフ全員（卒後1年目は除く）が婦人科外来に見学に行き、業務を学んだ。また婦人科外来と病棟との連携を強化し、継続した看護が出来るように体制を整備した。

子宮癌、卵巣癌などのがんに対する治療が開始となり、化学療法、術前術後管理の体制を整え、看護の質の確保に努めた。

引き続き次年度も婦人科看護（外来・病棟との連携、化学療法、術前・術後看護など）に重点を置き、看護の質の向上に努めて行きたい。またがん看護に対しても知識が不十分なので、今後研修など積極的に参加し知識を深め、少しでも患者様の苦痛緩和につなげることができればと思う。

5東病棟　循環器科 / 心臓血管外科

心臓カテーテル検査・治療や心臓血管外科手術を受ける患者様を主として受け入れており、2017年度は、職場環境を整え、急性期病棟としての専門性を高めることで、個人のスキルアッ

プに繋げられるよう取り組んだ。院内外の研修に積極的に参加することで、個々の知識を深めることができている。週１～２回心臓カテーテル室にも入り、カテ室ナースとしての役割も担うことで専門性も身につき、急変時の対応も学ぶことができている。

また、急性期病棟でありながらも、循環器･心臓血管外科の慢性期疾患を持つ患者様も多く、在院日数が伸びてきているため、患者様に合った療養環境を提供できるよう退院支援にも取り組み、カンファレンスを実施することで在院日数を短縮できるよう進めてきた。MSW との連携カンファレンスがスムーズに行えるよう、スタッフ教育も強化することができている。

次年度は、個々の持つ知識や研修で学んだことを発揮する場として、病棟内での勉強会を定着できるよう取り組んでいく。

6 階西病棟　整形外科

当病棟は 60 ～ 70 件／月の手術件数がある。おもに脊椎・股関節を主とした手術が毎日行われている。

今年度はクリニカルパスを見直し、在院日数の短縮や医療・ケアの標準化、効率化やチーム医療の推進に活用した。

また、週に１回、医師･看護師･リハビリ･MSW とでリハビリカンファレンスを行っている。患者様の今後の生活を考え自宅がいいのか・リハビリが必要なのかをチームで話しあい患者様とその家族様が満足のいく退院支援を行っている。そのため、専門性を有した看護が必要である。充実した看護ができるよう、自律した看護職員の人材育成を目指してチーム編成し病棟活動を引き続き行う。

今後も引き続きチーム連携を充実させ、患者様とその家族様が満足のいく看護・退院支援を行っていく。

6 階東病棟　形成外科 / 泌尿器科 / 歯科・口腔外科

形成外科、泌尿器科、口腔外科、腎臓内科に眼科の短期入院数が加わり、手術件数は 1,077 件 / 年であった。昨年より、入退院数・手術件数は増加傾向である。副主任２名が就任し、退院支援・接遇・自律支援を目標として取り組んできた。腹膜透析の看護パスの作成や、看護師による早期退院支援の介入、ＢＬＳ、急変時対応や陰圧療法など病棟内研修を積極的に取り入れ、知識の共有を図ることができた。今後は、さらに専門領域での取り組みを活かした多職種連携や在宅関連担当者との連携強化に努めていきたい。

7 階西病棟　消化器内科

当病棟は消化器内科病棟である。早期癌における ESD を積極的に行っており、ポリペクトミー・EMR・消化管出血に対する止血・ERCP・また肝臓センターの内科領域の患者様を多く受け入れている。内視鏡機器の急速な進歩により内視鏡治療は高度となり複雑化しており、安全･安心な療養環境の提供ができること、標準的なケアを看護師それぞれが提供できるよう心がけている。

また終末期ケアも多く、緩和ケアチームと連携しながら看護を行っている。専門性が高まる中、患者様の個別性を重視した看護が提供できるよう努力したい。

患者様の高齢化が進む中、入院当初より在宅復帰を視野に入れた支援や調整を心がけている。

4階東 144
5階西 144
5階東 144
6階西 145
6階東 145
7階西 145
7階東 146
8階西 146
8階東 146
HCU 147
ICU 147
手術室 147
透析セン 148
外来･ER 148
地域医療 148
退院調整 149
保健指導 149

7 東病棟

当病棟は、外科・肝臓外科の周手術期を中心とした急性期病棟である。2017 年は年間手術件数外科 742 件（緊急 192 件、予定 550 件）肝臓外科 253 件（緊急 43 件、予定 210 件）となっている。

平均在院日数は 11.15 日であり、前年と比較し 0.19 日延長している。患者様の高齢化が進み、退院後に医療・看護サポートが必要になる場合や生活環境の変容も強いられる状況になることもある。その為、今年度からは退院支援チームを発足し、退院支援カンファレンスの見直しを行い、病棟全体で患者様の退院後の生活を踏まえた調整を行えるように取り組んでいる。また、カンファレンスを充実させ、患者様への看護の振り返りをするために、デスカンファレンス、ケースカンファレンスを行い、行き届いた看護の実践に取り組んでいる。

8 階西病棟　呼吸器外科・内科／腫瘍内科

呼吸器外科・内科　腫瘍内科の混合病棟で、主な疾患は肺癌、肺炎、誤嚥性肺炎、気胸、慢性閉塞性肺疾患等、肺疾患を対象とした患者様が多く入院されている。気胸の術後や胸腔鏡下肺切除術後の患者様、化学療法や放射線治療を受ける患者様も積極的に受け入れ、看護必要度は平均 33％を維持できている。

今年度の目標に「安心･安全な看護を提供する」ことを掲げ、定期的な医師による勉強会や、職員による病棟内での伝達講習を実施。急性期から慢性期・終末期に至るまで、幅広い看護を提供するため、職員一同日々邁進している。

昨年度からの課題として、平均在院日数の短縮を目標に多職種連携を強化した。入院後 1 週間以内に退院支援カンファレンスを実施。MSW が作成した退院支援計画書を、看護師が患者様とその家族様に説明することで、退院への意識向上につながり、平均在院日数の短縮につなげることができた。次年度も多職種との連携を大切に、更なる平均在院日数の短縮に繋げていきたいと考える。

8 階東病棟　混合内科

多数の内科疾患の他、腫瘍内科の受入れも継続し、更に化学療法・放射線治療を受ける患者の看護が必要とされた 1 年であった。化学療法の手技・内容の学習だけではなく、患者様とその家族様への曝露対策の指導の充実が今後の課題である。

今年度は円滑な退院支援推進のため、MSW と退院支援チームが協力し、退院カンファレンスをスタッフ全員で行うよう取り組んだ。当初は戸惑っていたスタッフやリーダーも、主治医への方向性の確認や、家族からの情報収集など積極的に行えるようになり、退院件数の増加に伴い稼働率の上昇にもつながった。

来年度は臨床腫瘍センターとの連携を強化し､外来から入院､入院から外来への移行をスムーズに行い、患者様の安心できる環境作りに努めたい。

糖尿病教育入院の受け入れも再開となり、糖尿病チームとの連携を深め教育環境の充実を図っていく。

その他、引き続きケアの充実　患者様満足度向上、看護の質の向上を目標に、スタッフ指導・勉強会の開催など積極的に行っていきたい。

ＨＣＵ

ICU の後方病棟としての機能を持ち、夜間入院を含む緊急の患者様の受け入れが多い部署である。全身麻酔下のリカバリー患者様の入室も多く、初期治療の看護のほか、全身機能の回復のため、心・肺リハビリや NST などと協働し患者様中心の看護を行っている。昨年に比べ、新入院受け入れ数はわずかに減少したものの、重症度・医療、看護必要度は 80％後半が続き、入室患者様の重症度は高くなっている。

今年度は、看護師自身のスキルアップと部署目標にリンクした目標管理を行い、自律した看護師の育成、および、安全で安心な療養環境と看護を提供できるよう取り組んだ。

これからも、異常の早期発見と病状回復を促進するためのアセスメント能力の向上、患者様が早期に元の生活に戻るための日常生活支援を積極的に実践していく。また、ER・病棟と連携したスムーズな患者様の受け入れを行い、早期の退院支援に取り組んでいく。

ＩＣＵ

ICU は、重篤な急性臓器機能不全状態にある患者様を対象とし、多職種連携のもと、高度かつ専門的なチーム医療を提供する部署である。

「安全で安心な急性期医療を提供できる」を部署目標に、今年度は定期勉強会・研修以外にも、インシデント分析をもとにした勉強会の企画実施、点検や確認方法の見直しを図り、インシデントの再発防止に努めた。また、患者様やその家族様が信頼し安心できる治療環境の提供と、チーム医療の推進のため、看護カンファレンスを改訂し多職種カンファレンスの活性化を図った。

今年度は、ICU 入室患者数が前年度と比較し約 10％の減少があった。急性期病院としての部署役割を果たすため、ICU をより有効活用するためのシステム構築と、個々が活きる職場環境作りと人材育成に尽力したい。

手術室・中央材料室

手術室は 7 室稼働している。2017 年の手術件数は 4,737 件（緊急手術 554 件）で、前年対比で 278 件増加した。特に眼科の手術件数は 1,012 件で、前年対比で 218 件と大幅に増加した。また、今年度より婦人科が開始となったため手術を行える体制を整え、現在は徐々に手術件数も増加してきている。

看護の面では、患者様に安心して手術に臨んでいただけるよう、全身麻酔患者様を対象に術前訪問を再開したが、全症例行えていない現状にあり今後の課題である。また、看護師の育成および器材や物品の調整を行い、手術を安全かつ円滑に受けていただけるよう環境を整えた。

今後も、患者様やその家族様にとって安全で安心できる手術環境を提供できるよう、スタッフ一同取り組んでいきたい。

4階東 144
5階西 144
5階東 144
6階西 145
6階東 145
7階西 145
7階東 146
8階西 146
8階東 146
HCU 147
ICU 147
手術室 147
透析セン 148
外来･ER 148
地域医療 148
退院調整 149
保健指導 149

透析センター

近隣に透析クリニック新設開院もあり、本院で導入後転院のケースも増えたが、逆に入院治療が必要な場合に本院紹介入院も多かった。クリニックの器械トラブルによる臨時透析施行もあり、災害時対応の疑似体験もできた。透析施設の地域連携の重要性を痛感した。

一番のニュースは常勤の腎臓内科医、それも女医をお迎えしたこと。優しいタッチと細やかな心遣いが随所に感じられる。経験を積んだ透析室看護師も心新たに取り組んでいる。腹膜透析の継続も可能となり、生活リズムに合わせた透析療法の選択もできている。

透析患者様の高齢化・長期化に伴い、様々な合併症を伴った患者様が増えている。透析通院はもちろん、循環器・形成外科など複数の専門外来の受診を必要とする患者様も多い。専門細分化される医療の中で総合病院の中の透析センターであることを大いに活かせられればと考えている。

外来・ＥＲ

当院の外来は、「診療部門」「ER」「検査治療部門」「予防医療部門」の４つの部門に分かれ、それぞれの部署で安全な看護が提供出来るよう、スタッフが専門的知識と技術の向上に努めている。

今年度の外来患者数は約 780 名 / 月、救急受入件数約 503 件 / 月、脳卒中ホットライン 28 件 / 月、内視鏡検査　670 件 / 月、日帰り手術 87 件 / 日であった。糖尿病外来では糖尿病の専門医２名をお迎えし、多くの患者様の診察と、保健師、栄養士、理学療法士を中心とした生活指導に一層力を入れてきた。ER では、外傷看護の勉強会が行われ、高次機能障害の可能性が疑われる救急も受け入れられるよう準備中である。

今年もスタッフの教育に力をいれ、各種院内の研修に加え、大阪府看護協会の研修、徳洲会グループ内でのキャリアアップ研修（北海道から沖縄離島に至るまでの幅広い内容）に参加した。高度な医療や、がん化学療法、離島医療を学び、徳洲会の理念に沿って、断らない医療、誰もが安心で平等な医療を受けられるよう頑張っている。今後も多様化する外来患者様や検査に対し、病棟との協働を図り、充実した看護を目指して行きたい。

地域医療室（訪問看護、訪問診療）

地域医療室は、訪問看護と訪問診療を担当している。2017 年の登録総数・登録件数および訪問看護実績件数は、グラフ（P.150）の通り、比較的安定し推移している。訪問診療件数は 497 件、在宅看取りは 15 件であった。登録患者主疾患内訳は、悪性腫瘍が４割、呼吸不全と筋･神経系難病がそれぞれ１割、その他は脳血管疾患、糖尿病、心不全 、腎不全、血液疾患、脊髄･頸椎損傷である。新規登録患者様の主疾患は、悪性腫瘍６割で、その７割が終末期の患者様であった。

同日複数回訪問の患者様が一定数あり、重症度が高く、点滴管理、PCA 管理、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、在宅輸血療法なども行っている。呼吸不全の患者様では、ハイフローセラピー専用機 myAIRVO 使用患者様の訪問看護、訪問診療が開始となり、退院後半年以上経過した現在も在宅療法を継続できている。

訪問看護の質向上として、カンファレンスの活用や部署研修および院内外研修への参加と部

署内伝達講習を行い、知識・技術の更新を行っている。看取り期の患者様には、Care of the Dying Pathway（看取りに関するクリティカルパス）を導入・改変し、必要なケアの気づきやケアの統一を図った。また、在宅看取り後の遺族訪問を行うことで、遺族に対するグリーフケアだけでなく、スタッフの看取りケアに対する向上心や、やりがいにも繋がっている。業務改善としては、SPD の定数見直しにより、7 万 5 千円分の不良在庫削減を行った。

今後は、訪問看護の質向上を継続しながら、患者様とその家族様が 24 時間どの時間帯にも利用しやすく、スタッフにとっては、より働きやすい環境を目指して、勤務形態の変更を計画している。

退院調整チーム

退院調整チームは「断らない医療の実践」「在院日数の短縮化」を目標とした病院の理念および地域包括ケア推進のため退院調整専従看護師 1 名、各病棟フロアーに退院支援専任の社会福祉士 1 名を配置し、退院困難な要因をもつ患者様の退院支援カンファレンスは 1 週間に 1 ～ 3 回実施し 3,520 回／年であり、2 週間を超過する患者様に対してはさらに治療の方向性や進捗を医師や看護師、他職種と情報共有し支援している。家族様へのリハビリ見学も定着してきており家族認識と実際を修正し支援につなげている。自宅や施設へ帰るために往診医や訪問看護ステーションとの調整、介護事業所等と連携をして退院前カンファレンスは 67 件／年であった。

看護部と退院調整チームのフロアーの連携強化に取り組み、課題と問題解決の共有を行い退院促進に努めている。急性期治療後の調整に早い段階からの支援と調整をするため連携保険医療機関との連携を一層図っていきたい。

保健指導

年間保健指導件数は 4,519 件であり、昨年度と比較すると 13％の増加であった。（P.151 表 1 保健指導の領域件数参照）背景としては、①一般内科の生活習慣病患者に保健師より声かけを行なったこと、②糖尿病専門医 2 名の就任に伴い、糖尿病外来患者の療養指導、フットケアが増加したことが挙げられる。（P.151 表 2）

特定保健指導については、健診当日に該当者へ利用案内を実施する体制は維持できているが、昨年に比べ、特定保健指導の実施率は低下している。

来年度の目標として、糖尿病治療においては、糖尿病合併症管理料加算の増加、および糖尿病透析予防指導料加算の再開、特定保健指導においては、糖尿病メタボリックシンドローム対象者への発症予防のための生活習慣の見直しや喫煙者に対する情報提供など一次予防の取り組みを強化していきたい。

2. メンバー構成

4 階東病棟看護主任：山本真紀
5 階西病棟副看護部長：高橋章恵
6 階西病棟看護師長：藤原一美
7 階西病棟看護師長：稲垣ひとみ
5 階東病棟看護主任：高田由希
6 階東病棟看護師長：松本静香
7 階東病棟看護主任：堀西まき
8 階東病棟看護副主任：辻田瑞穂

8 階西病棟看護主任：松ヶ野奈津絵
ICU 看護主任：中島麻由美
外来看護師長：吉田暁美
透析センター看護師長：大福礼子
退院調整看護師長：加藤和代
保健師看護主任：酒井菜穂子
HCU 副看護部長：小原真栄美
手術室看護師長：柴山智賀子
外来看護師長：宮本千代美
地域医療室看護師長：竹内裕子
看護部看護師長：村中烈子

3. 実績

1）部署別統計表

①病棟別・月別 1 日平均入院患者数

患者統計 P12 参照

②手術部位別分類

麻酔科 P68 参照

③短期滞在手術センター利用件数

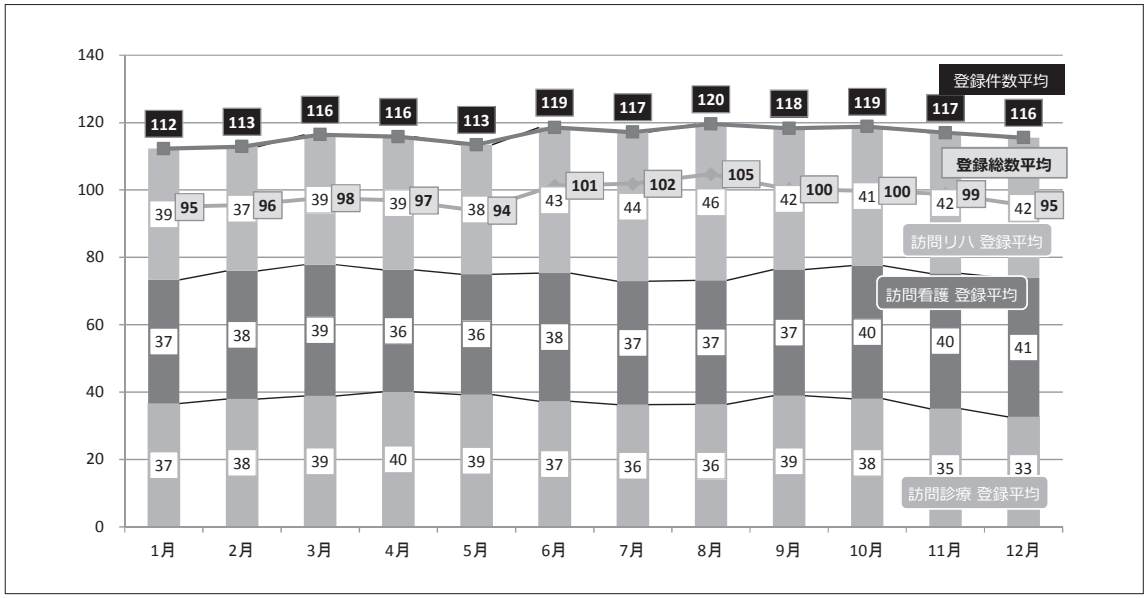
	形成	整形	心臓外科	外科	眼科	泌尿器科	その他	計
1 月	27	11	4	3	25	1	1	72
2 月	27	10	3	3	32	0	0	75
3 月	3	11	5	5	28	0	0	52
4 月	33	5	2	2	22	0	0	64
5 月	38	12	2	2	27	1	4	86
6 月	37	9	9	0	47	0	1	103
7 月	35	5	2	1	43	0	0	86
8 月	35	10	1	3	51	0	0	100
9 月	33	9	6	5	40	0	1	94
10 月	35	13	4	6	42	0	0	100
11 月	28	6	3	1	56	0	0	94
12 月	30	7	4	1	44	0	1	87
計	361	108	45	32	457	2	8	1,013

平均患者数　84.4 人 / 月

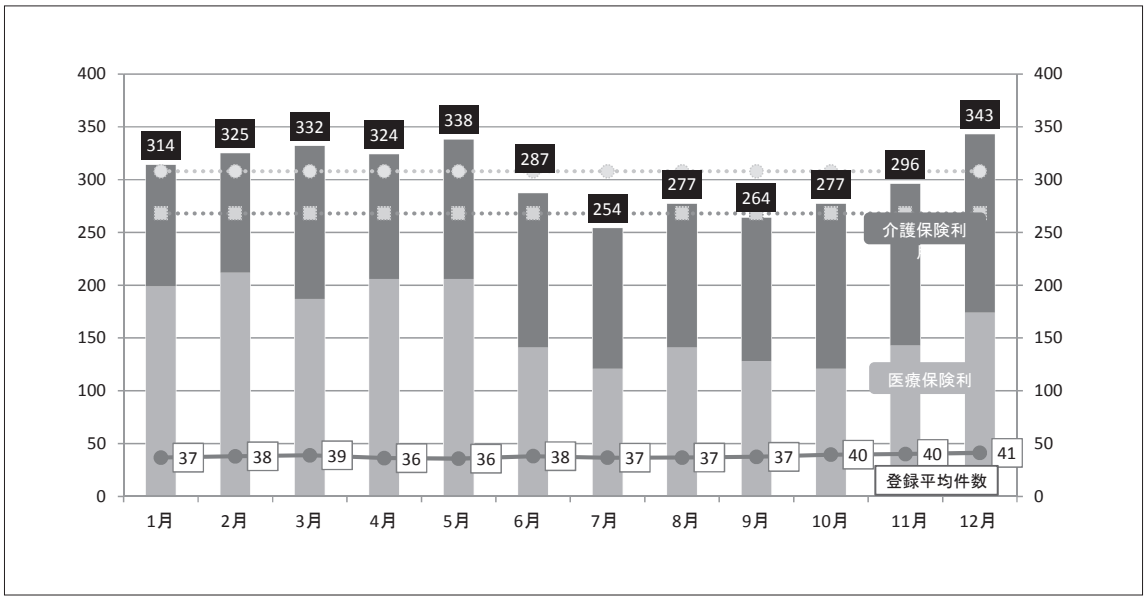
4階東 144
5階西 144
5階東 144
6階西 145
6階東 145
7階西 145
7階東 146
8階西 146
8階東 146
HCU 147
ICU 147
手術室 147
透析セン 148
外来・ER 148
地域医療 148
退院調整 149
保健指導 149

④地域医療室訪問件数

《登録総数および登録件数》



《訪問看護実績件数》



⑤透析患者の動き

《2017.1 ～ 2017.12　透析患者数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
外来平均	32	34	33	32	33	33	33	33	33	33	32	31	392	33
入院平均	11	9	12	16	14	8	11	7	7	8	10	9	122	10
登録患者数平均	102	99	102	110	106	99	101	95	93	96	97	94	1,194	100
導入	8	5	5	5	10	3	1	1	1	2	2	3	46	4
死亡合計	5	7	1	4	5	5	2	6	4	0	4	1	44	4

4階東 144
5階西 144
5階東 144
6階西 145
6階東 145
7階西 145
7階東 146
8階西 146
8階東 146
HCU 147
ICU 147
手術室 147
透析セン 148
外来・ER 148
地域医療 148
退院調整 149
保健指導 149

⑥保健指導の領域・項目件数

《表 1. 保健指導の領域件数》

月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
外来保健指導	27	32	47	54	49	46	34	31	26	26	36	27	435
外来禁煙指導	33	32	32	37	44	49	38	26	26	24	27	28	396
創傷ケアセンター	0	5	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	7
心臓リハビリ	0	6	9	7	7	4	9	7	16	19	13	21	118
小児科外来	17	19	35	33	34	19	29	39	26	29	30	38	348
糖尿病外来	119	132	136	122	152	150	128	175	161	189	182	178	1,824
病棟	8	8	21	18	23	19	14	8	16	8	17	22	182
院外	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
健康相談	1	5	7	1	1	1	0	2	0	0	1	2	21
健診・人間ドック	13	29	27	27	65	59	73	55	34	53	47	33	515
特定保健指導	46	76	55	58	55	68	47	39	51	68	59	50	672
合計	265	344	369	357	430	415	372	384	356	416	412	399	4,519

《表 2 保健師数》

常勤	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

《表 2. 保健指導の項目件数》

項目		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11月	12月	合計
ライフスタイルの変容	生活状況確認(サーベイランス)	155	196	182	188	211	213	229	208	194	234	206	228	2,444
	食事指導	85	141	135	102	142	134	130	127	125	135	129	135	1,520
	運動指導	51	96	86	64	88	66	65	77	66	78	78	89	904
	節酒・禁酒指導	10	18	12	18	17	15	17	19	22	20	17	15	200
	禁煙指導	26	27	26	33	58	54	31	23	32	24	25	38	397
	禁煙治療	8	11	9	11	15	18	17	19	9	7	9	7	140
自己管理への援助	病態・合併症説明	58	86	66	52	121	119	126	76	51	110	82	77	1,024
	コンプライアンス確認・目標設定	34	66	37	26	67	36	28	33	21	30	30	40	448
	ヘルスビリーフ(疾病の受入れ)支援	22	34	31	20	32	19	15	9	8	10	12	15	227
	体重管理	27	50	46	58	76	42	62	60	52	75	58	61	667
	血圧管理	14	26	23	33	40	30	29	25	26	42	33	31	352
	心負荷	0	1	6	6	7	3	7	3	6	10	6	10	65
	血糖管理・低血糖	39	51	49	47	62	75	54	54	54	63	54	54	656
	薬剤管理	36	42	31	44	61	57	46	50	33	55	38	37	530
	フットケア指導	33	41	50	36	35	41	30	55	78	68	85	69	621
	糖尿病透析予防指導料の当該指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	清潔ケア・感染防止の管理	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
	安全確保(転倒防止・環境整備)	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
	受診調整・受診の勧奨	20	36	35	24	33	36	15	23	21	38	30	14	325
心理的指導	心境の傾聴	5	7	8	6	5	9	9	8	9	8	4	13	91
	ストレス対処法指導	2	2	1	2	0	1	0	1	0	0	0	1	10
社会的援助	社会資源紹介	1	2	0	3	3	1	1	1	3	2	4	2	23
	院内コンサルト・他職種との調整	2	10	15	18	25	11	13	8	15	9	7	9	142
	認知症検査・療養支援	0	0	3	2	1	0	0	2	0	0	1	2	11
	院外との調整	6	6	4	5	2	6	2	2	1	1	3	5	43
小児科	予防接種	10	14	28	26	23	16	29	25	11	26	27	27	262
	育児相談	5	3	6	7	2	0	4	7	5	5	2	5	51
	乳児検診	0	4	1	0	1	3	2	0	0	0	1	4	16
相　談	電話・メール支援・相談	28	52	42	33	29	39	15	22	23	37	20	13	353
	家族相談・指導	10	14	11	8	9	7	5	4	2	6	2	8	86
合　計		687	1,037	943	872	1,168	1,051	982	867	1,093	1,093	963	1,009	11,613

2）研修・研究活動状況

①看護部の教育実施状況

《新人》

研修月	研修名	参加人数
5月	チーム医療　他部門との連携	19名
6月	皮膚排泄ケア　褥瘡防止	22名
7月	メンタルヘルスケア	22名
8月	正しい記録の書き方･看護過程	20名
9月	卒後6ヶ月研修　リフレクション	22名
10月	医療安全　ひやりはっと	23名
11月	多重課題シミュレーション	23名
12月	フィジカルアセスメント	23名
3月	卒後1年の振り返り	23名

《レベルⅠ》

研修月	研修名	参加人数
7月	メンバーシップ	21名
11月	医療安全I「KYT」	16名
3月	チューターになる準備	17名

《レベルⅠ・Ⅱ》

研修月	研修名	参加人数
5月	災害看護　I･Ⅱ	11名
6月	看護記録I	11名

《レベルⅡ》

研修月	研修名	参加人数
5月	看護記録Ⅱ	14名
6月	チューター研修Ⅱ･Ⅲ	22名
7月	リーダーシップとメンバーシップⅡ	18名
9月	医療安全Ⅱ	12名

《レベルⅡ・Ⅲ》

研修月	研修名	参加人数
10月	チューター研修Ⅱ･Ⅲ「リフレクション」	27名

《レベルⅢ》

研修月	研修名	参加人数
5月	医療安全Ⅲ	7名
6月	リーダーシップⅢ	16名
9月	看護記録Ⅲ	8名
11月	実習指導者	8名

《レベルⅢ・Ⅳ》

研修月	研修名	参加人数
7月	災害看護　Ⅲ･Ⅳ	15名

《レベルⅣ》

研修月	研修名	参加人数
6月	医療安全	15名
10月	看護記録Ⅳ	4名
12月	教育担当者研修	8名

《トピックス》

研修月	研修名	参加人数
5月	オムツフィッティング	49名
7月	意識のフィジカルアセスメント	30名
	エンド･オブ･ライフ･ケア	13名
8月	エンゼルケア	28名
	第1回伝達講習会	
10月	皮膚排泄ケアⅡ　ポジショニング	30名
11月	創傷アセスメント･ケア	22名
12月	第2回伝達講習会	
	皮膚排泄ケアⅣ「ストーマケア」	25名
3月	第3回伝達講習会	56名

《看護研究》

研修月	研修名	参加人数
5月	看護研究のすすめ方	10名
8月	看護研究支援　統計について	11名
9月	論文のまとめ方	11名
10月	論文の査読の仕方	14名
2月	院内看護研究発表会	41名

《化学療法》

研修月	研修名	参加人数
6月	皮下埋込型ポートの管理とケア1	22名
	皮下埋込型ポートの管理とケア2	74名
7月	がん薬物療法における暴露対策	59名

4階東 144
5階西 144
5階東 144
6階西 145
6階東 145
7階西 145
7階東 146
8階西 146
8階東 146
HCU 147
ICU 147
手術室 147
透析セン 148
外来･ER 148
地域医療 148
退院調整 149
保健指導 149

《シリーズ》

研修月	研修名	参加人数
5月	呼吸Ⅰ　フィジカルアセスメント	28名
	28年度BLS指導者対象指導者研修報告会	6名
6月	退院支援の必要性について	17名
	BLS指導者養成	10名
	循環器Ⅰ　心電図	47名
7月	退院支援　地域との連携Ⅰ	15名
	呼吸Ⅱ　酸素療法	50名
8月	退院支援　地域との連携Ⅱ	12名
	循環器Ⅱ　フィジカルアセスメント	47名
9月	退院支援研修　看護外来	12名
	呼吸Ⅲ　人工呼吸（侵襲的）	44名
10月	循環器Ⅲ「虚血性心疾患の看護」	27名
11月	退院支援まとめ	10名
	循環器Ⅳ　心不全の看護	33名
12月	人工呼吸（非侵襲的）	38名
2月	呼吸Ⅴ　閉鎖式吸引･患者評価	20名

《専門コース》

研修月	研修名	参加人数
5月	がん看護　基礎編Ⅰ	5名
6月	がん看護　活動編Ⅰ	6名
	がん看護　活動編Ⅱ	6名
	がん看護　基礎編Ⅱ	6名
	感染管理･看護管理Ⅰ	5名
7月	感染管理･看護管理Ⅱ	4名
8月	がん看護　基礎編Ⅳ	4名
	感染管理･看護管理Ⅲ	5名
9月	活動編Ⅴ	4名
	がん看護　基礎編Ⅴ	6名
10月	がん看護　基礎編Ⅵ	4名
	感染管理Ⅳ	5名
11月	ICLS	6名
	がん看護　活動編Ⅳ	5名
	がん看護　基礎編Ⅶ	4名
12月	感染管理Ⅴ	5名
7月	化学放射線治療を受ける患者の看護	11名

《看護補助者》

研修月	研修名	参加人数
4月	ビギナー編	8名
5月	基礎編	14名
6月	接遇編1	14名
7月	実技編1	12名
9月	基礎編2	16名
10月	接遇編2	18名
11月	実技編2	18名
2月	まとめ	29名

②研修・学会参加状況（グループ施設内研修含む）

《徳洲会グループ研修》

研修月	開催主催	研修コース名	参加人数
6月	徳洲会グループ	医療安全管理者養成研修会	5名
	徳洲会グループ	災害看護研修	6名
8月	徳洲会グループ	新人ガイドライン研修	4名
	徳洲会グループ	ビジネスマナー･接遇基本研修	2名
	徳洲会グループ	原稿の書き方	15名
	徳洲会グループ	関西･大阪ブロック管理者研修	2名
10月	徳洲会グループ	看護診断研修	3名
	徳洲会グループ	アウトブレイクセミナー	5名
11月	徳洲会グループ	徳洲会生活支援技術研修	2名
	徳洲会グループ	副看護部長研修（実地）	1名
	徳洲会グループ	キャリアアップ研修	3名
12月	徳洲会グループ	キャリアアップ研修	5名
	徳洲会グループ	関西･大阪ブロック管理者研修	2名
1月	徳洲会グループ	キャリアアップ研修	1名
2月	徳洲会グループ	キャリアアップ研修	2名

《その他院外研修》

研修月	開催主催	研修コース名	参加人数
5月	大阪府看護協会･大阪府看護連盟	地域医療構想の策定と地域包括ケア	3名
	公益社団法人日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士研修会	2名
6月	S-QUE研究会	17重症度、医療･看護必要度評価者　院内指導者研修	24名
7月	大阪府看護連盟	日本看護協会が取り組んでいる政策的事業と課題	1名
8月	大阪府医師会看護専門学校	臨地実習指導者会「行動力開発とストレス解消法」	1名
9月	ニプロ株式会社	院内急変指導者養成コース	3名
	産業能率大学	ワークで実感!ホスピタリティ･トレーニング	3名
10月	大阪府看護連盟	脳卒中発症･再発予防と危険因子のお話	8名
	全日本病院協会	看護師特定行為研修指導者講習会	1名
11月	日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士	2名
12月	大阪府看護部長会	看護管理者と組織理論	4名
2月	大阪府看護連盟	平成30年度診療･介護報酬改定について	3名
	近畿六府県がん診療連携協議会	地域相談支援フォーラムin近畿　よりよい相談支援のための院内連携と協働	1名

4階東 144
5階西 144
5階東 144
6階西 145
6階東 145
7階西 145
7階東 146
8階西 146
8階東 146
HCU 147
ICU 147
手術室 147
透析セン 148
外来･ER 148
地域医療 148
退院調整 149
保健指導 149

《大阪府看護協会　短期研修》

研修月	研修コース名	参加人数
4月	今日から実践できる褥瘡ケア①	4名
5月	一般病棟におけるクリティカルケア	1名
	体験して学ぶ人工呼吸器装着患者の看護①	5名
	コーチング･コミュニケーション①	3名
	摂食･嚥下障害のある患者の看護の実際を学ぶ①	2名
	危険予知トレーニング①	3名
	入門編～看護研究に取り組んでみよう～	3名
	看護研究と論文作成支援～研究成果を論述してみよう～①②	5名
6月	母性看護合併症のある妊産婦の看護 出血時の対応	7名
	糖尿病療養指導の基本的知識	2名
	病棟看護師としてできる退院支援･調整①	5名
	がん化学療法を受ける患者の支援①	1名
	リンパ浮腫の看護ケアを身につけよう	1名
	組織で取り組む感染管理①	4名
	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	1名
	医療安全看護補助者のためのKYT①	1名
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	4名
	第1回看護研修トピックス研修「看護職のための教育学」	4名
7月	病棟看護師としてできる退院支援･調整②	2名
	感染管理の基礎知識	1名
	臨地実習指導者①	5名
	指導者のための看護過程	1名
	変化における看護サービスの質保証～事例で学ぶ質保証の実際～	1名
	実地指導者の指導技術研修①②③	3名
	災害ナースの基礎知識～災害看護の第一歩～（インターネット配信）	7名
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識（インターネット配信研修）	5名
8月	一次救命処置を学ぼう③④	2名
	急変を防ぐ観察と看護のポイント①	10名
	実践に活かせるモニタリング解読／産科医療保障制度を読み解く	1名

研修月	研修コース名	参加人数
8月	糖尿病重症化予防フットケア研修	1名
	運動機能回復への援助	1名
	認知症高齢者の看護実践①	2名
	組織で取り組む感染管理②	2名
	みんなで取り組む業務カイゼン～ポジティブマネジメントでチームの強みを活かす～①	1名
	成果につながる「交渉術」	2名
	中堅看護職員の育成と活用	1名
	研究データを統計的に分析してみよう	1名
	退院支援強化研修	1名
	メンタルサポート研修	4名
	臨地実習指導者会「行動力開発とストレス解消法」	1名
9月	フィジカルアセスメントの基礎（演習）①	4名
	急変を防ぐ観察と看護のポイント②	3名
	体験して学ぶ人工呼吸器装着患者の看護②	2名
	災害看護における初期医療支援活動①	2名
	看護職者のキャリアアップマネジメント～看護の夢や志を大切に～	1名
	病気・障がいを持つ子どもと家族への看護ケア	1名
	摂食・嚥下障害のある患者の看護の実際を学ぶ②	3名
	がん患者の症状緩和	3名
	新人看護職員研修責任者研修	1名
	看護・介護等の連携推進のため看取り研修	2名
	救急認定看護師教育課程　オープンキャンパス	1名
10月	フィジカルアセスメントの基礎（演習）④	1名
	災害看護における初期医療支援活動②	3名
	看護記録（基礎編）	3名
	糖尿病療養指導の実践的知識	1名
	ストーマ瘻孔のスキンケア	1名
	がん放射線療法を受ける患者の看護	3名
	危険予知トレーニング②	2名
	指導者としてのリーダーシップ①	1名

4階東 144
5階西 144
5階東 144
6階西 145
6階東 145
7階西 145
7階東 146
8階西 146
8階東 146
HCU 147
ICU 147
手術室 147
透析セン 148
外来・ER 148
地域医療 148
退院調整 149
保健指導 149

研修月	研修コース名	参加人数
10月	キャリアアップ2医療安全	1名
11月	医療安全の基本と医療事故防止行動	1名
	災害時における初期医療支援活動	2名
	実践に活かす小児救急②	2名
	患者・家族のメンタルサポート	3名
	がん患者の家族への支援	4名
	臨地実習指導者②	1名
	第4回看護研修トピックス医療事故調査制度の概要と大阪府医師会の取り組み ～支援体制の現状と課題～	3名
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識③（インターネット配信研修）	7名
	トピックス3施設における継続教育のプログラム～ 「継続教育の基準vER2」活用のためのガイドの説明	2名
	地域包括ケアをみんなで考え参加しよう	3名
12月	災害活動における初期援助医療支援活動④	1名
	摂食・嚥下障害のある患者の看護の実際を学ぶ③	2名
	慢性疾患患者の療養支援（循環器疾患）	5名
	プレゼンテーション～研究結果を発表してみよう～	2名
	実地指導者研修	2名
	高齢者ケア施設等看護管理者交流会	7名
1月	コーチング・コミュニケーション②	4名
	今日から実践できる褥瘡ケア③	4名
	摂食・嚥下障害のある患者看護のアドバンス	4名
	高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア	5名
	キャリアアップ5看護記録	1名
	保健師交流会「地域をみる力・地域診断力をつける！」	4名
	外来における在宅療養支援の取り組み	1名
	地域包括ケアをみんなで考え参加しよう！	3名
	セカンド・サードレベルフォローアップ研修	1名
2月	看護記録（実践編）	2名
	がん化学療法を受ける患者の支援②	2名
	臨地実習指導者	1名
	指導者としてのリーダーシップ②	4名

研修月	研修コース名	参加人数
2月	キャリアアップ6　フィジカルアセスメント　看護過程	1名
	大阪府保健師助産師看護師実習指導フォローアップ研修	1名
	医療・看護場面で使う英会話」～看護英語コミュニケーション研修～	2名
3月	体験して学ぶ人工呼吸器装着患者の看護③	6名
	平成30年度　診療報酬・介護報酬改定説明会	2名

4階東 144
5階西 144
5階東 144
6階西 145
6階東 145
7階西 145
7階東 146
8階西 146
8階東 146
HCU 147
ICU 147
手術室 147
透析セン 148
外来・ER 148
地域医療 148
退院調整 149
保健指導 149

《大阪府看護協会　長期研修》

研修月	研修コース名	参加人数
5月	第1回認定看護管理者教育課程ファーストレベル	1名
6月	第1回認定看護管理者教育課程セカンドレベル	1名
5月	第1回大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	1名
9月	第2回大阪府保健師助産師看護師実習指導講習会	1名
	特定行為研修（3月修了）	2名

③研修・実習受け入れ

《看護学生受け入れ状況》

学校名	科目	期間	学生数	実習場所
小阪病院看護専門学校	成人看護学実習	5月8日～5月25日	5名	6西、7東
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	5月29日～6月15日	5名	5東、7東
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	6月19日～7月6日	5名	7東、8東
	基礎看護学実習Ⅲ	7月10日～7月27日	9名	7西、8西、8東
	基礎看護学実習Ⅰ	8月29日～8月30日	10名	5東、6西、7西、8東
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	9月4日～9月22日	5名	7東、8西
	小児看護学実習	9月25日～9月29日	3名	小児外来
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	9月25日～10月13日	4名	6東、7東
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	10月16日～11月2日	4名	6西、7西
	小児看護学実習	10月30日～11月2日	3名	小児外来
	統合実習	11月20日～12月7日	6名	4東、5西
	基礎看護学実習Ⅱ	12月12日～12月15日	10名	5東、6西、7西、8東
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	1月9日～1月25日	6名	6西、7西、8西
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（再）	1月9日～1月23日	2名	7西、8西
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	1月29日～2月16日	5名	7東、8東
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	2月19日～3月8日	5名	7西、7東

学校名	科目	期間	学生数	実習場所
大阪府医師会看護専門学校	老年看護学実習Ⅱ	5月22日～6月9日	3名	8西
	成人看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ	6月12日～6月30日	6名	6西、7西
	成人看護学実習Ⅱ	6月19日～7月7日	3名	5東
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅲ	7月3日～7月21日	6名	6西、4東
	小児看護学実習	7月10日～7月21日	3名	5西
	小児看護学実習	8月28日～9月8日	3名	5西
	成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ	8月28日～9月15日	6名	4東、6東
	基礎看護学実習Ⅰ	9月19日～9月20日	10名	6東、6西、7西、8東
	老年看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅱ	9月25日～10月13日	6名	8西、8東
	小児看護学実習	10月2日～10月13日	3名	5西
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅲ	10月16日～11月12日	6名	4東、7東
	看護の統合と実践実習	11月6日～11月24日	8名	6東、7西、8西
	基礎看護学実習Ⅱ	12月4日～12月8日	10名	6東、6西、7西、8東
	基礎看護学実習Ⅲ	1月22日～2月9日	10名	4東、5東、5西、6東
	老年看護学実習Ⅰ	2月19日～3月9日	10名	5西、6西、8西、8東
アナン学園高等学校	成人看護学実習　急性期	6月12日～6月21日	3名	4東
	基礎看護学実習Ⅲ	9月19日～9月29日	6名	4東、5東
	統合実習	10月2日～10月12日	3名	4東
	成人看護学実習Ⅰ	10月16日～10月27日	6名	5東、8東
	基礎看護学実習Ⅰ	1月30日～1月31日	6名	4東、7西

《ふれあい看護体験・1日看護師体験》

主催	学校名	期間	体験者数	実習場所
公立中学校	八尾市立南高安中学校	6月15日～6月16日	2名	5西
大阪府	松原高等学校	8月3日	6名	7東、8西
公立高等学校	平野高等学校	8月8日	3名	6東
大阪府	高槻北高等学校	8月24日	6名	5東、6西
公立中学校	曙川中学校	2月8日～2月9日	1名	8東

4階東 144
5階西 144
5階東 144
6階西 145
6階東 145
7階西 145
7階東 146
8階西 146
8階東 146
HCU 147
ICU 147
手術室 147
透析セン 148
外来・ER 148
地域医療 148
退院調整 149
保健指導 149

④研究発表業績

(1) 院内発表【部署別】

平成 30 年 4 月 1 日

部署名	演　　題
5東	退院支援に必要な情報の共有化
7東	外科病棟の看護師における退院支援に対する理解度調査と今後の課題
ICU	集中治療室における気管挿管患者の口腔ケア方法の統一
地域医療室	在宅終末期における看取りに関するクリティカルパスの導入
4東	脳神経外科病棟における転倒転落アクシデント事例の現状分析
6東	下肢創傷患者へのレジスタンス運動導入による早期離床効果の検討
8東	内科病棟での感染予防に準じた手袋の使用コストの妥当性の検討

(2) 院外発表

年月日	学会名	病棟名	発表者名	テ　ー　マ
2017年5月26日～ 2017年5月28日	第20回日本臨床救急医学会学術集会	外来･ER	鹿山美穂 鴨木沙織	院内急変の現状と課題 ～急変事例報告の内容からわかること～
2017年8月25日～ 2017年8月26日	日本災害看護学会	外来･ER	土山優子	A病院外来･ERにおける災害･防災意識向上のための取り組み
2017年8月25日～ 2017年8月26日	日本災害看護学会	外来･ER	鴨木沙織	机上シミュレーションを導入したラダー研修の効果
2017年10月6日～ 2017年10月7日	日本救急看護学会学術集会	HCU	山口千絵	A病院における急変時対応の現状
2017年10月6日～ 2017年10月7日	日本救急看護学会学術集会	外来･ER	鴨木沙織	BLS指導者認定制度を導入したBLS研修の効果～院内急変報告の検証結果より～
2018年3月15日～ 2018年3月18日	日本脳卒中学会学術集会	外来･ER	鹿山美穂	脳卒中ホットラインの対応における今後の課題 ～rt-PA施行の現状を振り返って～
2018年3月15日～ 2018年3月18日	日本脳卒中学会学術集会	外来･ER	中西真実	救急外来のおけるrt-PA療法実施に対する取り組み ～NIHSS評価方法の周知に向けて～
2018年2月23日	第29年度府東支部看護研究発表会	外来･ER	山本貴裕	特定保健指導の一年後の効果評価と生活習慣変化との関連性の検討

委　員　会

―― 2017年 ――

47）呼吸ケアチーム（RST）　166
48）院内感染対策委員会（ICT）　167
49）褥瘡対策委員会　170
50）研修管理委員会　171
51）栄養サポートチーム（NST）　173
52）緩和ケアチーム　175
53）がん緩和支援委員会　177

呼吸ケア 166
院内感染 167
褥瘡対策 170
研修管理 171
栄養サポ 173
緩和ケア 175
がん暖和 177

47）呼吸ケアチーム（RST）

リハビリテーション科　難波　智矢

1. 概要

新規患者数、単位数とも前年より大幅に増加。看護師、臨床工学技士とのラウンドで積極的な早期離床を実践。呼吸器内科医師と定期的にカンファレンスを行い、適切な呼吸リハビリテーションの提供が行えた。HOT 導入、呼吸指導件数も増加し急性期から在宅までの一貫した呼吸リハビリテーションを行い、訪問リハビリや訪問看護と連携しながら包括的な介入を行っている。

2. メンバー構成

医師	原田博雅、石原英樹
看護師	村中烈子、鴨木沙織
臨床工学技士	藤田和睦、藤村篤志、杉本拓弥、杉山真一、向井砂帆、長谷川弘将
理学療法士	片田理恵、難波智矢、小林翔太、池田祥吾

3. 実績

呼吸リハチーム対象

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	589	472	533	427	466	423	454	449	464	487	374	465	466.9
単位数	851	667	707	649	727	596	658	655	731	697	522	699	679.9

呼吸ケア加算対象

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	4

4. 今後の目標

・ICU・HCU 専従 PT の配置による急性期からの積極的な介入
・呼吸リハ外来患者様の増加
・呼吸ケア加算の算定増加

48）院内感染対策委員会（ICT）

感染対策室　室長　渋谷　豊克

1. 概要

【八尾徳洲会総合病院　感染管理指針】

第１　医療従事者全員が、感染症に対する正しい認識を持ち、倫理的配慮に考慮した感染防止対策を実施します。感染対策を充実させることで、患者様が安心して医療を受けられる病院を目指します。

第２　病院長を中心に、積極的な感染対策を実施するとともに、技術的事項等を常に検討し、院内各部門への情報共有を図ります。全ての職員に対し、組織的対応の指示や、教育を行い、感染対策マニュアルに基づいて、手洗いの徹底など根拠のある感染防止対策に努めます。

第３　感染が疑われる事例が発生した場合には、速やかに対策を講じ、介入を図ります。また、重大な感染事例や集団発生の場合には、発生の原因を究明し改善策を立案します。これを実施するために、全職員への周知徹底を図ります。必要な場合には、行政などへ協力を依頼し、迅速な対応を図ります。

第４　近隣の医療・介護・福祉機関や行政と共に、地域完結型医療の一環として地域の感染制御を支援していきます。また感染における安全な在宅医療を提供していきます。

2. メンバー構成

・院内感染対策委員会　計 20 名
　医師：2 名、看護師 3 名、事務員 2 名、臨床検査技師 3 名、薬剤師 4 名、管理栄養士 2 名
　臨床工学技師 1 名、リハビリテーション技師 1 名、放射線技師 1 名、保育士 1 名

・感染対策室　計 6 名
　看護師 1 名（専従：感染管理認定看護師）、医師 2 名（専任：ICD）
　薬剤師 1 名（専任：感染制御認定薬剤師）、臨床検査技師 2 名（専任）

・ICT（感染対策推進チーム）　計 16 名
　医師 8 名（ICD：2 名）、看護師 2 名、事務員 1 名、臨床検査師 2 名、薬剤師 3 名、管理栄養士 1 名
　臨床工学技師 1 名、リハビリテーション技師 1 名、放射線技師 1 名

・ICT リンクナース　計 25 名
　病棟看護師 20 名、外来看護師 2 名、手術室 1 名、透析室 1 名

呼吸ケア 166
院内感染 167
褥瘡対策 170
研修管理 171
栄養サポ 173
緩和ケア 175
がん暖和 177

3. 実績

項目	内容
感染管理システム 地域連携	①河内地域感染管理ネットワークによる毎月の例会開催 ②中河内感染防止対策協議会への参画 感染防止対策加算1：東朋八尾病院　松原徳洲会病院　野崎徳洲会病院 東大阪徳洲会病院　生駒市立病院 地域連携加算：若草第一病院　八尾市立病院 ③徳洲会グループ　感染管理部会設立
感染管理教育	①院内感染対策講習会開催：年 5 回 ②院内講演：5 回　院外講演：8 回　公開医療講座：9 回 ③徳洲会グループアウトブレイクセミナー開催：1 回 ④ ICT ニュース発刊：年 19 回 ⑤院内認定制度　感染管理看護師（ICN）育成　2 名
サーベイランス	①耐性菌 surveillance：JANIS、河内地域、徳洲会グループ ② SSI surveillance：外科、肝臓外科、脳外科、整形外科、心臓外科 ③ device　surveillance：VAP　BSI　UTI　DIQUL 事業参画 ④ process surveillance：手指衛生、環境衛生
感染防止技術	① ICT リンクナースによる感染管理プログラムの実践 ②徳洲会グループ　手指衛生キャンペーン開催
職業感染対策	①入職時健診：HBV、HCV、麻疹。風しん、水痘、ムンプス、T-SPOT ②ワクチン接種：HBV、麻疹、風しん、水痘、ムンプス、インフルエンザ ③労働安全衛生委員会との連携
ファシィリティ・マネジメント	①栄養科職員のノロウイルス検査の実施

《成果指標》

1）耐性菌院内発生率（%）＝新規院内発生数／（新規入院患者数＋繰り越し患者数）× 100

	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
MRSA	1.20	1.08 ↘	1.05 ↘	0.96 ↘	1.15 ↗	0.75 ↘	0.70 ↘	0.88 ↗	0.50 ↘
MDRP	調査なし			0.00	0.07 ↗	0.00 ↘	0.00	0.00	0.00
ESBL				0.29	0.36 ↗	0.33 ↘	0.29 ↘	0.35 ↗	0.21 ↘
MBL				0.06	0.08 ↗	0.12 ↗	0.02 ↘	0.01 ↘	0.01
CRE				0.00	0.00	0.00	0.00	0.02 ↗	0.03 ↗
VRE				0.00	0.00	0.00	0.00	0.02 ↗	0.00 ↘

2）血液・体液曝露件数（件）

	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
針刺し・切創	21	30 ↗	17 ↘	8 ↘	22 ↗	15 ↘	13 ↘	13	15 ↗
皮膚・粘膜曝露	調査なし			1	7 ↗	8 ↗	6 ↘	3 ↘	8 ↗

3）学会報告　（詳細は学会発表リスト参照）

・第 32 回　日本環境感染学会総会・学術集会　　4 演題

・第 19 回　日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会　1 演題

4. 今後の目標

《成果指標》

1）耐性菌院内発生率（%）2018 年

MRSA	0.5	MDRP	0.01	ESBL	0.3
MBL	0.01	CRE	0.01	VRE	0.01

2）血液・体液曝露件数（件）2018 年

針刺し・切創件数	10	皮膚・粘膜曝露件数	5

49）褥瘡対策委員会

形成外科部長　綾部　忍

呼吸ケア　166
院内感染　167
褥瘡対策　170
研修管理　171
栄養サポ　173
緩和ケア　175
がん暖和　177

1. 概要

当院は 2002 年 2 月より褥瘡対策委員会を発足しています。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・事務で構成され、毎週 1 回の回診を行っています。

2. メンバー構成

医　　師：　綾部忍、藤井菜穂、延山文美
看　護　師：　柴山智賀子、安井由佳
管理栄養士：　池田亜紗美、苅谷美早、篠田歩美
薬　剤　師：　山本倫数、前田晃佑
理学療法士：　西川真世
事　　務：　柏山文成、川上　祐理

3. 実績

さらにきめ細かいケアを行うため、看護部各部署にリンクナースを配備しています。

院内勉強会や高機能エアマットレスの整備を行い、褥瘡の予防に努めるとともにドレッシング材や NPWT（陰圧閉鎖療法）などを駆使した保存的治療や皮弁手術も行っています。

また学会発表も積極的に行っています。（学会発表の覧参照）

4. 今後の目標

それぞれの専門的な知識や技術を出し合って効果的・効率的な褥瘡予防・治療を目指していきます。

50）研修管理委員会

研修管理委員長　原田　博雅（院長）
プログラム責任者　髙原　良典（内科医長）

1. 概要

当院は基幹型臨床研修病院として新臨床研修制度の必修化以来、継続して臨床研修医の指導にあたっています。また大阪市立大学医学部附属病院の協力型臨床研修病院でもあります。当委員会はこれら臨床研修医の総括管理を行っています。

さらに、従来の制度での後期研修を行いつつ、2018 年度より開始される新専門医制度への対応も、内科、外科、総合診療科の基幹施設として認定を受け、整形外科、脳神経外科、形成外科、麻酔科、救急科、泌尿器科、放射線科、眼科、病理診断科領域では連携施設として大学病院や各徳洲会グループの施設と連携を取りつつ、当院の特色を生かし、キャリアパスの個別性と様々な希望を配慮しながら初期研修から専門研修へとシームレスな移行が出来るよう企画・運営を行っています。

2. メンバー構成

研修管理委員長：原田博雅（院長）　　プログラム責任者：髙原良典（内科医長）
事務責任者：竹原浩二（事務部長）
委員：51 名（内訳　院内医師 10 名、看護部・コメディカル 11 名、協力施設医師 30 名）
外部委員：2 名（菊池内科　菊池博院長、医療法人幸晴会　常務理事　玉田浩氏）

3. 実績

1）初期研修医・後期研修医の受入れ

2017 年度より初期研修医の定員が 4 名に増員し、2018 年度においては定員の 4 名に加え、大阪市立大学医学部附属病院とのたすきがけ研修プログラムにより 2 名の研修医を迎え、計 6 名の初期臨床研修医を迎えることが出来ました。

新専門医制度での専攻医（後期研修医）の採用につきましても、基幹施設となる外科プログラムで 1 名、連携施設として参加している大阪市立大学形成外科専門研修プログラムにて 1 名の受け入れが決定しており、2 名いずれも当院初期臨床研修医よりの採用となっています。

2）研修体制

30 名を超える指導医に後期研修医等の上級医を加えた指導環境の下、2 年間のローテート研修にて数多くの症例を経験することで総合的な臨床能力を養うことを目的としています。研修環境について討議できる場を設け、指導医・研修医双方が主体的に研修環境の改善に取り組めるような雰囲気作りを心掛けています。

また研修医と指導医・上級医間での相互評価に加え、研修医と看護部門・コメディカル間とも相互評価を行い互いに成長できるシステムとして機能するように配慮しています。

呼吸ケア 166
院内感染 167
褥瘡対策 170
研修管理 171
栄養サポ 173
緩和ケア 175
がん暖和 177

3）カンファレンス実績（院内・院外）

徳洲会グループ全体での研修会や、関西・大阪ブロックの症例検討会、外部からの招聘医師によるカンファレンスや、院外でのカンファレンスにも積極的に参加しています。

院内ではレジデント勉強会、ER 勉強会など定期的に開催しています。

招聘カンファレンス	開　催　日
藤村 治先生（UCLA 循環器科教授）	3 月 21 日
志水 太郎先生（獨協医科大学　総合診療教育センターセンター長）	9 月 10 日
任　理宏先生（獨協医科大学　総合診療科）	毎月開催
Dr. LO（ファーゴ VA 医療センター感染学教授）	10 月 11 日
定期参加カンファレンス（院外）	
京都 GIM、大阪西の方 GIM カンファレンス、大阪どまんなか、大阪医科大学 不明熱カンファレンス、大阪市立大学プライマリ・ケアカンファレンス、レジデンツカンファ in 東大阪、徳洲会グループ合同研修会　など	

4）研修医の主な卒業大学

秋田大学・金沢大学・金沢医科大学・富山大学・京都大学・大阪市立大学・大阪医科大学・関西医科大学・近畿大学・奈良県立医科大学・琉球大学・名古屋市立大学・兵庫医科大学・徳島大学、香川大学、島根大学など。

当院の医局は、学閥にとらわれない開かれた医局が特徴です。研修医の出身大学も多岐にわたっています。

5）各種講習会への参加支援

ICLS、ACLS、BLS をはじめ JATEC、災害・外傷初期診療研修会や新生児蘇生法講習会、PALS、TNT 研修会など各種講習会への参加を奨励し、費用の負担などを行っています。

6）研修後の進路

当院の後期研修は、研修医の意向を踏まえた上で医師としてのキャリアを確実に伸ばせるよう柔軟な対応を心掛けています。当院での単独研修のみならず、グループメリットを生かした研修カリキュラムや他大学への研修等、開かれた風通しの良い体制作りを目指しています。

また、新専門医制度におきましては、内科、外科、総合診療科において基幹施設としての認定を取得し、整形外科、脳神経外科、形成外科、麻酔科、救急科、泌尿器科、放射線科、眼科、病理診断科領域においても関連大学や、グループ病院の連携施設として専門医を取得できる研修施設群を形成しています。

4. 今後の目標

今後もグループ内外の説明会等に積極的に参加し、初期・後期研修医の採用活動を行い、継続した研修医の受け入れが行えるよう努めます。

また、院内・院外へのカンファレンスの参加も継続して支援し、より一層の研修環境の改善と向上を目標とします。

51）栄養サポートチーム（NST）

NST 委員長　木村　拓也

1. 概要

栄養サポートチーム（以下、NST）は特別な栄養管理を必要とする入院患者様を対象に通常の食事だけでなく静脈栄養、経腸栄養も含む全ての栄養療法における適切な栄養管理･評価･提案を行い、１日でも早く良好な栄養状態に改善できるように活動している。

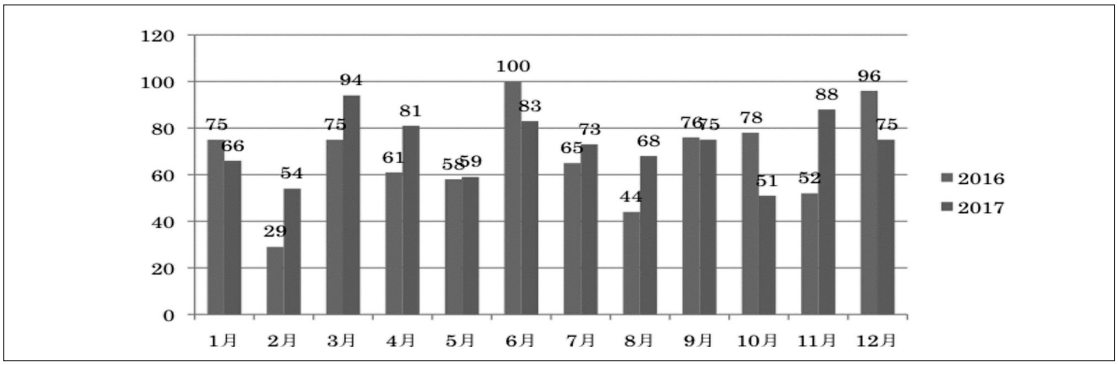
2017 年度は NST 教育認定施設を再取得し、TNT-D 研修受講者の増員、外部施設からの NST 専門療法士臨地実習生の受け入れと院内の希望者に対する臨床実習を積極的に行ってきた。また定期的に院内勉強会の開催や症例検討会も実施し、栄養管理に従事するスタッフの質の強化にも努めている。

2. メンバー構成

医師	3 名	臨床検査技師	2 名
看護師	14 名（リンクナース含む）	言語聴覚士	2 名
薬剤師	6 名	管理栄養士	1 名

3. 実績

≪ NST 加算件数≫



	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
2016	75	29	75	61	58	100	65	44	76	78	52	96	809	67.4
2017	66	54	94	81	59	83	73	68	75	51	88	75	867	72.3

昨年度と比較し､総件数は 58 件､月平均 4.9 件の増加となっている。3 月より NST 事前カンファレンスの実施や、アセスメントが特に必要な患者に集中して介入できるようスクリーニング指標を新たに策定した。これによって回診の効率化、短縮化が可能となり件数の増加に繋がっていると考えられる。　（回診時間　旧方式→ 14：00 ～ 16：30、新方式→ 14：30 ～ 16：00）

＜2017年度勉強会・研修会＞

2017年7月5日「経腸栄養投与法及び栄養剤の選択基準や合併症対策について」

講師　ネスレヘルスサイエンスカンパニー　森脇尚子　先生

4. 今後の目標

専任スタッフの育成、院内での栄養療法に関する研修などを積極的に行い、職種問わず栄養管理に興味を持って頂けるような活動を継続的に行っていく予定であり、主な内容としては院内全スタッフへの栄養療法に対する啓蒙活動の一環として、NSTポケットブックの改訂や栄養補助食品の試食会の開催などを検討している。

呼吸ケア　166
院内感染　167
褥瘡対策　170
研修管理　171
栄養サポ　173
緩和ケア　175
がん暖和　177

52）緩和ケアチーム

薬剤科主任　小西　千尋

1. 概要

大阪府がん診療拠点病院に緩和ケアチームの設置が義務づけされています。当院の緩和ケアチームは複数の診療科医師（外科・内科・麻酔科・心療内科）とがん性疼痛看護認定看護師、薬剤師、作業療法士、臨床心理士の多職種で構成されています。

治療が困難になった終末期の患者様だけでなく、がんと診断された早期の段階から患者様とご家族様の身体的、精神的苦痛を和らげる事ができるよう活動しています。

2. メンバー構成

委員長	医師：垣本佳士
事務局長	看護師：松本静香（がん性疼痛看護認定看護師）
書記	臨床心理士：朴祐希
委員	医師：髙原良典、池下和敏、杉本貴美子
	医事課：村田雅一
	薬剤師：小西千尋、里岡達哉
	作業療法士：竹中温子

3. 実績

《暖和ケアチーム介入件数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
24	30	34	38	42	41	52	73	26	18	20	23	421	35

≪がん種別介入件数≫

肺	大腸	胃	肝	胆管（胆嚢含）	膵	前立腺	その他
12	33	30	8	3	20	2	20

≪院内暖和ケア研修会≫

開催日	講演1	講演2	参加者
2月23日	地域連携	気持ちのつらさ、せん妄	27名
5月25日	緩和ケアチーム紹介	緩和ケア概論、呼吸困難	77名
8月24日	臨床心理士の業務	疼痛緩和のポイント	46名
11月16日	緩和ケアで使用する新規薬剤の紹介	DNARについて	97名

4. 今後の目標

①スクリーニングから早期介入できるシステムや、疼痛パスの作成を行い疼痛緩和のマネジメントが院内で統一できる体制を構築する。

②心不全などの非がん患者の緩和ケアの介入を検討する。

③ PEACE 研修会、院内緩和ケア研修会の開催や中河内緩和ケアカンファレンスに参加し、院内外での緩和ケアの啓蒙活動を行っていく。

呼吸ケア 166
院内感染 167
褥瘡対策 170
研修管理 171
栄養サポ 173
緩和ケア 175
がん暖和 177

53）がん緩和支援委員会

がん性疼痛看護認定看護師　松本　静香

1. 概要

がん診療に関し診療密度の高い医療を提供し、大阪府がん診療拠点病院として指定要件を満たすことを目的とする。がん患者様とその家族様の QOL を向上させるために、がんの全ての病期、治療過程において出現する身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな問題に対し、積極的、継続的かつ総合的な緩和ケアを提供するための体制づくりを目的として、がん緩和支援委員会を設置している。

2. メンバー構成

委員長：	外科医師	垣本　佳士（緩和ケア研修指導者）
事務局長兼書記：	薬剤師	小西　千尋、里岡達哉
委員：	内科医師	高原　良典
	心療内科医師	杉本　貴美子
	医事課	村田　雅一
	看護部	松本　静香（がん性疼痛看護認定看護師）
	看護部	加藤　和代
	看護部	中尾　吉美
	心理療法士	朴　祐希
	作業療法士	竹中　温子
	MSW	三谷　勇一

呼吸ケア 166
院内感染 167
褥瘡対策 170
研修管理 171
栄養サポ 173
緩和ケア 175
がん暖和 177

3. 実績

《がん指導管理料》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
がん指導管理料1	5	3	8	2	6	8	9	11	5	3	2	4	66	5.50
がん指導管理料2	1	1	0	0	2	3	1	1	0	1	2	2	14	1.17
がん指導管理料3	28	23	27	15	31	21	27	12	17	17	29	23	270	22.50

≪スクリーニング件数≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
Dr/Nsの介入希望	8	7	7	8	4	3	6	2	4	5	4	1	59	4.92
MSW介入希望	3	1	6	3	2	2	1	2	1	5	4	1	31	2.58
サービス希望	8	2	9	3	3	4	3	1	1	4	3	1	42	3.50
希望なし	35	17	30	15	14	28	24	15	12	21	14	12	237	19.75
スクリーニング件数	49	28	49	27	21	35	31	20	27	32	21	14	354	29.50

≪がん地域連携パス件数≫

	胃がんF	胃がんケモ	大腸がんF	大腸がんケモ	乳がん
適応件数	19	0	43	1	3
実施件数	4	0	26	1	3

4. 今後の目標

大阪府がん拠点病院の役割を遂行していくため専従看護師ががん相談支援センターへ配属となった。スクリーニングからの介入件数の増加、緩和ケアの広報活動、就労支援やがんサロンの継続を行ない、よりがん患者様とその家族様が苦痛なく過ごせる環境作りを行っていきたい。

関　連　施　設

―― 2017年 ――

54）八尾徳洲会介護センター　182
55）よろこび訪問看護ステーション　186
56）よろこび訪問看護介護センター　187
57）介護老人保健施設 八尾徳洲苑　189
58）八尾徳洲苑介護センター　199
59）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷　201

54）八尾徳洲会介護センター

管理者　矢竹　千津栄

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
よろこび訪問看護介護 187
徳洲苑 189
徳洲苑介護セン 199
特養久宝寺愛の郷 201

1. 概要

2018 年度は医療・介護の同時改定が実施され、それぞれわずかながらプラス改定となっています。しかし、全サービスの中で居宅介護支援は、介護保険制度創設以来、唯一赤字経営が続いています。

ケアマネジャーは経営的なプレッシャーを受けることなく、公正中立なケアマネジメントを行える環境でなければならないと言われ続けています。その存在意義とは、法人内でサービス事業と併設で運営することにより、自らの収益ではなく、サービス事業の収益を上げることに貢献しているに他なりません。また特定事業所として、主任介護支援専門員として、地域包括支援センターの役割だった地域のケアマネジャーへの指導･育成なども求められるようになり、法人内にとどまらず、地域に求められる役割も大きいのです。今後もその存在意義を高めていけるよう、努力し続けたいと考えています。

2. メンバー構成

矢竹　千津栄（主任介護支援専門員）　井澤　瞳（主任介護支援専門員）

佐藤　貴子（介護支援専門員）

3. 実績

1）業務実績

《介護度別人数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
要介護1	26	27	26	27	27	29	28	27	26	27	26	23	319
要介護2	24	24	23	22	27	29	26	22	21	22	22	25	287
要介護3	18	16	17	18	16	21	18	17	18	16	17	15	207
要介護4	14	13	15	15	13	11	10	15	18	16	17	13	170
要介護5	10	10	13	13	14	13	11	10	12	10	9	8	133
利用者合計	92	90	94	95	97	103	93	91	95	91	91	84	1,116

《加算》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初回加算	0	4	3	2	5	4	2	2	4	5	3	2	36
入院時情報連携加算（Ⅰ）	3	2	1	4	1	4	6	2	7	8	6	5	49
入院時情報連携加算（Ⅱ）	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	5
退院･退所加算	1	1	1	6	3	4	1	2	3	4	0	7	33
小規模多機能連携加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護小規模多機能連携加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緊急時等居宅カンファレンス加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
加算合計	4	7	6	13	9	13	10	7	14	17	9	15	124

《業務量》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
モニタリング訪問	97	96	98	104	101	102	101	98	100	98	94	93	1,182
サービス担当者会議	22	15	22	26	36	23	16	17	23	22	19	21	262
認定調査	6	13	12	11	13	12	12	12	12	12	10	11	136

2）研修

・法定研修

11/2、12/7、12/20　主任介護支援専門員更新研修　矢竹

・大阪府、各市町村主催の研修・連絡会

［大阪府］

2/3、4、12、13　主任介護支援専門員フォローアップ研修会　矢竹

5/16　2017 年度　介護保険制度における指定介護サービス事業者集団指導　矢竹

8/7　ファイン財団　大阪府委託民間事業者対象社会福祉研修
認知症高齢者への虐待を防止するために　井澤

8/25　ファイン財団　大阪府委託民間事業者対象社会福祉研修
人格の尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の倫理　矢竹

［八尾市］

2/13　八尾市認知症啓発講演会　認知症の人に寄り添うために
～認知症の人との対話法「バリデーション」について学びましょう～　佐藤

3/15　八尾市認定調査員研修（応用編）　井澤

3/28　八尾市社会福祉協議会　ワンコイン生活サポート事業　説明会　井澤

・八尾市介護保険事業者連絡協議会

1/18　2016 年度　第 3 回　定例会「介護予防・日常生活支援総合事業に関する説明会」井澤

2/21　2016 年度　八尾市介護保険事業者連絡協議会総会
研修会「わたしの人権」「あなたの人権」 －クレーム事案から個々の人権を考える－ 佐藤

6/23　2017 年度　第 1 回　八尾市介護保険事業者連絡協議会総会・研修会
シニアのための睡眠学　～健やかな眠りで判断力向上と認知症予防～　井澤

7/12　2017 年度　第 1 回居宅介護支援事業者部会　定例会
「運営上の留意点～実地指導で指導の多かったこと～」矢竹

11/22　2017 年度　第 2 回　定例会 「自立支援に向けたケアマネジメント」 佐藤

・大阪介護支援専門員協会

1/23　介護支援専門員法律支援事業における学習会
「大阪弁護士アウトリーチ　介護支援専門員　法律支援　学習会」 矢竹

6/16　八尾支部　第 13 回総会
「2018 年度の介護・医療保険法同時改正～介護支援専門員として理解を深める～」
井澤

7/19　2017 年度　研修会
在宅での管理薬剤師のかかわり

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
よろこび訪問看護介護 187
徳洲苑 189
徳洲苑介護セン 199
特養久宝寺愛の郷 201

～医療と介護のかけはしにケアマネジメントに必要な知識～　佐藤

8/23　第２回　研修会 「個人情報保護法」改正について
～介護支援専門員に対し想定される影響について～　佐藤

11/13　2017 年度　第２回　事例研究会 「入退院時における医療との連携に関する事例」
井澤

11/17　2017 年度　研修会　食べることは生きること　～在宅療養者の食を支える～　矢竹

11/24　大阪府介護支援専門員実務研修実習生受入れ説明会　井澤

2/11　第Ⅲブロック研修会　住み慣れた地域でいつまでも　地域包括ケアシステムとは？
井澤

・学会参加

3/11、12　第 16 回　近畿介護支援専門員研究大会　兵庫大会
「人をつなぐ　地域を結ぶ　～未来を紡ぐケアマネジメント～」 矢竹、井澤、佐藤

・事業所内

[疾患別研修]

1/12、2/9、3/9、4/13、5/11、6/8、7/13、8/10、9/14、10/12、11/9、12/14

[認知症研修]

2/16、4/20、6/29、8/17、10/19、12/21

[事例研究]

1 /19、3/16、5/18、7/20、9/21、11/16

[症例検討・報告・情報共有・伝達研修]

1/6、1/26、2/2、3/2、3/23、4/7、5/2、5/25、6/1、6/15、6/22、7/6、7/13、8/3、8/8、8/24、8/31、9/7、9/20、10/5、10/31、11/21、12/8

・法人内

2/21　九州・離島・沖縄・関西大阪ブロック 2016 年度　第２回合同研修会
「文書の書き方について」 井澤

7/5　第１回　ＮＳＴ主催院内勉強会「経腸栄養の基本、各種合併症対策、栄養剤選択の基準について」 井澤

9/16　介護保険事業　ブロック研修会 「介護保険事業　法令遵守ブロック研修会」 矢竹

12/8　院内感染対策講習会　伝達講習 「インフルエンザ、疥癬について」 矢竹、井澤、佐藤

・その他

2/27　在宅医療に役立つ Live セミナー「病院から発信する地域包括ケアの取り組み－連携から在宅へ－」「フレイルからみた認知症と転倒骨折」
主催：しろばと在宅医療介護情報センター　井澤

5/26　第１回　地域をつなぐ会　2018 年医療・介護同時改定のポイント
主催：有料老人ホームさとやま　井澤

・4/22、5/16　大阪府介護支援専門員実務研修実習受入れ　矢竹、井澤

4. 今後の目標

法改正後も特定事業所としての機能を維持し、地域での役割を果たすと共に、法人内での存在意義を高める。

55）よろこび訪問看護ステーション

管理者　森　浩子

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
よろこび訪問看護介護 187
徳洲苑 189
徳洲苑介護セン 199
特養久宝寺愛の郷 201

1. 概要

数年来スタッフ確保に苦慮していたが、退職後も新たに入職者を確保することができた。

それに伴い訪問件数を伸ばすため質の向上を目標にしているが、コミュニケーションそのものにも苦慮する年となる。

基本的に看護はどこでもだれでも同じとみなされる面があり、マニュアルなど見直しも行った。しかし看護の要素は各利用者、各スタッフの条件によって当然変化し、満たされ方も変容するものである。その面において、目標をどこに置くかを、個々のケアカンファレンスなどで話し合ってきたが、利用者に満足していただける看護になっていないと感じることがある。

2. メンバー構成

常　勤：森　浩子・見崎　加奈（８月休職）・清水　琴美・中澤　陽子（８月入職）

非常勤：辻本　由加里・斯波　奈津子

3. 実績

《訪問看護》

項目＼月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
利　用　者	44	46	46	48	47	49	49	45	44	44	44	42	548	45.7
訪 問 件 数	324	388	435	374	386	410	382	300	349	347	337	361	4,393	366.1
電 話 相 談	11	4	0	19	10	12	11	11	0	5	10	3	96	8.0
新規導入者	4	5	1	3	3	6	4	3	4	1	5	5	44	3.7
終了者(その他)	2	0	0	0	3	2	3	4	0	3	1	0	18	1.5
終了者(死　亡)	1	1	1	4	1	2	4	1	1	2	6	2	26	2.2

4. 今後の目標

ケアカンファレンスを継続し、コミュニケーションを密に行う。また、スタッフが入れ替わっても、よろこびらしさを存続できるように伝達、教育していく。

56）よろこび訪問看護介護センター

管理者　新安　弘和

1. 概要

2017 年のよろこび訪問看護介護センターは、７月に常勤職員が１名入職し、訪問件数が 400 件／月を超えるようになりました。件数は前年比 21.6％ほど UP しています。今年はさらに八尾市中心にサービス提供実施地域の利用者の皆様に「訪問介護は、“よろこび”でなきゃ！」、「“よろこび“に介護をしてもらいたい」と思って頂けるようスタッフ一丸となって、日々、努力をして参ります。

2. メンバー構成

管　　理　　者：新安　弘和
サービス提供責任者：三島　麻美（介護福祉士）
　　小野　孝子（介護福祉士）
訪問介護員（常　勤）：三島　麻美 (兼務)、小野　孝子 (兼務)、宮崎　美子
　　（非常勤）：徳永　秀美、星川　順華、中西　順子

3. 実績

《訪問介護》

項目＼月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
登録者	29	28	27	28	22	24	27	29	29	29	27	27	326	27.2
訪問件数	321	353	417	354	320	376	451	453	430	476	441	447	4839	403.3
重度利用者率	69.4%	75.5%	72.1%	70.9%	67.4%	54.0%	52.7%	78.3%	68.4%	74.5%	76.0%	73.9%	69.5%	69.5%
新規利用者	0	1	0	2	0	2	3	2	2	0	1	1	14	1.2
終了者	2	1	1	6	0	0	0	2	0	3	1	0	16	1.3

《研修及び行事》

1月18日　平成28年度介護給付適正化事業における「訪問介護事業者向け研修」
　　サービス記録を通じたスキルアップについて」（八尾市役所）・小野
1月18日　「介護予防・日常生活支援総合事業に関する説明会」（プリズムホール）・小野、三島
1月21日　「認知症サポーター養成講座」（龍華コミュニティーセンター）・徳永
2月20日　「高齢者虐待の現状と虐待事例から考える支援のあり方」（大阪府社会福祉会館）・三島
2月22日　「障がい者の権利擁護と成年後見」（大阪府社会福祉会館）・小野
2月24日　「介護職のための医療知識（皮膚疾患）」（八尾徳洲会総合病院）・徳永
3月4日　「認知症を知る」（八尾市立病院）・徳永、村井
3月16日　「排泄ケア・おむつについて」（八尾徳洲苑）・小野、三島、中西

介護セン 182
よろこび 訪問看護 186
よろこび 訪問看護介護 187
徳洲苑 189
徳洲苑 介護セン 199
特養久宝寺 愛の郷 201

5月26日　「採血結果から生活習慣を見直そう！」（八尾徳洲会総合病院）・三島
6月23日　八尾市介護保険事業者連絡協議会 総会･研修会(プリズムホール)・新安
6月23日　八尾市介護保険事業者連絡協議会 事業者交流会(レセプションホール)・新安
8月25日　認知症介護実践者研修報告会(八尾徳洲苑)・小野
9月16日　徳洲会グループ「介護部門ブロック会議(平成29年9月度)」（吹田徳洲会病院）・新安
10月11日　「様々な人権問題について考える」（大阪府社会福祉会館）・小野
10月18日　「福祉サービスの苦情解決の取組み」（大阪府社会福祉会館）・三島
10月20日　「介護職に求められるコミュニケーション力」（大阪府社会福祉会館）・宮崎

4. 今後の目標

・より良い介護サービスを実施します。
・特定事業所加算Ⅳからさらなるレベルup（Ⅰ～Ⅲ）を目指します。
・利用者様、居宅支援事業者からの依頼を断らないことを目指します。
・職員の「質の向上」のための研修に積極的に参加いたします。

57）介護老人保健施設　八尾徳洲苑

施設長　高寺　博史

1. 概要

2017 年は目標としていた在宅強化型加算が年初から通年で維持できました。ただ、それに伴う平均入所者数の減少も避けられぬこととなりました。また頻発していた誤嚥性肺炎のリスク軽減を目的とし歯科医師と歯科衛生士の介入による口腔ケアを開始し、口腔衛生管理加算を獲得し、数名の入所者で経口維持加算 II を得られました。これらの新規事業改善により、2015 年度介護報酬改定のマイナス改定の影響をある程度緩和できたと考えています。

年初のインフルエンザの発症は、入所者と職員の散発的発症で終焉しました。これは厚労省の全国的発症期に入ったとの発表を受け、直ちに 18 歳未満の家族様の来苑を禁止したことが、功を奏した可能性があります。次年度も同対応を考えています。感染対策の一環として入所時に痰培養、尿培養をほぼ全例に実施しました。苑内の MRSA、多剤耐性緑膿菌、ESBL 産生菌の保菌者は全例で菌の持ち込み例でした。

多剤併用（ポリファーマシー）の問題にも継続して取り組み、降圧薬、血糖降下薬、抗精神病薬、抗コリン作動薬などを減薬や変更あるいは中止しました。多剤併用の積極的改善は、介護老人保健施設経営上のみならず、国の医療介護保険制度上の重要問題と考えています。

2018 年度介護報酬改定では在宅強化型加算のプラス改定となり、次年度も引き続き在宅強化型加算の維持を目標としていきたいと考えています。ただ支援相談員の配置割合など、加算要件は厳しくなり今後の維持が困難となる場合も考えられます。他方、かかりつけ医連携薬剤調整加算が新設され、今までの当苑での活動が評価されることになったのは朗報です。今後とも皆様のご協力とご指導をお願い申し上げます。

2. 実績

《利用者数実績》

1）入所療養介護（長期入所）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	107	98	103	96	97	102	99	100	95	94	105	104	1200	100	1%
延べ人数	2,856	2,604	2,752	2,661	2,514	2,507	2,722	2,773	2,525	2,558	2,693	2,749	31,914	2,659	0%

2）短期入所療養介護（ショートステイ）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	37	32	35	31	41	40	39	37	30	31	26	31	410	34.1	－23%
延べ人数	193	131	141	186	178	231	203	153	141	114	114	145	1,930	160.8	－7%

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
よろこび訪問看護介護 187
徳洲苑 189
徳洲苑介護セン 199
特養久宝寺愛の郷 201

3）通所リハビリテーション（デイケア）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	95	93	94	94	99	100	96	92	87	90	88	92	1,120	93.3	－5%
延べ人数	805	695	854	811	922	921	863	822	798	795	780	762	9,828	819	－4%

《入所経路と在宅復帰》（長期入所）

1）入所前場所

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	2			2	2	3	3	2	1	4		2	21	17%
八尾徳洲会総合病院	7	3	6	10	6	13	2	6	9	8	16	9	95	4%
他病院	2	5	4	1	5	4	4	5	1	3	3	2	39	11%
老健													0	－%
他施設	2					3	1	3					9	－60%
合計人数	13	8	10	13	13	23	10	16	11	15	19	13	164	3%

2）退所先

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	1	1	5	7	8	5	4	5	4	5	6	11	62	24%
八尾徳洲会総合病院	4	1	9	7	5	3	6	5	1	5	5	7	58	－20%
他病院	1		1						1				3	0%
特養	1		1	1	2	3	1	1		1		2	13	86%
老健														－%
死亡(看取り)	1				1		1	1			1		5	0%
その他施設	6	1	3		3	1	4	3	5	3	1		30	50%
合計人数	14	3	19	15	19	12	16	15	11	14	13	20	171	15%
在宅復帰率	54%	67%	42%	47%	61%	50%	53%	57%	82%	57%	58%	55%	55%	9%

一年間の在宅復帰率は、55%（前年 46%）である。

《医療依存度》

1）重症度症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平均要介護度	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	3.6	45.4	3.78
経管栄養	162	181	202	200	175	198	205	212	193	225	222	197	2,372	197.6
インシュリン	20	0	11	13	19	47	41	23	68	72	60	72	446	37.1
褥瘡処置	110	109	146	138	134	160	124	65	65	40	44	38	1173	97.7
酸素吸引	30	2	4	0	12	14	10	17	0	0	2	5	96	8
頻回吸引	141	138	244	278	245	193	129	107	74	115	147	116	1,927	160.5
点滴注射	79	27	53	82	108	104	67	98	31	69	53	60	831	69.2

稼働床に対する割合

2）看取り件数（過去 13 年）

2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	合計	平均	前年比
10件	15件	15件	10件	15件	9件	7 件	10件	12件	2件	5件	3件	5件	118件	9.8件	0.8%

3）重症者搬送件数

八尾徳洲会総合病院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
	4	1	4	3	2	2	2	3	1	1	2	0	25	2.0	−16.7%

【機能訓練室】　　理学療法士副室長　山田　知絵

1. 概要

PT1 名と OT1 名が産休・育休を取得したため、セラピスト実働数減少により、業務に支障をきたすおそれがありました。そこで、八尾徳洲会総合病院リハビリテーション科より PT1 名の応援をいただきました。実働数PT4 名体制を維持できたことで、利用者様への個別リハや、生活への関与には、今までと変わらない対応ができました。

学会発表や施設内・外における講演、教育的活動、認知症ケアの啓蒙活動にも積極的に参加しました。多職種に対する人材育成に携わることは、自施設や地域のケアの質の維持、向上につながると考えます。

施設方針、目標である「在宅復帰強化型老健の維持」に向け、各セラピストが在宅復帰支援への高い意識と、他部署や地域の事業所との連携で各々が力を発揮でき、「在宅復帰」に貢献しました。

2. メンバー構成

理学療法士　4 名（平成 29 年 6 月～　八尾徳洲会総合病院　リハビリテーション科より 1 名応援受け入れ）

作業療法士　1 名

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
よろこび訪問看護介護 187
徳洲苑 189
徳洲苑介護セン 199
特養久宝寺愛の郷 201

3. 実績

1）通所・入所　個別リハビリテーション実施件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
実施延べ数	858	740	933	824	875	867	919	989	939	926	999	984	10,853	904
内、加算算定数	323	269	370	267	257	353	427	461	375	334	376	409	4,221	352

2）外部研修

・GCP研修（PT土井）

・大阪介護支援専門員協会　第Ⅲブロック研修会（PT土井）

3）講師・講演活動

PT 山田：・大阪府　認知症介護実践研修（基礎・実践者・実践リーダー）

・施設内研修　「プライバシー保護について学ぼう」

PT 土井：・大阪府　認知症介護実践研修（基礎・実践者・実践リーダー）

・認知症介護研究・研修大府センター 認知症介護指導者養成研修
「模擬授業（コメンテーター）」

・施設内研修　「倫理と法令遵守」

・医療福祉講演会　「認知症とともに暮らす」

・徳洲会介護部会　老健合同研修会　「認知症の原因疾患と症状への理解を深める」

・奈良リハビリテーション専門学校　理学療法学科「脳疾患患者に対する理学療法」

・日本高齢者・障害者虐待防止協会　「認知症の人の理解と対応の基本」

・ひなぎく訪問看護リハビリステーション　「認知症ケア実践研修」

・ハートケアグループ　「高齢者虐待防止の実践について考える」

・大阪介護福祉士会　「身体拘束・権利擁護について考える」

4. 今後の目標

個別リハ等の直接業務に留まらず、自施設や地域のケアの質の維持、向上のための活動を継続します。平成 30 年 4 月に控える介護保険制度改正に向け、今後も在宅復帰支援に尽力して参ります。

【栄養科】　管理栄養士副主任　樋口　晶代

1. 概要

栄養科では栄養ケア・マネジメントや療養食（糖尿病食・心臓病食・貧血食）対応など個々の栄養管理に加え、嚥下障害を有する方や食事摂取に関する認知機能の低下が見られる方に経口維持支援を行っています。昨年 7 月からは、歯科医師・歯科衛生士の協力を得ることで、義歯調整や口腔ケアに対する意識を高めながら多職種連携を行い、より充実した経口維持の支援

を目指しています。

また、利用者様に「食」を楽しんでいただける食事提供として、毎月の行事食や「お楽しみランチ」など様々なイベント食を実施しています。通所利用者様への「おかず選択週間」や、「おでん」「揚げたて天ぷら」のバイキングは毎回好評であり、屋台を設置しての「鯛焼き」や、毎月の「おやつ選択食」、利用者様参加型の「おやつ実習（入所：日曜日、通所：水曜日）」も喜ばれ、実施を継続しています。

今後も、利用者様に安全で美味しい食事の提供を行えるように、個々に応じた栄養管理とともに、楽しんでいただけるイベント食の充実を行っていきたいと思います。

2. メンバー構成

管理栄養士　樋口晶代

3. 実績

1）療養食加算（長期入所）　件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
539	586	651	579	487	531	624	545	510	552	516	482	6,602	550

2）経口維持加算（Ⅰ）（Ⅱ）　件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
（Ⅰ）	23	21	25	23	17	20	16	13	14	15	14	15	216	18
（Ⅱ）								3	3	2	3	5	16	3

3）行事食・イベント食

1月　1～3日：正月おせち料理、新年会 松花堂弁当
　　屋台 鯛焼き
2月　節分 巻き寿司、（デイ）揚げたて天ぷら、屋台おでん
3月　握り寿司バイキング
4月　春のお花見弁当、（デイ）揚げたて天ぷら、屋台おでん
5月　端午の節句　弁当、屋台 鯛焼き
6月　運動会 ランチランチバイキング、（デイ）揚げたて天ぷら、屋台おでん
7月　七夕　ちらし寿司と七夕そうめん
　　夏祭り　屋台（焼きそば、鯛焼き、焼き肉、おでんなど、家族様と一緒に食事）
8月　（デイ）揚げたて天ぷら、屋台おでん、パンバイキング
9月　敬老会　松花堂弁当
10月　文化祭　ちらし寿司、（デイ）揚げたて天ぷら、屋台おでん
11月　秋の弁当、屋台 鯛焼き
12月　お楽しみランチバイキング、（デイ）屋台おでん

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
よろこび訪問看護介護 187
徳洲苑 189
徳洲苑介護セン 199
特養久宝寺愛の郷 201

4 ）実習生受け入れ

・関西福祉科学大学健康福祉部福祉栄養学科　　臨床栄養臨地実習　実習生2名

・全国老人保健施設協会より実地研修受け入れ　　栄養ケア・マネジメントに関する実地研修

介護老人保健施設 管理栄養士　4施設4名

【支援相談員】　　支援相談員副主任　北出　眞和

1. 概要

長期入所･短期入所･通所リハビリテーションを希望される方の窓口となり、相談対応を行っています。

入所は 100 床あるベッドを運用し、入退所調整を行っています。100 床中約 5 床は短期入所として活用しています。

入所サービスは基本的に要介護認定を受けられ、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、在宅への復帰を目指すために、各職種との協働の下、リハビリテーション・栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供するサービスとして、相談対応させていただいております。

今年の傾向としては、入所者数 164 名の内、協力医療機関の八尾徳洲会総合病院からの紹介者数は 95 名となっており、約 58％の方を紹介していただきました。八尾市内･大阪市･柏原市･東大阪市といった近隣の医療関係との相談対応を迅速に行い、全体の 24％の方の紹介をいただきました。こちらに関しては、2016 年と比べ増加がみられました。2016 年 12 月からは在宅復帰強化型を取得し、現在も在宅強化型を維持できています。在宅強化型を維持するには、他職種の協力無しでは困難であり、施設内の連携も今以上に強固なものにしていきたいと考えています。

また、今後も新たな取り組みを構築し、医療機関に対して積極的に情報発信していき、後方支援先としての協力体制を整えていきたいと考えています。

2. メンバー構成

北出眞和

3. 実績

171 名の方が退所されました。内在宅復帰 62 名（36％）病院搬送 61 名（35％）特養入所者 13 名（7％）有料老人ホーム入所者（有料･サービス付き高齢者向け住宅など含む）30 名（18％）となっております。本年の年間在宅復帰率は 55％。昨年に比べ、在宅復帰率は 10％以上上がりました。入院される方もおられましたが、フォーマル・インフォーマルな資源の提供や本人様やその家族様のご意向を確認し、在宅復帰援助に努めた結果、在宅復帰率は向上がみられました。

4. 今後の目標

長期入所に関しては在宅復帰強化型を維持し、安定した入所者数の確保ができるよう調整できました。

2018 年の介護保険改定に伴う対策として、現状の調整を継続していきます。支援相談員も 5 月より 1 名体制となり、他職種の方々には大変お世話になりました。これからも、他職種の方々と共に協力して現状維持もしくは向上に努めていきたいと考えています。

短期入所の相談に関しては、特別養護老人ホームなどでの対応が難しい医療依存度の高い方の受け入れを案内しましたが、利用者数の減少がみられます。

通所リハビリテーションは定員 60 名に対して、稼働率の低下がみられます。利用者数の状況からみても、利用者数のムラが大きくみられ、今後の課題と考えています。医療機関や地域からの相談に対して迅速に対応し、地域の窓口としていけるように取り組んでいくと共に、施設運営の向上に繋がる支援体制を今後も構築していけるように努力していきたいと思います。

【介護・看護部】　　総看護師長　武田　郁子

1. 概要

看護介護部では利用者様とその家族様に満足して利用いただけるよう努めました。

デイケアは坂井主任を中心に、利用者様個々の状態に沿って支援出来るよう努めています。そのためにカンファレンスを行い情報共有しています。

1 階フロアは松村看護主任、西田介護主任のもと利用者様、家族様と関係を構築しながらケアの提供に努めています。介護度が高い利用者様の受け入れにも取り組んでいます。

2 階フロアは上杉看護主任、山下、山﨑介護副主任のもと事故防止に努め、安心して利用して頂けるよう努めています。認知症の方への対応も個別に行えるよう学びを深めて実践しています。

≪年間行事≫

1月　新年会
4月　春の外出
6月　運動会
7月　夏祭り
9月　敬老会
10月　文化祭

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
よろこび訪問看護介護 187
徳洲苑 189
徳洲苑介護セン 199
特養久宝寺愛の郷 201

2. 実績

1）看護介護目標と成果

目　　標	成　　果
デイケア： 看護　利用者の状態把握に努め、異常の早期発見に努める 介護　利用者、職員の気持ちを思いやり、行動・発言が出来る	・体調変化の気付きを迅速に行い退所できている ・日頃からコミュニケーションをはかり思いによりそう努力をした ・職員間で相談できるよう雰囲気作りできた
1階：業務の見直しを行い標準化する事で質の向上に取り組む	・申し送り短縮に成功し改善出来た
2階：介護職としての意識を高く持つ 1人1人に会った支援を行う 職員間の相談できる環境つくり	・介護職としての意識の向上は今後も取り組んでいきたい ・人間関係、職場環境の調整継続

2）教育人材育成

・実務者研修受講　1名

・認知症介護実践者研修　2名受講

3）身体拘束委員会　　身体拘束ゼロの継続が実行出来ている、委員会でセンサーマット利用の評価分析を実施

4）事故防止委員会　　毎月の事故報告書を分析し、事例検討している

5）感染対策委員会　　感染対策を徹底し、インフルエンザ・ノロなどの集団感染予防に努めている

6）外部研修

研修日	研修内容	主催
1/15（日）	日本高齢者･障害者虐待防止協会発足記念講演会	日本高齢者･障害者虐待防止協会
1/28（土）	介護教室	大老協　中河内ブロック
2/17（金）	キャラバンメイト研修	大阪介護老人保健施設協会
2/21（火）	文章の書き方	徳洲会介護部会
3/4（土）	認知症研修	八尾こころのホスピタル
3/11（土）	トップセミナー	大阪府看護連盟
1/15（日）	日本高齢者･障害者虐待防止協会発足記念講演会	日本高齢者･障害者虐待防止協会
1/28（土）	介護教室	大老協　中河内ブロック
2/17（金）	キャラバンメイト研修	大阪介護老人保健施設協会
2/21（火）	文章の書き方	徳洲会介護部会
3/4（土）	認知症研修	八尾こころのホスピタル
3/11（土）	トップセミナー	大阪府看護連盟
5/20（土）	地域医療構想	看護協会･看護連盟
5/23（火）	介護施設での感染防止	徳洲会介護部会
5/24（水）～	認知症介護実践者研修	大阪介護老人保健施設協会
6/28（水）	接遇（応用編）	徳洲会介護部会
7/6（木）	大老協懇話会	大阪介護老人保健施設協会
7/27,28	全老協全国大会　愛媛	大阪介護老人保健施設協会
7/29（土）	徳洲会介護部会	徳洲会介護部会
8/23（水）	身体拘束廃止、高齢者虐待廃止について	介護部会
8/30（水）	新人職員指導者研修	大阪介護老人保健施設協会
9/12（火）	安全管理研修	徳洲会介護部会
9/16（土）	関西ブロック介護部会	徳洲会介護部会
10/5（木）	リスクマネージメント研修	大阪介護老人保健施設協会
10/20（金）	脳卒中発症･再発予防と危険因子のお話し	大阪府看護連盟
10/21（土）	アウトブレイクセミナー	徳洲会感染管理部会
10/25（水）	老健における感染症予防について	大阪介護老人保健施設協会
10/26（木）	看取り介護研修	3施設合同研修
11/2（木）～	認知症介護実践者研修	大阪介護老人保健施設協会
11/17（金）	施設CM研修	徳洲会介護部会
11/6･12/22	身体拘束ゼロ推進員養成研修	大阪府社会福祉事業団
11/21（火）	介護留学生支援シンポジウム	大阪介護老人保健施設協会
12/1･25	看取り･フィジカルアセスメント研修	大阪府社会福祉事業団
12/11（月）	地域包括ケアシステムとは	介護支援専門員協会
12/14（木）	褥瘡予防ケアについて	徳洲会介護部会

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
よろこび訪問看護介護 187
徳洲苑 189
徳洲苑介護セン 199
特養久宝寺愛の郷 201

7）内部研修

1月　介護職の医療行為
2月　学会支援プログラム
3月　消防訓練、排泄ケア、介護記録
4月　倫理と法令遵守
5月　口腔ケアについて
6月　BLS研修
8月　認知症介護実践者研修、介護保険サービス
9月　感染症対策
10月　身体拘束、高齢者虐待、プライバシー保護
11月　褥瘡ケアについて、オムツの使用方法

8）医療福祉講演会

3月　家で簡単にできるカロリー・塩分調整
7月　認知症とともに暮らす
9月　高齢者の骨折について
12月　望む生活に近づけるために

9）家族会講義

3月　上オムツについて
7月　脱水と熱中症について
9月　歯と口の健康
12月　訪問入浴について

10）実習受け入れ

・大阪府医師会看護専門学校　　看護師実習生41名　　在宅看護論（4/10～11/30）
・大精協看護専門学校　　准看護師実習生75名　　老年看護（8/1～12/1）

11）体験学習

・八尾市立大正中学校　　実習生3名
・大阪市立加美南中学校　　実習生3名
・八尾市立式中学校　　実習生3名

12）介護福祉士実務者研修施設自習

・プレースメント　　実習生1名

58）八尾徳洲苑介護センター

管理者　日髙　陽子

1. 概要

当センターは八尾徳洲苑に併設し、施設内の委員会、勉強会、行事にも参加、グループ内とも強く連携を図っています。昨年は 2017 年 2 月に管理者の鶴がグループ内の社会福祉法人愛心会で地域包括支援センター愛の郷の開設にあたり、異動となり管理者変更しました。それに伴い体制が特定事業所のⅡからⅢに変更。更に介護支援専門員実務研修の実習生受け入れが開始となり、変動の 1 年となりました。体制が変わってもこれまで通りに 24 時間連絡体制、定期的な勉強会、会議開催による技能向上に努めています。

2018 年 4 月には医療と介護、障がいのトリプル改定を控え、超高齢社会の独居や認知症高齢者増加への対応強化、医療と介護の連携が益々必要となります。改定についての情報を早期に収集し混乱なく事業運営すると共に、医療機関、地域包括支援センター、行政、各関係機関との関係を構築し、地域における役割を果たしていきたいと思います。

2. メンバー構成

管理者・主任介護支援専門員　：　鶴健二（2 月 1 日付　地域包括支援センター愛の郷へ異動）
日髙陽子（2 月 1 日付　就任）
主任介護支援専門員　：　山﨑美保
介護支援専門員　：　野宗かおり
山口悦子（2017 年 2 月 1 日入職、4 月 30 日退職）

3. 実績

1）業務実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年
介護利用者	93	86	86	93	94	92	92	89	84	89	80	85	1,063	88.6	96.7
予防利用者	31	30	27	22	24	22	22	22	21	21	21	20	283	23.6	24.9
居宅支援Ⅰ1	54	45	48	53	52	53	57	53	48	49	49	50	611	50.9	56.9
居宅支援Ⅰ2	39	41	38	40	42	39	35	36	36	40	30	35	451	37.6	39.9
相談件数	0	1	2	0	1	1	0	0	1	1	1	4	12	1.0	4.5
新規開始者	2	2	1	1	1	2	0	0	0	1	0	3	13	1.1	2.6
終了者	5	3	6	3	3	2	0	0	1	5	2	1	31	2.6	3.1
認定調査	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5.0	0.4	16.0
担当者会議	16	17	24	28	17	25	20	17	15	18	10	8	215	17.9	18.3

分析：5 月から完全に 3 名体制となり新規相談、認定調査は受け入れしなかったが、前年度の 4 名体制での利用者数、担当者会議数を比較して多忙を極めたことがわかる。

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
よろこび訪問看護介護 187
徳洲苑 189
徳洲苑介護セン 199
特養久宝寺愛の郷 201

2）研修

【外部研修】

八尾市介護保険事業者連絡会	2/21、日高、6/23、野宗
八尾市事業者連絡協議会居宅部会	1/18、鶴・日高、7/12、日高、11/22、野宗
八尾市介護保険事業者連絡会第3・4圏域地区合同勉強会	10/25、日高、12/11、野宗
大阪介護支援専門員協会八尾支部	1/23、山﨑、3/6、山﨑・野宗・山口
	7/19、山﨑、8/23、山﨑、11/17、山﨑
大阪介護支援専門員協会八尾支部事例検討会	9/11、山﨑、11/13、山﨑
大阪介護支援専門員協会第Ⅲブロック研修会	12/11、山﨑
大阪介護支援専門員協会実務研修見学・観察実習に係る事業所対応について	11/24、山﨑
大阪府主任介護支援専門員更新研修	12/14・24、日高
八尾市保健所　難病地域ケア会議・合同研修会	11/2、野宗
八尾市保健所　糖尿病重症化予防研修会	3/1、山口
中河内圏域高次機能障害ネットワーク会議	2/23、野宗＝パネリスト・日高
第16回介護支援専門員近畿ブロック研究大会 in 兵庫	3/11・12、野宗
指定介護サービス事業者集団指導	5/16、日高
ワンコイン生活サポート事業説明会	7/19、（野宗）
看取りは身近な話題（しろばとクリニック）	8/19、日高
改善事例発表会（通所リハビリセンターり・はっぴー）	10/23、山﨑
大阪府訪問看護実践研修事業～末期がん患者のこころのケア	12/2、山﨑

【内部研修】

・事例研究会（徳洲会介護センター合同）	1/19、3/16、5/18、7/20、9/21、11/16
・認知症勉強会（徳洲会介護センター合同）	2/16、4/20、6/29、8/17、10/19、12/21
・九州・離島・沖縄・関西大阪ブロック介護部会合同研修会	2/21、山﨑、9/16、日高
・地域講演　「サプリメントについて」サンハイツ八尾南 講師：八尾市薬剤師会副会長　豊口雅子氏	11/16、日高・山﨑

3）実習生受入れ　2名

4. 今後の目標

・法人の掲げる理念の実践に努め、併設施設、関連施設への協力、連携を図る。
・利用者様の意思および人格を尊重し自立支援に努める。
・事業目標を達成し、単独事業所として健全経営を目指す。
・日々の活動や福祉講演などを通して、地域から信頼される事業所を目指す。
・新入職者の一連の業務取得、協力し合えるチームづくり。

59）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷

理事長　酒井　　敬
施設長　山本　英代

1. 概要

社会福祉法人大阪愛心会として、特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷、ショートステイ久宝寺愛の郷、デイサービス久宝寺愛の郷の３事業に加え、４月から八尾市の委託を受けて八尾市地域包括支援センター久宝寺愛の郷を立ち上げた。また、ダイエタリーケアへの給食の委託がなくなり、直接運営に切り替えた。平山施設長の異動に伴い、山本看護師長が施設長に就任、そのサポートとして木口副施設長が着任した。

社会福祉法の改正があり、経営組織のガバナンス強化について大きな制度改正があり、評議委員会の議決機関化や役員とその法人の職員との兼務不可などが制度化された。当施設も定款の変更や一部役員の入れ替えを行った。また、情報開示による透明性の確保が求められ、定款・貸借対照表・収支計算書・現況報告書等の公表をホームページで行った。

地域との関係は良好で、８月の夏祭りは 50 人以上の地域の方々にボランティアとしてお手伝い頂き、入居者様やその家族様、地域住民合わせて、800 人以上の参加があった。９月の燈路祭まつりは、会場の一つとして当施設の敷地をご利用頂いた。年末のお餅つきにも 10 人程お手伝いいただき、当施設の利用者やその家族の方々に楽しんで頂いた。久宝寺寺内町まちづくり推進協議会や八尾市の人権文化ふれあい部久宝寺出張所とは常にコミュニケーションをとるよう心がけてきた。

2. メンバー構成

事業	職種	常勤	非常勤	合計
管理部	管理者	3	0	3
	事務	3	0	3
特養	生活相談員	1	0	1
	介護支援専門員	1	0	1
	介護職	17	13	30
	医師	0	1	1
	看護部	1	3	4
	栄養部	4	4	8
短期入所	生活相談員	1	0	1
	介護職員	2	5	7
デイサービス	生活相談員	1	0	1
	看護部	0	2	2
	機能訓練	1	0	1
	介護職員	2	5	7
	運転手	0	5	5
地域包括	社福・ケアマネ・保健師	3	0	3
合計		40	38	78

介護セン 182
よろこび訪問看護 186
よろこび訪問看護介護 187
徳洲苑 189
徳洲苑介護セン 199
特養久宝寺愛の郷 201

3. 実績

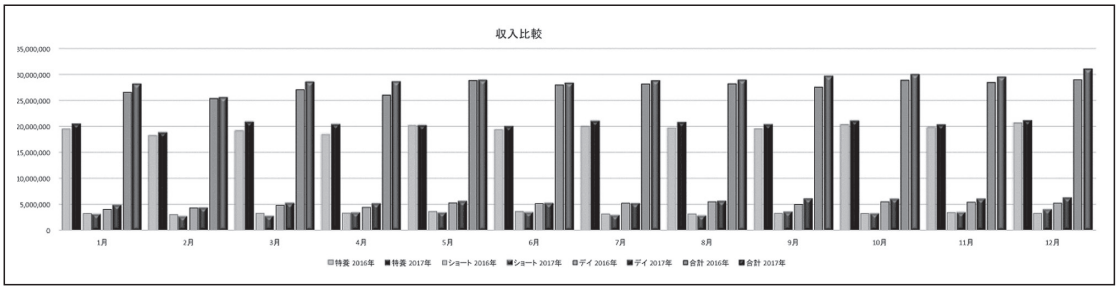
保険収入では2016年と比較し、全体で3.4%増加した。4月から地域包括支援センターの運営が加わったが、その収入を合計すると7.4%増加した。費用については、ダイエタリーケア職員の直接雇用、一部手当の見直し等で人件費が増加し利益を圧迫した。

収入状況

2017年 （単位千円）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
特養	2016年	19,348	18,121	19,028	18,332	19,994	19,276	19,861	19,596	19,366	20,197	19,673	20,544	233,335
	2017年	20,354	18,696	20,739	20,263	20,075	19,865	20,889	20,659	20,244	20,938	20,204	20,996	243,923
ショート	2016年	3,211	3,000	3,246	3,288	3,614	3,595	3,134	3,134	3,236	3,212	3,399	3,239	39,309
	2017年	2,914	2,502	2,557	3,176	3,210	3,236	2,692	2,628	3,329	3,010	3,248	3,778	36,281
デイ	2016年	3,999	4,260	4,786	4,403	5,222	5,105	5,180	5,475	4,970	5,486	5,389	5,193	59,469
	2017年	4,665	4,145	5,027	4,939	5,377	5,011	4,983	5,402	5,862	5,816	5,826	6,034	63,087
合計	2016年	26,558	25,382	27,060	26,024	28,831	27,976	28,175	28,205	27,572	28,894	28,462	28,976	332,113
	2017年	27,934	25,343	28,323	28,378	28,663	28,112	28,565	28,689	29,436	29,764	29,279	30,808	343,291
地域包括	2017年				1,538	1,555	1,607	1,629	1,655	1,603	1,725	1,754	1,732	14,799

収入比較



4. 今後の目標

介護技術、リスク管理、利用者サービスの向上に向けて、各事業単位で目標を明確にして事業運営にあたる。

①特別養護老人ホーム

認定特定行為業務従事者をさらに育成し、看取りや重度化する入居者に対応できる介護者を育成する。看護師による個別機能訓練を開始する。

②短期入所

本来の役割を十分認識しながら8割以上の利用率を維持する。ケアプランセンターとの関係を密にし、特養と通所介護のスムーズな運営に貢献する。

③通所介護

利用者様にいかに楽しんで頂きながら、ADLを維持できるよう機能訓練に力をいれる。また、カラオケを含めレクリエーションのメニューを増やす。利用者が前向きな気持ちになれるシステムを構築する。

④地域包括支援センター

地域行事への参加を継続しつつ、ケース対応を通して各関係機関と連携し、個々の専門性を活かした支援を実施していく。加えて、地域の方々にセンターの役割を知って頂くための啓発活動をしていく。

⑤その他

災害時の施設対応についての、八尾市との合意はあるが、地域との話し合いは出来ていない。一度合同訓練に参加し、地域の一員としてどのような役割ができるのか一緒になって考えてみたい。

学　術　業　績

―― 2017年 ――

60）学会発表　206
61）学術論文　213

60）学会発表

【肝臓センター】

・2017.3.3～4　第14回日本病院総合診療医学会　木村拓也,、服部彬、堀元隆二、鯉田五月、高原良典、原田博雅　上行結腸リンパ管腫による腸重積症を腹腔鏡補助下に治療した1例

・2017.6.2.～4.　第17回日本抗加齢医学会　木村拓也、上田真帆　腹腔鏡下肝臓手術の周術期における脂肪酸代謝の動向

・2017.6.10.　第29回アジア・太平洋　肝胆膵外科国際学会　座長　木村拓也

・2017.6.14～17　第25回ヨーロッパ内視鏡外科学会（EAES）、ドイツ　服部彬、木村拓也、井上雅文、鈴木大聡、鯉田五月、村上治、松田康雄　Laparoscopic treatment of right subcostal huge incisional hernia after hepato-biliary-pancreatic surgery using intraperitoneal only mesh technique　木村拓也、井上雅文、鯉田五月、服部彬、辻康宏、松田康雄　Mid-term outcome of laparoscopic hepatectomy for patient with hepatocellular carcinoma

・2017.7.20～22.　第72回日本消化器外科学会　木村拓也、井上雅文、服部彬、松岡信子、鈴木大聡、松田康雄　肝細胞癌に対する腹腔鏡手術の中期成績　服部彬、井上雅文、木村拓也、松田康雄　肝胆膵術後右肋弓下切開における腹壁瘢痕ヘルニア7例の治療成績

・2017.9.2.　第200回近畿外科学会　服部彬、木村拓也、井上雅文、辻康宏、垣本佳人、豊田亮、町田智彦、遠藤幸丈　腹腔鏡下胆嚢摘出後の遺残胆石による腹膜炎を腹腔鏡にて治療した1例　岡田彩、木村拓也、井上雅文、服部彬、辻康宏、松田康雄　骨盤腹膜炎を合併した左卵巣成熟嚢胞性奇形腫の1例

・2017.11.30～12.1.　第42回日本肝臓学会西部会　鯉田五月、木村拓也、井上雅文、松田康雄　当院におけるC型肝炎のDAA治療開始後の肝細胞癌発症例での臨床的検討　木村拓也、鯉田五月、井上雅文, 松田康雄　当院肝臓センターにおけるラジオ波の合併症の検討

・2016.12.8～10　第30回日本内視鏡外科学会　岡田彩、木村拓也、井上雅文、服部彬、辻庸宏、松田康雄　骨盤腹膜炎を合併した左卵巣成熟嚢胞性奇形腫の1例　服部彬、木村拓也、井上雅文、垣本佳人、豊田亮、町田智彦、遠藤幸丈、村上修、松田康雄　腹腔鏡下胆嚢摘出後の遺残胆石による腹膜炎を腹腔鏡にて治療した1例　大崎真央、遠藤幸丈、服部彬、垣本佳士、町田智彦、豊田亮、井上雅文、村上修、木村拓也　腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術後の腹膜裂孔ヘルニアによる絞扼性イレウスの一例

・2017.6.2.～4.　第17回日本抗加齢医学会　木村拓也、上田真帆　腹腔鏡下肝臓手術の周術期における脂肪酸代謝の動向

【外科】

・2017.11.23～25　第79回日本臨床外科学会総会　大田修平、島袋盛一　徒手整復後に小腸穿通をきたした鼠径ヘルニア嵌頓の1例

【糖尿病内分泌内科】

・2017.11.11　第54回日本糖尿病学会近畿地方会（大阪国際会議場）　石橋里江子、妊娠糖尿病の診断から10年後の転帰とフォローアップの課題

【形成外科】

・2017.2.10　第7回奈良フットの会　市民公開講座（奈良）綾部忍、切断から足を救おう

・2017.3.11　第27回神戸Podiatryミーティング（神戸）　綾部忍、distal bypass術後のlong vein graft晩期閉塞例に対しEVTで救肢できた1例

・2017.6.22　7th International scar club meeting（フランス　モンペリエ）藤井奈穂、Cosmetic and Psychological Effectiveness of Rehabilitation

Make-up® For Post-Burn Scar Patients
・2017.7.6～7　第9回日本創傷外科学会総会・学術集会（岐阜）　綾部忍、AID conceptに基づいたCLI治療　NPWTとfillet flapの併用による糖尿病性足病変の治療
・2017.7.28～29　第23回日本血管内治療学会総会（奈良）　綾部忍、シンポジウム　CLIにおけるwound management　～AID concept～
・2017.8.3　南大阪SSTIセミナー（大阪）　綾部忍、形成外科領域における複雑性軟部組織感染症
・2017.8.5　日本フットケア学会認定第1回フットケア指導士実技講習会アドバンス（大阪）　綾部忍、Offloadingの重要性
・2017.8.26　第17回Kansai Interuniversity Symposium State of the art in PRS（大阪）　綾部忍、Modified dermis graft for skin defect of the nose　～新しく分かったこと～
・2017.9.8～10　14th Annual Meeting of the Diabetic Foot Surgery Group （ポルトガル　ポルト）　綾部忍、Non suture technique utilizing negative pressure wound therapy for ischemic foot
・2017.9.17　第14回日本フットケア学会神戸セミナーrevisited（神戸）　綾部忍　シンポジウム　下肢創傷患者のリハビリテーションで注意すべきこと　スイーツセミナー　重傷下肢感染症のオーバービュー
・2017.10.5～7　Make Better Summit 4 （ギリシャ　アテネ）　綾部忍　Non suture technique utilizing negative pressure wound therapy for ischemic foot management
・2017.10.14　第3回日本下肢救済学会・足病学会関西地方会（奈良）　綾部忍　シンポジウム　糖尿病性足変形に対する予防的手術
・2017.10.19～20　第26回日本形成外科学会基礎学術集会（大阪）　綾部忍　ランチョンセミナー　糖尿病性足病変治療の新たな挑戦
・2017.11.9～11　11　3rdConference of Association of Diabetic Foot Surgeons （イタリア　ヴェニス）　綾部忍　Strategy for diabetic foot wound management in Japan: AID concept
・2017.11.18　第1回Nurse Festival（大阪）　綾部忍　モーニングセミナー　糖尿病性足病変　治療のポイント
・2017.11.27～28　第47回日本創傷治癒学会学術集会（京都）　綾部忍　シンポジウム　糖尿病性足病変に対するチーム医療
・2017.12.2　第22回　藤井寺糖尿病スタッフ研究会　延山文美　当院で経験した糖尿病性足病変の治療
・2017.12.2　Endovascular Asia 2017（大阪）　綾部忍　Wound Management Video Lesson for Cardiologist

【呼吸器外科】
・第34回　日本呼吸器外科学会総会　発表
開窓術後、RENASYS®創傷治療システムを用いて150mlの腔を2週間で15mlに縮小させた1例

【歯科口腔外科】
・2017.10.20～22　第62回日本口腔外科学会総会（国立京都国際会館）　原田計真、小倉秀、占部一彦　『直腸癌加療前に熱源精査目的で片側に上顎洞真菌症と対側は上顎洞炎を認めた1例』
・2017.7.1　第48回日本口腔外科学会近畿地方会（大阪）　小倉秀、原田計真、三浦康寛、谷口亮、永田雅英、和田剛信、占部一彦　『下顎埋伏智歯抜歯時において歯根の組織内迷入を認めた3症例に関する臨床的検討』

【透析センター】
・2017.3.5　第88回大阪透析研究会（大阪）　倉田敬済、長谷川弘将、向井砂帆、石頭　翼、藤村篤志、藤田和睦、福田貢、申勝、今田聰雄　中規模急性期病院の透析センターにおける最近5年間の入院状況

【内科】
・2017.9.9　第8回奈良甲状腺研究会（奈良県立大学同窓会館）　山本智英　バセドウ病、橋本病に合併する隠れ（潜在性）副腎不全
・2017.11.4　第18回日本内分泌学会近畿支部会（大阪市立大学医学部講堂）　山本智英　アジソン病は氷山（副腎不全）の一角

【病理診断科】
・2017.11.18　第56回日本臨床細胞学会秋期大会（福岡）　下山夏季、久保勇記、岩﨑由恵、岡﨑健　子宮頸部に発生したbasaloid squamous cell carcinomaの一例
・2017.11.19　第56回日本臨床細胞学会秋期大会（福岡）　岡﨑健、岩﨑由恵、久保勇記　乳腺細胞診で扁平上皮癌を疑った一症例

【医療福祉相談室】
・2017.3.4.　第20回関西がんチーム医療研究会（大阪）　三谷勇一　主題シンポジウム：がん地域連携パスの検証と今後；単変量解析から考えるがん地域連携パスの社会福祉士における課題と展望
・2017.9.16～17　第8回日本医療ソーシャルワーク学会（山梨）　門田翔太、三谷勇一　急性期病院における診療報酬改定に伴う退院支援加算算定の解釈と工夫
・2017.9.16.　第21回関西がんチーム医療研究会（大阪）　三谷勇一　当院におけるがんサロンの現状と課題：Solution Focused Approachの中心哲学を応用した整理（優秀演題賞受賞）

【院内感染対策委員会】
・2017.2.24～25　第31回日本環境感染学会総会・学術集会（神戸）　萩原美香、渋谷豊克　ICUにおける手指衛生遵守率向上に向けた取り組みの効果
・2017.2.24～25　第31回日本環境感染学会総会・学術集会（神戸）　前野舞、渋谷豊克、鬼束美紗絵、横山靖典　当院職員における健診項目の見直しによるワクチンプログラムの再構築
・2017.2.24～25　第31回日本環境感染学会総会・学術集会（神戸）　鬼束美紗絵、前野舞、渋谷豊克、横山靖典、川口薫　外来トイレのMRSA・ESBLs産生菌の汚染調査
・2017.2.24～25　第31回日本環境感染学会総会・学術集会（神戸）　川口薫、鬼束美紗絵、前野舞、渋谷豊克　放射線科の高頻度手指接触表面におけるMRSA汚染調査
・2017.7.7～8　第19回日本医療マネジメント学会学術集会　渋谷豊克　当院の3年間における結核対策の現状と課題

【栄養科】
・2017.2.23～24　第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会　於　岡山コンベンションセンター　佐藤友亮　「当院での栄養療法に対する意識調査及び栄養療法推進の取り組みについて」

【緩和ケアチーム】
・2017.6.23～6.24　第22回　日本緩和医療学会学術集会（@パシフィコ横浜）　松本静香、垣本佳士、高原良典、杉本貴美子、小西千尋、里岡達哉、竹中温子、朴祐希　急性期病院の緩和ケアチームにおけるPPIの有効性

【透析センター】
・2017.3.5　第88回大阪透析研究会（大阪）　倉田敬済、長谷川弘将、向井砂帆、石頭翼、藤村篤志、藤田和睦、福田貢、申勝、今田聰雄　中規模急性期病院の透析センターにおける最近五年間の入院状況

【脳神経外科】
国際学会
・2017.6.10　The 8th annual meeting of asia spine（Osaka）　Yoshimura M, Onishi Y, Tsuruta S,

Ichinose T, Tsuruno T, Takami T, Ohata K
Cervical degenerative index for the evaluation of tension type headache

・2017.10.20　The 8th Korea-Japan Joint Stroke Conference（Niigata）
Ichinose T, Tsuruno T, Yoshimura M, Ohnishi Y, Uda H
Microsurgical Carotid Endarterectomy with Interintimal dissection for Highly Calcified Plaques

・2017.10.27　The 13th International Conference on Cerebrovascular Surgery（Nagoya）
Ichinose T, Tsuruno T, Yoshimura M, Ohnishi Y, Uda H
Microsurgical Carotid Endarterectomy with Interintimal dissection for Highly Calcified Plaques

国内学会

・2017.3.16　第46回日本脳卒中の外科学会学術集会（大阪市）　一ノ瀬 努、鶴野卓史、吉村政樹、鶴田慎、大西洋平　標準的なDistal Transsylvian Approachによる脳底動脈瘤クリッピング

・2017.3.17　第46回日本脳卒中の外科学会学術集会（大阪市）一ノ瀬 努、鶴野卓史、吉村政樹、鶴田慎、大西洋平　顕微鏡下頚動脈内膜剥離術の基本手技－手術手技の定型化と各段階での剥離面の形成－

・2017.3.18　第46回日本脳卒中の外科学会学術集会（大阪市）　吉村政樹、一ノ瀬努、大西洋平、鶴田慎、鶴野卓史　被殻出血に対する顕微鏡下・小開頭血腫除去術

・2017.3.18　第46回日本脳卒中の外科学会学術集会（大阪市）　一ノ瀬 努、鶴野卓史、吉村政樹、鶴田慎、大西洋平　高度石灰化病変に対する確実な顕微鏡下頸動脈内膜剥離術－内膜内剥離による段階的切除と病理学的考察－

・2017.4.8　第73回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会（豊中市）鶴田慎、大西洋平、吉村政樹、一ノ瀬努、鶴野卓史　慢性硬膜下血腫に対する無洗浄ドレナージ術の有用性

・2017.4.8　第73回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会（豊中市）　宇田裕史、西川節　頸椎黄色靱帯石灰下症の臨床増・画像所見・病理所見の検討

・2017.6.9　第75回近畿脊髄外科研究会（豊中市）　吉村政樹、高見俊宏、一ノ瀬努、大西洋平、鶴田慎、鶴野卓史　頚椎後方固定術後早期の手術部位感染の1例：早期DAIRの重要性

・2017.4.14　第26回脳神経外科手術と機器学会（新潟市）　一ノ瀬 努、鶴野卓史、吉村政樹、大西洋平、宇田裕史　標準的なDistal Transsylvian Approachによる脳底動脈瘤クリッピング

・2017.4.14　第26回脳神経外科手術と機器学会（新潟市）　一ノ瀬 努、鶴野卓史、吉村政樹、大西洋平、宇田裕史　高度石灰化病変に対する確実な顕微鏡下頸動脈内膜剥離術－内膜内剥離による段階的切除と病理学的考察－

・2017.4.21　第30回日本老年脳神経外科学会（東京）　鶴田慎、大西洋平、吉村政樹、一ノ瀬努、鶴野卓史　慢性硬膜下血腫に対する無洗浄ドレナージ術の有用性

・2017.6.3　第4回日本心血管脳卒中学会学術集会（福岡市）　一ノ瀬 努、鶴野卓史、吉村政樹、鶴田慎、大西洋平　高度石灰化病変に対する確実な顕微鏡下頸動脈内膜剥離術－内膜内剥離による段階的切除と病理学的考察－

・2017.6.8　第32回日本脊髄外科学会（大阪市）
宇田裕史、西川節　頸椎黄色靱帯石灰下症の臨床増・画像所見・病理所見の検討

・2017.6.9　第32回日本脊髄外科学会（大阪市）
吉村政樹、高見俊宏、一ノ瀬努、大西洋平、鶴田慎、鶴野卓史　頚椎後方固定術後早期の手術部位感染の1例：早期DAIRの重要性

・2017.9.2　第74回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会（豊中市）　大西洋平、吉村政樹、宇田裕

史、一ノ瀬努、鶴野卓史　周囲に広範な浮腫を伴う小型充実性小脳血管芽腫の2例
・2017.9.8　第22回日本脳腫瘍の外科学会（鹿児島市）　吉村政樹、一ノ瀬努、宇田裕史、大西洋平、鶴野卓史　頭蓋底手技を用いた側頭葉内側悪性神経膠腫の手術
・2017.9.8　第22回日本脳腫瘍の外科学会（鹿児島市）　宇田裕史、宇田武弘、中条公輔　橋から中脳に発生した神経膠腫に対して手術治療を行った2例
・2017.10.12　一般社団法人 日本脳神経外科学会第76回学術総会（名古屋市）　一ノ瀬 努、鶴野卓史、吉村政樹、大西洋平、宇田裕史　脳底動脈瘤クリッピングにつながる標準的Distal Transsylvian Approach
・2017.10.14　一般社団法人 日本脳神経外科学会第76回学術総会（名古屋市）　宇田裕史、宇田武弘、中条公輔　橋から中脳に発生した神経膠腫に対して手術治療を行った2例
・2017.11.3　第51回日本てんかん学会学術集会（京都市）　宇田裕史、宇田武弘　てんかん性スパスムに対する脳梁離断術の発作予後の継時的変化
・2017.12.16 第20回関西脳神経外科手術手技研究（大阪市）　吉村政樹、一ノ瀬努、宇田裕史、大西洋平、鶴野卓史　被殻出血に対する低侵襲顕微鏡下血腫除去術
・2017.12.16 第20回関西脳神経外科手術手技研究（大阪市）　一ノ瀬 努、鶴野卓史、吉村政樹、大西洋平、宇田裕史　後下小脳動脈遠位部破裂動脈瘤に対する手術：7例報告

【泌尿器科】
・2017.9.30　第30回近畿内視鏡外科研究会記念大会（大阪）　金丸知寛　3D内視鏡システムを用いた当院泌尿器科における腹腔鏡手術の検討
・2017.10.21　第21回日本アクセス研究会（岐阜）　香束昌宏　上腕動脈表在化に生じた仮性動脈瘤の1例
・2017.11.28　第15回Congress of the Asian Society of Transplantation （セブ）　香束昌宏　Clinical outcome of ABO-incompatible living donor kidney transplantation –analysis of single center in Japan–

【放射線科】
・2017.9.2　放射線部会関西ブロック研究発表会　安川莉愛　CT造影剤による血管外漏出のリスクについて
・2017.9.22～23　第33回日本診療放射線技師会学術大会
①演者：村尾信義　共同演者：橋詰智伊吹剛井上竜太　演題名：前立腺外部放射線治療の評価（ポスターセッション）
②演者：有吉真志　共同演者：伊吹剛大仲由彦瀬川裕一濱元綾太　演題名：コーチングを用いた人材育成～10年間の経験～（口述）
③演者：岸江佑美子　共同演者：有吉真志伊吹剛大仲由彦濱元綾太　演題名：若手技師が乗り越えたコーチングの壁（ポスターセッション）

【薬剤科】
・2017.2.25～26　第38回日本病院薬剤師会近畿学術大会（大阪）　井上悠、草薙みか、濱田達志、大里 恭章『薬剤性転倒の後方視的調査』
・2017.6.2～4　第11回日本緩和医療薬学会（札幌）　青山瑛里子、松浦暢子、小西千尋、里岡達哉、大里恭章　『重症下肢虚血による慢性疼痛にオピオイド製剤を用いたが疼痛管理に難渋した一例』
・2017.7.27～29　第15回日本臨床腫瘍学会学術集会（神戸）　草薙みか、青山瑛里子、山本倫数、南野智志、小西千尋、松浦暢子、青笹克之、堀元隆二、瓜生恭章、洪鉉寿　『A case of spontaneous complete remission of DLBCL with multiple extranodal involvement after the discontinuation of MTX』
・2017.11.3～5　第27回日本医療薬学会年会（千

葉）　松浦暢子、小西千尋、南野智志、草薙みか、山本倫数、洪鉉寿、瓜生恭章、大里恭章
『Nivolumabによる薬剤性肺障害が疑われた2症例』

【臨床腫瘍センター】
・2017.7.27～29　第15回日本臨床腫瘍学会学術集会（神戸）　草薙みか、青山瑛里子、山本倫数、南野智志、小西千尋、松浦暢子、青笹克之、堀元隆二、瓜生恭章、洪鉉寿　『A case of spontaneous complete remission of DLBCL with multiple extranodal involvement after the discontinuation of MTX』
・2017.7.27～29　第15回日本臨床腫瘍学会学術集会（神戸）　洪鉉寿、瓜生恭章、草薙みか、青山瑛里子、山本倫数、南野智志、小西千尋、松浦暢子、青笹克之、堀元隆二、
・2017.10.20～22　第79回日本血液学会学術集会（東京）　洪鉉寿、瓜生恭章、松浦暢子、小西千尋、高原良典、原田博雅　『Combination therapy of imatinib and nivolumab in patient with triple cancers including Ph1+ALL』
・2017.11.3～5　第27回日本医療薬学会年会（千葉）　松浦暢子、小西千尋、南野智志、草薙みか、山本倫数、洪鉉寿、瓜生恭章、大里恭章
『Nivolumabによる薬剤性肺障害が疑われた2症例』

【リハビリテーション】
・2017.1.29　第7回中河内ブロック新人症例発表会（大阪）　『内包後脚と視床梗塞を呈した一症例～動作による神経筋再教育を実施した例～』　小西正修
『Ⅱ型糖尿病をもつ大腿骨近位部骨折患者に対してレジスタンス運動を行った一症例』　坂東勇
・2017.2.23～2.24　第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会（岡山）　『誤嚥性肺炎患者に対して適切な食事形態の評価を行ったことで摂取エネルギー量の改善に繋がった一例　吉田智恵
『巨大甲状腺腫瘍悪化により高度気道狭窄を呈していたが経口摂取訓練にて改善が認められた一例　平家佳奈
・2017.5.12～5.14　第52回日本理学療法学術大会（千葉）　『自宅見取り図を用いた転倒予防指導の有効性に関するランダム化比較試験～急性期病院における退院患者を対象に～』　上田哲也
『急性期病院における脳梗塞患者の早期退院先決定に関わる因子の検討～自宅退院群と回復期転院群における検討～』　辻田聡司
『間質性肺炎を呈した高齢患者に対する呼吸追従式同調器の有用性～単一症例による連続酸素吸入・流量固定式同調器との比較～』　服部玄徳
『大腿骨近位部骨折術後患者の早期転機先決定に関連する要因～急性期病院における検討～』　西川真世
・2017.9.30　第25回脊髄損傷理学療法研究会（岩手）　『講師：転移性脊椎腫瘍に伴う下肢の痺れを呈した症例に対する介入～多角的視点からの介入～』　服部玄徳
・2017.10.1　第11回徳洲会リハビリテーション部会関西大阪ブロック学術大会（奈良）　『教育講演：セラピストの可能性を探る』　上田哲也
・2017.10.27～10.29　第32回糖尿病合併症学会（東京）　『糖尿病神経障害スクリーニング検査におけるSemmes-Weinstein monofilamentを用いたタッチテストの有用性』　服部玄徳
・2017.11.12　第57回近畿理学療法学術大会（滋賀）　『大腿骨頚部骨折後に人工骨頭置換術が施行された患者に対する方向性の検討～急性期病院における85歳以上の超高齢者に着目して～』　文聖現
・2017.12.15～16　第41回日本高次脳機能障害学会学術総会（埼玉）　『使用行動を呈した右前頭葉眼窩面病変の事例～観察評価の工夫』　竹中温子

【リハビリテーション科】

・2017.2.24～25　第32回日本環境感染学会2017年（兵庫）　鬼束　外来トイレのMRSA・ESBLs産生菌の汚染調査
・2017.2.24～25　第32回日本環境感染学会2017年（兵庫）　前野　当院職員における健診項目の見直しによるワクチンプログラムの再構築
・2017.11.19　第56回日本臨床細胞学会秋期大会（福岡）　岡崎　乳腺細胞診で扁平上皮癌を疑った一症例

61）学術論文

【内分泌内科】

・糖尿病患者のQOLと低血糖：石橋里江子，糖尿病診療マスター（医学書院），15(2):115-119,2017.

【肝臓センター】

・胃全摘術後の膵液瘻・食道空腸吻合部縫合不全に対してW-ED tubeで吻合部の減圧と経腸栄養により治癒を得られた1例：鈴木大聡，木村拓也，松本明子，小山洋史，大里恭章，日本静脈経腸栄養学会雑誌32巻2号 Page999-1002　2017.

【膠原病リウマチ科】

・「RA治療効果予測マーカーの探索（Detection of Prediction markers on the onset for RA therapy）」，吉崎和幸，アレルギーの臨床（The Allergy in Practice），2017:35(5)No.499:74−77.

・International, evidence-based consensus diagnostic criteria for HHV-8-negative/idiopathic multicentric Castleman disease. Blood.・Fajgenbaum DC, Uldrick TS, Bagg A, Frank D, Wu D, Srkalovic G, Simpson D, Liu AY, Menke D, Chandrakasan S, Lechowicz MJ, Wong RS, Pierson S, Paessler M, Rossi JF, Ide M, Ruth J, Croglio M, Suarez A, Krymskaya V, Chadburn A, Colleoni G, Nasta S, Jayanthan R, Nabel CS, Casper C, Dispenzieri A, Fosså A, Kelleher D, Kurzrock R, Voorhees P, Dogan A, Yoshizaki K, van Rhee F, Oksenhendler E, Jaffe ES, Elenitoba-Johnson KS, Lim MS. Mar 2017:129（12）:1646-1657.

・Therapeutic outlook for Castleman’s disease: prospects for the next decade. Expert Opinion on Orphan Drugs. Koga T, Fujimoto S, Kawakami A, Kawabata H, Masaki Y, Kishimoto T, Yoshizaki K.2017 Jul : 5（8）:633-640. 査読有

・Tentative diagnostic criteria and disease severity classification for Castleman disease: A report of the research group on Castleman disease in Japan. Mod Rheumatol. Fujimoto S, Koga T, Kawakami A, Kawabata H, Okamoto S, Mizuki M, Yano S, Ide M, Uno K, Yagi K, Kojima T, Mizutani M, Tokumine Y, Nishimoto N, Fujiwara H, Nakatsuka SI, Shiozawa K, Iwaki N, Masaki Y, Yoshizaki K. Sep 2017: 7:1-7. 査読有

The Role of Interleukin-6 in Castleman Disease. Castleman Disease. Hematology/Oncology Clinics of North America.　Yoshizaki K, Murayama S, Ito H, Koga T. Feb 2018: 32（1）:23-36. 査読有.

・脳出血の手術適応はどのような症例に考慮しますか？：一ノ瀬努．神経内科 clinical Questions & Pearls 脳血管障害（中外医学社），236-244,2016.

・関節リウマチの治療前バイオマーカーによる最適治療薬の選択：吉崎和幸，第55回 広島リウマチ研究会，ホテルグランヴィア広島，2017.9.2

・Kazuyuki Yoshizaki and Kazuko Uno
Changes in Serum Cytokines and Chemokines in Multicentric Castleman Disease after Tocilizumab IL-6 Blocking Therapy.
ICIS2017 The 5th Annual Meeting of the International Cytokine and Interferon Society
2017.10.29－11.2
Ishikawa Ongakudo ana Crowne Plaza Kanazawa

・RA治療戦略における治療前血清バイオマーカーを用いた効果予測の確立：吉崎和幸（宇野賀津子、岩橋充啓），日本臨床リウマチ学会，神戸ポートピアホテル，2017.12.2－3

【形成外科】

・Kawarada O, Kume T, Ayabe S, Nakaya T,

Nakai M, Nishimura K, Noguchi T, Yokoi Y, Ogawa H, Yasuda S: HYPERLINK "https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/28743226" Endovascular Therapy Outcomes and Intravascular Ultrasound Findings in Thromboangiitis Obliterans (Buerger's Disease). J Endovasc Ther. 2017 Aug;24(4):504-515.

・Irie Y, Kawarada O, Ayabe S, Yagyu T, Noguchi T, Yasuda S: HYPERLINK "https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/28054263" Endovascular intervention for chronically occluded distal bypass with saphenous vein graft: reopening a long direct road to the foot. Cardiovasc Interv Ther. 2017 Jan 4.

・Naho Fujii, Hisashi Motomura, Hiroyoshi Iguch: Reconstruction of the palate using a vascularized bare muscle flap following total maxillectomy: A case report. Acta oto-laryngologica case reports.2017.3(1):1-4.

【呼吸器外科】

・Extramedullary Plasmacytoma Arising From the Anterior Mediastinum.
KiyoshiSatoPhDaSatoshiFumimotoMDaTakehisaFukadaMDaYoshioIchihashiMDbKaoruOchiMDaHidetoshiSatomiMDcTakuyaMoritaPhD NobuharuHanaokaPhDYoshikatsuOkadaPhD TakahiroKatsumataPhD
The Annals of Thoracic SurgeryVolume 103, Issue 5, May 2017, Pages e393-e395
A case of schwannoma of the mesoesophagus displaced from the left to the right of the posterior mediastinum
Kiyoshi ,Sato,Yoshio Ichihashi,SatoshiFumimoto, Kaoru Ochi,Sachiko Kanki,Takuya Morita,Nobu haru Hanaoka,Takahiro Katsumata
General Thoracic and Cardiovascular Surgery January 2017, Volume 65,Issue1,p 59–62

・Yamamoto T, Kakimoto Y, Harada H. Supplementation of ACTH
deficiency wih cortcotropin. A case report. Int J Endocrinol Metab
Disorders 2017: 3(3): diohttp://dxdoi.org/10.10960/2380-548X.144.山本

【膠原病】

・吉崎和幸，宇野賀津子，岩崎充啓，山名二郎，山名征三，八木克巳「RA治療効果予測マーカーの探索 (Detection of Prediction markers on the onset for RA therapy)」，アレルギーの臨床(The Allergy in Practice). 2017:35(5)No.499: 74-77.

・Fajgenbaum DC, Uldr ick TS, Bagg A, Frank D, Wu D, Srkalovic G, Simpson D, Liu AY, Menke D, Chandrakasan S, Lechowicz MJ, Wong RS, Pierson S, Paessler M, Rossi JF, Ide M, Ruth J, Croglio M, Suarez A, Krymskaya V, Chadburn A, Colleoni G, Nasta S, Jayanthan R, Nabel CS, Casper C, Dispenzieri A, Foss_ A, Kelleher D, Kurzrock R, Voorhees P, Dogan A, Yoshizaki K, van Rhee F, Oksenhendler E, Jaffe ES, Elenitoba-Johnson KS, Lim MS . International, evidence-based consensus diagnostic criteria for HHV-8-negative/idiopathic multicentric Castleman disease. Blood . Mar 2017:129(12):1646-1657. 査読有

・Koga T, Fujimoto S, Kawakami A, Kawabata H, Masaki Y, Kishimoto T, Yoshizaki K. Therapeutic outlook for Castleman's disease: prospects for the next decade. Expert Opinion on Orphan Drugs. 2017 Jul : 5(8):633-640 . 査読有

・Fujimoto S , Koga T , Kawakami A , Kawabata H , Okamoto S , Mizuki M, Yano S , Ide M, Uno K, Yagi K, Kojima T , Mizutani M , Tokumine Y , Nishimoto N , Fujiwara H , Nakatsuka SI , Shiozawa K , Iwaki N, Masaki Y , Yoshizaki K. Tentative diagnostic criteria and disease

severity classification for Castleman disease: A report of the research group on Castleman disease in Japan. Mod Rheumatol . Sep 2017:7:1-7. 査読有

・Yoshizaki K, Murayama S, Ito H, Koga T. The Role of Interleukin-6 in Castleman Disease. Castleman Disease. Hematology/Oncology Clinics of North America. Feb 2018:32(1):23-36. 査読有

【医療福祉相談室】

・高齢者の生きがいと社会参加：社会参加の現状・社会参加に向けた課題と対応策：三谷勇一．学びを追求する高齢者福祉　第2版（保育出版社），3月／2017.

【リハビリテーション科】

・Archives of Gerontology and Geriatrics 71(2017)9-13
『Tailored education program using home floor plans for falls prevention in discharged older patients : A pilot randomized controlled trial』
Tetsuya Ueda

【薬剤部】

・『経腸栄養管理システムの変更に対する看護師の意識調査』：大里恭章，佐藤友亮，藤原一美，澁谷豊克，鈴木大聡，鯉田五月，田中尚，木村拓也
Medical Nutritionist of PEN Leaders Vol.1 No2, 162-168, 2017

八尾徳洲会総合病院年報

発行日：平成30年5月

発　行：八尾徳洲会総合病院　病院長　原田　博雅
〒581-0011 大阪府八尾市若草町1番17号
ＴＥＬ（072）９９３－８５０１（代）
ＦＡＸ（072）９９３－８５６７
http://www.yao.tokushukai.or.jp/

印　刷：寝屋川市高宮栄町２２番１８号
イセン印刷㈱
ＴＥＬ（072）８２４－０８０５
ＦＡＸ（072）８２５－０６５４

医療法人
徳洲会八尾徳洲会総合病院

〒581-0011 大阪府八尾市若草町1番17号
TEL（072）993-8501（代）
FAX（072）993-8567
http://www.yao.tokushukai.or.jp/